

平成26年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成26年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部F D委員会

平成 26 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 26 年度の人間関係学部 FD 活動報告書をお届けします。人間関係学部は平成 15 年から本格的に FD 活動に取り組み、平成 26 年度で 12 年目になります。これまでに蓄積した活動である「FD 研修会活動」「授業アンケート（学生による授業評価）」「学科・専攻における FD 活動」「保護者懇談会」「オフィスアワー」「クラス指導」「各教員の FD 活動」「非常勤講師との教育懇談会」などをもとに、さらに新しい工夫を加えた活動成果を報告します。

ところで、日本の大学を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況です。平成 26 年 8 月の報道によると、私立大学全体の 45.8%が入学定員充足率 100%未満、いわゆる「定員割」になっているそうです。これは前の年の 40.3%よりも悪化し、丁度 1 年前に戻った状態です。18 歳人口の減少、大学、学部、学科、専攻の新設が大学間の競争にますます拍車をかけています。学生募集において苦戦を強いられている大学がある一方、相変わらずの高い競争倍率を誇り、余裕をもって教育に取り組んでいる大学もあります。大学間競争は「教育力」ではなく「広報技術」によって行われていると一部では言われていますが、個々の大学、学部、学科、専攻が生き残るためには、最終的には「教育力」の競争に勝つ必要があります。そのためには、日常的な FD 活動に真剣に取り組み、最初に確立した教育理念を固持しながらも、時代の要請に応じた変革を続け、真に社会から必要不可欠なものと認められなければならないと信じています。

本学部の FD 活動の指針は、教育基本法、学校教育法はもとより、平成 24 年 8 月 28 日付けで、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が発表した「新たな未来を築きくための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」、そして、学校法人大妻学院寄付行為の第 3 条に示された建学の精神とその目的です。さらに人間関係学部には学部創設以来の「共生」というミッションもあります。

FD 活動に本格的に取り組んでから 11 年が経過し、人間関係学部では FD 活動が日常化されつつある感を強くしています。なお、25 年度から「教員の自己評価」を始め、その結果を大学の HP に公表しています。また、平成 26 年には 2 回目の第三者評価を受け、「大学基準に適合している」との評価がなされました。いくつもの機会を自己確認の契機とし、今後ともより良い教育に向けて教職員の総力をあげて努力する所存です。

人間関係学部長 町田 章一

目 次

平成 26 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって（町田 章一）

I	平成 26 年度人間関係学部 FD 活動について（佐々木 宰）	1
II-1	授業に関するアンケート（堀 洋元）	6
II-2	授業アンケートへの対応（小谷 敏）	49
	（1）前期授業アンケートへの対応	49
	（2）後期授業アンケートへの対応	52
III	学科・専攻における平成 26 年度 FD 活動への取り組み	55
1	人間関係学科	55
	（1）社会学専攻における FD 活動に関する取り組み（小谷 敏）	55
	（2）社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み（堀 洋元）	58
2	人間福祉学科	63
	（1）人間福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（丹野 眞紀子）	71
	（2）介護福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（佐々木 宰）	79
IV	保護者懇談会（佐々木 宰）	87
V	オフィスアワー（小川 浩）	94
VI	クラス指導（西河 正行）	98
VII	学部主催の FD 研修会報告（佐々木 宰）	105
VIII	非常勤講師との教育懇談会（丹野 眞紀子）	121
IX	人間関係学部 FD 活動の課題（佐々木 宰）	127
X	学外 FD 活動関連セミナー等への参加報告	129
資 料		135

I 平成26年度人間関係学部FD活動について

1. 人間関係学部FD活動の取り組み

人間関係学部では、前・後期に実施する全学共通フォーマットによる授業アンケートをその後の授業の質向上に役立てるために各教員から対応策等に関するアンケートをとり、同時にオフィスアワーの活用やクラス指導に関する取り組みについても聞き、このFD報告書にまとめ、全教員で共有し、相互の取り組みの向上に役立てている。このほか個々の教員が学内外で行っている共同研究や地域連携活動などは、学生参加あるいは授業内でフィードバックすることで教育の質向上に役立てている。こうした日ごろの取り組みに関して、直に質疑応答することで教員相互の情報共有や資質向上の機会とするために実施している人間関係学部FD研修会も実施している。さらに年2回行われる保護者懇談会で聞かれた保護者の貴重な声もFD活動の重要な材料としている。

こうした、各教員の取り組み、全学的・全学部的に実施する学生対応やフィードバックのしくみに保護者の声を加え、それを共有化することで学部全体及び各教員の資質向上、教育の質向上に役立てようとするのが、人間福祉学科におけるFD活動の基本的な考え方と言える。

見える形、後に残る形で共有できるものとしてもっとも有効な資料が、この学部FD報告書である。

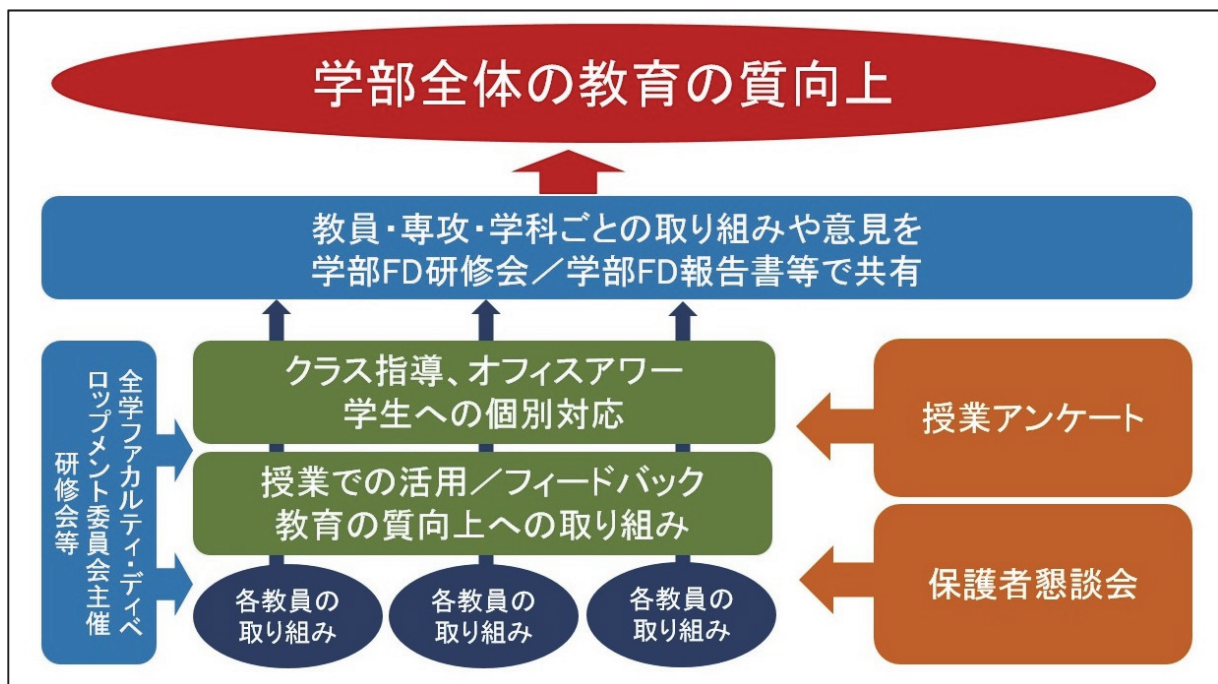


図1 人間福祉学科におけるFD活動の考え方

1) 学部FD研修会の実施

平成26年12月7日(金)の教授会終了後、平成26年度人間関係学部FD研修会を実施した。

ここ数年継続している、教職員混合で3つの分科会を作り、それぞれ大まかなテーマに分かれて自由討議を行うという形式で行った。テーマは『多摩キャンパスで学ぶことの意義と課題』である。

内容は、本学全体の課題である学部・学科再編、特に他学科の千代田キャンパス移転という動きに伴って本学部でもさまざまな議論がなされている中、改めて学生の視点から多摩キャンパスの意義を問うてみるという目的で行った。

昨年度につづき、教員、事務職員のほか、学長、副学長の各先生方にもご参加いただき、貴重な意見をいただいたほか、教職員からも生の声を届けることができ、相互の認識の共有や今後のキャンパスのより良いあり方のヒントを探る良い機会となったと思われる。

2) 学生による授業評価（授業アンケート）（前期・後期各1回）

全学共通のフォーマットにもとづき、ゼミと学外実習をのぞくすべての科目を対象として、前期・後期各1度ずつ実施している。結果は各教員に通知され、これにもとづく今後の対応や改善策を報告することになっている。アンケート結果の全体データと各教員による改善策は本報告書と学部ホームページで公開されている。また各教員からは、各自の改善策や取り組みだけでなく授業環境や学生への要望も報告することになっている。これらを通して、授業に対する双方向の捉え方が共有できるほか、物理的にも内容的にもより良い教育環境に向けた改善を図ることができるものとなっている。

3) 保護者懇談会の実施とアンケート

各専攻、学科、学部全体の教育方針や具体的な教育の枠組み、学生の大学での生活実態などを保護者の方々に知っていただくとともに、保護者からみた学生像やさまざまな要望をくみ上げていくことを目標として、保護者懇談会を実施している。毎年6月には、千代田キャンパスにて千鳥会懇談会と、10月には多摩キャンパスで大妻多摩祭と同時開催で行っている。参加して下さる保護者の皆さまとは、カリキュラムの構成や単位取得のシステム、学外実習や卒業論文などの規定などに関する理解のほか、日ごろのクラス指導や個別指導の内容を知っていただくことで協働関係を築くことができ、アンケート結果もおおむね良好である。今後はより多くの方々に参加していただけるような広報の方法や日時の設定を検討していく必要がある。

4) オフィスアワーの設定

平成16年度より、学生がアポイントを取ることなく自由に教員の研究室を訪れて質問や相談をすることができるオフィスアワーをFD活動の一環として導入している。各教員は、最低週1コマのオフィスアワーを設けることになっており、その曜日・時間帯は大学ホームページのほか研究室前にも掲示されており、学生は気軽に研究室を訪れることができるようになっている。クラスやゼミの担当教員以外、あるいは所属する学部・学科・専攻以外に関心のある教員を気軽に訪ねることができるこのシステムによって、学生の関心領域や学びの幅を広げることにつながっている。しかしオフィスアワーの存在を知らないという学生も多く、すべての学生に十分活用されているとは言い難い現状が、ここ数年の課題となっている。

5) 学部内及び全学各種委員会との連携

FD 委員会単独では FD 活動を行えないため、各種委員会との連携に意識的に取り組んでいる。FD 活動の学部ホームページへの掲載は広報委員会に、保護者懇談会の実施については学生委員会が編集する「糸車通信」に掲載協力をお願いしている。授業アンケート結果を生かして本学部の教育環境や教育の質を改善していくために、教務委員会や学生委員会との連携に取り組んでいる。心身に障害のある学生に対するさまざまな支援を全学的、全学部的な対応を検討するためには、障害学生支援委員会や障害学生支援室との連携も必要であり、本 FD 委員会を窓口にして情報共有を図ったり、当該学生への情報提供を行うこともある。

6) 各学科・専攻による FD 活動の学部内情報共有化への取り組み

図 1 にあるように、FD 活動の基本は各教員が個々に行う取り組みである。それぞれの専門性を生かした独自の活動を行っているが、学部全体で共有することで他の教員への刺激となり、学部全体の教育の質が向上することにつながる。1) で取り上げた学部 FD 研修会では、授業方法を学び合う場としてきたほか、ここ数年のように座談会形式で自由討議を行うことで、各教員の活動や日ごろの思い、視点などを出し合うことができる。「個々の FD 活動を共有する」と言っても、内容や手法を共有すると言うよりも、他の教員の「視点」をヒントにそれぞれが「気づき」を得て、各自の FD 活動の向上に役立てると表現した方が適切であろう。こうすることで、各教員が各自の専門性を生かし、多様な取り組みが行われ、学部全体として「広がり」をもった FD 活動と教育の質向上が図れるのだと思われる。今後もこのような形の「共有」を目指していきたい。

7) クラス指導による学生への学習支援への取り組み

本学の教育の特徴として、創設当初からクラス制、クラス指導主任制を取り入れ、学生の個別指導に力を入れてきた点が挙げられる。入学当初の学生は大学のシステムや交友関係への戸惑いがあり、学年が進むにしたがって自らの将来ビジョンに合わせた単位取得の方法のほか、就職活動や実習など、授業以外の面でもさまざまな悩みを抱えることになる。大規模な大学では難しい個別指導が、本学の場合 1 クラス 40 人前後で 1 名の指導主任（担任）が就くことができ、顔と名前の一致した個別指導を行いやすい環境が整っている。保護者の皆さまとの共有あるいは個人情報への漏えいに配慮した上での学部内共有によって新たな学生ニーズの発見につながることもある。このような体制と教員個々の個別指導も当然 FD 活動の一環であり、授業と同時に重要な役割を担っていると言えることができる。

8) 今後の課題

今年度の学部内での FD 活動を一言で表すと、「個々の活動を学部全体で共有する場の提供」であったと言えるだろう。共有し、意見や情報の交換をすることで個々の教員にとっての課題と同時に組織レベルや物理的環境などのレベルでの課題も見えてくる。これらを FD 委員会としてどのようにまとめ、学部全体として具体的な提案をしていくことが今後の課題であると言える。

個々の教育の質向上の点では、学部創設当初から行っていた「公開授業」が近年実施されていない。これは、実施してもどの教員も多忙により他の教員の授業に参加できないことが原因であった。代案として学部 FD 研修会で各専攻から初年次ゼミの方法を紹介する等の内容で実施していたが、ここ数年はキャンパス再編や学生ニーズの多様化などにより、こちらも実施していない。このことから言えるのは、各教員は、授業以外でも支援や指導あるいは見守りの必要性をどの学生にも感じているほか、キャンパスという物理的・地理的な環境を学生にとってより良いものにしていくための方向性を探っているということである。学部（あるいは多摩 3 学部全体）で検討する場を設けてさらに広い視野から探る必要もあるかもしれない。

いずれにしても、授業の質、個別指導、キャンパスのあり方をバランスよく網羅した FD 活動のあり方を今後も検討しながら行っていく必要があるだろう。

2. 人間関係学部FD委員会の議事

平成 26 年度に開催した人間関係学部 FD 委員会の実施状況と、各回の議事内容を以下にまとめます。一部メール協議としたほかは、基本的に以下の時間、場所において行った。

時間帯：12:20～50（昼休み）

会場：人間関係学部棟 4 階会議室

	実施日	おもな議事等
第 1 回	4 月 11 日（金）	(1) 平成 26 年度委員会日程 (2) 前年度からの申し送り事項 (3) 平成 26 年度 FD 活動計画 (4) 平成 26 年度人間関係学部 FD 研修会日程について
第 2 回	5 月 16 日（金）	(1) 平成 26 年度授業アンケートの実施について (2) 授業担当者懇談会について (3) 千鳥会総会後の保護者懇談会について
第 3 回	6 月 13 日（金）	(1) 平成 26 年度前期授業アンケート実施の確認 (2) 授業担当者懇談会、千鳥会総会後の保護者懇談会の報告 (3) 全学 FD 委員会より報告
第 4 回	7 月 11 日（金）	(1) 平成 26 年度前期授業アンケートについて (2) 全学ファカルティ・ディベロップメント講演会について (3) 学部 FD 研修会について
第 5 回	10 月 10 日（金）	(1) 平成 26 年度授業に関するアンケートについて ①今後のアンケート対象科目に関する検討 ②後期アンケートの予定 (2) 学部 FD 研修会について (3) 大妻多摩祭における保護者懇談会について
第 6 回	11 月 7 日（金）	(1) 学部 FD 研修会について (2) FD 報告書について
第 7 回	12 月 5 日（金）	(1) FD 研修会の事前打ち合わせ 同日教授会終了後、学部 FD 研修会の実施。
第 8 回	1 月 9 日（金）	(1) FD 研修会の結果、アンケート報告 (2) FD 報告書執筆分担の確認
第 9 回	3 月 9 日（月）	メール協議 (1) 後期授業アンケート結果とその対応策について (2) FD 報告書執筆状況の確認 (3) 次年度への引き継ぎ事項の確認

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

１. はじめに

学部授業の充実化を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 カ年にわたって実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。ただし、専任教員と非常勤講師が回を分けて担当するチームティーチング科目については、アンケートを実施した回の担当教員への評価と混同される可能性があるため、今年度より授業アンケート対象科目から除外した。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２. 調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３. 調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、平成 26 年 6 月 30 日（月）～7 月 19 日（土）の 3 週間に実施し、後期は平成 26 年 12 月 1 日（月）～12 月 22 日（月）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式を取っている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 200 のうち 172 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 9,712 名であった。そのうち有効回答者は 7,472 名であり、回答率は 76.94%であった。

後期の調査は、総科目数 194 のうち 160 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 9,611 名であった。そのうち有効回答者は 6,509 名であり、回答率は 67.72%であった。

(3) 調査項目

授業アンケートの表面には、以下の 5 カテゴリー、21 項目があり、「5. そう思う」、「4. ややそう思う」、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」、「1. そう思わない」の 5 段階評価によって回答を求める形式であった。ただし、昨年度より No.14（この授業にどの程度出席しましたか）の回答ラベルは「5. 100%」、「4. 90%以上」、「3. 80%以上」、「2. 70%以上」、「1. 70%未満」、No.15（この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか）は「5. 3 時間以上」、「4. 2 時間以上」、「3. 1 時間以上」、「2. 1 時間未満」、「1. していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について（7 項目）
- ② 授業の内容について（6 項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について（5 項目）
- ④ 総合的な印象（1 項目）
- ⑤ 自由設定欄＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問（2 項目）

自由記入欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良くと思う点
- ③ その他の意見や要望など

(4) 授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を F D 委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、F D 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、F D 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、F D 委員会の責任において、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の[自由記入欄]にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

1. H B の黒鉛筆のみ可。

2. 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学	部	学年	組	学 年		組
				①	②	
学	部	被服学科	⑦	社会情報学科	社会生活情報学専攻 ⑤	① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E) ⑥ (F)
		食物学科	食物学専攻 ①	環境情報学専攻 ⑦		
		管理栄養士専攻 ②	情報デザイン専攻 ②			
	部	児童学科	児童学専攻 ③	人間関係学科	社会学専攻 ③	
		児童教育専攻 ③	社会・臨床心理学専攻 ④			
		ライフデザイン学科 ④	人間福祉学科	人間福祉学専攻 ②		
部	部	日本文学科 ⑤	介護福祉学専攻 ②			① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E) ⑥ (F)
		英文学科 ②	比較文化学科	1 年生 ⑦		
		コミュニケーション文化学科 ⑦	アジア文化コース ②			
	部	家政科	家政専攻 ①	アメリカ文化コース ⑦		
		生活総合ビジネス専攻 ⑤	ヨーロッパ文化コース ①			
		食物栄養専攻 ③	国文科 ③			
短大	部	英文科 ⑦				① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E) ⑥ (F)

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の ○ にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	⑤	④	③	②	①
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	⑤	④	③	②	①
3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)	⑤	④	③	②	①
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	⑤	④	③	②	①
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	⑤	④	③	②	①
6 先生の学生に対する接し方は公平だった	⑤	④	③	②	①
7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

8 授業は、学習の目標がはっきり示された	⑤	④	③	②	①
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	⑤	④	③	②	①
10 授業の内容は興味深いものだった	⑤	④	③	②	①
11 授業の内容はよく理解できるものであった	⑤	④	③	②	①
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	⑤	④	③	②	①
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	⑤	④	③	②	①

③ この授業への取り組みとその成果について

	100% ⑤	90%以上 ④	80%以上 ③	70%以上 ②	70%未満 ①
14 この授業にどの程度出席しましたか	⑤	④	③	②	①
15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	3 時間以上 ⑤	2 時間以上 ④	1 時間以上 ③	1 時間未満 ②	していない ①
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	⑤	④	③	②	①
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	⑤	④	③	②	①
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	⑤	④	③	②	①
---------------------------	---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex. 担当教員がその場で設定する質問)

20	⑤	④	③	②	①
21	⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

K8628T 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

②改善した方が良いと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均値（5 点満点）について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5 点満点）は 4.27（前年度 4.27）であり、後期は 4.28（前年度 4.31）であった。後期は前年度よりも若干低くなっているものの、前期後期共に「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 4.19、2011 年度前期は 4.22 であり、2012 年度前期の評価平均値は 4.18 と過去 2 年間よりも若干低くなっていた。後期については、2010 年度後期の評価平均値が 4.27、2011 年度後期が 4.29 であったのに対し、2012 年度後期の評価平均値は 4.27 と 2010 年度と同じ水準となっていた。2013 年は前期後期ともにそれらの中で最高水準となったと言える。若干の変動はあるものの、十分に高い水準で安定して推移することから、これまでの継続的な FD 活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

今年度授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の 7 項目の評価平均値（5 点満点）は前期が 4.29（前年度 4.26）であり、後期は 4.30（前年度 4.33）であった。後期の方が前期よりも 0.01 ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に 4.2 点を超えており、「教員の授業の進め方」が非常に高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期から 2012 年度までの 3 年間の評価平均値は 4.17 であり、全く同じ値であった。それに対して 2013 年度前期は 4.26、さらに 2014 年度は 4.29 とかなり高い数値となっている。後期については、2010 年度後期の評価平均値が 4.23、2011 年度後期が 4.25 であったのに対し、2012 年度後期の評価平均値は 4.24 と過去 2 年間とほぼ同じ水準であった。2014 年度の評価平均値は、2013 年度後期の評価平均値 4.33 を若干下回ったものの、過年度に比べて高い数値となった。

「教員の授業の進め方」を構成する 7 項目の中で、今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「先生の学生に対する接し方は公平だった」と「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」の 4.46 であった。

以上のことから、本学部の各教員の学生への接し方や担当授業に対して取り組む姿勢・熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が 4.00、後期が 4.02 であった。大講義室での授業などでは、対応が難しい項目ではあった。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」

が前期 4.38、後期 4.39 であった。また「教材資料提示は授業の理解に役立った」が前期 4.34、後期 4.31 であった。その他、「私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした」が前期 4.30、後期 4.31、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」が前期 4.08、後期 4.12 となった。おおむねどの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。これは、半期ごとに開講される科目構成の違いや、新入生の授業への適応などが反映されているものと推察される。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.20 であり、後期は 4.21 であった。前期後期共に 4 点を超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 4.00、2011 年度前期は 4.04 であり、2012 年度前期の評価平均値は過去 2 年間とほぼ同水準（評価平均値 4.02）であった。それに対して 2013 年度前期は 4.15、そして今年度が 4.20 と評価平均値の上昇傾向が見てとれる。また、後期は 2010 年度後期の評価平均値が 4.09、2011 年度後期は 4.11 であり、2012 年度後期の評価平均値の方が過去 2 年間よりも若干高くなっていた（評価平均値 4.12）。そして、さらに 2013 年度後期で 4.22、そして今年度が 4.21 と評価平均値の上昇傾向が見てとれる。2013 年度より設問文の一部に若干修正が加えられたものの、文意はほとんど変わらないことから、授業内容の全体的な底上げが図られた成果といえるだろう。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期後期共に 4.33 であった。なお、この「授業は、学習の目標がはっきり示された」は、過去 5 年間においても毎年、最も評価平均点が高い項目となっていたが、今年度は前後期共にこれまでの最高水準となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「授業内容（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった（2012 年度までは“授業科目の選択や学習時に、「授業内容」（シラバス）は役立った”）」であり、前期が 4.00、後期が 4.03 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていたが、その中では 2014 年度は前後期ともに過去よりも高い数値となっていた。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」が前期 4.24、後期 4.26 であった。また「授業の内容は興味深いものだった」が前期 4.23、後期 4.25 であった。その他、「授業の内容はよく理解できるものであった」が前期 4.12、後期 4.15、「授業は自分の将来にとって意味があると思う」が前期 4.27、後期 4.27 となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

以上のことから、シラバスの活用については、学生にとってより良く参考になるよう今後も引き続き工夫していく必要性が示されていると考えられるが、授業内容については概ね高評価を得ており、さらに今年度はこれまでよりも全て高得点となっているため、学生のニーズに合った授業内容が展開されていると評価できよう。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の5項目の評価平均値（5点満点）は3.31であり、後期は3.29であった。前期後期共に4点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、2010年度前期の評価平均値は3.71、2011年度前期も3.71であり、2012年度前期の評価平均値は過去2年よりも0.02ポイントとわずかであるが高くなっていた（評価平均値3.75）。ところが2013年度以降、この数値が0.4ポイント近く低下している（2013年度の評価平均値3.33、今年度3.31）。後期については、2010年度後期の評価平均値は3.76、2011年度後期は3.77であり、2012年度後期の評価平均値の方が過去2年間よりも若干高くなっていた（評価平均値3.82）。後期も同様に2013年度以降、この数値が0.4ポイント近く低下している（2013年度の評価平均値3.35、今年度3.29）。しかし、ここ2年間の低下傾向は設問文の変更および回答ラベルの改変によるものと考えるのが妥当であり、今後の結果推移を注視していく必要がある。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する5項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が4.32、後期が4.23であった。なお、この設問文は、これまで「この授業にはつねに出席した」という質問内容だったが、2013年度より文言を上記のように変更し、さらに今年度より回答ラベルを出席率で回答するよう改変が行われた。しかし、いずれの文言にしても、出席について質問しているこの項目は、変更・改変前においても毎年度、最も評価平均点が高かった。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」であり、前期が1.82、後期が1.76であった。なお、この項目はこれまで「この授業のために予習または復習を欠かさなかった」という質問であったものが、2013年度から改変されたものである。これは、過去4年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていたが、いずれも3点台であったものが、この質問内容になってさらに大きく低下した。この項目の平均点の大幅な低下が「学生自身の授業への取り組み」全体を例年よりも引き下げた大きな要因となっていると考えられる。

このように今年度、最も評価平均点が高かった項目、最も低かった項目は、いずれも過去4年間と類似のものであった。特に予習・復習に関する質問は昨今学内でテーマとなっている単位の実質化と関連する項目である。今後も引き続き学生に働きかけることで学生自身に主体的な学習態度を身につけてもらう必要がある一方で、授業を行う教員も学生が主体的に学習できるような仕掛けづくりを積極的に行う必要もあるだろう。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」が前期2.77、後期が2.78とやや低い値になっている。これは2012年度を見ると前期3.30、後期3.42、となっており、質問項目は全く同じであるにもかかわらず、昨年度からかなりの低下傾向にある（2013年度前期の評価平均値2.83、後期2.89）。さらに「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」という項目は、2013年度前期は3.69、後期は3.70であった（2013年度前期の評価平均値3.68、後期3.75）。この項目は2012年度

まで「この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった」という設問文であったが、2012 年前期 3.98、後期 4.07 であった。このように多少文言は違っていても類似の質問項目で評価平均値が大きく下がっているということは看過できない深刻な問題であると言わざるを得ない。

以上の結果から、後期の方が前期よりも学生の授業への取り組み姿勢が積極的に変化したと読み取ることも可能であるが、後期は学生の出席率と本授業アンケートの回収率も下がっていることを鑑みると、授業に対して積極的な姿勢の学生が後期のアンケートに回答した、という調査対象の偏りを反映している可能性も否定できない。

そのこと以上に、教員への評価は高まりつつあり、学生の授業への出席率も高く維持されているものの、授業外の自習への取り組みに課題が多く、ここ数年その傾向はますます顕著になってきているとまとめることができる。学生の授業への取り組み姿勢をいかに改善していくかは、今後よりいっそう深刻に取り組まねばならない FD 上の大きな課題である。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください)について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ－2において報告する。

2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体				
履修者数	9,611			
回答者数	6,509			

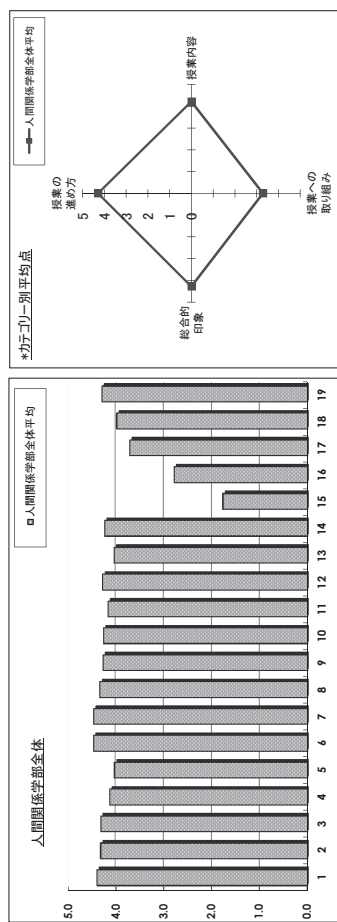
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	58.1	28.7	8.5	3.6	1.1	6,505	4
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	53.0	31.1	11.3	3.3	1.3	6,502	7
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	54.0	28.3	12.9	3.8	0.9	6,504	5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	44.0	32.6	16.8	4.7	2.0	6,500	9
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	42.2	29.0	20.4	5.9	2.5	6,495	14
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	61.4	26.0	10.2	1.6	0.7	6,497	12
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.3	27.9	9.4	1.8	0.6	6,492	17

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	53.4	31.0	11.6	2.9	1.2	6,502	7
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまとまっていた	4.26	51.3	30.7	12.6	3.8	1.7	6,502	7
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	50.9	30.6	12.8	3.8	1.9	6,493	16
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	45.5	33.1	14.7	4.6	2.0	6,498	11
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	51.7	29.9	13.1	3.6	1.6	6,492	17
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	40.6	30.3	22.6	4.0	2.4	6,476	33

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	51.1	28.6	13.6	5.3	1.5	6,470	39
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.76	5.1	4.3	10.3	22.5	57.8	6,485	24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.78	17.9	14.8	24.4	13.0	29.9	6,422	87
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	30.9	29.2	25.3	8.4	6.1	6,490	19
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	39.5	31.9	19.2	5.3	4.1	6,473	36

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	53.6	28.4	12.8	3.1	2.2	6,254	255

Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体				
履修者数	9,712			
回答者数	7,472			

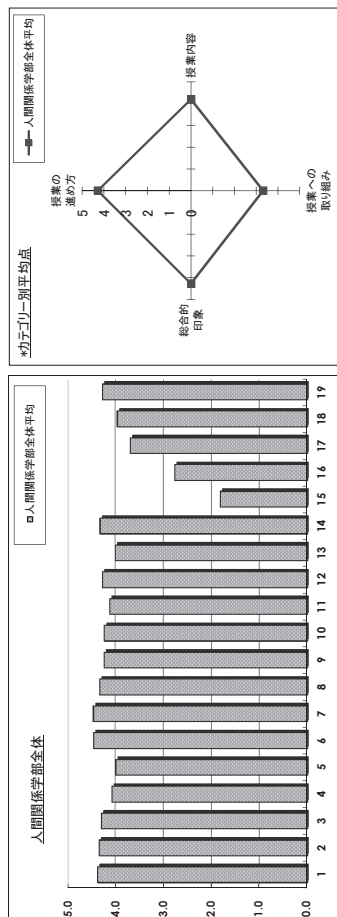
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.38	56.3	29.9	9.7	3.4	0.7	7,462	10
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	53.4	31.5	11.8	2.7	0.6	7,463	9
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	52.7	29.4	13.7	3.1	1.1	7,464	8
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	41.4	33.1	18.7	5.5	1.3	7,464	8
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	40.0	30.0	21.8	6.2	2.0	7,456	16
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	61.3	26.1	10.3	1.6	0.7	7,445	27
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	59.4	29.4	9.3	1.5	0.3	7,441	31

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	52.7	31.8	12.0	2.9	0.6	7,461	11
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまとまっていた	4.24	49.2	31.7	14.1	4.0	1.1	7,458	14
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	48.8	32.0	14.2	3.7	1.3	7,453	19
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	43.4	33.4	16.8	4.8	1.6	7,459	13
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	52.0	29.2	14.2	3.4	1.2	7,453	19
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	38.9	30.8	24.3	4.0	2.1	7,413	59

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	56.2	26.3	12.0	4.5	1.0	7,398	74
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.82	5.4	5.5	11.2	21.9	56.1	7,441	31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	16.3	16.1	24.8	14.0	28.9	7,374	98
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	30.0	29.7	25.4	9.3	5.6	7,447	25
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	37.5	33.2	20.7	5.3	3.3	7,435	37

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点	
			5	4	3				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	52.7	28.8	13.5	3.5	1.6	7,230	242

Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	1,485
回答者数	—	1,485

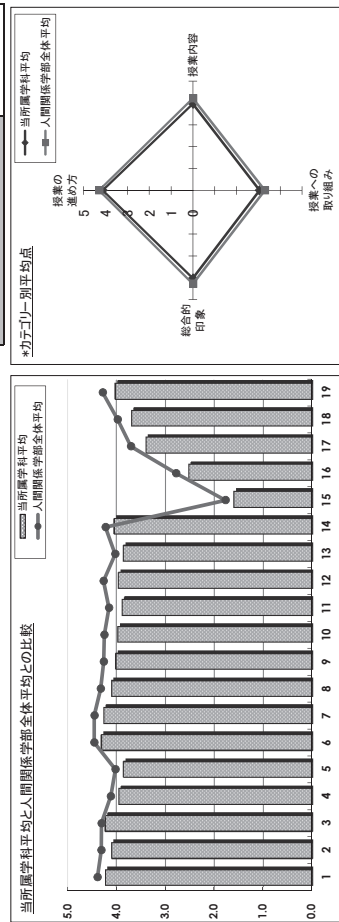
I. 先生のこの授業の進め方について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.23	49.5	32.3	11.6	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.10	40.4	36.7	17.4	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.23	47.9	33.0	14.6	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.95	35.3	35.4	20.9	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	34.1	31.2	24.7	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.31	50.9	32.8	13.6	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.26	47.7	34.7	14.4	0.85

II. この授業の内容について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.10	40.9	35.3	18.2	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.02	37.2	36.7	18.7	0.97
10	授業の内容は興味深いものであった	3.97	36.1	36.1	19.3	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.88	30.9	36.5	21.3	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.96	35.7	35.1	21.0	1.00
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.86	30.6	34.0	28.0	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.05	41.0	33.2	17.2	1.01
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.61	3.0	4.3	8.8	1.01
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.53	12.9	13.4	24.4	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.40	19.1	29.5	32.3	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.69	26.5	36.2	23.6	1.13

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.03	38.3	36.5	17.9	1.00

Q1-Q10の当区分平均値	3.79
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	1,820
回答者数	—	1,820

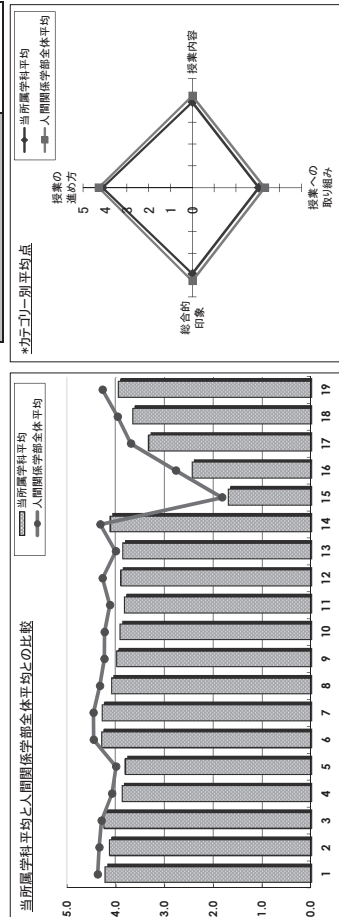
I. 先生のこの授業の進め方について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.21	46.2	35.1	13.2	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.12	40.4	37.7	16.4	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.24	47.9	32.3	16.2	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.86	31.3	34.8	25.0	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.80	30.6	31.8	27.6	1.04
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.28	50.5	31.3	15.1	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.27	47.6	35.3	14.2	0.82

II. この授業の内容について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.08	37.9	38.5	18.0	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	3.97	35.8	35.8	20.2	0.99
10	授業の内容は興味深いものであった	3.91	33.7	34.4	23.1	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.82	30.4	34.9	24.2	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.89	33.2	34.3	23.4	1.02
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.85	29.6	34.7	28.8	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.11	44.1	31.6	16.6	1.04
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.70	2.8	5.3	10.9	1.04
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.44	9.2	14.0	24.6	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.33	17.3	27.7	33.7	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.65	24.5	35.0	26.7	1.10

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	平均点	回答率(%)			標準偏差
			5	4	3	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.94	36.0	34.0	21.3	1.04

Q1-Q10の当区分平均値	3.76
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	履修者数	—
		回答者数	1,529

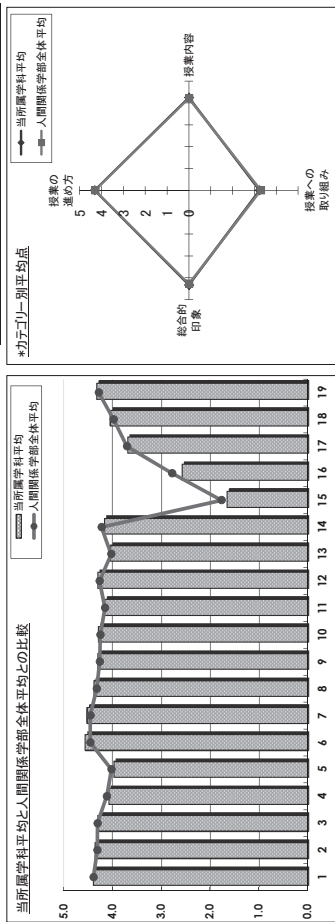
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差	4.31
No.	設問文	平均点	回答率(%)												
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	57.5	29.8	8.1	3.9	0.7	1,529	0	0.85					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	54.9	30.9	9.7	3.6	0.9	1,529	0	0.86					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.31	54.8	27.5	11.8	5.2	0.6	1,529	0	0.91					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	41.0	34.7	17.1	5.3	1.8	1,528	1	0.98					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	39.8	31.2	18.7	7.7	2.6	1,527	2	1.06					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	68.1	22.7	7.0	2.0	0.3	1,525	4	0.74					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	65.3	25.0	7.2	2.2	0.3	1,524	5	0.75					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差	4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)												
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	56.6	30.1	9.1	3.3	0.9	1,528	1	0.85					
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.30	53.7	30.4	9.9	4.6	1.5	1,528	1	0.93					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.30	54.2	28.2	12.1	4.2	1.4	1,525	4	0.93					
11	授業の内容はよく理解できるものであると思う	4.17	46.0	33.6	13.4	5.1	2.0	1,527	2	0.97					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	53.6	29.9	11.5	3.6	1.4	1,527	2	0.91					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	40.4	32.2	20.4	5.1	1.8	1,523	6	0.99					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点				有効回答数	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	47.6	31.2	13.9	5.7	1.6	1,520	9	0.98					
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.67	2.5	4.0	10.4	24.0	59.2	1,524	5	0.98					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.58	13.5	15.3	20.7	17.0	33.5	1,505	24	1.42					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	31.1	29.9	22.5	10.5	6.0	1,522	7	1.18					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	41.3	33.0	17.6	5.3	2.8	1,522	7	1.03					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差	無効回答	割合			
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	55.7	27.6	12.2	3.0	1.5	1,487	42	0.91				

Q1-Q10の当区分平均値	4.01
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	履修者数	—
		回答者数	1,474

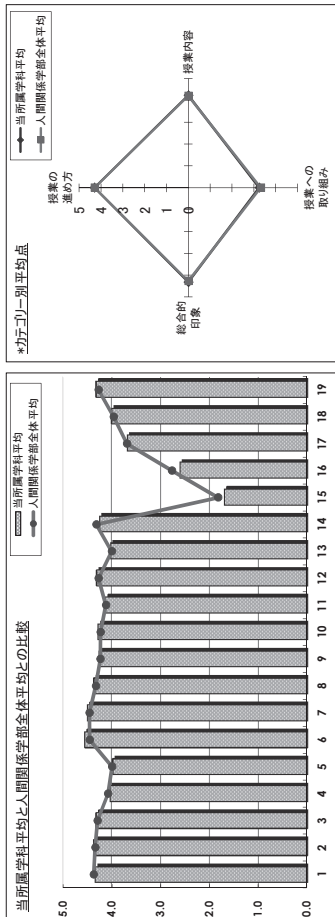
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差	4.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)							有効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	54.1	31.8	8.5	4.6	1.0	1,472	2	0.89					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	55.6	30.2	10.8	3.0	0.4	1,473	1	0.82					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	54.3	29.0	12.2	3.5	1.0	1,472	2	0.89					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	39.3	34.4	18.1	7.2	1.0	1,472	2	0.98					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	38.4	31.8	21.4	6.7	1.8	1,473	1	1.01					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.55	65.8	26.2	6.0	1.6	0.4	1,469	5	0.72					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	61.0	30.0	7.1	1.6	0.3	1,471	3	0.72					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	55.3	31.2	9.4	3.5	0.7	1,474	0	0.84			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.26	51.2	31.1	11.3	5.4	1.0	1,473	1	0.93			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.28	50.6	33.0	11.4	3.8	1.2	1,471	3	0.90			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	42.6	35.4	15.5	5.1	1.3	1,473	1	0.94			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	52.8	30.2	12.9	3.1	1.0	1,472	2	0.88			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	38.6	33.7	20.5	5.7	1.4	1,465	9	0.97			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)								有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	53.6	26.7	12.4	5.8	1.4	1,454	20	0.98				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.70	4.8	4.0	9.4	20.3	61.5	1,470	4	1.10				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	13.1	15.7	22.3	16.5	32.4	1,458	16	1.41				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	28.8	32.0	23.4	10.6	5.2	1,473	1	1.15				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	37.7	35.7	18.9	4.6	3.1	1,469	5	1.01				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差	有効回答
No.	設問文	平均点	回答率 (%)										
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	53.9	30.1	11.6	3.5	1.0	1,444		30	0.88		

Q1-Q10の当区分平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻	—
履修者数	1,534		

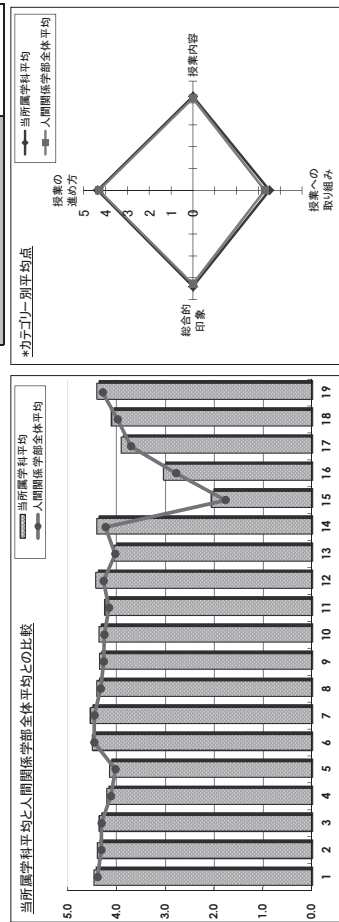
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	無効 回答	有効 回答	4.37
No.	設問文	回答率(%)					平均点		有効 回答	無効 回答					
		5	4	3	2	1	5	4							
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	63.5	25.6	6.4	3.1	1.4	1.533	1	0.86					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	59.5	27.4	7.6	3.5	1.9	1.534	0	0.91					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	57.1	27.2	11.1	3.4	1.2	1.534	0	0.90					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	50.8	28.6	13.7	4.4	2.5	1.533	1	1.00					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	49.7	26.5	15.8	5.1	2.9	1.533	1	1.05					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.50	65.0	23.5	8.8	1.4	1.2	1.533	1	0.81					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	65.8	25.4	6.5	1.4	0.9	1.533	1	0.76					

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点			無効 回答	標準 偏差	4.30
No.	設問文	回答率 (%)					平均点		有効 回答	無効 回答					
		5	4	3	2	1	5	4							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	58.2	29.5	8.5	2.0	1.8	1.532	2	0.86					
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.35	57.4	27.2	10.6	2.5	2.2	1.533	1	0.93					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.36	57.4	28.5	9.1	2.6	2.4	1.531	3	0.92					
11	授業の内容はよく理解できるものであると思う	4.24	51.9	30.0	11.2	4.2	2.7	1.531	3	0.99					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	61.3	28.1	8.4	2.5	1.8	1.530	4	0.88					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	44.0	27.3	21.6	3.4	3.7	1.521	13	1.06					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答	無効 回答	3.51
No.	設問文	回答率 (%)					平均点		有効 回答	無効 回答	3.51						
		5	4	3	2	1	5	4									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	62.1	23.4	9.1	4.0	1.4	1.531	3	0.91							
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.07	9.1	5.9	12.7	26.9	45.3	1.533	1	1.28							
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	23.6	17.1	22.7	13.1	23.5	1.507	27	1.48							
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	38.6	30.7	18.8	6.9	5.0	1.533	1	1.14							
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.11	45.5	31.5	14.7	4.8	3.6	1.529	5	1.05							

Ⅳ. 総合的な印象										当該カテゴリ平均点		有効 回答	無効 回答	標準 偏差
No.	設問文	回答率(%)					平均点		有効 回答	無効 回答				
		5	4	3	2	1	5	4						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	61.1	25.6	8.1	3.1	2.1	1.461	73	0.92				

Q1-Q10の当区分平均値	4.12
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻	—
履修者数	2,212		

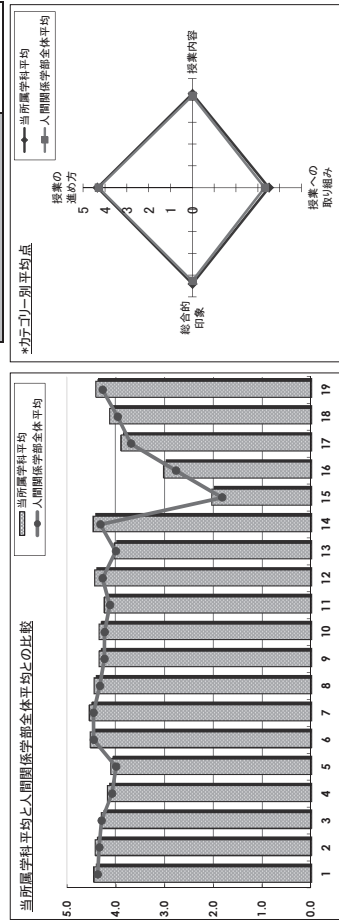
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.45	60.7	27.0	9.0	2.6	0.6	2,211	1	0.81		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	57.6	29.9	9.6	2.3	0.6	2,208	4	0.80		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.5	29.7	13.7	2.8	1.4	2,210	2	0.90		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	46.3	31.8	16.0	4.5	1.4	2,210	2	0.95		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	44.8	29.1	18.9	5.4	1.7	2,206	6	1.00		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.52	64.8	24.5	8.8	1.4	0.6	2,203	9	0.76		
7	授業は先生への十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	64.6	26.5	7.5	1.0	0.4	2,201	11	0.71		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.30
No.	設問文	回答率 (%)					平均点		有効 回答	無効 回答						
		5	4	3	2	1										
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.44	59.5	28.5	9.7	1.7	0.7	2.207	5	0.79						
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.34	54.1	30.1	12.2	2.8	0.8	2.207	5	0.86						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.34	53.8	31.2	11.2	2.9	1.0	2.208	4	0.86						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	48.4	32.5	13.9	4.0	1.2	2.208	4	0.92						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	59.9	27.2	10.0	2.2	0.8	2.209	3	0.82						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.0	29.8	23.1	3.3	2.8	2.201	11	1.01						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												当カテゴリー平均点		無効 回答	標準 偏差	3.51
No.	設問文	回答率 (%)					平均点		有効 回答	無効 回答						
		5	4	3	2	1										
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	63.9	22.8	9.4	3.2	0.7	2.193	19	0.84						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.04	7.8	6.8	13.3	25.6	46.6	2.202	10	1.25						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.02	19.8	19.1	27.3	11.0	22.8	2.177	35	1.42						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.89	36.8	31.2	20.9	6.4	4.6	2.207	5	1.11						
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	44.7	32.2	17.1	3.5	2.5	2.201	11	0.98						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	回答率 (%)					平均点		有効 回答	無効 回答		
		5	4	3	2	1	5	4				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	59.5	26.2	10.6	2.5	1.1	2.135	77	0.86		

Q1-Q10の当区分平均値	4.12
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	介護福祉学専攻	履修者数	回答者数	—
				514	

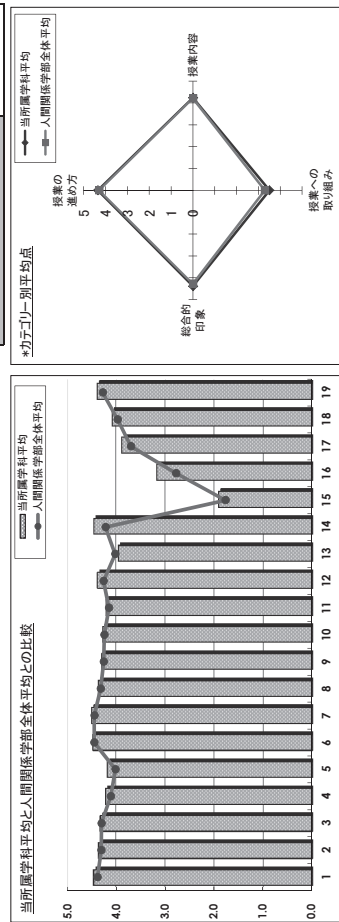
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.36
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	63.0	24.9	8.2	2.7	1.2	51.4	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	58.0	26.7	10.5	2.7	2.1	51.4	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	55.4	25.9	14.8	3.3	0.6	51.3	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	49.2	30.5	14.6	3.9	1.8	51.4	0
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	49.3	26.6	18.6	3.5	2.0	51.1	3
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	63.4	22.6	12.7	0.8	0.6	51.3	1
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	65.9	21.4	10.1	1.8	0.8	51.3	1

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.24
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	56.8	28.4	10.5	2.7	1.6	51.4	0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.29	55.4	27.0	11.1	3.7	2.7	51.4	0
10	授業の内容は興味深いものであった	4.27	51.7	31.6	11.5	2.9	2.3	51.3	1
11	授業はよく理解できるものであった	4.20	47.9	32.7	13.6	3.5	2.3	51.4	0
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	60.6	23.8	10.7	2.7	2.1	51.3	1
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.96	39.6	26.0	28.1	2.9	3.3	51.2	2

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	3.50
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	61.6	25.6	10.0	2.2	0.6	51.1	3
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.92	6.7	3.1	13.3	29.2	47.7	51.1	3
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.18	25.4	16.0	28.0	11.7	18.8	51.1	3
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	37.0	28.2	25.3	5.3	4.3	51.4	0
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	45.6	28.7	18.1	3.7	3.9	51.3	1

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.39
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	62.7	21.3	10.6	2.8	2.6	50.2	12

Q1-Q10の当区分平均値	4.10
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	介護福祉学専攻	履修者数	回答者数	—
				821	

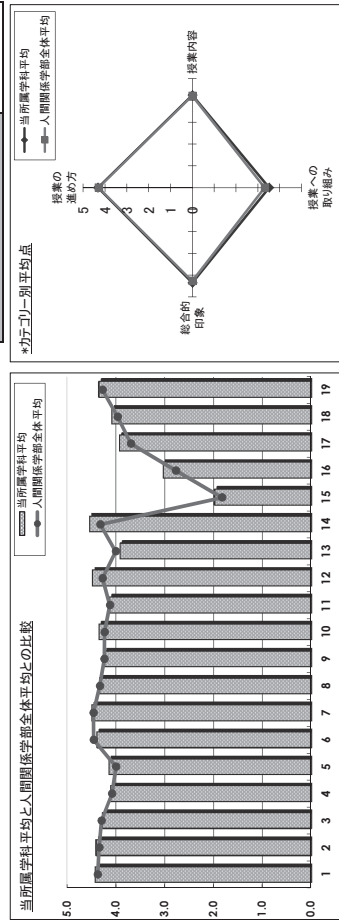
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.32
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.42	59.7	27.7	8.9	2.6	1.1	81.9	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	57.6	28.8	11.7	1.2	0.7	82.0	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	55.0	26.0	13.7	2.9	2.4	82.0	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	44.5	30.4	18.5	5.1	1.5	82.0	1
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	47.3	28.8	17.1	5.2	1.6	82.0	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	61.1	22.7	12.3	2.1	1.7	81.8	3
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.9	26.0	9.4	1.3	0.4	81.6	5

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.24
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	54.3	28.9	13.9	2.6	0.4	82.0	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.24	49.6	30.2	15.7	3.3	1.1	82.0	1
10	授業の内容は興味深いものであった	4.35	55.0	29.3	12.1	2.6	1.0	81.8	3
11	授業はよく理解できるものであった	4.14	44.3	31.6	18.8	4.1	1.2	82.0	1
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	64.8	22.0	10.5	2.0	0.7	81.8	3
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	38.6	23.8	31.1	3.8	2.7	81.6	5

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	3.52
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.55	67.0	23.2	7.7	1.6	0.5	81.6	5
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.99	5.9	6.9	14.5	25.6	47.2	81.6	5
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	22.0	16.9	25.6	14.0	21.5	81.3	8
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.93	37.2	31.5	21.4	6.7	3.2	81.9	2
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.09	42.2	32.8	18.0	5.3	1.7	81.7	4

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	4.36
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	59.1	24.1	11.3	4.2	1.3	78.8	33

Q1-Q10の当区分平均値	4.09
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名	264	216
履修者数			
回答者数			

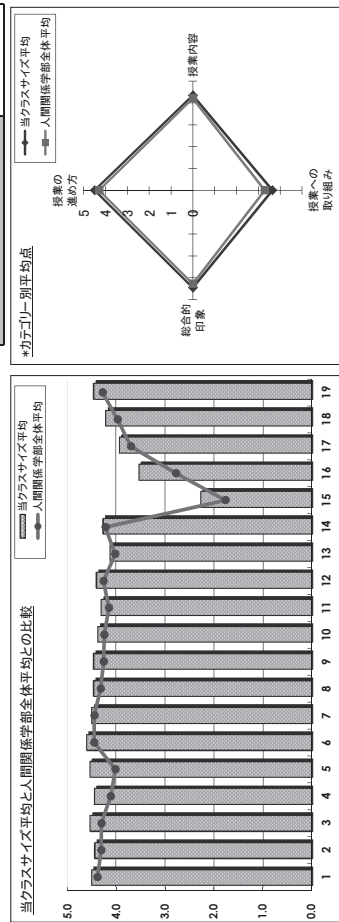
I. 先生のこの授業の進め方について										当該カテゴリー平均点		4.50	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.50	45.3	24.1	7.4	1.9	1.4	21.6	0	0.82			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	57.9	31.5	7.9	1.9	0.9	21.6	0	0.79			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.53	65.7	23.6	8.8	1.4	0.5	21.6	0	0.75			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	58.3	30.1	9.3	1.9	0.5	21.6	0	0.78			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.53	64.7	26.0	7.9	0.5	0.9	21.5	1	0.74			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	69.0	23.6	6.5	0.5	0.5	21.6	0	0.67			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	60.6	30.6	6.9	1.4	0.5	21.6	0	0.73			

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点			4.35
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	59.3	31.0	6.9	1.9	0.9	21.6	0	0.78			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.46	59.3	29.2	10.2	0.9	0.5	21.6	0	0.75			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.37	57.4	27.8	9.7	4.6	0.5	21.6	0	0.87			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	50.0	34.7	11.1	3.7	0.5	21.6	0	0.84			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	58.8	28.2	8.3	3.7	0.9	21.6	0	0.86			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	48.6	24.1	21.3	3.2	2.8	21.6	0	1.03			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.64	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	相関係数		
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	52.6	31.2	8.8	5.1	2.3	21.5	1	0.98			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.28	8.4	10.2	15.3	33.0	33.0	21.5	1	1.26			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.53	28.5	31.3	19.2	7.0	14.0	21.4	2	1.34			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.93	33.8	38.4	18.5	5.6	3.7	21.6	0	1.04			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.21	45.8	37.4	10.7	4.2	1.9	21.4	2	0.93			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.46	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.46	63.9	24.9	6.3	2.9	2.0	205	11	0.89				

Q1-Q10の当区分平均値	4.23
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名	470	417
履修者数			
回答者数			

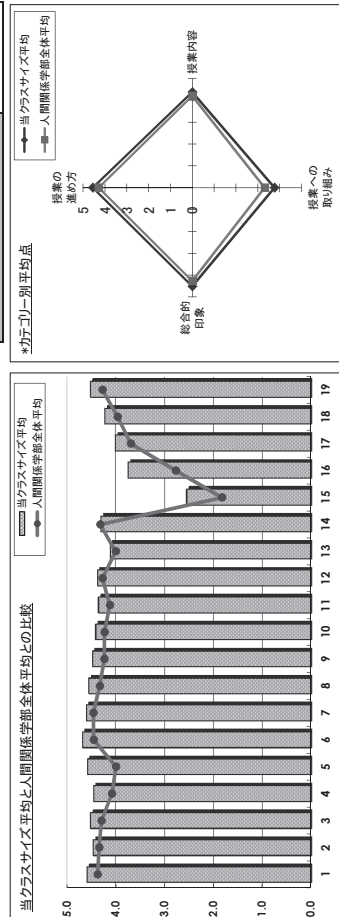
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.59	67.6	25.2	5.5	1.7	0.0	417	0	0.67			
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.46	59.6	27.9	11.5	1.0	0.0	416	1	0.73			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.52	63.8	25.2	10.1	1.0	0.0	417	0	0.71			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.45	58.2	30.3	10.1	1.4	0.0	416	1	0.73			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.58	70.2	19.7	7.9	2.2	0.0	416	1	0.73			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.68	75.0	19.0	5.3	0.7	0.0	416	1	0.61			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	69.2	23.0	6.8	1.0	0.0	413	4	0.66			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.55	65.2	26.1	7.2	1.4	0.0	41.7	0	0.69			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.48	60.6	28.3	9.4	1.4	0.2	41.4	3	0.75			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.41	55.8	32.7	8.9	2.4	0.2	41.6	1	0.77			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	53.3	31.8	12.5	2.2	0.2	41.5	2	0.80			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	55.3	29.8	12.5	2.2	0.2	41.6	1	0.80			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	43.8	28.8	23.7	2.4	1.2	41.3	4	0.93			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.77	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	53.4	28.5	13.5	3.9	0.7	41.4	3	0.90				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.56	10.8	11.3	24.0	30.3	23.6	41.6	1	1.26				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.75	32.8	30.0	22.7	8.1	6.4	40.6	11	1.18				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.01	38.4	34.8	19.2	4.6	3.1	41.7	0	1.02				
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.22	47.0	35.0	12.9	3.4	1.7	41.7	0	0.91				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.52	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	66.0	23.6	7.2	2.7	0.5	403	14	0.79			

Q1-Q10の当区分平均値	4.29
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名
履修者数	1,922
回答者数	1,461

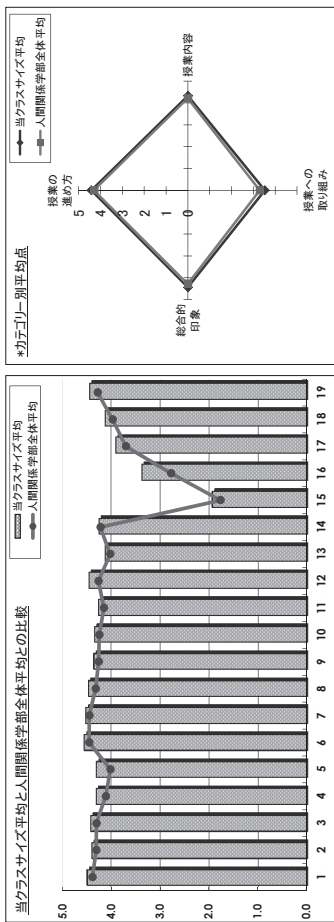
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.43
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.49	63.0	26.4	7.6	2.7	0.3	1.461	0	0.78			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	55.8	31.0	10.7	1.9	0.6	1.460	1	0.80			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	59.6	25.8	11.8	2.7	0.1	1.461	0	0.81			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	53.7	29.7	11.4	4.0	1.2	1.459	2	0.91			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	54.7	26.4	14.6	3.3	1.1	1.460	1	0.91			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.55	66.9	23.4	8.0	1.6	0.2	1.459	2	0.73			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	63.1	27.5	7.6	1.4	0.4	1.457	4	0.73			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.33
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	60.4	29.0	8.2	1.9	0.5	1.460	1	0.77			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.35	55.6	29.7	10.4	3.2	1.1	1.460	1	0.87			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.34	54.7	30.0	11.0	3.1	1.2	1.458	3	0.88			
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.26	50.4	31.9	12.5	3.5	1.6	1.459	2	0.92			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	61.0	27.1	8.8	2.5	0.6	1.455	6	0.81			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	45.4	28.8	20.6	2.9	2.3	1.453	8	0.99			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当該カテゴリ平均点		3.52
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	52.3	28.6	12.7	4.9	1.4	1.455	6	0.96		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.94	6.7	6.3	13.8	21.3	52.0	1.454	7	1.23		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.38	29.7	19.8	24.5	10.7	15.3	1.437	24	1.40		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	37.9	29.4	22.5	5.8	4.3	1.457	4	1.10		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	46.2	29.7	17.5	3.9	2.7	1.453	8	1.01		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.44
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.44	61.2	25.8	9.9	2.2	0.9	1,401	60	0.83		

Q1-Q10の当区分平均値	4.16
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名
履修者数	1,713
回答者数	1,462

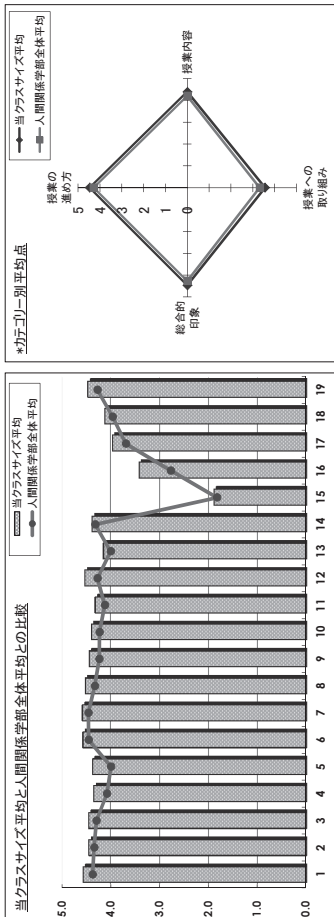
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.48
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.56	66.2	26.4	5.4	1.6	0.3	1,460	2	0.70			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	59.7	28.2	10.1	1.3	0.7	1,460	2	0.78			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.45	61.6	25.4	10.2	2.2	0.5	1,460	2	0.81			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.35	55.9	28.3	11.4	3.4	1.0	1,458	4	0.88			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	57.3	26.5	12.7	2.9	0.5	1,458	4	0.85			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.57	69.3	21.2	7.6	1.3	0.6	1,455	7	0.74			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	66.6	26.2	6.1	0.9	0.1	1,453	9	0.66			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.39
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.52	63.7	26.5	8.2	1.4	0.1	1.458	4	0.72		
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.44	59.1	29.0	9.7	1.5	0.8	1.459	3	0.79		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	56.8	29.3	11.2	2.3	0.4	1.459	3	0.81		
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.32	52.7	31.0	12.6	2.8	0.8	1.456	6	0.86		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.53	66.0	23.4	8.2	1.9	0.4	1.458	4	0.76		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	47.1	27.8	20.3	3.0	1.9	1.445	17	0.97		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	58.9	25.6	10.4	4.7	0.3	1.444	18	0.88			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.89	5.9	5.5	12.8	23.6	52.2	1.451	11	1.18			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.43	28.3	23.5	23.8	11.4	13.0	1.444	18	1.35			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.97	40.5	29.9	19.2	6.7	3.7	1.456	6	1.09			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	45.7	30.9	16.0	5.0	2.3	1.452	10	1.01			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.47
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	63.5	23.6	10.1	1.7	1.0	1,409	53	0.82		

Q1-Q10の当区分平均値	4.21
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	2,554
		回答者数	1,788

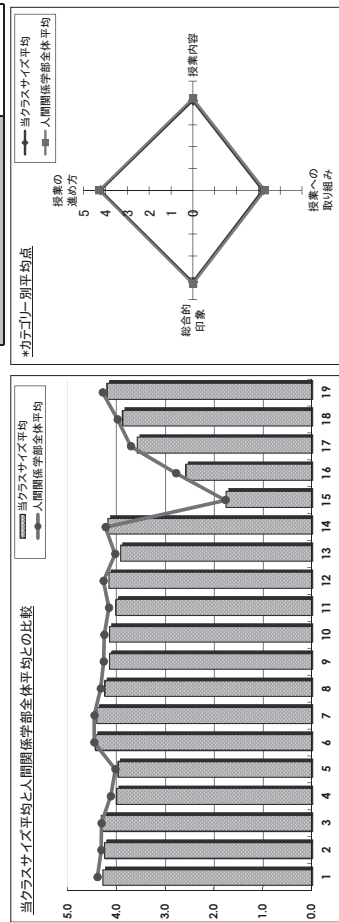
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.24
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答	4.24							
			5	4	3	2				1						
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	53.1	29.6	10.9	4.9	1.5	1.787	1	0.95						
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.25	50.3	31.5	12.7	3.9	1.6	1.785	3	0.93						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	54.0	28.3	13.7	2.7	1.2	1.786	2	0.89						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.00	38.2	34.7	19.1	5.3	2.7	1.786	2	1.01						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	38.7	31.1	21.0	6.5	2.6	1.782	6	1.05						
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.9	27.1	10.1	2.0	0.9	1.785	3	0.82						
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	58.2	28.1	10.6	2.2	0.9	1.781	7	0.83						

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリー平均点					標準 偏差	4.11
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	50.1	31.2	13.3	4.0	1.4	1.786	2	0.93						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じていた	4.15	46.6	31.3	14.4	5.5	2.2	1.786	2	1.00						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.15	46.8	30.7	15.4	4.9	2.2	1.781	7	1.00						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.02	39.7	33.9	17.6	6.1	2.7	1.783	5	1.03						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	46.2	31.9	15.5	4.4	1.9	1.784	4	0.97						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	35.0	32.4	24.8	5.2	2.5	1.776	12	1.01						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	3.20
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答					
		5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	48.7	29.5	14.3	5.9	1.6	1.775	13	0.99				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.76	5.0	4.2	10.7	22.1	57.9	1.784	4	1.12				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.59	13.7	13.4	24.6	14.9	33.4	1.767	21	1.41				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.58	26.7	28.5	27.8	9.7	7.3	1.780	8	1.19				
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.88	35.2	33.6	20.0	6.1	5.0	1.776	12	1.11				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	49.6	29.6	14.6	3.4	2.8	1.734	54	1.00			

Q1-Q10の当区分平均値	3.92
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	2,806
		回答者数	2,156

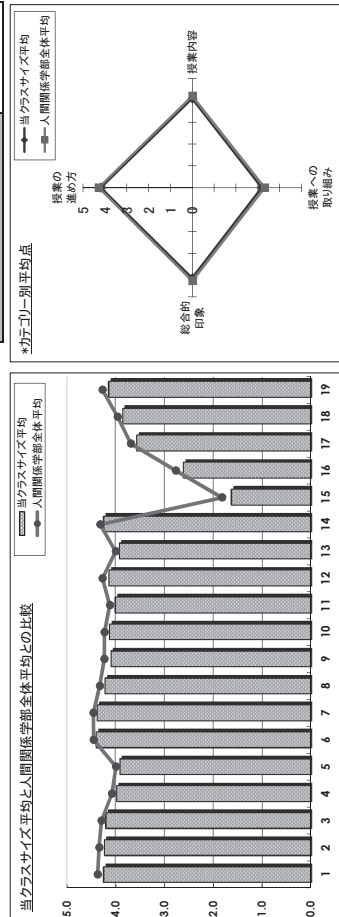
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.19
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	50.8	29.7	13.4	5.0	1.1	2.152	4	0.94					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	47.2	33.3	15.2	3.8	0.6	2.154	2	0.88					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.20	46.5	32.5	16.5	3.2	1.2	2.155	1	0.91					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	36.8	33.0	22.3	6.6	1.3	2.155	1	0.98					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	34.9	32.7	23.3	6.8	2.3	2.154	2	1.03					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	57.1	28.5	11.8	1.9	0.8	2.150	6	0.83					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	54.0	32.0	11.9	1.8	0.4	2.153	3	0.79					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	4.08
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2					1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	46.2	34.2	14.6	4.2	0.7	2.153	3	0.89					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.09	42.9	32.1	17.5	6.0	1.4	2.154	2	0.98					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.12	43.8	32.2	17.9	4.3	1.8	2.151	5	0.97					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.00	38.2	33.9	19.9	6.0	1.9	2.154	2	1.00					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.13	45.1	30.9	17.5	4.8	1.6	2.149	7	0.97					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	34.4	32.5	26.0	4.8	2.3	2.140	16	1.00					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	3.18
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	52.7	26.8	14.0	5.3	1.2	2.134	22	0.96				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.63	4.1	3.1	8.9	20.0	63.9	2.148	8	1.04				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	13.9	12.9	25.9	15.4	32.0	2.130	26	1.40				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.57	26.7	27.7	27.8	11.0	6.8	2.146	10	1.19				
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.85	33.4	32.9	23.4	6.2	4.1	2.144	12	1.08				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.14	45.8	31.0	16.8	4.4	2.1	2.083	73	0.98			

Q1-Q10の当区分平均値	3.89
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	4,871
		回答者数	3,044

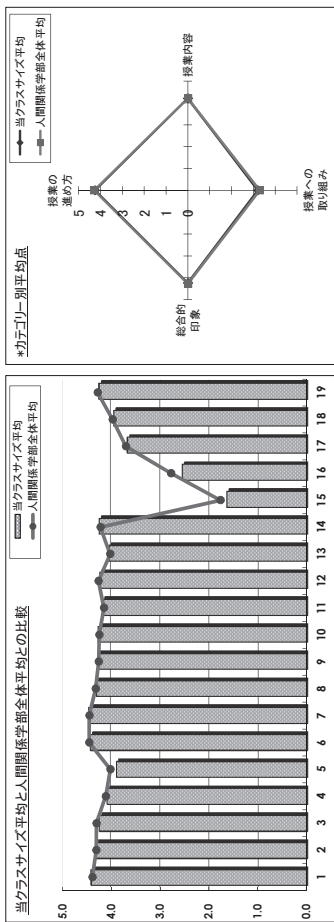
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	58.1	29.5	7.7	3.5	1.2	3.041	3	0.86		
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.30	52.9	30.9	10.9	3.7	1.5	3.041	3	0.91		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.23	50.5	29.9	13.3	5.1	1.2	3.041	3	0.95		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	41.7	32.8	18.7	4.8	2.0	3.039	5	0.98		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	36.6	29.3	23.6	7.2	3.3	3.038	6	1.08		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.1	26.8	11.7	1.6	0.8	3.037	7	0.82		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	60.2	27.8	9.7	1.7	0.6	3.038	6	0.78		

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点				有効 回答	無効 回答	標準 偏差	4.21
No.	設問文	平均点	回答率 (%)														
			5	4	3	2	1										
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	51.5	31.9	12.5	2.7	1.4	3.040	4	0.89							
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.27	51.4	30.9	12.8	3.2	1.8	3.040	4	0.93							
10	授業の内容は興味深いものであった	4.26	51.1	31.2	12.2	3.4	2.2	3.038	6	0.95							
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	46.2	33.1	14.4	4.4	1.9	3.040	4	0.96							
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	50.0	30.3	14.1	3.7	1.9	3.037	7	0.95							
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	41.0	30.3	22.4	4.0	2.3	3.031	13	1.00							

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.21
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	51.8	27.9	13.9	5.2	1.3	3.025	19	0.96		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.64	4.2	3.0	7.9	22.6	62.3	3.032	12	1.03		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.55	13.9	12.1	24.6	13.5	35.9	3.004	40	1.43		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.66	29.8	28.8	25.7	9.1	6.5	3.037	7	1.18		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.94	38.3	31.7	20.2	5.5	4.4	3.030	14	1.09		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.24
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	51.6	29.1	13.6	3.3	2.4	2,914	130	0.97			

Q1-Q10の当区分平均値	3.96
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	4,723
		回答者数	3,437

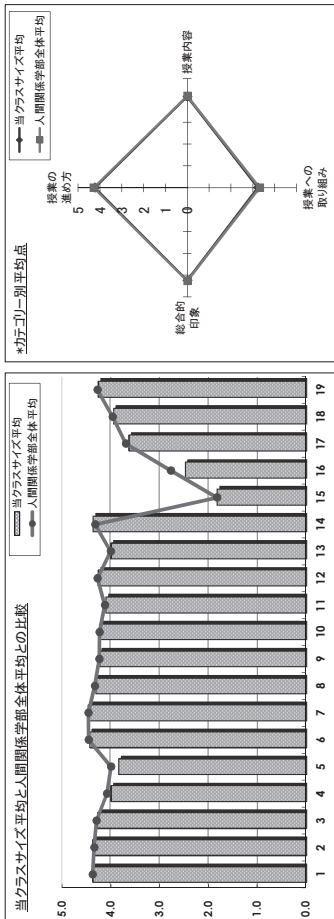
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	54.2	32.0	9.8	3.3	0.8	3.433	4	0.85		
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.36	53.8	32.2	10.4	2.8	0.7	3.433	4	0.83		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.26	51.5	29.6	13.8	3.6	1.5	3.432	5	0.93		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.98	36.2	35.5	20.6	6.1	1.7	3.435	2	0.98		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.82	32.1	31.1	26.4	7.7	2.6	3.428	9	1.05		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	58.9	27.5	11.1	1.7	0.8	3.424	13	0.82		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	58.6	30.0	9.3	1.6	0.5	3.422	15	0.77		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.17
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	50.6	33.1	12.7	2.9	0.8	3.433	4	0.85			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.22	47.5	32.9	14.4	4.1	1.1	3.431	6	0.91			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.21	47.6	33.0	13.8	4.1	1.6	3.427	10	0.93			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	41.6	34.4	17.1	5.2	1.8	3.434	3	0.97			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	49.9	30.6	14.9	3.3	1.4	3.430	7	0.92			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	37.6	31.3	24.9	4.1	2.1	3.415	22	0.99			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.24
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	57.6	25.9	11.3	4.0	1.1	3,406	31	0.91		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.82	5.4	6.2	10.3	21.3	56.8	3,426	11	1.17		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.47	10.7	13.2	24.8	14.9	36.4	3,394	43	1.37		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.62	26.7	30.2	27.3	9.9	6.0	3,428	9	1.15		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	35.4	34.2	21.8	5.1	3.4	3,422	15	1.04		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	30.2	30.2	13.6	3.8	1.7	3.335	102	0.94		

Q1-Q10の当区分平均値	3.95
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習
履修者数	1,444
回答者数	1,147

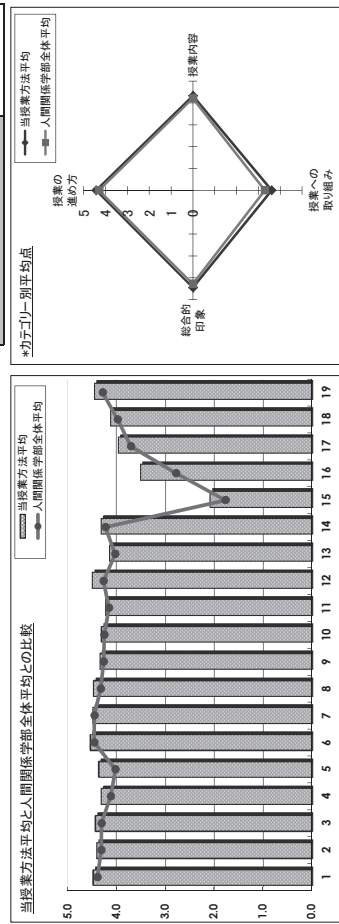
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	62.9	26.0	7.7	2.8	0.6	1,147	0	0.80			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	55.9	32.2	9.5	1.7	0.6	1,146	1	0.78			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.43	60.9	24.2	12.3	2.4	0.2	1,147	0	0.81			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	55.4	27.8	11.1	4.1	1.6	1,147	0	0.93			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	58.1	24.5	14.1	2.7	0.6	1,145	2	0.87			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.8	22.7	8.2	2.1	0.3	1,146	1	0.76			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	61.6	27.8	8.7	1.6	0.3	1,147	0	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答			無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1	回答	回答					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	60.5	29.1	8.1	1.9	0.4	1.146	1	0.76	4.33			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと評定していた	4.34	55.1	29.1	12.0	2.8	1.0	1.146	1	0.87				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.31	53.1	30.3	12.1	3.4	1.0	1.146	1	0.89				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	49.0	32.1	13.0	4.2	1.7	1.146	1	0.94				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	63.4	26.2	7.4	2.2	0.7	1.143	4	0.78				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	46.5	27.8	21.0	2.9	1.8	1.141	6	0.96				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	55.8	27.8	10.2	4.7	1.5	1,144	3	0.94		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.09	7.8	7.9	15.3	23.8	45.2	1,145	2	1.27		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.51	31.1	23.0	23.9	10.2	11.8	1,135	12	1.34		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	38.3	32.1	20.7	5.6	3.3	1,144	3	1.05		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	45.7	30.6	17.0	4.2	2.5	1,141	6	1.00		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1	回答	回答			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.45	63.4	23.5	9.2	2.8	1.1	1,102	45	0.86		

Q1-Q10の当区分平均値	4.18
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習
履修者数	1,443
回答者数	1,275

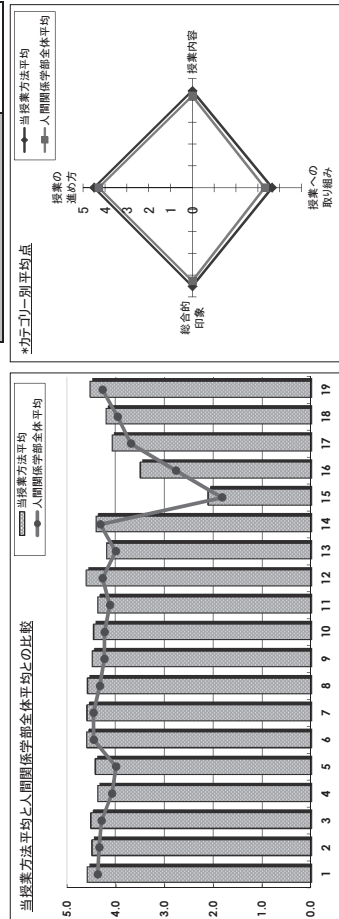
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答				
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.57	66.1	26.6	6.0	1.4	0.0	1,273	2	0.67		
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.48	60.1	28.7	10.1	0.9	0.1	1,274	1	0.72		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.50	64.4	23.5	10.0	1.8	0.2	1,274	1	0.76		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	56.1	28.6	11.2	3.8	0.3	1,273	2	0.85		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.41	60.3	24.3	12.3	2.7	0.4	1,273	2	0.84		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.8	20.9	7.7	1.3	0.2	1,270	5	0.71		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	66.9	25.5	6.8	0.9	0.0	1,270	5	0.66		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.44	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	標準 偏差		
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.57	66.6	25.2	7.0	1.2	0.0	1,272	3	0.68			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.47	60.6	28.3	9.3	1.6	0.2	1,272	3	0.75			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.45	58.4	30.0	9.6	1.9	0.2	1,272	3	0.76			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.37	54.2	30.6	13.0	1.9	0.3	1,271	4	0.80			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.60	69.1	22.4	7.5	1.0	0.0	1,272	3	0.67			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	47.0	29.4	20.1	2.1	1.5	1,260	15	0.93			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.39	60.2	24.4	10.6	4.2	0.6	1.261	14	0.88		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.11	7.7	7.7	17.6	22.0	44.9	1.267	8	1.27		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.49	28.6	25.7	24.1	9.6	12.0	1.252	23	1.32		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.07	42.8	31.7	17.9	5.0	2.7	1.269	6	1.02		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.19	46.8	33.4	14.0	3.9	1.9	1.267	8	0.95		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	65.3	23.7	8.9	1.5	0.5	1,230	45	0.76		

Q1-Q10の当区分平均値	4.26
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,573
		回答者数	4,947

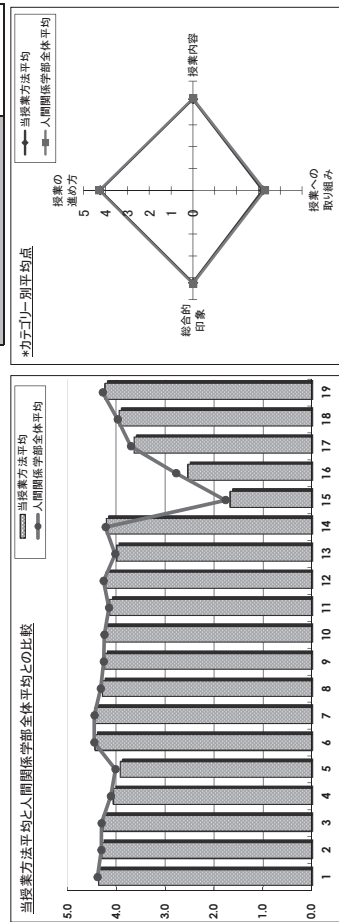
I. 先生のこの授業の進め方について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	56.4	29.9	8.7	3.9	1.2	4.944	3	0.89		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.6	31.2	11.1	3.6	1.5	4.942	5	0.91		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.27	52.1	29.2	13.3	4.2	1.2	4.943	4	0.93		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	40.5	34.1	18.5	4.9	2.0	4.940	7	0.98		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.92	37.3	30.3	22.5	6.8	3.1	4.936	11	1.07		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.8	26.9	10.9	1.6	0.8	4.938	9	0.81		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	59.7	28.0	9.7	1.8	0.7	4.935	12	0.79		

II. この授業の内容について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	51.0	31.9	12.5	3.2	1.4	4.942	5	0.90		
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.23	50.0	31.1	13.0	4.0	1.9	4.942	5	0.95		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.23	49.9	31.2	12.9	3.9	2.1	4.934	13	0.96		
11	授業はよく理解できるものであった	4.13	44.1	33.9	15.1	4.8	2.0	4.940	7	0.98		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	49.0	31.0	14.2	4.0	1.8	4.937	10	0.95		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.99	38.6	31.3	23.2	4.3	2.6	4.923	24	1.01		

III. この授業への取り組みとその成果について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	50.1	28.7	14.2	5.5	1.5	4.914	33	0.98		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.68	4.3	3.4	9.1	22.8	60.5	4.931	16	1.06		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.54	13.4	12.7	24.3	14.1	35.5	4.862	65	1.42		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.64	28.7	28.8	26.7	9.0	6.8	4.934	13	1.18		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	37.8	32.8	19.6	5.5	4.4	4.922	25	1.09		

IV. 総合的な印象										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	50.8	29.6	14.0	3.2	2.4	4.759	188	0.97		

Q1-Q10の当区分平均値	3.95
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,478
		回答者数	5,546

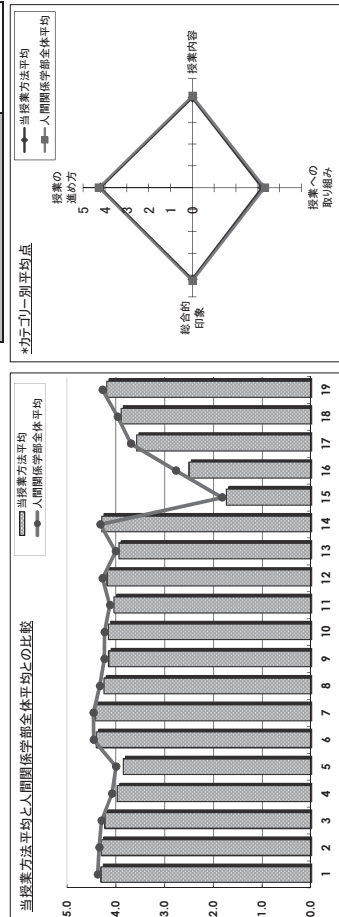
I. 先生のこの授業の進め方について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.31	52.6	31.4	11.1	4.0	0.9	5.539	7	0.88		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	50.9	33.4	11.7	3.2	0.8	5.538	8	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.23	49.2	31.1	14.7	3.5	1.5	5.539	7	0.93		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	36.2	34.6	21.3	6.2	1.6	5.541	5	0.99		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.85	33.1	31.9	24.9	7.6	2.5	5.533	13	1.04		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.1	28.0	11.1	1.8	0.9	5.526	20	0.82		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	56.6	31.2	10.1	1.7	0.5	5.524	22	0.78		

II. この授業の内容について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.25	47.7	34.3	13.9	3.4	0.8	5.539	7	0.87		
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.15	44.8	33.2	15.8	4.9	1.3	5.537	9	0.95		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.16	45.1	33.3	15.9	4.1	1.6	5.533	13	0.95		
11	授業はよく理解できるものであった	4.04	39.4	34.8	18.2	5.7	1.9	5.539	7	0.94		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	47.2	31.2	16.0	4.1	1.4	5.531	15	0.94		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.94	35.7	31.9	25.7	4.5	2.3	5.506	40	1.00		

III. この授業への取り組みとその成果について										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	54.6	27.0	12.7	4.7	1.1	5.493	53	0.93		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.75	4.5	5.2	9.6	21.8	58.9	5.524	22	1.11		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.51	11.3	13.3	25.2	15.6	34.7	5.477	69	1.37		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.58	25.9	29.2	27.9	10.7	6.3	5.529	17	1.16		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.90	34.3	34.1	22.4	5.7	3.5	5.519	27	1.05		

IV. 総合的な印象										平均点	有効回答	標準偏差
No.	設問文	5	4	3	2	1	回答率 (%)	当カテゴリー平均点				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	48.4	30.6	15.0	4.2	1.9	5.369	177	0.97		

Q1-Q10の当区分平均値	3.92
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	214
		回答者数	170

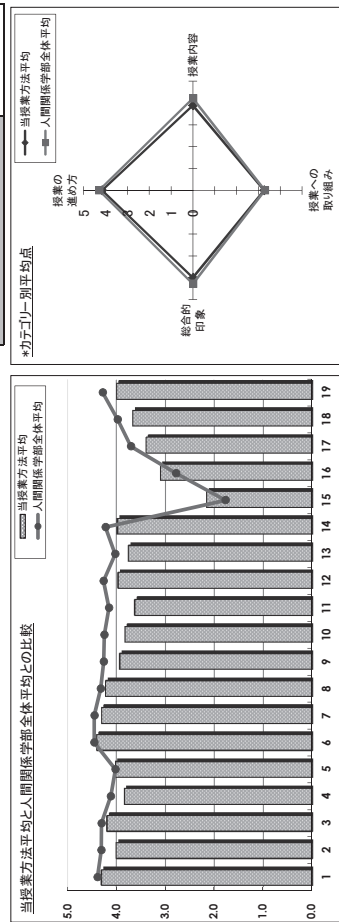
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.31	54.1	28.8	12.9	2.4	1.8	170	0 0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.01	38.2	34.7	18.2	7.1	1.8	170	0 1.01
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.20	46.5	32.9	15.3	4.7	0.6	170	0 0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.84	37.9	27.2	21.3	8.3	5.3	169	1 1.18
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	39.4	35.3	16.5	5.9	2.9	170	0 1.03
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.0	28.4	10.7	2.4	0.6	169	1 0.82
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.31	52.7	32.0	10.7	3.0	1.8	169	1 0.91

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	48.8	31.2	15.3	2.9	1.8	170	0 0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	3.94	36.5	35.9	15.9	8.2	3.5	170	0 1.08
10	授業の内容は興味深いものであった	3.83	33.5	31.2	24.7	5.9	4.7	170	0 1.10
11	授業はよく理解できるものであった	3.63	25.9	32.9	26.5	7.6	7.1	170	0 1.16
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.97	38.2	31.8	21.8	5.3	2.9	170	0 1.04
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.76	32.4	27.1	28.8	7.6	4.1	170	0 1.11

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.98	41.8	24.1	25.9	7.1	1.2	170	0 1.03
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.16	5.9	7.1	21.3	28.4	37.3	169	1 1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.10	18.3	18.3	33.5	15.2	14.6	164	6 1.29
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.40	17.8	29.0	34.3	13.0	5.9	169	1 1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.67	25.6	34.5	25.6	9.5	4.8	168	2 1.10

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.00	36.8	39.3	15.3	4.3	4.3	163	7 1.04

Q1-Q10の当区分平均値	3.83
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	357
		回答者数	308

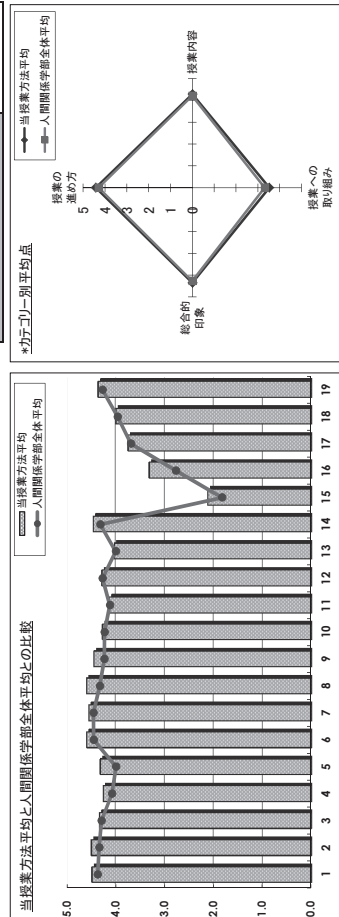
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	62.7	27.3	6.5	2.6	1.0	308	0 0.81
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	64.3	23.4	9.4	2.9	0.0	308	0 0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	52.6	29.9	15.3	2.3	0.0	308	0 0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	47.4	35.7	12.0	4.5	0.3	308	0 0.86
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	51.6	29.9	16.2	2.3	0.0	308	0 0.82
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.7	21.5	7.2	1.3	0.3	307	1 0.71
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	64.4	27.1	7.2	1.3	0.0	306	2 0.69

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.59	67.8	25.4	5.2	1.6	0.0	307	1 0.67
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.44	58.2	30.1	9.5	2.0	0.3	306	2 0.77
10	授業の内容は興味深いものであった	4.26	52.6	29.4	10.8	6.2	1.0	306	2 0.95
11	授業はよく理解できるものであった	4.12	43.3	34.9	14.3	5.9	1.6	307	1 0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	54.7	25.1	15.0	3.6	1.6	307	1 0.96
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	40.1	29.3	24.8	4.6	1.3	307	1 0.97

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	64.6	22.0	8.9	3.3	1.3	305	3 0.88
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.11	6.5	3.3	18.9	37.8	33.6	307	1 1.11
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.31	24.7	25.3	22.0	12.5	15.5	304	4 1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	29.6	34.5	21.8	8.5	5.5	307	1 1.14
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	41.7	28.7	20.2	5.9	3.6	307	1 1.09

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			当カテゴリー平均点			標準偏差
			5	4	3	2	1	有効回答	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	58.3	27.7	12.7	2.0	1.3	300	8 0.87

Q1-Q10の当区分平均値	4.14
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	344
		回答者数	218

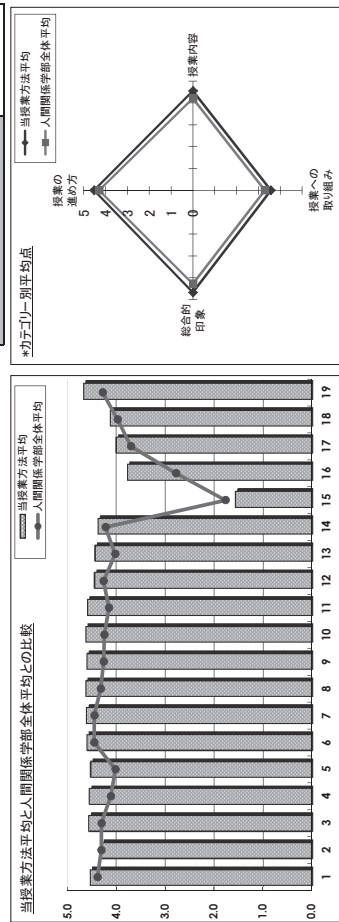
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 無効 回答 回数	4.53
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効 回答	無効 回答	4.53						
			5	4	3	2									
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.53	70.0	18.0	7.8	3.7	0.5	217	1	0.83					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	56.2	22.1	18.0	2.8	0.9	217	1	0.92					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.56	64.5	28.6	5.5	1.4	0.0	217	1	0.66					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.55	63.6	28.1	7.8	0.5	0.0	217	1	0.66					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.53	65.9	22.6	9.7	1.8	0.0	217	1	0.75					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.60	69.1	23.5	6.5	0.5	0.5	217	1	0.67					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	68.7	24.8	5.6	0.5	0.5	214	4	0.66					

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.55
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.62	70.5	21.7	7.4	0.5	0.0	217	1	0.64						
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.60	67.7	25.3	6.0	0.9	0.0	217	1	0.65						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.63	70.4	23.1	5.1	1.4	0.0	216	2	0.65						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.59	69.3	22.3	7.0	0.9	0.5	215	3	0.70						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	60.9	25.1	11.6	2.3	0.0	215	3	0.79						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.43	60.0	25.1	13.0	1.9	0.0	215	3	0.79						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	無効 回答	有効 回答	3.57
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	54.4	33.5	7.4	4.2	0.5	215	3	0.83					
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.57	8.5	3.8	2.8	6.6	78.4	213	5	1.24					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.78	44.2	16.3	24.2	3.7	11.6	215	3	1.36					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.00	46.8	26.9	13.4	6.0	6.9	216	2	1.21					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.12	52.6	20.5	18.6	3.3	5.1	215	3	1.14					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2				1			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.67	74.5	19.6	4.9	0.5	0.5	204	14	0.64			

Q1-Q10の当区分平均値	4.29
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	395
		回答者数	311

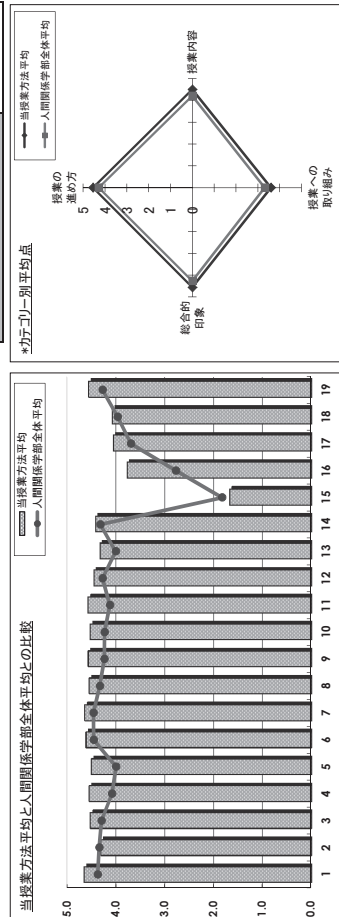
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	4.54
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答					
		5	4	3	2	1							
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.65	74.8	18.1	4.8	1.9	0.3	310	1	0.69			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	58.2	17.4	22.8	0.6	1.0	311	0	0.91			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.53	66.9	21.5	9.6	1.3	0.6	311	0	0.77			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.55	67.4	21.6	10.0	0.3	0.6	310	1	0.74			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.51	67.1	19.0	11.9	1.3	0.6	310	1	0.80			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.62	73.5	16.1	9.4	0.3	0.6	310	1	0.72			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.64	73.8	17.8	7.4	0.6	0.3	309	2	0.68			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	無効 回答	4.50
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.55	68.5	21.2	7.7	1.9	0.6	311	0	0.77					
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.57	69.1	20.9	8.7	0.6	0.6	311	0	0.73					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.53	68.1	21.0	8.1	1.6	1.3	310	1	0.81					
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.57	69.4	20.3	9.4	0.3	0.6	310	1	0.73					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	61.4	26.4	9.6	1.3	1.3	311	0	0.82					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	60.1	19.8	15.3	2.9	1.9	308	3	0.97					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 標準 偏差	3.60
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	61.9	23.5	10.1	4.2	0.3	307	4	0.86				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.68	10.6	2.3	5.5	7.4	74.3	311	0	1.32				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.77	44.7	15.2	23.3	6.5	10.4	309	2	1.35				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.06	48.1	25.2	16.8	4.5	5.5	310	1	1.15				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.07	48.4	24.2	19.0	3.2	5.2	310	1	1.13				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	70.6	19.4	7.4	1.0	1.7	299	12	0.81			

Q1-Q10の当区分平均値	4.28
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	兼任	履修者数	5,752
		回答者数	3,809

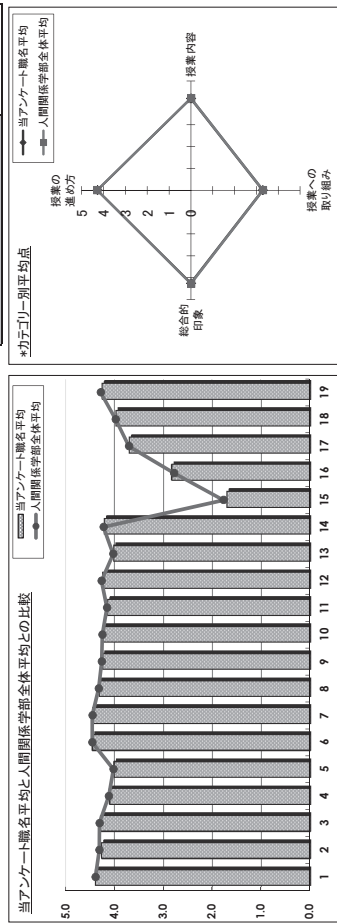
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.28
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	58.6	28.1	8.5	3.6	1.2	3,807	2	0.88		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	51.8	30.8	12.0	3.8	1.6	3,807	2	0.93		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	53.6	27.8	13.2	4.2	1.1	3,807	2	0.92		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	44.1	31.7	17.2	4.8	2.2	3,806	3	1.00		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	42.0	29.1	20.1	6.1	2.7	3,803	6	1.05		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	61.8	25.7	10.0	1.7	0.8	3,804	5	0.81		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	60.1	28.4	9.0	1.7	0.8	3,799	10	0.79		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
		5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	53.3	31.2	11.0	3.1	1.4	3,806	3	0.89		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.25	51.5	30.1	12.6	3.7	2.1	3,805	4	0.96		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.24	50.9	30.3	12.7	3.9	2.2	3,800	9	0.97		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	46.1	32.1	14.5	4.8	2.5	3,802	7	1.00		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.6	30.8	13.0	3.7	1.8	3,798	11	0.94		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.3	29.8	21.8	4.3	2.8	3,788	21	1.03		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.29
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
		5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	50.7	28.5	14.1	5.2	1.6	3,786	23	0.98		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.71	4.8	4.2	9.4	20.4	61.2	3,794	15	1.11		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	19.5	15.3	23.7	12.4	29.2	3,756	53	1.48		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	31.7	28.2	25.1	8.6	6.4	3,799	10	1.18		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	40.3	31.2	19.0	5.2	4.3	3,785	24	1.09		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.26
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
		5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	52.5	29.0	12.7	3.2	2.5	3,669	140	0.97		

Q1-Q18の当区分平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	専任	履修者数	3,859
		回答者数	2,700

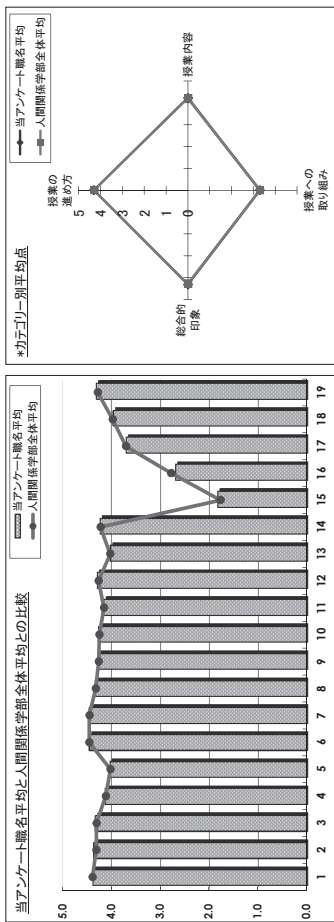
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	57.3	29.5	8.6	3.6	1.0	2.698	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	54.7	31.7	10.2	2.6	0.9	2.695	5
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	54.6	29.0	12.4	3.2	0.7	2.697	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	43.8	33.7	16.4	4.5	1.6	2.694	6
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	42.4	28.9	20.8	5.6	2.3	2.692	8
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	60.9	26.4	10.6	1.5	0.5	2.693	7
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.6	27.2	9.9	1.9	0.4	2.693	7

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	53.4	30.8	12.3	2.6	0.9	2.696	4
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.27	51.0	31.4	12.6	3.9	1.1	2.697	3
10	授業の内容は興味深いものであった	4.27	51.0	31.2	12.9	3.5	1.4	2.693	7
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	44.6	34.6	15.0	4.4	1.4	2.696	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.29	53.4	28.7	13.2	3.5	1.3	2.694	6
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.03	39.6	31.2	23.7	3.7	1.8	2.688	12

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	51.6	28.7	12.8	5.6	1.2	2.684	16
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.84	5.6	4.4	11.4	25.6	53.0	2.691	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.70	15.6	14.2	25.3	14.0	30.9	2.666	34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	29.8	30.6	25.7	8.1	5.8	2.691	9
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	38.4	33.0	19.6	5.4	3.7	2.688	12

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	55.1	27.5	13.0	2.8	1.6	2.585	115

Q1-Q19の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	専任	履修者数	5,089
		回答者数	3,948

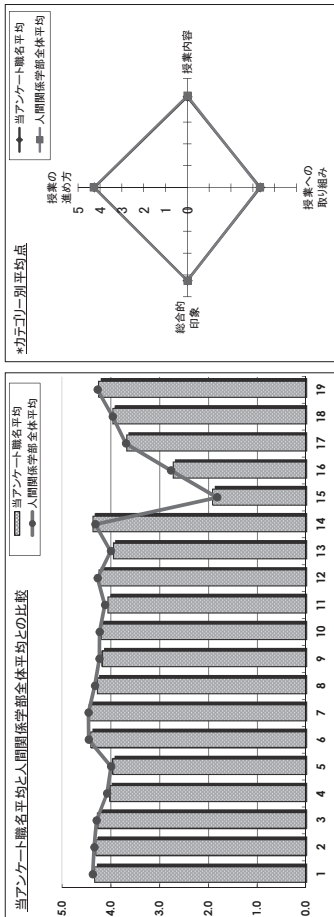
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	54.4	30.3	10.7	3.7	0.9	3.943	5
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.0	31.9	12.5	3.0	0.6	3.942	6
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	52.2	29.4	13.6	3.4	1.4	3.944	4
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.03	39.4	33.1	19.8	6.2	1.4	3.943	5
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	39.4	29.8	21.3	7.2	2.2	3.937	11
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.6	26.5	11.1	2.0	0.7	3.933	15
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	59.0	29.4	9.8	1.6	0.3	3.933	15

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	50.7	31.9	13.3	3.4	0.7	3.941	7
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.19	46.9	32.0	15.2	4.7	1.2	3.942	6
10	授業の内容は興味深いものであった	4.21	48.1	31.7	14.3	4.5	1.4	3.937	11
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	41.1	33.5	17.9	5.7	1.8	3.941	7
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	52.1	27.5	15.0	4.0	1.3	3.938	10
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.96	37.2	30.0	26.5	4.1	2.2	3.938	30

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	59.1	24.4	11.8	3.8	0.8	3.906	42
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.92	5.9	6.5	12.4	24.1	51.0	3.930	18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.73	15.5	15.3	25.4	14.1	29.6	3.896	52
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	29.8	29.6	25.6	9.2	5.7	3.935	13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	37.8	32.8	21.0	5.3	3.2	3.933	15

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	当カテゴリー平均点			有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	51.8	29.0	13.7	3.9	1.5	3.826	122

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下
履修者数	1,251
回答者数	709

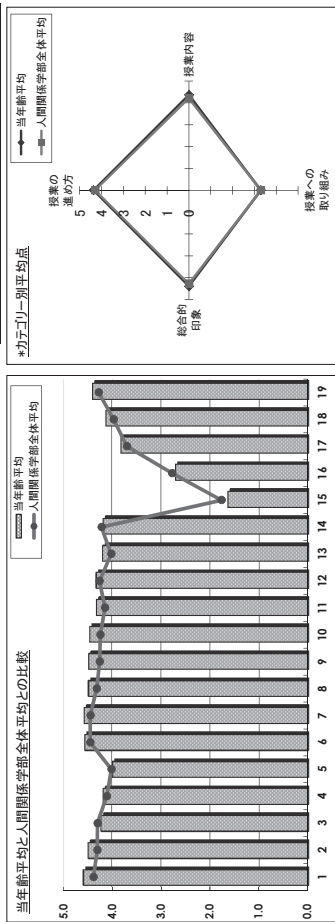
I. 先生、この授業の進め方について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明確で聞きやすかった	4.58	67.1	25.0	6.8	1.1	0.0	709	0	0.67
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	61.6	26.9	9.9	1.6	0.0	709	0	0.74
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	53.9	22.8	16.2	5.6	1.4	709	0	1.00
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	45.3	31.5	19.7	3.0	0.6	709	0	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.99	39.4	29.9	23.4	5.1	2.3	709	0	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	66.2	24.2	9.0	0.4	0.1	708	1	0.69
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	65.7	26.1	7.3	0.8	0.0	708	1	0.67

II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.48	59.8	29.8	8.9	1.6	0.0	709	0	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.47	59.7	28.7	10.7	0.8	0.0	708	1	0.72
10	授業の内容は興味深いものであった	4.45	59.5	28.7	10.0	1.6	0.3	708	1	0.76
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.31	50.6	32.6	14.4	2.4	0.0	709	0	0.81
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	52.0	31.2	14.1	2.3	0.4	708	1	0.83
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.19	47.2	29.0	20.4	2.3	1.1	707	2	0.91

III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	48.5	29.9	14.8	4.5	2.3	705	4	0.99
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.64	4.7	3.4	8.1	19.5	64.4	708	1	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.71	16.7	15.0	24.1	10.7	33.4	700	9	1.48
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.82	33.2	30.5	25.3	6.8	4.2	708	1	1.10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.12	44.1	32.6	17.1	3.7	2.5	706	3	0.99

IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	56.7	29.7	11.1	1.5	1.0	684	25	0.82

Q1-Q10の当区分平均値	4.09
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下
履修者数	343
回答者数	292

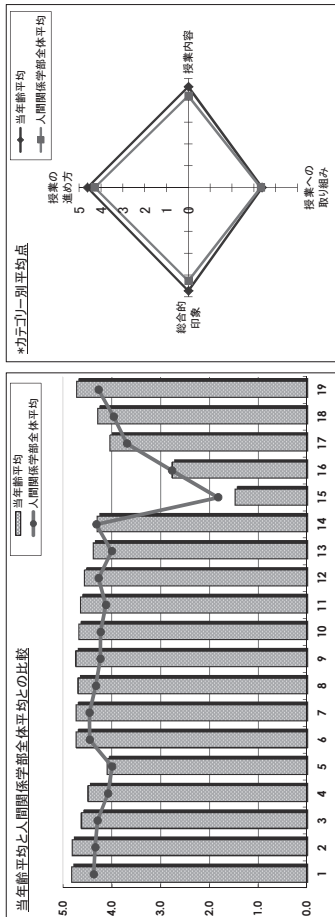
I. 先生、この授業の進め方について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明確で聞きやすかった	4.83	84.6	13.7	1.7	0.0	0.0	292	0	0.42
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.82	84.6	13.0	2.1	0.3	0.0	292	0	0.46
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.63	72.3	19.2	7.9	0.7	0.0	292	0	0.66
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.49	60.6	29.1	9.2	1.0	0.0	292	0	0.71
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	47.3	24.0	21.9	5.1	1.7	292	0	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.74	78.4	17.5	3.4	0.7	0.0	292	0	0.55
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.74	77.4	19.2	3.1	0.3	0.0	292	0	0.53

II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.70	72.6	25.0	1.7	0.7	0.0	292	0	0.54
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.74	77.6	19.0	3.4	0.0	0.0	290	2	0.51
10	授業の内容は興味深いものであった	4.68	73.5	22.0	3.4	0.7	0.3	291	1	0.61
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.65	70.4	23.7	5.8	0.0	0.0	291	1	0.59
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.56	67.7	23.0	7.6	1.4	0.3	291	1	0.72
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.39	56.9	27.8	13.2	1.0	1.0	288	4	0.83

III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	52.8	31.0	10.3	5.2	0.7	290	2	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.48	1.7	1.4	9.2	18.8	68.8	292	0	0.85
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	17.7	18.4	19.8	11.5	32.6	288	4	1.51
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.04	43.2	28.4	20.9	4.5	3.1	292	0	1.05
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	51.0	32.4	12.1	3.8	0.7	290	2	0.87

IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.73	78.5	16.5	4.2	0.4	0.4	284	8	0.59

Q1-Q10の当区分平均値	4.30
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	1,135
回答者数	774

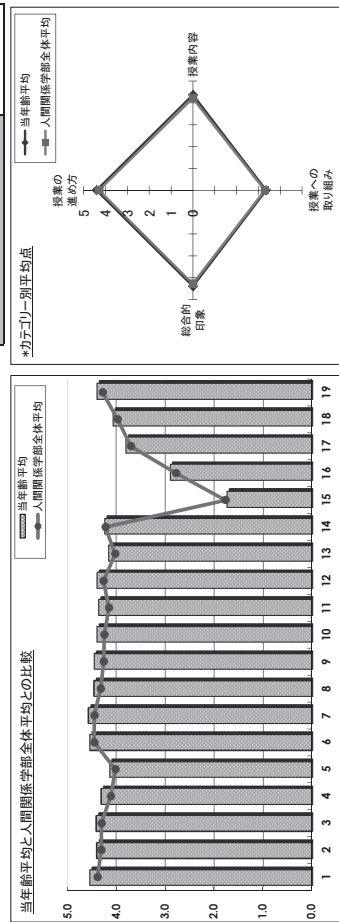
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	65.4	25.7	7.0	1.7	0.3	774	0	0.72		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	58.4	27.8	9.8	3.4	0.6	774	0	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	59.5	27.0	9.6	3.2	0.6	773	1	0.84		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	50.6	33.5	12.8	2.6	0.5	773	1	0.83		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	47.5	27.6	18.4	4.3	2.3	773	1	1.01		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.55	66.5	23.8	8.0	1.2	0.5	773	1	0.74		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	66.8	24.7	7.4	0.6	0.4	772	2	0.69		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	59.8	29.1	9.1	1.6	0.5	773	1	0.77		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.45	59.6	28.8	9.3	1.4	0.8	773	1	0.78		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.40	57.3	30.2	8.6	2.6	1.3	771	3	0.85		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	54.1	32.2	10.5	2.2	1.0	771	3	0.84		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	57.6	28.9	10.0	2.3	1.2	771	3	0.85		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.16	45.3	31.7	18.2	3.3	1.6	769	5	0.94		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	49.5	32.4	12.0	4.6	1.6	766	8	0.94		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.74	5.2	5.1	10.4	17.4	61.8	768	6	1.15		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.90	22.1	15.3	21.6	12.6	28.4	764	10	1.51		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	35.8	29.6	20.2	7.8	6.6	773	1	1.19		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	47.0	26.8	16.2	5.7	4.3	772	2	1.11		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.2	28.2	9.7	2.7	1.2	742	32	0.86		

Q1-Q10の当区分平均値	4.12
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	761
回答者数	553

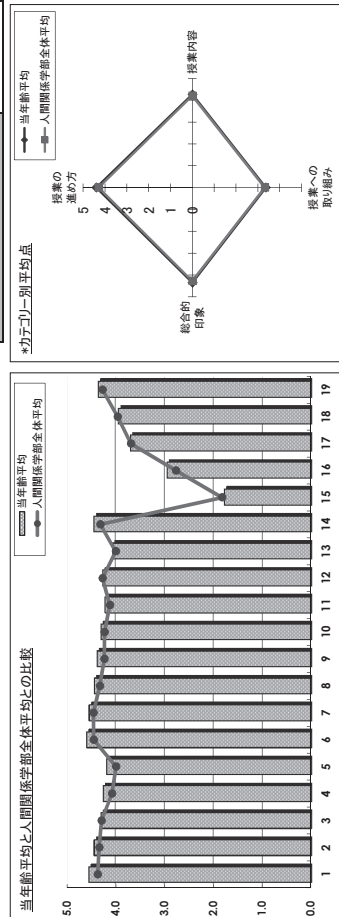
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	63.9	28.1	6.5	1.3	0.2	552	1	0.69		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	57.3	30.0	11.9	0.4	0.4	553	0	0.74		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.1	30.4	13.6	2.9	1.1	553	0	0.89		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	48.3	31.5	17.5	2.2	0.5	553	0	0.86		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.6	29.5	17.2	4.3	1.3	552	1	0.95		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	68.3	23.0	8.2	0.2	0.4	552	1	0.68		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	63.3	27.8	8.3	0.4	0.2	551	2	0.68		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	56.4	31.8	10.5	0.9	0.4	553	0	0.74		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.38	53.9	32.4	11.8	1.6	0.4	553	0	0.78		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.30	49.2	34.2	14.5	1.4	0.7	553	0	0.82		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.21	43.8	36.9	16.6	2.0	0.7	553	0	0.84		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	48.7	36.0	14.6	2.0	0.7	553	0	0.83		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.06	40.5	31.0	24.0	2.9	1.6	551	2	0.95		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	62.0	25.6	7.5	4.0	0.9	550	3	0.86		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.78	5.3	4.7	9.3	24.3	56.4	551	2	1.13		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	18.7	19.2	24.2	14.1	23.8	546	7	1.43		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	28.4	32.2	25.7	7.8	5.8	552	1	1.13		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.94	35.0	35.8	20.9	4.9	3.4	551	2	1.03		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	55.5	29.2	12.0	1.7	1.7	535	18	0.88		

Q1-Q10の当区分平均値	4.09
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,041
回答者数	752

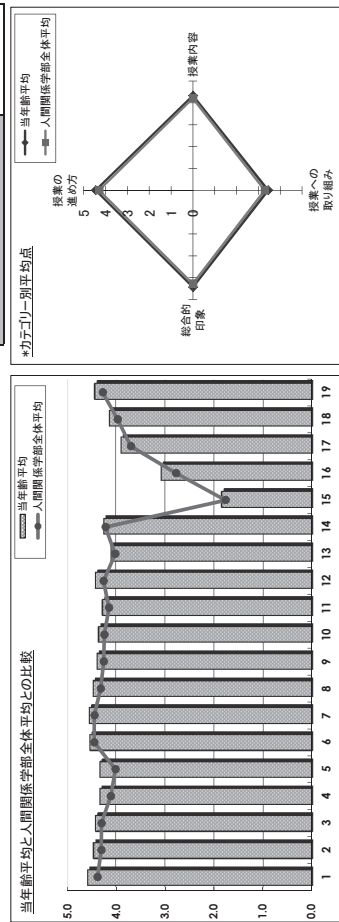
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.58	67.2	25.6	5.6	1.1	0.5	751	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	60.2	28.8	8.5	1.9	0.7	751	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	57.1	30.0	10.7	2.0	0.3	751	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	54.8	29.5	11.5	2.7	1.6	750	2
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.33	54.8	28.7	12.3	3.1	1.2	750	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.53	66.2	23.4	8.4	1.2	0.8	749	3
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	64.6	27.4	6.3	1.1	0.7	749	3

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	59.7	30.0	8.4	1.1	0.8	750	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.39	57.4	29.8	8.4	3.1	1.3	751	1
10	授業の内容は興味深いものであった	4.36	56.4	28.7	10.5	3.1	1.3	750	2
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.28	51.7	31.3	12.1	2.9	2.0	751	1
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	59.4	27.4	9.7	2.4	1.1	749	3
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.10	43.7	30.9	19.7	3.3	2.4	748	4

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	54.4	25.3	12.5	6.5	1.2	750	2
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.85	4.8	4.1	13.2	26.8	51.0	749	3
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	24.4	15.7	25.3	13.1	21.5	743	9
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.90	36.8	29.8	23.3	6.8	3.3	751	1
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.14	45.8	30.3	17.9	3.9	2.1	749	3

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	62.4	23.4	10.8	2.0	1.4	732	20

Q1-Q10の当区分平均値	4.15
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,297
回答者数	1,070

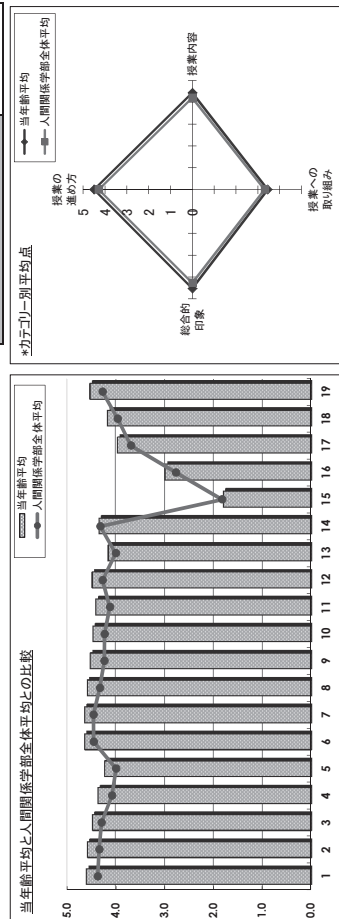
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.59	67.9	26.1	4.1	1.6	0.4	1,070	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.58	66.4	26.3	5.8	1.4	0.1	1,069	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	60.7	28.0	9.5	1.6	0.2	1,069	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	53.2	33.4	9.9	3.1	0.4	1,069	1
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.22	47.7	31.3	17.1	3.3	0.6	1,069	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.64	71.1	23.0	4.7	0.9	0.3	1,068	2
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.64	69.7	25.4	4.0	0.8	0.1	1,065	5

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.58	64.3	26.6	5.9	1.1	0.1	1,069	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.52	63.5	27.3	6.7	2.3	0.1	1,068	2
10	授業の内容は興味深いものであった	4.47	60.3	29.0	8.1	2.3	0.4	1,065	5
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.40	56.0	32.0	9.0	2.6	0.5	1,067	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	62.1	27.2	8.1	1.9	0.7	1,068	2
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.15	46.3	29.6	18.8	3.4	1.9	1,063	7

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	57.5	26.1	10.8	4.2	1.4	1,063	7
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.80	5.3	4.5	10.6	24.0	55.6	1,068	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	20.0	20.2	22.9	12.4	24.5	1,057	13
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	37.0	35.5	17.6	6.3	3.6	1,067	3
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.17	43.8	36.2	15.1	2.6	2.3	1,065	5

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答	標準偏差	当カテゴリー平均点
			5	4	3				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.53	64.0	26.4	8.2	0.9	0.5	1,033	37

Q1-Q10の当区分平均値	4.20
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	1,104
		回答者数	808

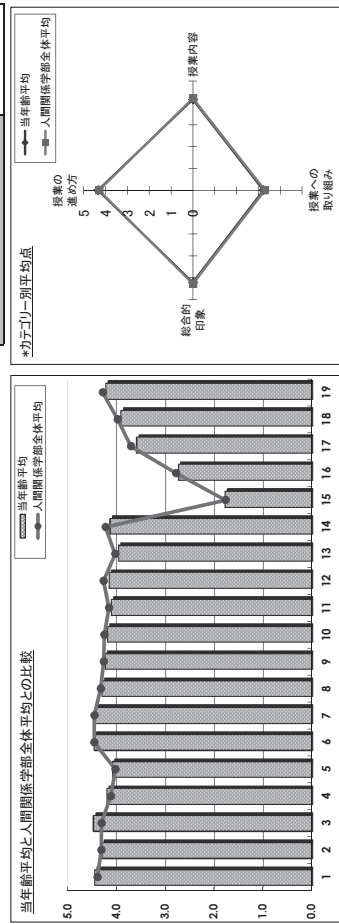
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	60.8	28.6	6.9	3.0	0.7	808	0	0.81			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	51.9	31.5	12.7	3.1	0.9	806	2	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.48	61.3	27.7	9.3	1.0	0.7	808	0	0.76			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	46.8	32.9	15.8	3.2	1.2	808	0	0.91			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	42.0	32.3	20.2	4.0	1.6	808	0	0.96			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	59.2	29.5	10.0	0.9	0.4	807	1	0.74			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	58.4	29.3	10.3	1.6	0.4	808	0	0.77			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	49.8	34.4	12.3	3.2	0.4	808	0	0.83			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.24	47.3	35.1	13.0	3.3	1.2	808	0	0.89			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.20	47.6	32.0	14.4	4.6	1.5	807	1	0.95			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	40.8	37.5	15.5	4.8	1.4	808	0	0.93			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	47.0	29.1	18.0	4.7	1.2	807	1	0.96			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.97	36.4	31.1	27.1	3.5	1.9	803	5	0.97			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.14	47.8	28.2	15.8	6.7	1.5	804	4	1.01			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.79	5.8	4.2	9.4	24.3	56.2	806	2	1.14			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.74	16.1	13.5	26.6	15.9	27.9	800	8	1.41			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	27.2	28.8	27.8	9.2	7.1	806	2	1.18			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	37.0	33.3	18.6	6.3	4.7	805	3	1.11			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.1	31.4	14.1	3.6	1.8	778	30	0.94			

Q1-Q10の当区分平均値	3.99
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	1,647
		回答者数	1,224

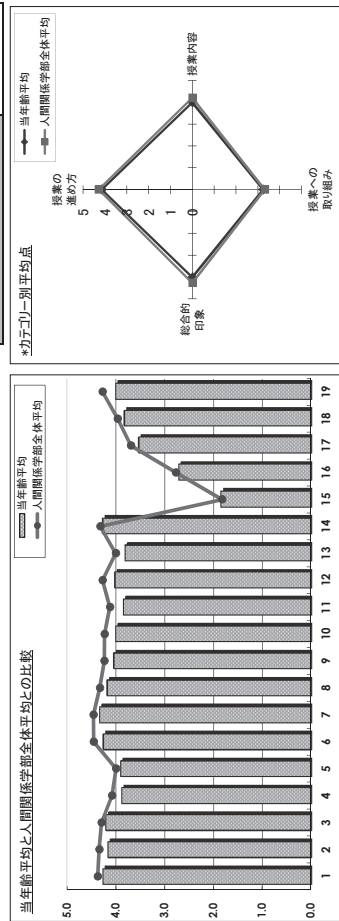
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	49.8	33.7	11.5	3.8	1.1	1,221	3	0.89			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	44.8	34.7	15.0	3.9	1.7	1,220	4	0.94			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	50.2	28.8	15.1	3.8	2.2	1,220	4	0.98			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.89	34.0	33.5	22.6	7.0	2.9	1,221	3	1.05			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	34.9	32.6	23.4	6.5	2.5	1,220	4	1.03			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.26	51.8	29.3	14.3	2.5	2.0	1,221	3	0.94			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.1	33.8	11.2	2.1	0.8	1,218	6	0.82			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		3.99	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	44.7	34.2	16.7	3.9	0.6	1,218	6	0.89			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.05	40.8	32.7	19.2	5.2	2.0	1,220	4	1.00			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.01	38.3	34.6	19.4	5.7	2.1	1,218	6	1.00			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.85	32.0	35.2	21.8	8.0	3.0	1,218	6	1.05			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.03	41.9	29.5	20.3	6.2	2.1	1,219	5	1.03			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.82	30.7	31.9	28.6	5.9	2.9	1,207	17	1.03			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.7	26.7	13.5	5.5	0.6	1,215	9	0.93			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.85	4.3	5.4	12.5	27.2	50.6	1,219	5	1.10			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.72	14.3	14.0	28.6	15.2	27.9	1,207	17	1.38			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.54	24.8	28.7	29.0	10.6	6.9	1,217	7	1.17			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.83	33.1	31.7	24.6	6.7	3.9	1,217	7	1.08			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.01	40.6	32.2	18.7	5.2	3.4	1,181	43	1.05			

Q1-Q10の当区分平均値	3.85
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,506
回答者数	1,072

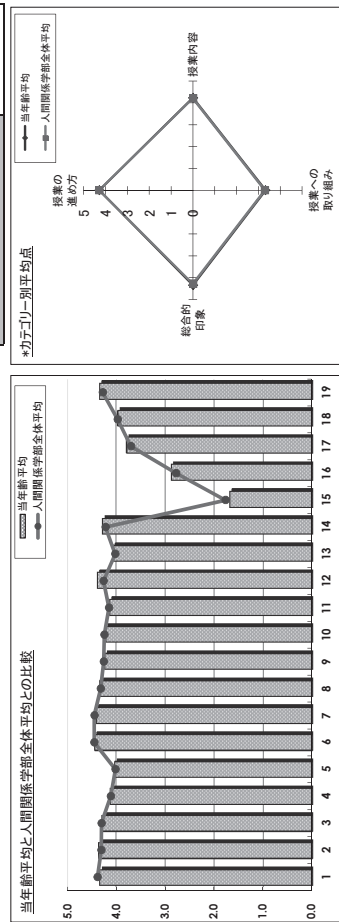
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.29
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	57.6	26.1	9.9	4.7	1.7	1,072	0	0.95		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	54.8	31.5	10.6	1.9	1.3	1,070	2	0.84		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.29	54.8	25.2	15.1	4.1	0.7	1,071	1	0.92		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	46.1	30.3	15.7	5.7	2.2	1,069	3	1.01		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	45.0	25.2	20.7	6.3	2.9	1,069	3	1.08		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	60.9	25.4	10.9	2.1	0.6	1,070	2	0.81		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	58.3	27.6	11.6	1.8	0.7	1,071	1	0.82		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				4.23
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	53.8	30.4	12.5	2.1	1.2	1,070	2	0.86				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.23	49.8	30.2	14.9	3.8	1.3	1,070	2	0.93				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	50.0	28.7	16.0	3.6	1.8	1,068	4	0.96				
11	授業の内容はよく理解できるものであると思う	4.13	45.3	31.4	16.7	4.5	2.1	1,069	3	0.98				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	57.4	28.4	10.5	2.7	1.0	1,067	5	0.86				
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.07	43.0	28.5	23.1	3.2	2.3	1,066	6	0.99				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.32
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	51.7	31.2	11.4	4.7	1.0	1,065	7	0.91			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	4.19	3.5	3.4	10.9	22.9	59.4	1,068	4	1.03			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	19.8	15.6	25.3	11.1	28.2	1,056	16	1.47			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.79	33.4	29.4	25.5	5.9	5.8	1,068	4	1.14			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	39.1	31.6	20.7	4.4	4.1	1,063	9	1.07			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.34
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	57.3	26.0	12.3	2.6	1.9	1,020	52	0.92			

Q1-Q10の当区分平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	2,011
回答者数	1,564

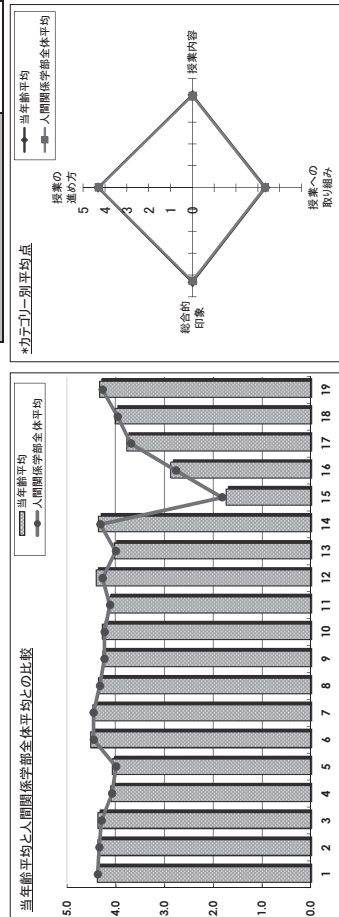
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.32
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.38	58.1	27.2	9.7	4.0	1.0	1,560	4	0.89			
2	教材資料提示(板書、プリント、P/P・ポインタ・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	53.9	31.6	11.1	2.9	0.4	1,563	1	0.83			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.36	56.2	28.1	12.1	2.9	0.7	1,564	0	0.85			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	43.6	31.3	17.1	6.8	1.1	1,563	1	0.98			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.07	43.8	28.5	19.8	6.1	1.7	1,560	4	1.02			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.51	63.8	25.0	9.6	1.3	0.3	1,554	10	0.75			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	59.6	29.1	9.5	1.4	0.4	1,557	7	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.24
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	53.6	31.6	11.5	2.8	0.6	1,562	2	0.83			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.26	50.0	32.1	12.6	4.2	1.2	1,562	2	0.91			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.26	50.9	31.0	12.9	3.8	1.3	1,562	2	0.92			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	45.9	30.9	17.0	4.5	1.7	1,563	1	0.97			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	58.5	26.7	11.5	2.5	0.8	1,562	2	0.84			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.03	39.5	31.8	22.9	3.9	1.9	1,549	15	0.98			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.35
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	57.4	25.5	12.2	4.2	0.8	1,547	17	0.90			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	4.74	4.6	4.7	10.1	21.9	58.8	1,554	10	1.11			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.87	18.7	15.6	26.0	13.7	26.0	1,548	16	1.44			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	33.0	30.2	23.1	8.9	4.9	1,558	6	1.14			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	40.1	32.0	19.2	5.6	3.1	1,556	8	1.05			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.33
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	55.8	26.7	13.2	3.2	1.1	1,512	52	0.90		

Q1-Q10の当区分平均値	4.04
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,392
回答者数	880

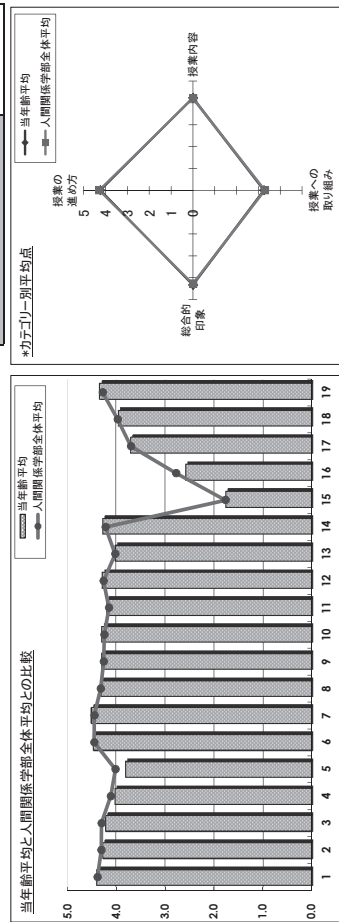
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.40	56.4	31.7	7.5	3.6	0.7	879	1	0.83		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	51.5	30.9	12.1	4.2	1.3	879	1	0.92		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	48.9	30.3	14.9	5.0	0.9	879	1	0.94		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	39.1	35.0	17.3	5.9	2.6	879	1	1.02		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	35.5	27.1	24.7	8.0	4.7	875	5	1.14		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	61.6	27.0	8.9	1.4	1.1	877	3	0.80		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.9	26.5	8.9	1.4	0.3	876	4	0.74		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.8	30.9	11.8	3.2	1.3	879	1	0.89		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.30	53.6	29.4	11.6	4.0	1.5	879	1	0.93		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.29	53.2	30.7	10.2	3.5	2.3	879	1	0.95		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	47.3	33.6	12.3	4.9	1.9	879	1	0.96		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	54.0	28.3	11.3	4.3	2.0	879	1	0.97		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	40.7	30.1	22.2	4.3	2.7	875	5	1.02		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.0	27.3	14.3	4.3	1.0	875	5	0.93		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.77	4.7	4.0	9.7	26.9	54.7	877	3	1.08		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.58	15.4	13.3	22.3	12.4	36.6	865	15	1.47		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	31.1	29.6	24.2	8.9	6.3	879	1	1.18		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	38.2	33.6	18.6	5.1	4.6	878	2	1.09		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	57.1	26.7	10.6	3.6	2.0	840	40	0.94		

Q1-Q10の当区分平均値	3.98
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,785
回答者数	1,306

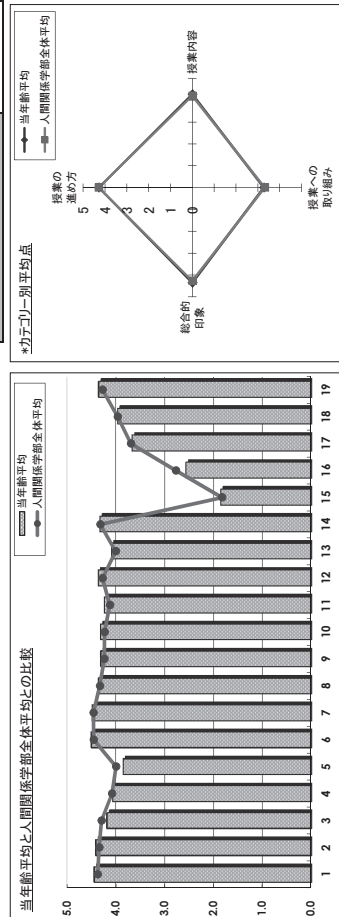
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.45	57.9	31.1	8.7	2.0	0.2	1,305	1	0.75		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	55.6	32.9	8.9	2.3	0.3	1,305	1	0.77		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.19	47.8	30.5	16.0	3.8	1.8	1,305	1	0.96		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	39.8	34.2	20.4	4.3	1.3	1,306	0	0.94		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.85	36.3	27.3	25.3	8.0	3.2	1,302	4	1.10		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.50	63.2	25.8	9.5	1.2	0.3	1,304	2	0.74		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	60.7	28.3	9.8	1.1	0.2	1,304	2	0.73		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	53.1	32.8	11.3	2.2	0.6	1,306	0	0.81		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.31	51.2	33.1	12.2	2.7	0.8	1,304	2	0.85		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.31	52.0	32.0	12.4	2.5	1.1	1,305	1	0.86		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	46.9	34.7	14.7	2.8	0.8	1,306	0	0.87		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.36	54.9	30.0	12.1	2.3	0.7	1,302	4	0.83		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	42.7	30.1	22.6	3.0	1.6	1,303	3	0.95		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	54.6	29.0	11.7	3.9	0.7	1,292	14	0.88		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.86	4.2	6.7	12.9	22.9	53.3	1,299	7	1.14		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.57	13.4	14.8	22.7	13.3	35.7	1,290	16	1.44		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.67	28.5	29.9	26.8	9.5	5.3	1,302	4	1.14		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	36.3	34.6	21.5	4.6	3.0	1,302	4	1.02		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	無効回答					
		5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	54.5	31.5	10.2	2.6	1.2	1,275	31	0.85		

Q1-Q10の当区分平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	1,029
回答者数	711

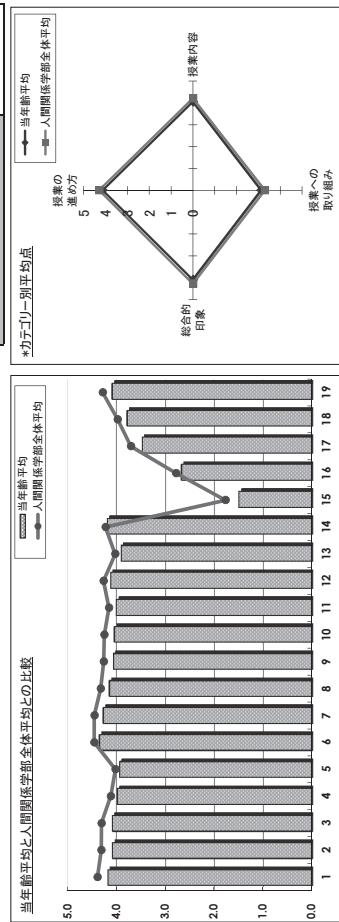
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.18	50.1	30.0	11.1	5.6	3.1	709	2	1.04		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.09	42.8	36.2	11.5	5.6	3.8	710	1	1.05		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.09	43.0	33.5	14.9	6.8	1.8	710	1	1.00		
4	※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.99	39.6	31.8	19.3	6.2	3.1	710	1	1.06		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.94	36.9	32.3	21.1	7.6	2.1	710	1	1.04		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	56.8	26.5	13.1	2.7	1.0	710	1	0.88		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.28	52.4	30.4	11.3	4.5	1.4	708	3	0.93		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	47.2	31.3	14.4	4.1	3.1	710	1	1.02		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.07	44.6	31.1	14.8	5.5	3.9	710	1	1.08		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.05	41.6	34.8	14.7	5.0	4.0	707	4	1.06		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	41.1	32.5	16.4	5.9	4.1	708	3	1.09		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	43.5	35.2	14.8	3.2	3.2	708	3	1.00		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.91	36.3	30.3	24.8	5.4	3.3	706	5	1.05		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	52.1	25.4	13.9	6.7	2.0	706	5	1.03		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.50	2.8	2.4	5.2	21.2	68.4	708	3	0.92		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.68	16.3	13.7	23.3	14.7	31.9	699	12	1.45		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.48	25.3	26.2	27.7	12.7	8.1	707	4	1.22		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.79	32.0	32.9	22.3	7.4	5.4	703	8	1.13		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	45.3	31.6	14.7	4.3	4.2	674	37	1.07		

Q1-Q10の当区分平均値	3.84
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	1,083
回答者数	828

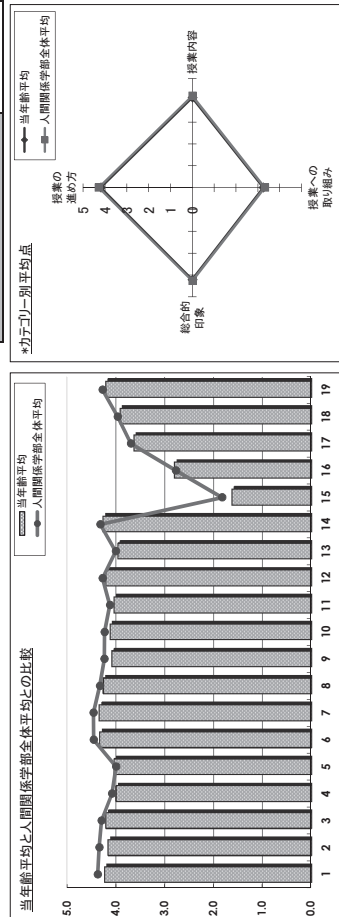
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.24	47.1	34.8	13.6	3.9	0.6	828	0	0.87		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.16	42.5	35.7	18.0	3.0	0.7	828	0	0.87		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	46.1	33.9	16.3	2.7	1.1	827	1	0.89		
4	※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.00	36.3	35.5	21.4	5.7	1.1	826	2	0.95		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	37.7	35.4	21.0	5.1	0.7	827	1	0.92		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	54.4	28.8	13.7	2.3	0.8	824	4	0.86		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.35	52.2	33.3	11.9	2.3	0.4	824	4	0.80		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	48.1	34.7	13.4	3.1	0.6	827	1	0.85		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.09	40.6	34.8	18.5	5.3	0.8	828	0	0.93		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.13	43.3	33.4	17.1	4.8	1.3	826	2	0.95		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	38.8	35.2	19.1	5.3	1.6	827	1	0.97		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	47.0	33.1	15.6	3.1	1.2	826	2	0.90		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.96	36.5	31.1	26.5	3.9	1.9	822	6	0.98		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	54.3	25.3	14.7	4.4	1.3	822	6	0.96		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.63	4.1	3.6	9.3	17.3	65.7	828	0	1.06		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.81	15.9	16.6	26.1	15.0	26.5	809	19	1.41		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.64	29.1	27.4	27.9	9.5	6.0	828	0	1.17		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	35.4	33.9	22.1	4.7	3.9	825	3	1.05		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
		5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	49.1	30.6	14.6	4.0	1.7	807	21	0.95		

Q1-Q10の当区分平均値	3.92
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,153
回答者数	803

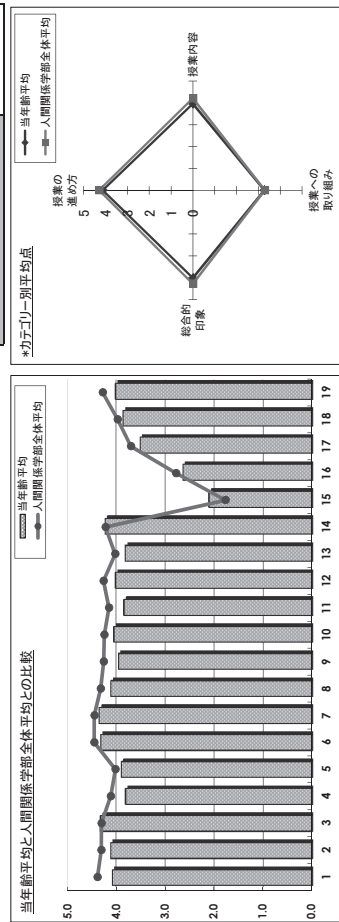
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.08	41.2	36.5	13.1	7.6	1.6	803	0.99
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.11	42.8	35.1	14.8	5.1	2.1	803	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	53.2	31.0	12.0	2.7	1.1	803	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.81	29.9	36.0	22.9	7.5	3.6	802	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.70	36.2	31.2	21.5	8.4	2.7	801	2.107
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	54.5	28.0	13.3	3.1	1.0	803	0.89
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.35	54.1	31.3	11.0	2.5	1.1	800	3.086

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.11	44.8	32.1	14.4	6.4	2.2	803	0.102
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.76	39.5	32.0	17.1	7.8	3.6	803	0.110
10	授業の内容は興味深いものであった	4.05	42.3	32.3	16.3	6.2	2.9	803	0.105
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.85	33.6	34.1	19.3	9.1	3.9	803	0.110
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.02	40.8	32.3	17.3	6.8	2.7	803	0.105
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.82	32.3	31.7	25.1	7.2	3.7	802	1.108

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	51.2	27.9	14.5	5.0	1.4	799	4.097
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.11	9.7	7.9	14.4	20.1	47.9	801	2.134
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.64	12.2	16.1	26.2	14.5	31.1	795	8.138
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.52	23.9	29.4	28.7	10.2	7.8	798	5.118
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.86	33.4	34.3	22.0	5.9	4.5	797	6.109

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.02	41.3	31.3	19.3	4.2	4.0	784	19.106

Q1-Q10の当区分平均値	3.85
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	785
回答者数	635

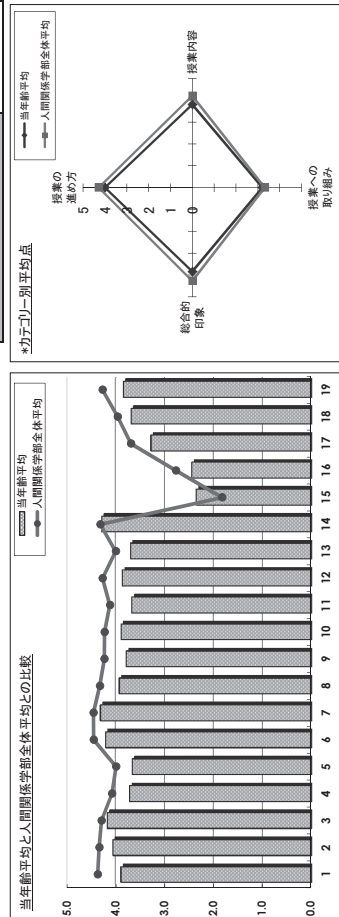
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.89	33.8	35.3	19.2	9.8	1.9	634	1.104
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.05	38.5	35.4	19.7	5.5	0.8	633	2.093
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.17	46.1	31.7	16.6	4.7	0.9	634	1.093
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.71	25.7	34.1	27.9	10.4	1.9	634	1.102
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.66	27.9	28.2	29.2	11.0	3.6	634	1.111
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.21	47.9	31.1	15.9	4.0	1.1	630	5.092
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.31	51.1	32.4	13.2	2.9	0.5	630	5.084

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.93	35.8	33.1	21.0	8.0	2.1	634	1.103
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.78	28.8	34.3	25.4	9.2	2.4	633	2.104
10	授業の内容は興味深いものであった	3.89	33.0	35.4	22.3	6.2	3.2	633	2.104
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.67	24.4	35.5	25.9	10.7	3.5	634	1.107
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.86	35.8	28.6	24.7	7.8	3.2	632	3.109
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.70	25.9	30.6	34.1	6.2	3.2	630	5.102

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	58.0	21.6	12.9	5.5	1.9	619	16.101
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.35	15.6	11.6	13.5	11.4	47.9	630	5.154
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.44	11.3	12.1	23.2	16.4	37.0	629	6.138
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.28	20.6	21.4	32.8	15.8	9.4	631	4.122
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.68	29.9	28.8	26.2	9.7	5.4	629	6.116

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.84	35.2	28.5	24.0	9.8	2.5	603	32.109

Q1-Q10の当区分平均値	3.72
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年
履修者数	—
回答者数	2,496

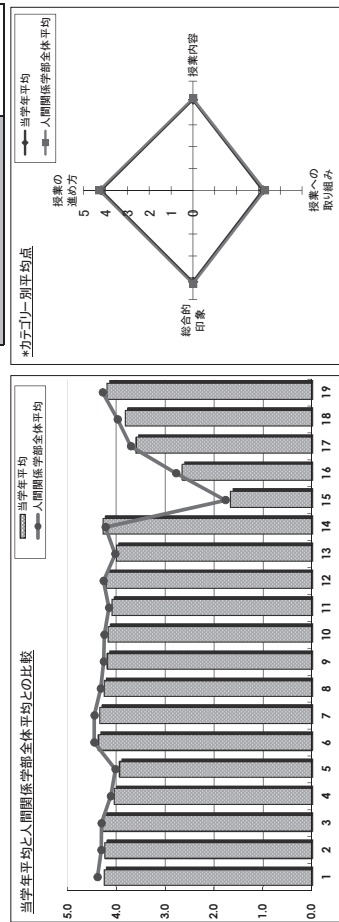
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.21
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.25	51.9	30.3	10.9	5.0	2.0	2.495	1	0.97	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	49.6	32.2	12.5	3.4	2.2	2.493	3	0.95	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	51.8	30.2	14.0	3.0	1.0	2.494	2	0.89	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	42.3	30.7	18.7	5.4	2.9	2.492	4	1.04	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.94	37.7	30.1	23.3	5.8	3.1	2.489	7	1.06	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.37	56.8	27.9	11.9	2.1	1.2	2.489	7	0.87	
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	54.8	29.1	12.7	2.1	1.2	2.489	7	0.87	

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.15	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	標準 偏差	無効 回答	有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.25	49.9	32.1	12.9	3.2	1.9	2,493	3	0.93				
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.18	48.2	31.4	13.7	4.3	2.5	2,494	2	0.99				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.17	47.9	30.5	14.9	3.9	2.7	2,491	5	1.00				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	44.0	32.0	16.0	4.9	3.1	2,493	3	1.03				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	49.1	30.6	14.1	4.1	2.1	2,488	8	0.97				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	39.4	30.3	23.3	4.5	2.4	2,484	12	1.01				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.20
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.7	27.6	12.0	5.3	1.4	2,474	22	0.96	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	4.47	42.2	3.8	9.4	20.2	62.3	2,484	12	1.07	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.66	15.7	12.7	25.5	13.8	32.4	2,463	33	1.44	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	28.7	26.8	27.8	8.8	7.8	2,490	6	1.21	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.82	34.8	29.9	23.3	6.3	5.7	2,482	14	1.15	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	50.5	28.0	14.6	3.7	3.2	2,384	112	1.03			

Q1-Q10の当区分平均値	3.92
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年
履修者数	—
回答者数	2,563

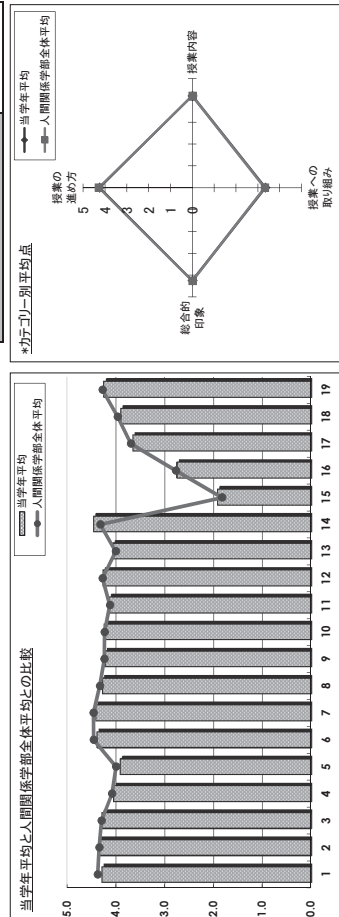
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.30	53.3	29.7	11.4	4.4	1.1	2,559	4	0.91		
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.36	54.1	30.7	12.5	2.2	0.5	2,560	3	0.82		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	53.5	27.5	14.9	3.0	1.1	2,561	2	0.90		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	40.3	32.2	21.0	5.4	1.1	2,559	4	0.96		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.92	37.8	27.9	24.8	7.5	2.0	2,558	5	1.05		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	59.8	24.5	12.3	2.3	1.0	2,554	9	0.86		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	57.6	28.8	11.6	1.7	0.2	2,555	8	0.78		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	標準 偏差	有効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	51.2	30.8	14.3	3.0	0.8	2.559	4	0.87			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.23	48.7	31.7	15.0	3.6	1.1	2.557	6	0.91			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.24	49.3	31.5	14.8	3.3	1.2	2.553	10	0.91			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	45.0	32.2	17.3	4.0	1.4	2.559	4	0.94			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	52.2	28.3	14.9	3.3	1.3	2.556	7	0.92			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	41.5	29.8	24.0	3.2	1.4	2.540	23	0.95			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1	有効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	63.4	23.7	9.4	2.9	0.6	2,513	50	0.83		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.93	8.1	7.4	10.9	16.3	57.3	2,551	12	1.30		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	17.8	14.1	24.5	13.0	30.5	2,538	25	1.47		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.66	30.7	26.0	28.0	9.5	5.9	2,557	6	1.17		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.91	35.8	32.1	22.5	6.0	3.6	2,548	15	1.07		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	52.4	28.3	13.6	3.9	1.8	2,491	72	0.96			

Q1-Q10の当区分平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	履修者数	—
回答者数	2,358		

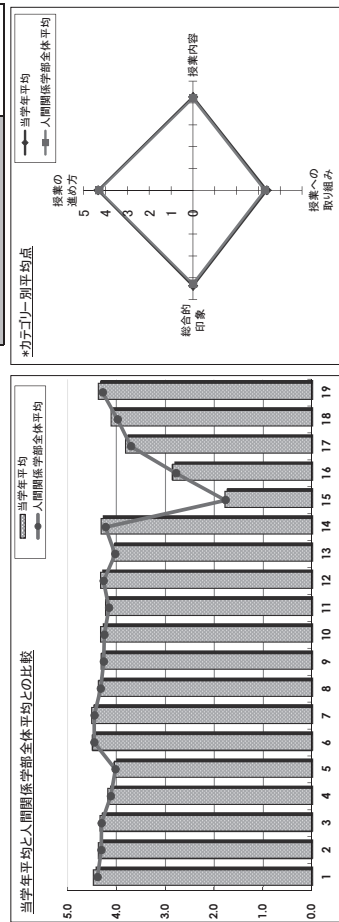
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.34	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	61.7	27.7	7.4	2.7	0.6	2,355	3	0.79				
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.38	55.6	30.6	10.3	2.8	0.7	2,355	3	0.83				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.34	56.7	26.3	11.8	4.2	0.8	2,356	2	0.90				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	45.8	32.5	16.4	4.3	1.0	2,353	5	0.93				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	43.3	28.7	19.4	6.5	2.0	2,354	4	1.03				
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.6	25.9	9.7	1.4	0.3	2,353	5	0.76				
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	62.8	27.6	7.6	1.7	0.3	2,351	7	0.74				

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリー平均点			4.28
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	55.6	30.4	10.5	2.5	0.9	2,354	4	0.84			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまとまっていた	4.32	53.5	30.4	11.7	3.2	1.3	2,353	5	0.89			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.33	53.8	30.4	11.7	2.9	1.3	2,350	8	0.88			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	47.7	33.3	14.0	3.9	1.1	2,350	8	0.91			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	54.4	29.1	12.6	2.6	1.3	2,349	9	0.89			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	42.1	31.5	21.5	3.1	1.8	2,346	12	0.96			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.38
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	55.1	27.4	12.5	4.2	0.8	2,350	8	0.90			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.79	4.8	4.8	10.6	23.9	55.9	2,352	6	1.12			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.86	19.2	16.8	23.4	11.8	28.7	2,324	34	1.48			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.82	33.3	31.0	24.2	7.1	4.4	2,351	7	1.10			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.12	43.7	33.3	16.8	3.6	2.6	2,345	13	0.99			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	56.9	28.3	11.3	1.8	1.6	2,279	79	0.87			

Q1-Q10の当区分平均値	4.07
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	履修者数	—
回答者数	2,648		

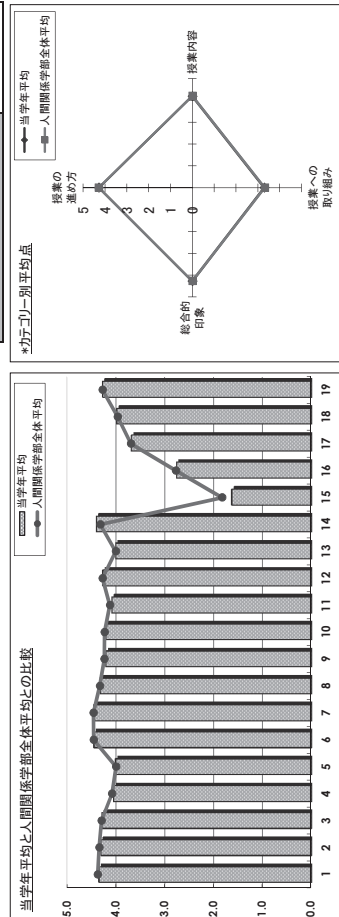
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.28
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	54.7	30.8	10.5	3.4	0.6	2,646	2	0.85		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	51.5	32.6	12.3	3.1	0.5	2,645	3	0.84		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.30	51.8	30.7	13.4	3.4	0.7	2,647	1	0.87		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	40.3	33.3	18.8	6.5	1.1	2,647	1	0.97		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	39.3	32.6	20.4	6.0	1.7	2,646	2	1.00		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	60.1	27.5	10.8	1.1	0.5	2,636	12	0.77		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	59.2	30.3	8.8	1.4	0.3	2,634	14	0.74		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.19
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	52.0	32.8	11.8	2.9	0.5	2,646	2	0.83	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまとまっていた	4.21	47.1	33.0	14.5	4.6	0.8	2,646	2	0.91	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	47.8	32.5	14.4	4.0	1.2	2,645	3	0.92	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	41.4	34.2	17.7	5.3	1.4	2,645	3	0.96	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	52.0	29.2	14.5	3.3	1.0	2,644	4	0.90	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	38.7	32.1	23.1	4.0	2.1	2,628	20	0.98	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	標準偏差			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	61.4	23.1	11.0	3.8	0.7	2,635	13	0.88		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.64	2.4	3.2	9.1	26.2	59.1	2,639	9	0.94		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	14.5	16.6	26.4	15.8	26.6	2,606	42	1.38		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	29.2	30.5	25.8	9.1	5.5	2,639	9	1.14		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	37.7	33.7	20.9	4.8	2.8	2,640	8	1.02		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.28	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	52.2	29.7	13.7	3.0	1.4	2,561	87	0.91			

Q1-Q10の当区分平均値	3.99
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	履修者数	1,362	—
回答者数	1,362			

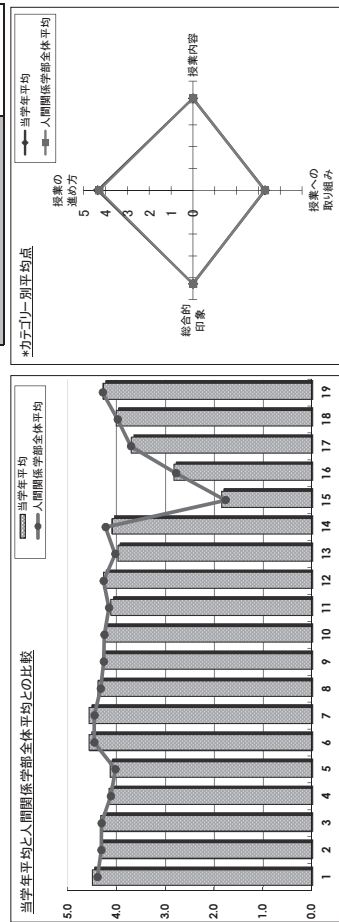
I. 先生のこの授業の進め方について										当該カテゴリー平均点		4.37
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.50	62.5	27.9	6.6	2.7	0.3	1,362	0	0.76		
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	4.32	53.1	31.3	10.8	4.1	0.7	1,361	1	0.87		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.32	54.6	28.3	12.7	3.8	0.6	1,361	1	0.88		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	43.9	36.0	14.2	4.2	1.8	1,362	0	0.94		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	46.8	29.2	16.7	5.1	2.2	1,360	2	1.01		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	67.0	23.8	8.0	1.0	0.3	1,362	0	0.71		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	65.6	26.3	6.9	1.3	0.0	1,359	3	0.68		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				4.21
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	55.7	30.5	10.6	2.9	0.4	1,362	0	0.82				
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.28	51.8	30.7	12.6	3.9	1.0	1,362	0	0.90				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.24	49.9	32.4	11.4	4.9	1.4	1,360	2	0.94				
11	授業の内容はよく理解できるものであると思う	4.12	42.8	35.3	14.5	5.7	1.7	1,362	0	0.97				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	51.2	31.1	12.0	4.6	1.1	1,362	0	0.92				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	40.2	28.4	23.2	5.2	2.9	1,356	6	1.05				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.09	44.4	31.3	15.8	6.3	2.1	1,359	3	1.02	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.86	7.1	4.4	10.2	23.8	54.5	1,359	3	1.20	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.83	18.9	14.9	24.5	13.6	28.0	1,349	13	1.46	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	30.7	30.2	23.3	9.9	5.8	1,358	4	1.17	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.01	40.1	33.8	16.5	6.3	3.2	1,356	6	1.05	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.28
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	52.4	29.3	13.1	3.9	1.3	1,312	50	0.92		

Q1-Q10の当区分平均値	4.03
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	履修者数	1,668	—
回答者数	1,668			

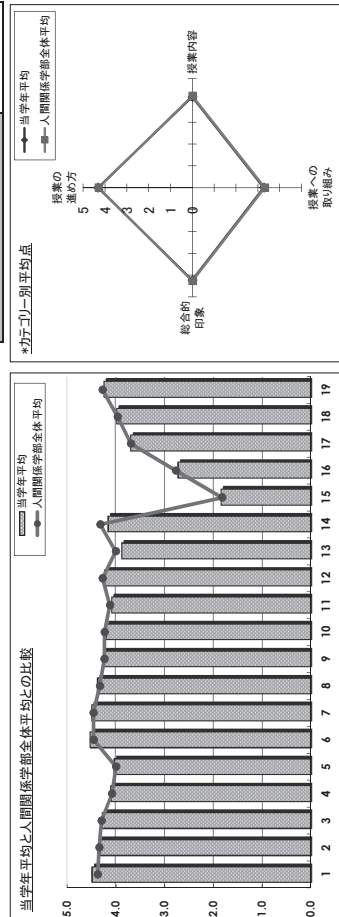
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.31
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	60.8	29.7	6.6	2.5	0.4	1,665	3	0.76			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.3	32.6	10.9	3.2	1.0	1,665	3	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.27	51.5	30.4	13.3	3.1	1.7	1,664	4	0.93			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	42.0	34.8	15.9	5.1	2.2	1,665	3	0.98			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	41.8	29.4	21.3	4.9	2.6	1,662	6	1.03			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.52	64.4	26.0	7.3	1.6	0.8	1,663	5	0.76			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	60.7	30.0	7.2	1.5	0.6	1,662	6	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.16
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	53.9	32.8	9.9	3.1	0.4	1,664	4	0.81	
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.24	50.6	30.8	12.5	4.4	1.7	1,663	5	0.95	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	46.9	33.1	13.9	4.3	1.9	1,664	4	0.95	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.4	35.4	15.4	5.3	2.5	1,663	5	1.00	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	48.9	31.7	13.6	4.1	1.6	1,663	5	0.94	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.87	34.2	30.5	26.9	5.5	3.0	1,656	12	1.04	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.28
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.15	46.1	32.1	14.4	5.7	1.7	1,663	5	0.98	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.85	5.5	5.2	12.4	22.0	54.8	1,660	8	1.17	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.72	15.6	17.3	22.4	13.3	31.4	1,649	19	1.45	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	28.4	33.0	23.1	10.0	5.5	1,662	6	1.15	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	37.9	34.4	18.7	5.5	3.4	1,659	9	1.05	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.24
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	51.0	29.2	14.0	4.1	1.7	1,617	51	0.96	

Q1-Q10の当区分平均値	3.99
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マウク学年別)

大妻女子大学

学年		4年
履修者数		—
回答者数		211

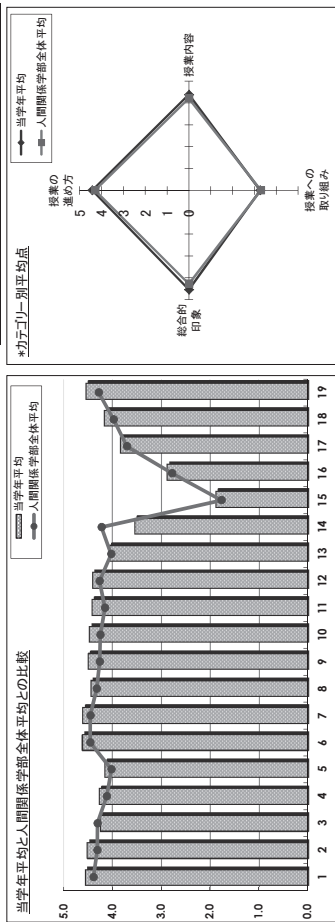
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリ平均点		4.43
No.	設問文	平均点	回答率(%)				標準偏差					
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答			
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.56	45.9	27.5	3.3	3.3	0.0	211	0	0.72		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	64.0	26.1	8.1	1.4	0.5	211	0	0.75		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.25	51.7	30.8	10.0	6.2	1.4	211	0	0.97		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	46.9	35.5	15.2	2.4	0.0	211	0	0.80		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	51.4	23.8	17.1	4.3	3.3	210	1	1.07		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.62	71.6	19.9	7.1	1.4	0.0	211	0	0.68		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	67.8	26.1	5.2	0.9	0.0	211	0	0.63		

Ⅱ. この授業の内容について										当学期の平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.44	58.3	29.4	10.4	1.9	0.0	211	0	0.76			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.50	63.0	26.5	7.6	2.8	0.0	211	0	0.76			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.47	63.8	24.8	6.7	4.3	0.5	210	1	0.84			
11	授業はよく理解できるものであった	4.42	56.9	32.2	7.6	2.8	0.5	211	0	0.79			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	57.8	27.5	12.3	2.4	0.0	211	0	0.80			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	42.1	30.1	23.0	1.9	2.9	209	2	0.99			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										3.27
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.55	20.1	36.4	26.8	11.5	5.3	209	2	1.10
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.89	5.7	3.3	13.8	28.6	48.6	210	1	1.12
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	21.3	15.0	21.7	15.0	27.1	207	4	1.49
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	33.6	32.7	21.8	8.1	3.8	211	0	1.10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.17	47.6	30.5	16.2	2.9	2.9	210	1	0.99

IV. 総合的な印象										当カテゴリ-平均点		4.54	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答		有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.54	65.2	26.0	6.9	2.0	0.0	204	7	0.71			

Q1-Q10の当区分平均値	4.12
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マウク学年別)

大妻女子大学

学年		4年
履修者数	—	
回答者数	513	

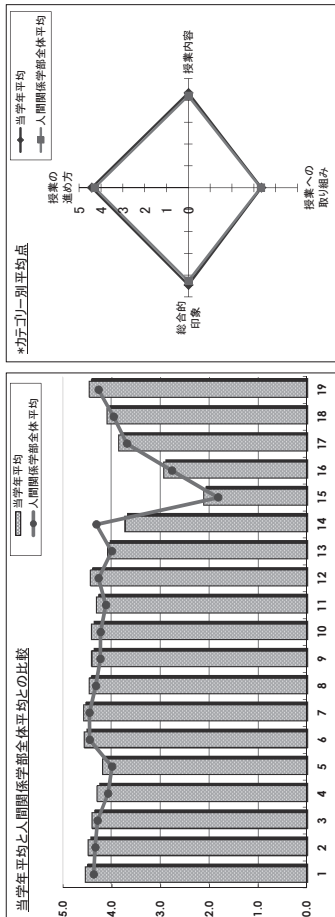
I. 先生のこの授業の進め方について										4.43
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答 数	有効 回答 率	標準 偏差	
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.53	64.5	26.9	6.4	1.6	0.6	513	0	0.74
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	62.0	26.1	9.4	2.1	0.4	513	0	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	57.8	28.1	10.7	2.0	1.4	512	1	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.29	50.7	31.2	15.2	2.1	0.8	513	0	0.86
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	48.5	29.0	15.6	5.5	1.4	513	0	0.98
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.55	65.7	25.5	7.4	1.0	0.4	513	0	0.71
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	66.5	24.9	7.6	0.6	0.4	510	3	0.69

Ⅱ. この授業の内容について										4.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	60.4	27.7	9.2	1.9	0.8	513	0	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.40	57.9	27.3	12.1	2.3	0.4	513	0	0.82
10	授業の内容は興味深いものであった	4.40	57.9	28.7	10.1	2.5	0.8	513	0	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	52.5	30.3	12.7	4.1	0.4	512	1	0.87
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	60.0	26.4	10.7	2.3	0.6	512	1	0.82
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	41.7	31.1	22.1	2.9	2.2	511	2	0.97

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										3.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				当カゴリ平均点		有効回答数	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.72	25.7	37.1	22.4	13.0	1.8	509	4	1.04
15	この授業のために毎朝予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.12	6.4	6.8	18.8	28.1	39.8	512	1	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	19.5	17.1	25.6	12.9	24.9	503	10	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	35.4	33.4	18.0	7.8	5.5	512	1	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	43.3	32.9	16.5	3.3	3.9	510	3	1.04

IV. 総合的な印象										当方2011年-平均点		4.45	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.45	61.9	25.0	10.5	1.6	1.0	488	25	0.82			

Q1-Q10の当区分平均値	4.12
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)
履修者数	678
回答者数	492

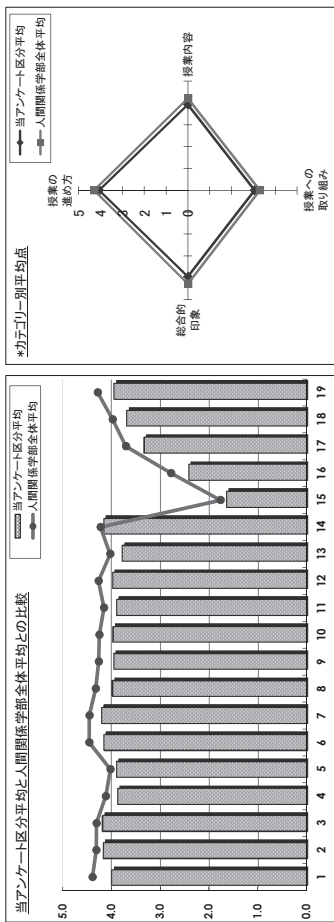
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.07
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.00	40.0	33.5	15.0	8.7	2.6	492	0	1.07			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.18	43.8	38.3	11.4	4.7	1.8	491	1	0.94			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.19	45.2	33.8	16.3	3.9	0.8	491	1	0.90			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.88	33.3	34.3	22.0	7.6	2.9	490	2	1.05			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	36.1	32.2	20.8	7.1	3.7	490	2	1.09			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.16	47.1	29.2	18.2	3.5	2.0	490	2	0.98			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.20	48.1	30.1	17.4	3.3	1.2	489	3	0.93			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			3.93
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.98	37.3	34.5	19.6	6.3	2.2	490	2	1.01			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.96	36.3	35.6	17.7	8.4	2.0	491	1	1.03			
10	授業の内容は興味深いものであった	3.97	36.4	35.8	19.0	5.9	2.9	489	3	1.02			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.90	32.8	34.7	21.4	6.1	3.1	491	1	1.03			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.98	37.1	34.7	19.4	6.5	2.2	490	2	1.02			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.78	28.9	32.6	28.7	7.2	2.7	488	4	1.03			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.05
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	50.1	26.9	13.8	7.6	1.6	487	5	1.03		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.66	3.9	3.7	11.2	16.9	64.4	491	1	1.07		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.43	10.5	12.7	23.0	17.0	36.9	488	4	1.37		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.34	21.0	23.6	33.6	11.8	10.0	491	1	1.22		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.69	28.2	32.3	25.6	7.8	6.1	489	3	1.14		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			3.95
No.	設問文	平均点		回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差			
		5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.95	38.1	32.0	20.6	5.5	3.8	475	17	1.07			

Q1-Q18の当区分平均値	3.75
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)
履修者数	1,067
回答者数	840

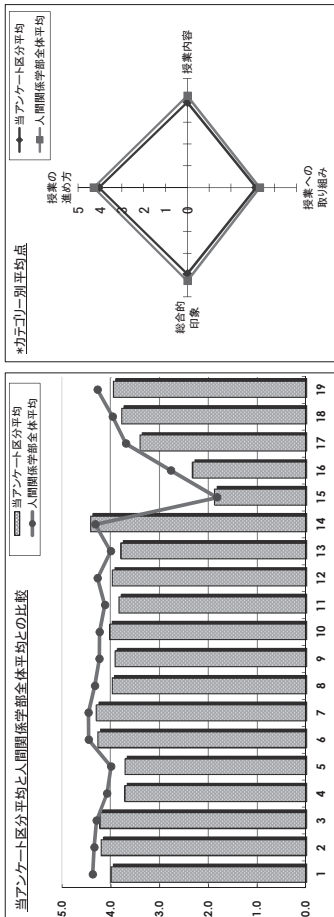
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.05
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差			
		5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.99	38.9	34.0	16.6	8.1	2.4	838	2	1.05		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	44.7	35.7	14.4	4.4	0.7	838	2	0.89		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	50.4	28.6	15.5	3.6	1.9	838	2	0.96		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.71	24.8	34.7	28.9	9.7	1.9	838	2	1.01		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.71	27.1	32.5	27.4	10.0	3.0	839	1	1.06		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.26	50.2	30.6	14.9	3.2	1.1	837	3	0.90		
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	49.0	33.5	15.0	2.3	0.2	836	4	0.82		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		3.91
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.97	35.6	35.3	21.0	6.6	1.6	838	2	0.98		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.91	35.2	33.0	21.5	8.2	2.1	839	1	1.04		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.01	39.0	33.7	18.9	6.5	1.9	835	5	1.01		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.83	30.9	34.2	24.2	8.5	2.3	839	1	1.03		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.96	36.4	33.5	22.1	5.9	2.2	836	4	1.01		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.79	27.9	33.3	31.2	5.3	2.4	833	7	0.99		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.16
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	61.4	23.7	10.3	3.5	1.1	826	14	0.89		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.88	6.7	6.9	11.2	17.6	57.5	836	4	1.25		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.33	8.8	10.5	24.4	17.0	39.3	837	3	1.32		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.40	19.9	28.4	31.0	13.0	7.6	838	2	1.17		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.77	28.3	36.4	23.4	7.6	4.2	837	3	1.07		

Ⅳ. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		3.95	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2				1
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.95	36.7	34.1	19.0	7.5	2.7	823	17	1.05

Q1-Q18の当区分平均値	3.77
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)
履修者数	926
回答者数	656

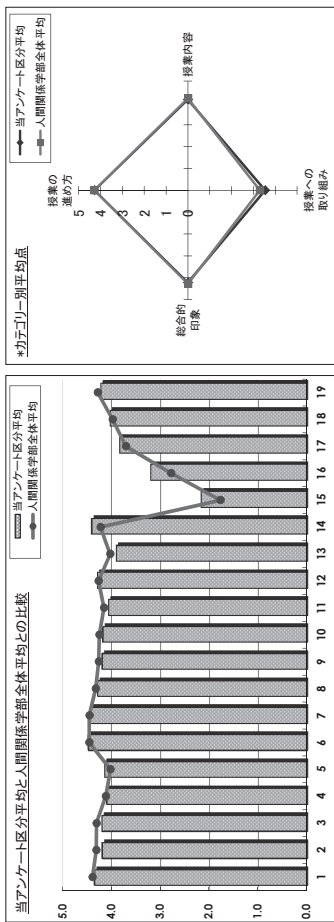
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.28
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	60.9	23.5	8.7	4.0	2.9	655	1	1.00			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	53.7	27.0	9.3	5.8	4.3	656	0	1.10			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	52.4	25.5	14.5	5.8	1.8	655	1	1.01			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	47.9	27.6	15.1	6.4	3.0	656	0	1.07			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	50.5	25.3	15.9	5.0	3.2	655	1	1.06			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.48	65.2	21.8	10.1	1.7	1.2	655	1	0.84			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	63.7	23.2	8.5	2.9	1.7	656	0	0.89			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.16
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	54.5	29.8	9.0	3.5	3.2	655	1	0.99		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.20	53.0	26.3	13.0	3.4	4.4	655	1	1.07		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	52.3	28.1	10.7	3.7	5.2	654	2	1.10		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	46.4	30.1	13.0	5.2	5.3	655	1	1.13		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.29	57.7	24.8	10.7	2.6	4.1	653	3	1.04		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.91	39.6	26.4	24.4	4.6	4.9	647	9	1.12		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.54
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	62.7	22.9	9.0	3.5	1.8	654	2	0.92		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.18	10.3	7.0	16.4	23.0	43.3	653	3	1.33		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.21	27.1	18.3	22.2	13.2	19.2	650	6	1.46		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	37.0	31.4	16.5	8.8	6.3	656	0	1.20		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	44.8	30.9	12.7	6.6	5.0	654	2	1.14		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.23
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2					1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	55.6	26.0	8.7	5.0	4.7	635	21	1.10			

Q1-Q10の当区分平均値	4.04
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)
履修者数	909
回答者数	689

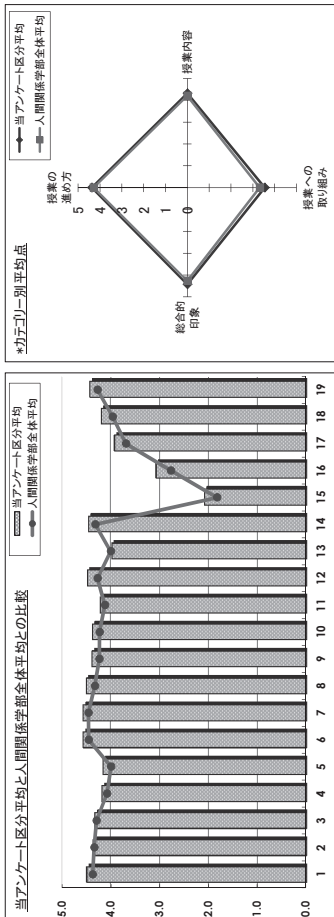
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.38
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.49	62.3	27.1	8.2	2.1	0.3	698	1	0.76			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	55.9	28.5	12.3	2.6	0.7	699	0	0.85			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	57.8	23.3	14.2	3.0	1.7	699	0	0.94			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	48.9	28.7	15.9	4.6	2.0	698	1	0.99			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	49.7	25.1	18.4	4.6	2.2	696	3	1.02			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	68.5	20.7	9.5	1.2	0.1	695	4	0.72			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	66.3	24.5	8.4	0.7	0.1	694	5	0.69			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.32
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.50	43.6	24.8	9.9	1.3	0.4	697	2	0.76		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.38	57.2	28.2	10.9	3.0	0.7	698	1	0.85		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	58.1	26.0	11.7	3.3	0.9	699	0	0.88		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.22	49.4	30.5	13.6	5.2	1.3	698	1	0.95		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	63.2	24.6	9.5	2.1	0.6	698	1	0.80		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	40.9	25.6	27.0	3.4	3.0	696	3	1.04		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.55
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	61.5	26.1	9.0	2.7	0.6	697	2	0.81		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.08	6.9	7.2	16.1	26.9	42.9	695	4	1.22		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	21.7	20.3	24.5	10.9	22.6	686	13	1.44		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.93	37.1	33.9	18.1	6.3	4.6	696	3	1.10		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	47.2	32.7	14.5	3.5	2.2	695	4	0.96		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.43
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2					1	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	61.9	23.4	10.9	3.3	0.6	672	27	0.85		

Q1-Q10の当区分平均値	4.14
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻(専門科目)	履修者数	1,380
		回答者数	912

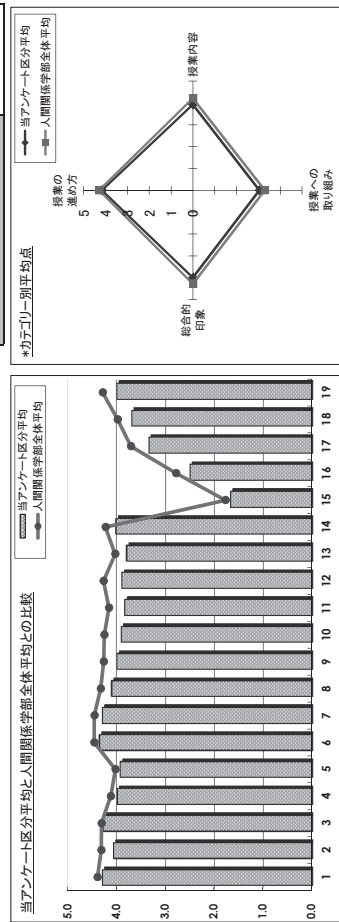
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.30	52.8	31.2	10.6	3.5	1.9	911	0.93
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.07	39.2	36.5	18.3	3.9	2.2	909	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	51.3	31.5	12.6	3.1	1.5	911	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	36.3	36.7	19.3	5.1	2.6	910	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	34.8	33.8	23.5	5.2	2.8	908	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	52.5	33.5	11.5	1.6	0.8	910	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	49.6	35.0	11.6	2.6	1.1	911	0.85

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.11	42.3	34.5	16.9	4.6	1.8	911	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.99	37.0	36.0	18.8	5.8	2.4	911	1.00
10	授業の内容は興味深いものであった	3.91	34.1	36.4	19.5	6.9	3.2	910	1.05
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.84	28.1	40.7	20.7	7.9	2.6	910	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.89	33.3	35.3	21.7	6.9	2.7	911	1.03
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.80	29.3	33.7	27.9	5.7	3.3	910	1.03

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.02	40.0	32.4	19.3	5.9	2.4	908	1.02
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.68	3.0	4.6	9.9	21.9	60.6	908	1.03
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.51	11.1	14.1	25.1	13.3	36.3	899	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.34	17.2	30.4	30.9	12.6	8.9	908	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.70	26.0	38.4	21.0	8.5	6.1	904	1.13

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.00	37.2	36.8	17.6	5.3	3.1	882	1.02

Q1-Q10の当区分平均値	3.79
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻(専門科目)	履修者数	1,749
		回答者数	1,261

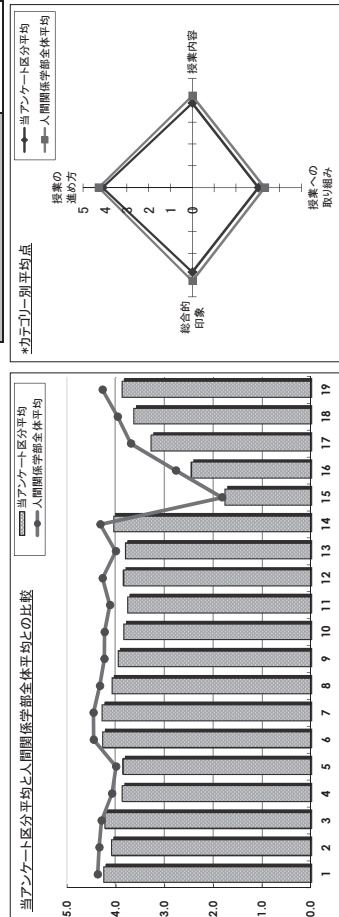
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.24	47.2	34.9	12.7	4.5	0.6	1,259	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.08	38.4	38.5	16.5	5.3	1.2	1,259	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	46.5	33.4	16.1	3.1	0.9	1,259	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.86	31.2	35.7	23.3	7.4	2.4	1,260	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.85	31.4	33.1	26.7	6.4	2.5	1,258	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.26	49.3	32.0	15.1	2.5	1.2	1,255	0.89
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.27	47.4	35.9	13.3	2.8	0.6	1,255	0.84

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.07	37.0	39.5	17.7	5.2	0.6	1,257	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	3.94	34.6	36.0	20.4	7.2	1.8	1,257	1.00
10	授業の内容は興味深いものであった	3.82	30.4	35.1	24.0	7.4	3.0	1,256	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.75	27.9	35.7	23.8	8.8	3.8	1,255	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.83	30.8	35.1	23.8	7.5	2.9	1,252	1.04
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.80	27.8	34.9	28.9	5.9	2.5	1,245	0.99

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.04	40.9	32.6	17.4	7.7	1.4	1,249	1.01
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	1.76	2.6	5.8	11.8	24.9	54.9	1,254	1.04
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.45	8.5	14.3	25.8	16.5	34.9	1,239	1.32
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.27	15.3	27.9	34.1	13.6	9.0	1,253	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.62	23.8	34.8	26.6	8.9	5.7	1,254	1.11

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.86	32.8	34.8	22.4	6.3	3.8	1,212	1.06

Q1-Q10の当区分平均値	3.74
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	1,057
		回答者数	764

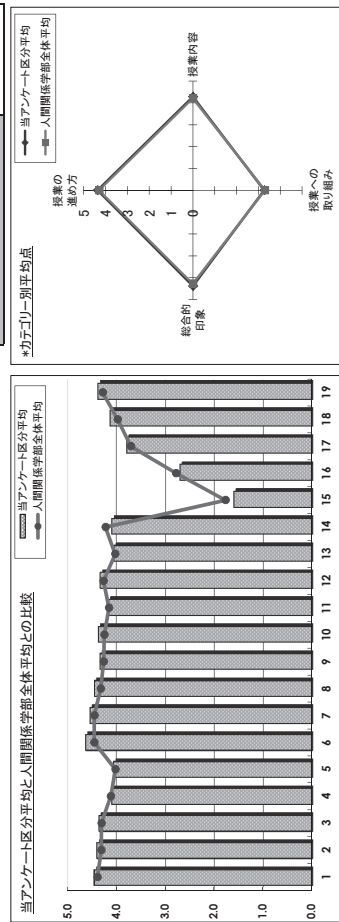
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	60.5	28.9	6.9	3.3	0.4	764	0	0.79			
2	教材資料提示 (板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.40	58.4	28.8	8.2	4.1	0.5	764	0	0.84			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	55.9	28.8	11.4	3.7	0.3	764	0	0.84			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	41.9	36.0	14.5	5.4	2.2	764	0	0.99			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	43.3	31.8	15.3	7.1	2.5	764	0	1.04			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.64	72.2	21.1	5.0	1.7	0.0	762	2	0.66			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	66.4	24.7	6.2	2.4	0.4	762	2	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.29	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	59.7	29.5	7.9	2.5	0.5	764	0	0.79				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとわかった	4.34	56.0	29.5	8.5	4.7	1.3	764	0	0.91				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.38	59.6	25.0	9.7	4.6	1.0	763	1	0.91				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	47.1	33.0	12.4	5.4	2.1	764	0	0.98				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	55.0	29.6	10.7	3.5	1.2	764	0	0.89				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.06	42.3	30.4	19.8	5.5	2.0	761	3	1.01				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.27	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	標準偏差			
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.10	44.9	30.5	16.1	6.7	1.8	760	4	1.02				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.61	1.8	2.8	10.1	25.3	60.0	762	2	0.91				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.71	16.0	15.4	21.8	17.0	29.9	749	15	1.44				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	34.3	30.2	21.0	9.6	4.9	761	3	1.16				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	45.6	31.8	15.2	5.1	2.4	759	5	1.01				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	58.0	27.5	10.6	2.6	1.3	743	21	0.87			

Q1-Q10の当区分平均値	4.06
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	1,049
		回答者数	865

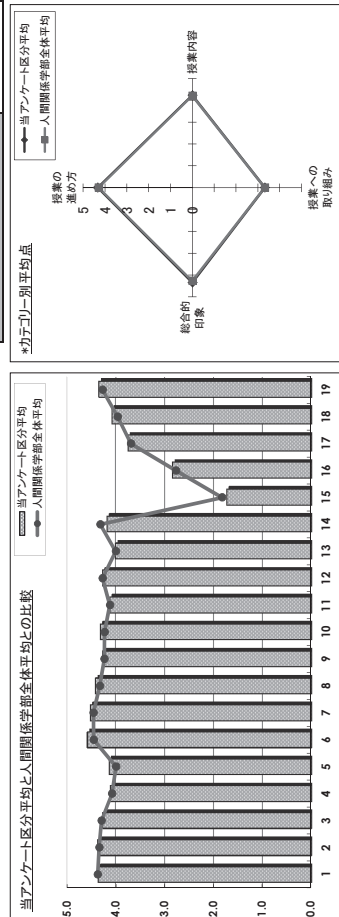
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	標準 偏差		
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	54.2	33.1	8.2	3.7	0.8	864	1	0.85			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	55.1	31.2	10.3	3.0	0.3	865	0	0.81			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けるなかった場合は、5をマーク	4.27	50.6	31.1	14.0	3.6	0.7	864	1	0.88			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	40.9	36.8	15.5	6.2	0.6	865	0	0.92			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	42.7	34.5	17.6	4.6	0.7	865	0	0.91			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.58	67.2	26.3	4.6	1.4	0.5	864	1	0.69			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	61.5	31.0	5.9	1.3	0.3	864	1	0.70			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.23	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	標準 偏差			
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	57.3	30.9	8.3	3.0	0.5	865	0	0.80				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまっていた	4.27	50.6	32.3	11.5	4.7	0.9	864	1	0.91				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.31	52.1	32.9	10.4	3.7	0.9	864	1	0.87				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	41.0	37.6	15.5	4.5	1.4	865	0	0.93				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	49.8	32.5	13.5	3.1	1.0	865	0	0.88				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	38.9	33.0	19.9	6.5	1.7	861	4	1.00				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.32	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	標準偏差		
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	50.5	27.8	13.0	6.6	2.1	861	4	1.03			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.74	5.1	2.7	10.4	24.4	57.5	865	0	1.08			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	15.5	20.3	22.5	16.3	25.5	854	11	1.41			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.75	30.2	33.3	22.3	9.6	4.5	864	1	1.12			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	40.0	36.0	18.2	3.5	2.3	864	1	0.96			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	54.3	30.5	11.8	2.6	0.8	846	19	0.85			

Q1-Q10の当区分平均値	4.04
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)	履修者数	608
		回答者数	450

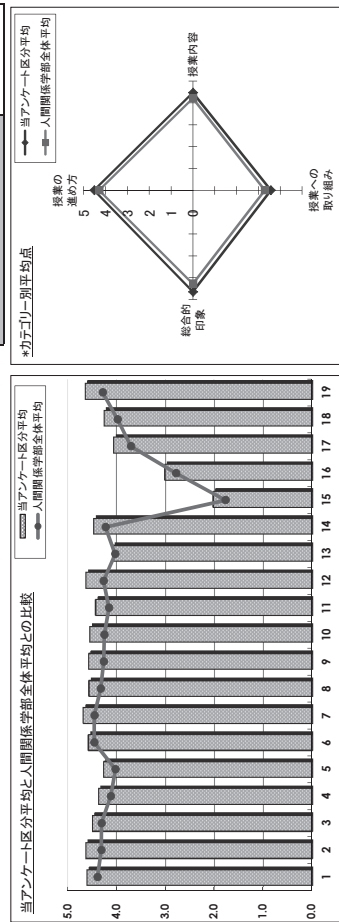
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効 回答	無効 回答	標準 偏差	4.52
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.61	68.7	25.3	4.4	1.6	0.0	450	0	0.65					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.64	70.4	23.6	5.6	0.2	0.2	450	0	0.62					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	65.6	22.7	8.7	2.4	0.7	450	0	0.81					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.38	55.3	31.3	10.2	2.0	1.1	450	0	0.83					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	54.8	26.1	12.9	3.8	2.4	449	1	0.99					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.58	69.1	21.6	8.2	0.9	0.2	450	0	0.70					
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.69	73.3	22.4	3.8	0.4	0.0	450	0	0.56					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.47	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.57	63.8	30.0	5.8	0.2	0.2	450	0	0.63				
9	授業の構成は体系的で把握しやすくてよかった	4.58	65.8	26.4	7.3	0.4	0.0	450	0	0.65				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.55	65.3	25.8	7.8	0.9	0.2	449	1	0.70				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.43	55.9	32.7	10.2	1.1	0.0	449	1	0.72				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	70.2	23.6	5.3	0.9	0.0	450	0	0.63				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	46.0	25.7	23.4	0.7	4.2	448	2	1.05				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.57	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	61.2	27.6	8.7	1.8	0.7	449	1	0.78				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.03	5.3	3.8	16.7	37.3	36.9	450	0	1.08				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.02	21.8	16.3	27.2	11.6	23.1	441	9	1.44				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.06	41.6	31.6	20.4	4.7	1.8	450	0	0.98				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.26	48.2	33.3	16.1	1.3	1.1	448	2	0.85				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.65	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効回答	無効回答	標準偏差				
		5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.65	70.8	23.6	5.2	0.5	0.0	424	26	0.60			

Q1-Q10の当区分平均値	4.26
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)	履修者数	1,246
		回答者数	992

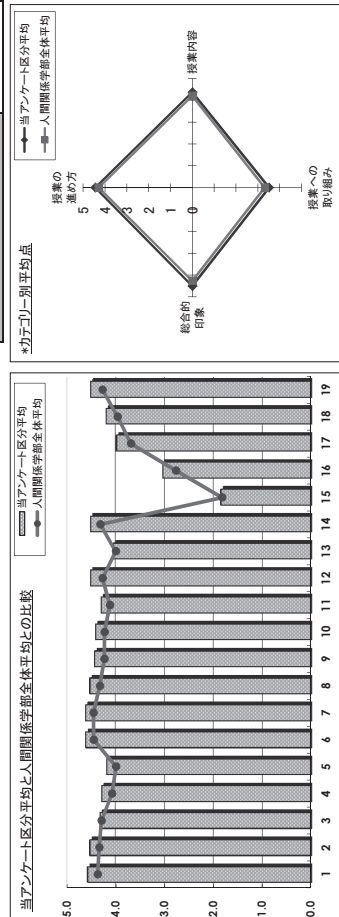
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.44	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.57	67.3	24.1	7.1	1.4	0.1	992	0	0.70			
2	教材資料提示 (板書、プリント、P/P・ポイント・ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.53	63.1	27.7	8.0	1.1	0.1	990	2	0.70			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	52.2	32.4	11.6	2.7	1.1	991	1	0.86			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.28	51.7	30.2	13.5	3.8	0.8	991	1	0.89			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.6	31.0	14.9	4.9	1.5	991	1	0.96			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.61	69.9	22.1	7.0	0.8	0.2	990	2	0.67			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	68.6	24.9	5.7	0.7	0.1	987	5	0.64			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.37	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.53	62.0	29.5	7.5	1.0	0.0	992	0	0.68				
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていった	4.43	57.4	30.2	10.3	1.8	0.3	990	2	0.77				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.41	55.3	32.8	9.9	1.5	0.5	991	1	0.77				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	50.3	32.7	13.9	2.7	0.4	991	1	0.84				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	63.6	26.3	8.2	1.6	0.3	992	0	0.74				
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	41.3	28.7	25.2	2.4	2.4	990	2	0.99				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.52	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.51	65.5	23.1	8.8	2.4	0.2	988	4	0.77				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.85	3.8	5.6	11.4	30.7	48.6	986	6	1.07				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	19.1	19.6	27.5	13.7	20.2	976	16	1.38				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.98	39.8	32.1	18.2	6.5	3.4	990	2	1.07				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	47.6	31.6	14.9	4.0	1.8	989	3	0.96				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.51	64.7	24.7	8.3	1.4	0.9	948	44	0.78			

Q1-Q10の当区分平均値	4.18
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±2σ	3.30



2014年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)	履修者数	477
		回答者数	370

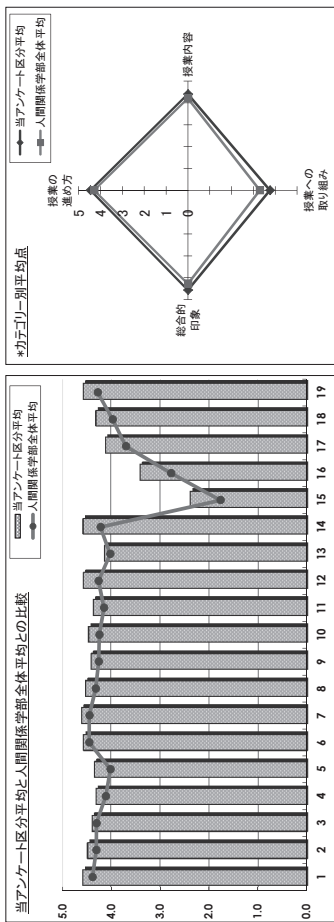
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.46
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	標準 偏差	無効 回答	
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.57	45.9	27.3	4.9	1.9	0.0	370	0	0.68	
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	4.48	60.3	29.5	8.4	1.9	0.0	370	0	0.73	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	57.6	27.0	12.4	2.7	0.3	370	0	0.83	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	51.6	32.2	12.4	2.7	1.1	370	0	0.87	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.34	54.7	28.2	14.1	2.2	0.8	369	1	0.86	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	65.9	25.4	7.6	1.1	0.0	370	0	0.68	
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	68.3	24.7	5.7	1.4	0.0	369	1	0.66	

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.41
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.52	43.2	27.6	7.3	1.6	0.3	370	0.73		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.41	58.1	30.0	7.6	3.0	1.4	370	0.86		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.46	58.0	33.1	6.5	1.9	0.5	369	1.075		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	54.3	32.2	10.0	2.7	0.8	370	0.83		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.56	67.2	24.7	6.0	1.6	0.5	369	1.073		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.13	45.1	29.6	20.9	1.9	2.4	368	2.097		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.76
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.57	68.9	21.9	6.8	2.2	0.3	370	0.74		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.39	14.4	7.3	13.3	32.8	32.2	369	1.38		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.41	28.5	22.2	24.9	10.4	14.0	365	5.36		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.11	42.4	32.4	21.1	2.2	1.9	370	0.94		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.31	51.8	32.2	12.5	2.2	1.4	369	1.087		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.57
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1	有効回答	標準偏差		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	68.2	23.1	7.0	0.6	1.1	355	15.075		

Q1-Q10の当区分平均値	4.27
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.26



2014年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)	履修者数	837
		回答者数	674

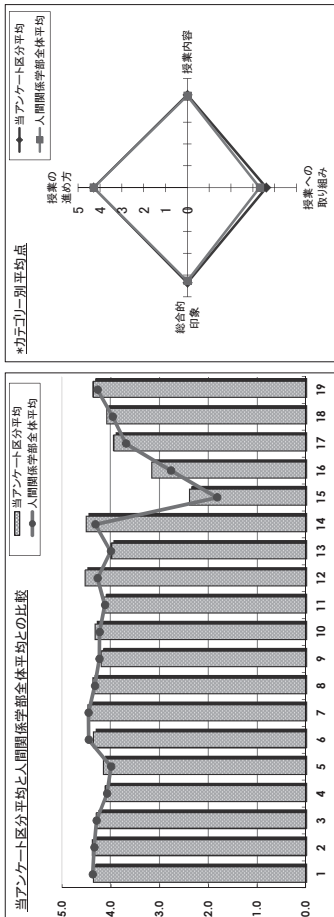
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	標準 偏差	無効 回答			
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.35	55.9	30.0	8.9	3.6	1.6	673	1	0.90			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	54.3	32.3	10.6	1.6	1.2	672	2	0.83			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.6	30.3	12.5	2.5	2.1	673	1	0.93			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	42.6	33.4	17.5	4.6	1.8	673	1	0.97			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	45.7	30.8	17.6	4.6	1.3	672	2	0.96			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	56.3	28.5	11.0	2.1	2.1	670	4	0.91			
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	60.8	28.2	8.9	1.2	0.9	671	3	0.78			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	55.2	29.8	12.2	1.9	0.9	672	2.084		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと表わしていた	4.19	46.4	32.1	16.9	3.4	1.2	673	1.092		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.32	52.8	31.1	12.2	3.0	0.9	672	2.087		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	44.0	33.9	15.6	4.8	1.6	672	2.096		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.52	66.1	22.5	8.9	2.1	0.4	672	2.078		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.98	40.4	27.7	24.8	4.1	3.0	664	10.104		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.61
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.49	65.8	21.5	9.8	2.4	0.6	666	8.081		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか	2.39	12.7	9.8	17.1	24.4	35.9	671	3.138		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.16	23.7	18.4	27.3	11.0	19.5	662	12.141		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.94	39.4	27.8	23.5	5.7	3.6	672	2.108		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	42.8	30.9	20.3	3.6	2.4	670	4.099		

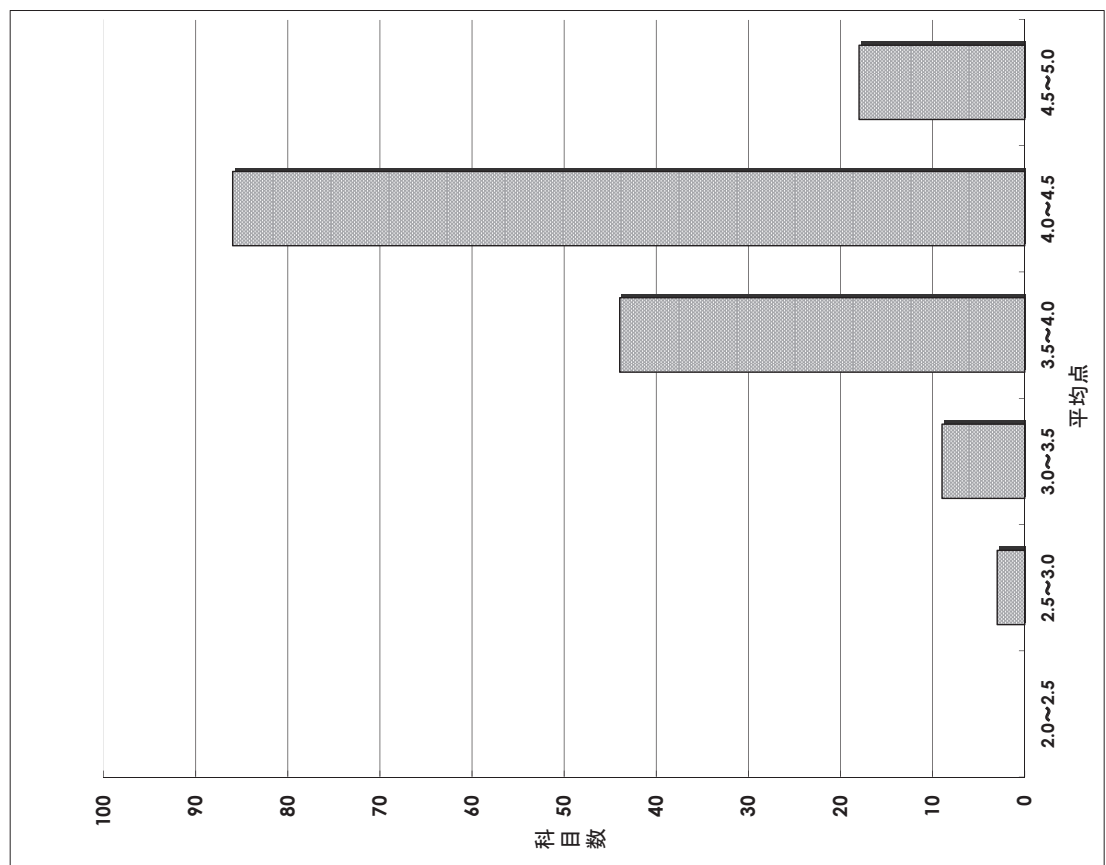
Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.36
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	57.5	26.5	11.4	3.4	1.2	650	24	0.90	

Q1-Q10の当区分平均値	4.11
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.30



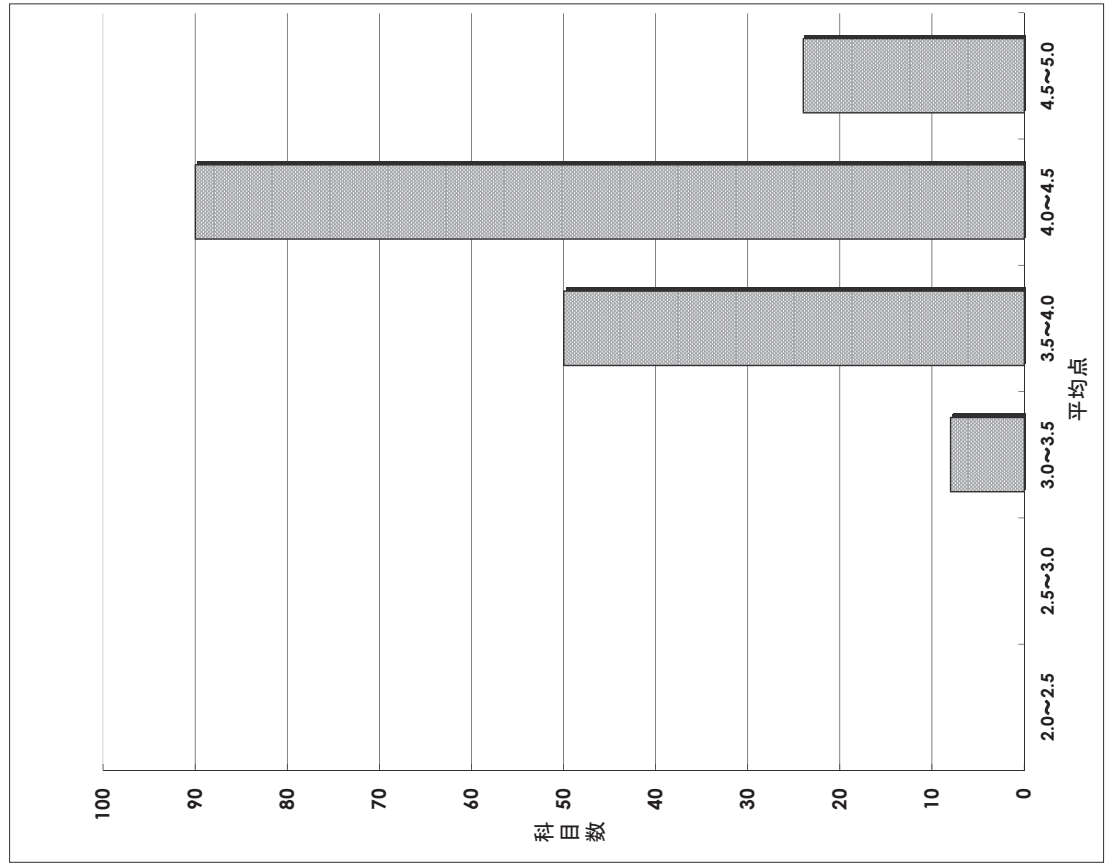
人間関係学部 評定平均点数度数分布表

全科目数	160
------	-----



人間関係学部 評定平均点数度数分布表

全科目数	172
------	-----



Ⅱ－２ 授業アンケートへの対応

（１）前期授業アンケートへの対応

前節の授業アンケート計量的分析を受けて、ここでは授業アンケートに対する教員たちの反応を紹介してみたい。まずは前期授業アンケートへの対応から。

① 授業への積極的参加と予習復習の励行

例年通りの傾向として、学生の積極的参加と予習復習の励行という点で評価の低い教員が多いようであり、その対応に苦慮している姿が見られた。ディスカッションを授業で取り入れようとしても、学生たちの積極的発言を引き出すことは難しいようである。また３番目のコメントに示唆されているように、周りの様子をみて、すなわち空気を読んで、積極的な行動や発言を控える傾向もあるのではないか。

受講者の積極的な参加が低いため、受講者の意見や質問を引き出せるような授業構成を考えたいと思います。（心理非常勤）

質問や考えを述べる積極的参加の項目が低かった。積極的に発言の機会を設ける様にしていきたい。（福祉非常勤）

こちらの働きかけへの即応性がやや緩慢（真面目に継続して取り組むのですが、取りかかりというか初動がおっとりしている傾向）な印象を持ちます。現場に出て変化していくと思いますが、周りの様子を見すぎず、自らが果敢に出ていく姿勢を期待として望みます。（福祉非常勤）

学生による報告とディスカッションを主としたゼミ形式の授業であるため、学生の主体的な授業参加が毎年の課題となる。今年度は、比較的小となしい学生が多いため、議論を盛り上げるのに苦慮した。コメンテーター制を採用し、発言を義務づけた（したがって項目 16 が高い）。しかし、学生相互の議論を誘発することは難しかった。（社会非常勤）

しかし困難な課題に挑み成功した例もある。前回の復習テストを行う。あるいは予習範囲を定めて、それを提出させ、チェックして返却をする。こうすれば成果があがることは間違いなが、講義時間外の負担は大きくなる。それが大人数のくらすともなればなおさらである。

予習・復習と言っても漠然としているので、具体的に何を自習すべきか、課題を提示してみたいと思う。積極的参加については、以前他の項目よりも低いですが、前年度よりも評価が上がった。リアクションペーパー、考える機会、前回の復習テストなどを行っていることの成果かもしれない。今後も工夫を続けていきたい。（福祉専任）

学部平均よりも際だって高いのが、予習・復習の励行である。毎回宿題を出して予習点・復習点を明記したこと、および提出させてチェックしたことにより、講義時間外の学習時間と質が確保され、学習習慣が身についたと思われる。教員一人に対応するのは大変であるが、今後も継続していきたい。(心理専任)

② ハード面の問題

ハード面で多く出てきたのが、教室のサイズの問題である。大人数のクラスは、それだけで私語が出やすいが、ぎっしりとすし詰めにしたような教室であればなおさらである。それは学生たちにとっても快適に勉強のできる環境とは言い難い。またディスカッションを行うために可動式の机のある教室を増やして欲しいと要望は今回も寄せられていた。

7214 教室は受講者数の割には狭すぎるかもしれません。隙間なく着席していることが私語を発生する要因になっている可能性があります。(福祉専任)

隣の学生と距離の近い長椅子に、ぎっしりと座りながらの授業は、なかなか学生にとっても窮屈ではないかと思います。隣席との距離がもう少しゆったりできるといいのですが(心理専任)

教室定員と受講生の数(150 名程度)が同じで遅れてくると座席の確保が難しいため、意欲のある学生でも後席となることがあり、不満がでたものと思われる。座席数に余裕のある教室の使用を希望したい。(社会専任)

ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです。(社会非常勤)

③ 「易きに流れる」傾向

学生たちの受講態度は概ね好評であった。しかし、なかには一部「不真面目な」学生たちもいる。ばたばたと遅刻して教室に入ってくる学生。後方の席で、おしゃべりにふけり、お化粧品に励む学生。一部のそうした学生たちが、教室の雰囲気を悪くさせ、真面目な学生たちのストレスのもとになっていることは間違いない。

気になったのは1限だからか、遅刻者が多いことである。授業中にバタバタと入ってくるのは、他の学生の集中力の妨げにもなり、これについては授業中にも注意したが、自己意識をしっかりもつようにしてほしい。(社会非常勤)

おおむねまじめで好感の持てる学生さんが多いのですが、中には、注意を喚起しても名指ししない限り私語をやめない方、授業中にお化粧品をする方、お食事をする方、色々です。だいたいそういう方は、後方にまとまって座っていることが多いので、あまり目に余らない限り、そっとしておくようにしています。ただ、それが真面目にやっている方の不快感を引き起こして

いるのかもしれませんが。(社会非常勤)

自由記述の中に「やる気がない学生や、話している学生はきつく注意するか追い出してほしい」と言う意見があった。そのような学生は確かに存在するので、このような意見が出ることは理解できる。(福祉専任)

下記のコメントにみられるように、真面目ではない学生が、熱心に授業を行い、高い水準での学習を求める教員にあからさまな反感を示すという現象すら起こっている。ちなみに下記の教員に対する真面目な学生たちの評判はすこぶるよかった。様々な学力レベルの学生が混在していることが、本学部の現実ではあるが、高い方に引き上げられるのではなく、低い方に流れていく状況があるとすれば、それは憂慮すべきことである。

第一に、全体的に授業の難易度が高かったようなので、今後は課題を減らし、講義のテンポを下げてゆっくり進めようと思います。第二に、学生を見下した態度とか、優秀か否かによる差別などの指摘が多かったこと、そして多くの攻撃的なコメントには改めて考えさせられました。「見下した」態度というの「差別」というのも、もちろん成績優秀か否かではなく、非協力的な受講生に対するものだと思います。不真面目・反抗的な受講生に対してつい不寛容な態度をとってしまう自分の困った傾向に気づかされました。私にとっても、受講生の大半が非協力的というのは初めての経験であり、面喰い、憤慨し、悩み、授業のたびにかなり落ち込みました。その動揺が、クラスの雰囲気悪くし、全ての受講生に嫌な思いをさせ、また理解し合うことのできない過度な敵意を招いてしまったようです。このクラスは、受講生にとってはもちろん、私にとってもつらい経験でした。これを教訓として、様々な学生やその集団といかに向き合うのか、人間修行もかねて考えていく必要があると反省しています。(社会非常勤)

④ 学生の「幼さ」

「幼さ」とくくることには躊躇も覚えるが、本学部の学生たちのなかには、大学で学ぶ水準に学力だけではなく、人間的な成熟度が追い付いていない部分があるのではないかと考えさせられるコメントがいくつかあった。

活字を読んだり、書いたりすることへの好奇心の醸成、地道に反復することなどを無駄と考えない学習姿勢の確立。(福祉非常勤)

本授業の運営自体には、まったく問題はないのだが、そもそも「自分はなぜ、社会福祉士の資格を取得するのか？」という出発点の動機があいまいなまま、実習に臨む学生が依然として多く見られる。この点が長期的な課題であると思う。(福祉専任)

医療機関で働く医療ソーシャルワーカーの方に来ていただき、周産期 SW について話してもらいましたが、賛否両論でした。若い女子学生に対し、どこまで現実の話を伝えるかについて

もう少し考えてみたいと思います。(福祉専任)

(2) 後期授業アンケートへの対応

① 学生たちの意識の問題

後期の対応策のなかでも、授業を受ける学生たちの意識が大学生というには余りに低いという印象を禁じ得ないコメントがいくつかあった。わずかであれば私語は許される。教科書を持ってこない。同じ質問を繰り返し行う。高校までで培われるべき社会常識や基本的な学習習慣ができていない学生が少なからずいることは否めない。

私語への注意が厳しすぎると感じた。指摘が適切である時もあったが、少し話すとすぐ注意、という場面もあったため、私語が長すぎ&授業に関係ない話だと判断できてから注意すると不満をかわないかもしれない。」という意見がありましたが、受講生が 200 名を超える授業では、授業に関係ある私語であれば私語をしてもよいとか、短い私語であれば私語をしてもよいとは考えられません。(心理非常勤)

授業の回数を重ねても同じことを質問する学生や、明らかに課題を記したプリントを読まずに質問をする学生が多々見られた。このような学生は課題をただこなすことが目的になっていて、毎回の学習内容を身に付けようという姿勢が見られない。例えば途中で試験を課すというようなことが必要かと思われる。(コンピュータ非常勤)

② 授業参加を促し、予習復習を励行させる

学生の授業への積極的参加を促し、予習復習を励行させるということが、すべての教員が頭を痛める問題であるが、様々な工夫をこらすことによって、成果を収めた教員も少なくはない。

授業の改善点としては自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にし、学習した内容を授業の中フィードバックすることが必要であることを確認した。また、アクティブラーニングの視点を盛り込んだ授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、振り返りの時間を多くとることで学生自身の内省化が促進できるような取組方法の構築を来年度の課題としたい。(心理非常勤)

授業の改善点としては自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にし、学習した内容を授業の中フィードバックすることが必要であることを確認した。また、アクティブラーニングの視点を盛り込んだ授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、振り返りの時間を多くとることで学生自身の内省化が促進できるような取組方法の構築を来年度の課題としたい。(心理非常勤)

また昨年度の課題であった、予習、復習、毎回の授業のポイントを整理させることについては、授業ではほぼ毎回、前回の振り返り小テスト、配布したレジュメにその回の学習の成果を記入する欄を設け、試験後に配布したレジュメを綴ったファイルを提出させることを試みた。
(心理非常勤)

当方は、毎講義、リアクションペーパーの提出を求めており、その内容を次の講義時に履修者全員に配布しております。このリアクションペーパーに記述された内容の一部を用いながら、講義内容との関連性を提示しています(社会非常勤)」

社会福祉の援助の考え方を身に着けることを目標に授業を行った。結果、多くの事例を使用し、学生に考えてもらうよう工夫したところ、100人を超す講義科目ではあったが、設問5「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」が学部平均よりもかなり高い良い評価であった。(福祉専任)

学生の評価でも学部平均を大きく上回っている項目として、予習・復習がある。予習と復習のポイントを明示して提出させて評価の対象としたことは、教員からすれば手間がかかるが、教育効果を高めたと言えよう。今後も継続する予定である(心理専任)

③ manaba の問題

ウェブを介した双方向的な学習を助ける装置として、manaba が導入されているが、使い方がよくわからない、スマートホンとの接続が悪い等の問題が指摘されている。

manaba を何度か試してみたのですが、けっきょく使いこなせませんでした。授業で実際に活用されている例やノウハウをもっと知りたいと思います。(福祉非常勤)

新たに manaba の利用をとり入れたが、その活用の仕方になれず、通信の時期や内容などについて不満が残る形となったようなので、今後努力したい。(社会非常勤)

スマートホンのつながりが悪く、円滑に進めることが難しい。ぜひ改善をお願いしたいです。もう少しつながりやすくなると on-time で双方向性の授業が可能になります。(福祉専任)

④ ハード面、その他

講師控室の問題。

講師控室が手狭で、講師控え室がやや狭く、とくに授業直前はやや混雑していました。また、コピー機やコンピュータが一台しかなく、しばしば順番待ちとなっていました。(心理非常勤)。

また次のようなユニークなご指摘をいただいた。よい意味での「遊び心」は授業のなかにも、それを取り巻く環境の面でもよりよい大学教育に不可欠なものであろう。

授業ではなるべく、お互いに教え合うスタイル（ピア学習）をとっている。まるテーブルや創造性をかきたてる絵画、内装をそろえたラフな部屋があるとより学生の活動がさかんになるかもしれない。（英語非常勤）

出席管理システムは、便利なものだが、学生証を忘れた学生がいると教員はそれへの対応に手間をとられてしまう。

学生証の携帯を徹底していただきたい。出席管理システムを使っているが、毎回、学生証を忘れた学生の対応に追われることになり、かえって不便である。（社会非常勤）

以下のコメントは、400 人近い大クラスという特殊な条件はあるにしても、スマホのカメラのシャッター音が、授業進行の妨げとなるという極めて今日的状況を伝えている。

レジュメを配布しないため、スクリーンをスマホのカメラで撮影する学生が大勢いて、シャッター音がうるさい」との意見について→まず、紙でのレジュメを配布しなかったのは、履修者数が多く（385 名）、配布が困難であったという理由によるものです。また、データでレジュメを配布すると、授業に出ていない学生や、かざし逃げをした学生も課題に答えることが出来てしまい、真面目に受けている学生との差別化ができない、という状況でした。いずれにせよ、履修人数の多さとそれに応じた教室の大きさという、環境に起因している問題であると思われます。次年度に関しては、抽選を行なって 200 人以内の受講者数にとどめ、レジュメを配布すると同時に、学生の受講マナーの向上を呼びかけることにします。（社会非常勤）

Ⅲ 学科・専攻における平成26年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 専攻全体としての取り組み

i 社会学専攻としては大体隔週のペースで専攻会議を開いている。会議の内容で大きな比重を占めているのは問題を抱えた学生たちへの対応であろう。そうした学生たちについての対処の方法を検討している。

ii 重度の視覚障害をもつ学生が本年度は2年生になった。彼女が支障なく学生生活を送ることができるように、障害学生支援室や障害学生支援委員会と連携をとりながら、様々な問題を解決していった。教員の方も、レジュメを音声化するために、授業の実施1週間前には支援室の方に提出するといったルールによく従い、協力をしてくれた。

iii 本年度は将来の学部再編に向けて、教員相互の間で本学の社会学教育がどうあるべきかという問題について真剣な議論が重ねられた。

iv また教員の補充人事があり、その際にも、社会学教育の充実のためにどのような人材がふさわしいかという問題について、真剣な議論が重ねられた。

v 5月末の非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考に資した。毎年参加してくださる非常勤の先生も多く、有意義な会となっている。

vi 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比して遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施等、期末レポートの作成をすべての教員が行うことを決めたのである。

その結果のフィードバックが何度かの専攻会議でなされ、改善点が指摘された。教員が一致して指摘していたのは、内容が盛りだくさん過ぎて、消化不要に陥ったきらいがあるということである。そこで平成26年度においては、「基礎セミナーⅠ」においては、共通のテキストを用い、レジュメの作り方の指導と期末レポートを課すところまでをすべてのクラスにおいて必須のものとして、それ以外の図書館ガイダンス、グループワーク等は、教員の選択にゆだねることが確認された。そして「基礎セミナーⅡ」については、テキストの選択は従来どおり各教員の自由にゆだねるものの、アカデミックライティング（論文の執筆方法）の指導と、期末レポートはすべてのクラスにおいて必須のものとするようになった。平成26年度において、「基礎セミナーⅠ」だけではなく、「基礎セミナーⅡ」の授業内容も一部標準化されることになったのである。

また、これまで採点基準と評価の分布については教員の裁量に委ねてきたが、平成26年度からは、「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」とも、Sは全体の1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50パーセントとし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は平成27年度においても継続される。

平成 27 年度は上記のような形で「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」の標準化を行いさらに問題点をフィードバックすることによって改善を目指していきたいと考えている。付記するならば 2 年間用いた「基礎セミナーⅠ」のテキストを平成 27 年度より別のものに変更した。

2) 教員個々の取り組み

i 荒井 芳廣

現在、担当している授業で国際支援に対する学生の貢献について話していますが、学生にできるだけ実践活動（ボランティアやファシリテーター、インターンシップなど）に参加するよう促すため、自ら支援活動（「ハイチの会セスラ」（ハイチの教育支援）、「日本イコモス」（文化財保護の国際組織）、Biblitheque du Soleil（ハイチにある子供の文化活動支援団体）に参加し、また「開発教育協会」や「横浜 NGO 連絡会」の研修会を受講するよう心掛けている。

ii 伊藤 美登里

昨年度に引き続き、文章の書き方について、英語論文の入門的テキストを題材に、入門部分のわかりやすい教授法について、またそれを教えるのは何年生がふさわしいかについて、試行錯誤しました。

iii 大出 春江

2014 年度 F D 活動は 2 年生を対象とした活動について報告する。毎年、東京都町田市にあるワーカーズコレクティブ凡を訪問させて頂いている。ワーカーズコレクティブは「雇うー雇われる」関係を越えた新しい女性の仕事のあり方として生まれたが、現在では女性だけでなく男性も常勤職として働くなど、組織として継続するためにワーカーズコレクティブもまた変化せざるをえない。良質なジャムの生産工場を見学後、試食をしながら代表者のお話を伺った。食の生産・加工・流通の現場を実際にみて食の安全を考えることと、女性の持続可能な働き方を考える機会となった。

2014 年度人間関係学会総会でご講演頂いた秋山正子さんが代表をつとめる「暮らしの保健室」（東京都新宿区）に、夏期休暇を利用して学生とともに訪問させて頂いた。「暮らしの保健室」は地域にとってどのような存在なのか、ボランティアはどのように関わっているのか、高齢者を地域で支えるということは具体的にどのような営みなのかを、学生と共に学ぶ貴重な機会となった。

iv 久保田 滋

2014 年度の F D 活動については、以下の 3 点を重点的に検討した。

- ・身体に障害のある学生への授業対応等について
- ・初年次教育における、リテラシーの習得について
- ・学生間、教員学生間等におけるトラブル時の対応について

v 小谷 敏

法政大学鈴木小林ゼミ、日本大学左幸ゼミナールとの社会学合同ゼミに、2006 年以来参加している 3 年生が参加して、6 月のゼミ訪問、7 月の 3, 4 年合同合宿、10 月の中間報告会、12 月の大学セミナーハウスにおける本報告会と行事は目白押しである。例年、他大の学生の報告のレベルの高さと、先生方の指導の力量に圧倒されている。非常に私自身の勉強にもなっている。ただ合同ゼミにおいても、それぞれの大学の個別のゼミの時間においても、学生たちの自発的な討議が盛り上がらないことへの悩みは、どの先生も共通に抱えているものと感じられた

vi 齊藤 豊

「キャリアデザイン」「企業と産業」の授業用教科書として、非常勤講師の内野好郎先生と共著で『女子大生のためのキャリアデザイン』日本教育訓練センター ISBN・13: 978-4864180528 を作成しました。

URL: <http://www.amazon.co.jp/女子大生のためのキャリアデザイン-齊藤-豊/dp/4864180520>

vii 干川 剛史

- ・講義形式の授業では、私語がなく静かに授業を行うことができるように、同じクラスの学籍番号の近い学生が隣合わないようになどの工夫をして座席表を作成し、指定された席に学生が座るようにしている。また、リアクションペーパーを毎回配付し、出欠を確認するだけでなく、記述内容から学生一人一人の授業の理解度を判定し、それを成績評価に反映させている。
- ・社会学基礎セミナーにおいては、グループワークを取り入れ、司会者の学生を中心にグループの学生たちの意見を集約しながら、議論ができるように工夫している。
- ・オフィスアワーについては、指定してある曜日・時間帯以外に学生が来ても、随時、対応している。

viii 鄭 暎恵

- ① 多摩キャンパスにおける新学部の企画立案
- ② 新学部生の海外留学・インターンシップ先の検討
- ③ 英語で授業をできるように、自分自身の英語力研鑽（1～3 月は、週 4 日、夜間の英語学校に通学）

（２）社会・臨床心理学専攻におけるFD活動への取り組み

各教員のFD活動の取り組み

教員個々の特筆すべきFD上の取り組みを“Ⅰ．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

○６月 ロールシャッハ・テスト研究会：

ロールシャッハテストを用いた面接事例の検討を行う研究会に参加し、心理アセスメントの実際をめぐる教育の在り方について、有益な知見を得た。

○６月・７月 上智大学カウンセリング講座講師：

学部卒業生を含む、一般社会人を対象とする講座にて講師を担当。「心理検査の理論と実際」と題して、実習（ワーク・ロールプレイ）を交えながら、体験的に学ぶことに主眼を置いた講義を行った。

○７月・１２月 絵とことば研究会主催講演会での話題提供：

現役臨床心理士を中心に発足した研究会を主体として、東京（九州大学オフィス）および神戸（甲南大学）にて、修了生を含む心理臨床家を主たる対象とした講演会を共同企画し、臨床現場における描画の言語化をテーマに話題提供を行った。

○９月 大妻臨床心理研究会講師：

大妻女子大学千代田校において、大妻女子大学大学院の修了生が担当する面接事例を検討する研究会の講師を担当した。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

特にありません。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、キャリア心理学セミナーの授業研究を継続して担当した（研究代表：西河正行教授）。

加藤美智子

Ⅰ．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

①「企画・参加」学生理解の為の事例研究会。複数の大学から学生相談担当者や教員が出席し、それぞれの事例を検討する。月１回。

②「参加」バウム研究会。関東圏の大学ならびに心理療法施設の臨床心理士が出席し、バウムテストの見解を学び研鑽する研究会。月１回。

③「座長・参加」学生相談学会において、大学での実習との関連で大学生活適応に支障が生じた女子学生の事例について検討した。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

①「健康教育」を目的とした教材の執筆（共同執筆）「身体と心の対話―食べることの関連で」
山口順子編『健康教育』勁草書房 2015

②教育心理学やコミュニケーション技法とを関連させたカウンセリング入門のテキスト試作を行っている。

③絵本を臨床心理学の理解に役立てるための試みを継続して作成している。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

①大学院生のカリキュラム構成を試案し、専攻の教員に諮った。具体的には、授業相互の関連を明確にし、教員で共通理解をするための話し合いを行った。また、担当している「臨床心理学面接特論 B」の学年配置を M2 にすることを提案した。

田中 優

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

・学部 FD 研修会

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

・授業内で使用する資料

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

・manaba による毎回の授業アンケート

西河正行

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

9 月に日本心理学会第 78 回大会に参加、ポスター発表（連名）を行った。10 月に日本精神分析学会第 60 回大会に参加した。さらに 7 月には第 19 回投映法フォーラム（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）に参加した。これら学会、研修会に参加し、心理臨床の新しい動向について知ることができた。大学院「臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習 A」、「コミュニティ・アプローチ特論演習」、学部「グループワーク A、B」の参考となった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

とくになし。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

『キャリア心理学セミナー』に関する授業研究に基づき、これまでの成果を大妻女子大学人間生活文化研究にまとめることができた。

<論文>

1) 八城薫・西河正行・向井敦子・古田雅明・香月菜々子・加藤美智子・田中優・福島哲夫・堀洋元・松尾藍・千田紗織 (2014). 学生評価からみた積み上げ式カリキュラムの教育効果―学年比較からの検討― 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 1176.

2) 西河正行・八城薫・向井敦子・古田雅明・香月菜々子 (2015). 心理学教育を通じた社会人基礎力の育成 大妻女子大学人間生活文化研究 25, 1-14.

福島哲夫

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

日本女子大学大学院修了生のための研修会「リーブスの会」講師参加

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

『臨床現場で役立つ質的研究法 ―実践での活用から論文執筆まで―』（編著）新曜社（印刷中）

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

前期半年間のお茶の水女子大学における国内研修の間、研修先の大学院の授業に適宜参加し、先方での大学院教育の長所を取り入れる工夫をした。

古田雅明

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

4月 多摩精神分析セミナー講師：大学院修了生の卒後研修会である多摩精神分析セミナーにおいて講師を務め、フェアバーンの生涯と理論について講義を行った。

7月 多摩精神分析セミナー司会：大学院生および臨床心理士向けの研修会「学会発表・論文投稿 はじめの一步」の司会を務めた。

8月 日本初年次教育学会に参加し、高大接続や初年次ゼミなどについて知見を得た。

6月・11月 大妻臨床心理研究会：本学千代田キャンパスにて、大妻女子大学大学院の修了生が担当する面接事例を検討する研究会の講師を担当した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

特にありません。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、キャリア心理学セミナーの授業研究を行った（研究代表：西河正行教授）。

堀 洋元

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- ・学部 FD 研修会に参加した。専攻内外の先生方、そして職員の方々から貴重かつ斬新なアイデアを伺う機会となり、学生の教育環境をより良くするための着想を得た。また、自分自身のアイデアをどのようにしたら形にできるのか、また形にすることの難しさを実感した。

- ・日本心理学会第78回大会（9月10日-12日：同志社大学）の学会企画シンポジウム「心理調査（士）の可能性；社会と学問の関係性としての資格」に参加した。新たな資格に関する動向のみならず、専攻カリキュラムの将来構想を検討する上でも有用であった。

- ・2月25日から3日間の日程で、FDのための情報技術研究講習会（公益社団法人私立大学情報教育協会主催：追手門大学）に参加した。問題発見・解決型授業やチーム学修による対話型授業を用いたアクティブ・ラーニングの具体例を学び、担当授業をアクティブラーニング化する実習を行った。今後の授業計画や専攻カリキュラムを検討する上で非常に有用な機会であった。

- ・3月17日に心理教育におけるアクティブ・ラーニング研究対話集会（公益社団法人私立大学情報教育協会主催：学習院大学）に参加した。心理学教育に特化した他大学でのアクティブ・ラーニング実践例をふまえ、今後の教育方法の改善を再考する良い機会となった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・独自にスライド、あるいは配布資料を作成して、授業時に活用した。とくに統計解析の資料は4年次の卒業論文の執筆まで必要不可欠な参考書となるため、再利用しやすさを念頭に置いて作成した。講義用の配布資料は、各回でA3用紙1枚に収まるよう心がけて作成した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・manabaや紙媒体による学生からの意見や感想を受けて、授業内容や教材の提示方法、具体的には受講学生のニーズに沿った授業展開、およびスライドの文字の大きさやコントラストなどを逐次改善するように努めた。また、授業時間外に課題を行ったり、リアクションペーパーに回答することの意義について図説して、計画的に自学自習する必要性を視覚的に訴えた。講義・実習系科目では、半期の授業を通しての到達目標を初期・中期・後期に提示して、学生が授業のねらいを意識しながら授業に取り組めるよう再三取り上げた。
- ・実習系科目ではSAを採用し、教員が対応しきれない場面（たとえば講義進行中の質問やパソコンの不具合対応）で有用であった。今後はSAが対応する範囲をより明確にして、SAと学生、教員とSAとの信頼関係をより一層確立できるよう努めていきたい。

向井敦子

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

心理学概論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、人間関係総論においては、多人数受講のためパワーポイントの教材を配布し、授業で提示しているスライドから必要事項を各自で記入するようにしている。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

上述の授業において、毎回宿題課題を設定し、回答を求め提出させている。この内容も評価の対象に含めている。

八城 薫

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 大妻女子大学 ラーニングコモンズ・イベント（講師）「遊びの心理—遊びは「やる気スイッチ」を on にする？」

日時：2014年4月26日（土）

場所：大妻女子大学 千代田キャンパス図書館4階ラーニング コモンズ内

主催：大妻女子大学 総合情報センター 千代田キャンパス図書館

- 2) 島根大学 キャリア授業「ビジネスマネジメント」最終成果報告会

日時：2014年8月2日（土）

場所：島根大学松江キャンパス 生物資源科学部1号館2階 会議室

主催：島根大学 教育・学生支援機構キャリアセンター

3) 日本心理学会第 78 回大会シンポジウム (話題提供) 「キャンパスにおけるつながりで不適応を防ぐー研究と実践」

日時: 2014 年 9 月 10 日 (水)

場所: 同志社大学

主催: 日本心理学会

4) 日本心理学会第 78 回大会ポスター発表 「学生評価からみた積み上げ式カリキュラムの教育効果ー学年比較からの検討」 〈発表〉

日時: 2014 年 9 月 10 日 (水)

場所: 同志社大学

主催: 日本心理学会

5) 心理教育におけるアクティブ・ラーニング研究対話集会

日時: 2015 年 3 月 17 日 (火)

場所: 学習院大学 目白キャンパス 北 2 号館 10 階

主催: 私立大学情報教育協会

6) 反転授業のための勉強会 (自主勉強会)

日時: 2015 年 3 月 19 日 (木)

場所: 大妻女子大学 人間関係学部

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」(第 10 章「卒業論文・レポートの書き方」担当)

2) PC ソフトを活用した質的臨床研究法の資料を作成

3) 社会心理学調査研究法一連の資料を 1) に合わせてリニューアル

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) Manaba の有効活用

2) 基礎統計学Ⅰ・Ⅱの授業における①能力別少人数制の実施、②エクセルを用いた授業への転換、③反転授業の取り組み (自学自習向け教材の適用)

3) ゼミ生へのアクティブラーニングの実践

2. 人間福祉学科

人間福祉学科では、社会福祉士、精神保健福祉士及び介護福祉士資格取得を柱とした体系的なカリキュラム編成を組んでいる。社会福祉士国家試験受験資格取得課程は、人間福祉学、介護福祉学の両専攻の学生が履修可能で、例年 70～90 名の学生が履修している。精神保健福祉士課程は人間福祉学専攻で例年 10～20 名が、介護福祉士課程は介護福祉学専攻の学生 30 名程度が学んでいる。社会福祉士、介護福祉士養成カリキュラムは平成 21 年度から、精神保健福祉士養成カリキュラムは平成 24 年度から改正され、新たな科目編成を実施している。

国家試験受験や卒業後の進路は学生によってさまざまだが、どのような進路を歩む学生にも、本学科での学びを通して確かな倫理、知識、技術に根差した実践力を涵養し、福祉現場や就職先の企業等で生かせるよう、国家資格取得を希望するかしないかにかかわらず、個々の学生の意向に応じた専門性の涵養を目標に、教育体制を組んでいる。そのため、講義科目はもちろん、演習科目や実習の進め方においても工夫をこらしているほか、養成カリキュラム以外では 1 年次からゼミ形式の授業を取り入れ、大学での学びや卒業研究に向けた素地づくりに力を入れている。

1) 科目担当者打ち合わせ会議

本項では、少人数クラスで複数教員が各クラスを担当する演習系科目について報告する。厚生労働省の示す社会福祉士養成カリキュラムでは、応用力と実践力を高め、個別指導をより充実するため、実習・演習系科目は 1 クラス 20 人以下で進めることとされている。

①の相談援助実習指導（Ⅰ・Ⅱ）は 2 年前期及び後期、相談援助実習事前指導・事後指導は、3 年次の夏期休暇か春期休暇に実施する相談援助実習の事前準備と事後学習の時間であり、実習に出る時期によって開講時期は異なる。実習先は障害児・者施設、児童施設、高齢者施設、行政機関や民間の相談援助機関など多種多様だが、いずれの施設・機関においても利用者の個別ニーズに専門職として応え得る資質を身につけることが前提であり、実習に向けた少人数制の事前・事後指導を通した学生への個別指導がもつ意味は大きい。

このことは、資格取得課程とは別に開講している社会福祉学基礎セミナーⅠ・Ⅱ（1 年次前期・後期）、精神保健福祉士養成指定科目、介護福祉学専攻における介護技術福祉士養成指定科目、さらに介護実習や精神保健福祉実習の指導科目にも言える。

少人数制の授業はこのようなメリットがある反面、複数教員が共通認識をもって各クラスで授業に当たる必要があり、授業担当者間での打ち合わせが欠かせない。各教員の個性を生かして個々の学生との交流にもとづいた授業展開が期待できる反面、各回の進行、成績評価等の点でバラつきが生じる可能性もあるため、授業期間開始前や終了後だけでなく、期間中であつてもこまめな情報交換や打ち合わせを実施しながら実施している。

①相談援助実習指導及び事前・事後指導【嶋貫 真人】

本学科の両専攻ともに、社会福祉士受験資格取得課程の単位を取得することは卒業要件とはされておらず、1 年後期に開催される同課程の履修説明会を聞いたうえで、履修希望票を提出

した者だけが2年次以降の同課程に進むことになっている。そして、同課程として開講されている多くの科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、3年次に履修する「相談援助現場実習」である。

多くの学生によって、1か月近くの期間にわたって、毎日福祉現場に入って利用者と触れ合うという体験は初めてのことであるため、「実際に現場で支援を行なうということが、本当に自分に務まるのだろうか？」という不安を抱えながらのスタートとなる。そこで、2年前期の「相談援助実習指導Ⅰ」の授業では、障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で相談援助業務にあたっておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、“悩み”や“戸惑い”といった本音も交えながら、現場実践者の生の声を伝えることを大切にしている。さらには、夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員のノルマとして課しているために、サービス利用者とコミュニケーションをとることから得られる確かな“手応え”というものを、この機会に知ることになる。そして、このようなプロセスを経て、それまで学生にとって漠然としたイメージとして理解していただけだった「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な目標として見えてくるようになり、同時に卒業後の進路とも結びつけて考え始めるようになる。以上の過程を通じて、少しずつ現場実習に向けた目的意識が明確になっていくのである。

2年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、1クラス20以下の小人数で編成された授業の中で、現場実習において要求される実践的な能力（ケース記録の書き方等）を学ぶことになる。この科目は複数のクラスが同時に進行する形式をとるため、各クラスでの教授内容や学生に対する要求水準、成績評価の方法等にバラつきが生じないよう、担当教員同士が常に綿密な協議を重ねながら授業を進めていくことになっている。

3年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の履修課程は、夏休みに実習を行なう学生と春休みに行なう学生とで、カリキュラムの進行のタイミングが異なってくるが、いずれのグループにおいても20名以内の少人数制クラスで実習前の「事前指導」、および実習終了後の「事後指導」を行なうことになる。ここにおいても、教員間の十分なコンセンサスの形成と緊密な情報交換が求められることになるが、このような作業は、主として毎月開催される「実習委員会」の場を利用して、じっくりと時間をかけた議論によって行なわれている。また、実習中の巡回指導をお願いしている2名の非常勤講師に関しても、適宜「事前指導」の授業に参加していただくとか、巡回指導を行なう学生との個別面談を行なっていただく等の方法によって、学生との間で円滑な意思疎通を行なえるよう配慮している。さらには、実習開始後の学生の日々の様子や現場指導者の方からの助言内容等については、webを利用して非常勤講師を含む教員全員が情報を共有することができるシステムを採用しているため、何か問題が発生したときには、迅速かつ柔軟な対応をとることが可能となっている。

②相談援助演習【佐々木 幸】

今年度の相談援助演習は「Ⅰ」「Ⅱ」（2年次）「Ⅲ」「Ⅳ」（3年次）「Ⅴ」（4年次）の5段階で、それぞれケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、総合演習を中心に実施された。これらの科目はすべて、社会福祉士国家試験受験資格取得課程の指定科目になっており、

さまざまな事例を検討し、これまで学んだ知識を事例に即して統合しつつ、現場実践に通じる応用力や実践力を養うことを目的としている。

演習・実習科目は1クラス20人以下の少人数制をとっている。各段階とも6クラス構成で実施された。少人数のグループで行う討議やグループワークは、大人数制に比べて討議が活性化しやすく、個々の学生にとっても自らの個性や能力を発揮しやすかったと思われる。

反面、複数教員が同一のシラバス、各回の資料を用いて授業を展開するには視点や意識の共有が必要である。そのため授業期間開始前には1～複数回の打ち合わせの機会をもったほか、各回授業時間の前にも簡単な申し合わせを行った。同じ内容で実施しても、クラスによって学生の反応や雰囲気微妙に違ったことなどから、各教員の工夫について情報交換するきっかけになるなど、少なからず担当教員のスキルアップにもつながったとの声があった。

また、成績評価は筆記試験のほかグループ単位の成果物や個人のレポート等の質的な側面から行うため、各クラスである程度の評価視点の統一が求められ、授業期間終了時期が近づいた時に再度の検討と申し合わせを行ったケースもある。各科目のねらい、学生にとっての達成課題やその評価方法を、教員間だけでなく学生とも共有した上で共に授業を展開できるようにするために、さらなる検討と準備が必要と思われる。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【佐々木 幸】

本科目は、入学直後の1年次前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った点から現場や福祉実践の多様な捉え方を養ったり、大学での学びに必ず求められる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。「Ⅰ」は7名ずつの教員が担当し、1クラス20人以下の少人数制をとっていることから、学生が個性を発揮しやすい。

内容は、おおむね3つに大別することができる。まず担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験をし、最後は学生自身が選択した施設に見学に行き、現場の様子をクラス内で発表する、というものである。学生の全般的な学力低下やさまざまな資質に開きが大きくなり、レポート作成やプレゼンテーションの前段階として、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分の指導に力を入れる必要性が生じている。そのため今年度は、上記3つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」という点でコメントやレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。

進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有が重要である。いずれの科目において授業期間開始前、期間中も複数回、最終評価時に担当者打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないように配慮した。

課題等については、入学後間もない1年生にとっては負担も大きいですが、反対に達成感もあったようだ。専門科目以上に学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れることで、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡの授業展開に関する検討及び実施について【藏野 ともみ】

本セミナーは人間福祉学科 1 年生を対象として、社会福祉学基礎セミナーⅠで身につけた大学で自ら学ぶための基礎力を踏まえ、各自が社会福祉や介護福祉の研究課題を見出し、それに取り組む方法を学ぶことを目的としている。全てのゼミが共通した「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」をテーマに掲げ、最終的には「グループ討議・作業を通して、一つの研究課題を見出し、各グループでまとめ、プレゼンテーションを行うこと」としている。

今年度も昨年度と同じ 6 名の専任教員と 1 名の非常勤講師が本科目を担当し、授業目標及び授業展開方法、プレゼンテーションツール、さらには各ゼミで課している自宅学習等についても情報交換のうえで、共通理解をして授業を進めた。

また今年度は、5 月に実施された「非常勤講師との教育懇談会」を活用し、社会福祉学基礎セミナーⅠでの教授内容を踏まえるよう担当教員間で意見交換を行った。

(写真) 平成 27 年 1 月 14 日、合同授業でグループ研究発表を行った。



⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

平成 21 年度より、新しい介護福祉士養成教育カリキュラムに移行した。これに合わせ、介護実習は、「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である 450 時間の 3 割を占め、介護過程を展開することを目的としている。介護福祉学専攻では、「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」までの 4 段階に分けて実施している。「介護実習Ⅰ」は、2 年次に介護老人保健施設で 12 日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3 年次に障害児・者施設で 12 日間、「介護実習Ⅲ」は、3 年次に介護老人福祉施設で 28 日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4 年次に居宅介護サービス事業所で 5 日間を実施する。介護実習は、2 年次から 4 年次までの間に、計 57 日間、456 時間実施される。本専攻では、介護福祉士養成カリキュラム変更後、実習の仕組みは変わらず、「介護実習Ⅰ」「介護実習Ⅱ」「介護実習Ⅳ」を「実習施設・事業所（Ⅰ）」とし、「介護実習Ⅲ」を「介護施設・事業等（Ⅱ）」に位置づけた。これに伴い、従来以上に実習の目標を明確化したため、各段階の実習目標を達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開し、6 年が経過した。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を 2 年次前期から 3 年次後期に配当している。「介護総合演習」では、グループ演習を

通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業で発表し、ケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥介護技術科目【壬生 尚美】

生活支援技術（介護・家政）は、介護福祉士養成カリキュラムの中でも実践力をつけるための中核となる科目である。「尊厳の保持」「自立・自律の支援」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援技術を用いて、利用者が安全・安楽・安心できる技術・知識を習得することをねらいとしている。1年次から3年次までの配当年次に、介護実習時期（2年次夏季・春季、3年次夏季）との関連性や他教科との関連も含め、何をどのように教授していくかが重要となる。1年次は、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、介護動作の基本となる移動に関する支援方法を中心に学び、2年次は、食事・排泄・清潔等に関する日常生活支援方法、3年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。

今年度は、外部講師による特別講義として、歯科医師並びに歯科衛生士の「口腔ケア」講義・演習、リハビリテーション医による「生活のリハビリテーションと介護職員の役割」の講義のほか、消防署員による「心肺蘇生、自動体外式除細動器（AED）の使用法」の講義・演習などを取り入れて、授業内容を充実させた。

通常の授業に関しては担当教員間でズレのないように授業内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。演習では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から技術を実施・評価している。2・3年次の夏季実習後には、実際の介護現場で実践されている技術を、グループで検討しプレゼンテーションするなど、実践力を高めている。

4）福祉実習の実習発表会、福祉実習教育懇談会【実習委員長 嶋貫 真人】

平成26年度の福祉実習発表会・教育懇談会（人間関係学会福祉分科会）が1月28日に開催された。当日の前半の部では、26年夏に社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各課程の実習を行なった学生から選出された9名が、スライドを使って実習中の学びについての報告を行なった。自らの学びの成果についてわかりやすい言葉で人に伝えるという経験は、学生たちの資質をさらに一段高いステップへと引き上げ、将来福祉現場で働くうえで必要な実践的な力の醸成につながっていくのではないかと思われた。また、当日は学生たちが実習を行なった施設・機関からも多くの指導者の方にご参加いただき、報告の内容に熱心に耳を傾けてくださった。終了後に指導者の方から感想をうかがったところ、「利用者を丁寧に観察し、一生懸命に寄り添っていかうとする学生たちの真摯な姿勢に、福祉援助者としての原点を教えられたような気がする」という声も聞かれた。

後半の部では、在學生はそのまま卒業生の講話を聞く会へと移行し、教員は会場を換えて実習指導者との懇談会を行なった。卒業生講話では、社会福祉協議会・病院・特別養護老人ホーム等、さまざまな福祉分野で活躍している4名の卒業生を招いて、それぞれの職場の様子、学生時代の思い出、そして社会福祉士試験に向けた勉強法等に関する話を聞く会となった。将来の自分の進路についてまだ手探り状態にある在學生にとって、さっそうと現場で活躍している先輩の姿はとてもまぶしく映るものであるが、一方で、語られる思い出話の中に「ああ、自分と同じ悩みをもっていた時期があったのだ」と気付かせてくれる言葉もあって、学生にとっては強く勇気づけられ、励まされる瞬間となったのではないかと想像される。今後もこのような先輩・後輩の絆を大切にしながら、「大妻の人間福祉学科」としての伝統をさらに確かなものにしていきたいと、決意を新たにするとした。

一方、福祉教育懇談会では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の各分科会に分かれて、実際に実習指導にあられた施設・機関の指導者の方と意見交換を行なった。会議の中では、26年度の実習を振り返って、今後の実習に向けた活発な意見が出された。この懇談会は毎年このような形で実施されているものであるが、このように施設の指導者と教員とが直接顔を合わせて話し合う機会をもつことで、大学側・施設側それぞれの教育現場内で見落としがちな指導上の留意点に相互に気付かされるため、非常に有意義な会であると実感している。今後も実習先指導者との緊密な協力関係を保ちながら、さらに充実した現場実習の実現を目指していきたいと思う。

5) 地域連携プロジェクト

大妻女子大学では、地域社会と連携し、地域の活性化につながる活動や在學生が主体的に参加する活動又は成果を在學生の教育に反映できる活動を推進するために「地域連携プロジェクト」を推進している。「地域」とは近隣地域に限らず、本学を取り巻くあらゆるステークホルダーを含むものであり、社会全体の福祉ニーズに応えうる人材を育てる本学科にとって「地域連携」は不可欠な活動の一つであると言える。本学の教職員で構成されるグループ、あるいは本学の教職員と学生で構成されるグループによる取り組みを原則とし、平成26年度は本学科から小川教授と蔵野教授による2組のプロジェクトが採択された。

①「大学生と障害のある人が働き、学び、遊ぼうプロジェクト」【小川 浩】

昨年度、人間福祉学科の教員・学生の有志で、「地域連携プロジェクト」の下、学生と障害者福祉施設が協働し、福祉施設の製品であるパンや焼き菓子を学内で販売する活動「大妻 de かたくり」を行った。初めての取り組みであったが、美味しい、便利、学内が活性化されるなどの意見があったため、今年度はより発展した内容で「大学生と障害のある人が働き、学び、遊ぼうプロジェクト」を企画した。

「働こう」の企画としては、地域の福祉施設と連携し、学内でのパン等の販売を継続して行った。昨年度からの継続である「社会福祉法人由木かたくりの会」との連携では、毎週木曜日に人間関係学部棟1階で販売したことに加え、今年度からは新たに社会情報学部棟でも月に1回販売を行った。また、今年度から「社会福祉法人正夢の会」とも連携を始め、人間関係学部

棟にて月に2回、ベーグルサンドや弁当等の販売を行った。目新しさが薄れたためか、昨年度に比べるとやや売り上げは減少したが、年間を通して継続することができ、学内での福祉施設生産物の販売が定着したことは一定の成果であるといえる。

今年度の新たな企画である「遊ぼう」については、2月6日に、「社会福祉法人みずき福祉会 町田福祉園」の利用者6名、職員4人が来校した。プロジェクトの学生4人と一緒に学生食堂で食事をした後、体育館棟1階トレーニングルームで、体を動かしたり、職員の方のギター伴奏で歌を歌ったりなど、楽しい時間を過ごすことができた。学生は、知的障害のある人の食事介助や移動介助を行い、またトレーニングルームで一緒に体を動かして遊ぶなど、自然体で関わることができていた。障害のある人、施設職員、学生が一緒になって穏やかな時間を楽しむことができ、文字通り「遊ぼう」の企画を実行することができた。町田福祉園の方からは、「ご利用者様もいつも福祉園では見ることのできない表情をされていて、本当に楽しいんだと感じ嬉しく思っています。ご利用者様に対する学生さんの対応も素晴らしく、私たちも良い刺激となりました。」とのコメントを頂いた。

最後に「学ぼう」については、今年度は連携を予定した施設側の都合で実現することができなかったため、来年度の課題としたい。



②「誰もが子どもを見守り隊プロジェクト～児童虐待防止啓発活動～」

【藏野ともみ、佐々木 幸】

本プロジェクトは、昨年度から人間福祉学科の学生と取り組んだ児童虐待防止啓発活動を受け継ぎ、本学の地域連携プロジェクトの一環として、平成26年7月から平成27年3月にか

て実施した。次代を担う世代として学生（人間福祉学科 蔵野ゼミ・佐々木ゼミ・精神保健福祉士コース 3・4 年生 28 名）が中心となり、現在子育てをしている親に対してだけでなく、高齢者や障害者を含む地域住民、近い将来親になるだろう大学生にも児童虐待の実態の理解と、その防止のために誰もが「子どもを見守る」立場で、自分にできる子育て支援を実践しようという呼びかけを行うことを目的とした。

活動は、児童虐待の実態について学ぶことから始めた。児童虐待防止啓発という視点に留まらず、大学生も社会の一員として、また大人として子ども達を守る立場にあると考え、多くの人に「誰もが子どもを見守り隊」になり得ることを伝えていく活動とした。

まずはオリジナルキャラクターを作成し、誰もが分かりやすい漫画と、さらに自分たちで作成したリーフレットを子育て支援の専門職に見て頂き、アドバイスを得て加筆修正を行った。

それらを他学部や他大学の学生や、大学祭に来てくださった地域の方々、あるいは高校や高齢者施設等を訪ねて、オレンジリボンと共に配布しながらお話しし、賛同を頂いた方には笑顔の写真を撮らせて頂いた。

お話しする中では、ネガティブな反応があったり、一方で積極的に賛同してくださる方もおられたりする等、学生は社会の声の一部を知ることができた。

また、活動を振り返る中で、まずは学生たち自身が「知ること」の必要性和責任を感じ、さらに発想を豊かにしていくことも大切だと考える機会となった。ただ虐待がダメだというだけでなく、自分がどの様に行動ができるのかを考えていくことが大切だと考えるという声が上がった。また福祉専門職の卵としても当事者の言葉と想いに必ず目を向けることの大切さを実感することができたという言葉もあった。

自分たちが考えて働きかけると必ず反応があり、また考えて行動を起こす経験を通して、学生間にも葛藤が生まれている。プロジェクト期間だけでなく、関心を持って取り組んでいきたい。



*オレンジリボンを持って「笑顔」



*子育て支援専門職による講義

（１）人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という３項目をまとめた。

①町田 章一

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

（１）第22回 ダンスセラピー研修講座（事務局長として参加）

日時：2014（平成26）年5月31日（土）～6月1日（日）

場所：宝仙子ども教育大学（東京都中野区）

主催：日本ダンス・セラピー協会

（２）第24回 健康運動指導士会 埼玉県支部研修

日時：2014（平成26）年7月6日（日）

場所：埼玉共済会館

主催：健康運動指導士会 埼玉県支部

（３）平成26年度 教育改革FD/ICT戦略会議

日時：2014（平成26）年8月6日（水）13：00～17：50

場所：明治大学駿河台キャンパス（東京、神田）

主催：私立大学情報教育協会

（４）芸術療法研修セミナー2014（理事、研修委員会委員長として参加）

日時：2014（平成26）年8月9日（土）～10日（日）9：10～15：30 2日間

場所：上智大学（東京都千代田区）四谷キャンパス 上智紀尾井坂ビル

主催：日本芸術療法学会

（５）第24回 日本ダンス・セラピー協会 学術研究大会（事務局長として参加）

日時：2014（平成26）年9月6日（土）～7日（日）

場所：宝仙子ども教育大学（東京都中野区）

主催：日本ダンス・セラピー協会

（６）第31回 日本言聴覚論研究大会

日時：2014（平成26年）9月13日（土）

場所：大妻女子大学千代田校（東京都千代田区）

主催：日本言聴覚論研究協会

（７）第37回 私立大学の教育・研究充実に係る研究会（大学部の部）

日時：2014（平成26）年11月6日（木）10：30～20：00

場所：私学会館（アルカディア市ヶ谷、東京、市ヶ谷）

主催：日本私立大学団体連合会

（８）第46回 日本芸術療法学会大会（理事、研修委員会委員長、座長として参加）

日時：2014（平成 26）年 11 月 29 日（土）～30 日（日）

場所：名古屋大学

主催：日本芸術療法学会

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業で用いるための教材、配布資料を改定した。また、「人間関係総論Ⅲ」の授業においては、学生から毎回寄せられる感想や質問に対し、それらを紹介したり回答した資料を毎回作成し、次の授業で用いた。この資料は全体で A4 版 114 頁になった。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

他者が行なう講義や講演に可能な限り出席し、「良い講義とはどのようなものか」について、学生の立場から検討する努力をしている。

世代による文化や常識の相違を認識するために、学生世代の生活、思想、行動などについての情報獲得に努力している。

②松山 博光

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

（１）学外の企画・参加に関しては、特記事項なし。

（２）2014 年 12 月 5 日開催の FD 研修会「多摩キャンパスで学ぶことの意味と可能性」

→ 将来の学部再編や多摩キャンパスのあり方を検討する上で大変役立つ研修内容であった。とりわけ、参加者が多摩地域の地理的環境と住民の特徴（高齢化）を踏まえた大学の必要性（地域貢献）を共有化できた。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

（１）相談援助実習において、福祉施設で役立つオリジナルのアセスメントシート・ケアプランシート・エコマップ（学生講評）を作成した後、学生に各シートを実践現場で使用させ事後指導に役立てた。

（２）テキスト『高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）の改訂第 4 版を作成し、出版前の各種データを配布して講義に役立てた。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

（１）講義ノートづくり

（２）定期的な課題（レポート作成）の提示

（３）国家試験レベルの定期試験の問題作成

③小川 浩

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

（１）2014 年 7 月 4 日開催の FD 講演会「女子大学におけるインターンシップについて」

- (2) 2014 年 12 月 5 日開催の FD 研修会「多摩キャンパスで学ぶことの意味と可能性」
- (3) NPO 法人ジョブコーチ・ネットワークが行うジョブコーチ・就労支援に関する研修会

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

株式会社みらい「就労支援」の編集

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

国試対策を念頭に置いた知識習得、障害者福祉の魅力や実践の面白さを伝えるための経験談、視聴覚教材、外部講師の活用などをバランス良く取り入れるように努力している。後期は、グループホームで働く卒業生、NTT の特例子会社で働く全盲の方の特別講義を行った。

④嶋貫 真人

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- (1) 2014 年 7 月 4 日開催の FD 講演会「女子大学におけるインターンシップについて」
- (2) 2014 年 12 月 5 日開催の FD 研修会「多摩キャンパスで学ぶことの意味と可能性」

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「社会福祉学セミナーⅠ～Ⅲ」では、最近議論になっている社会保障の各領域のトピックについて、裁判例や学説の状況を初学者向けにわかりやすくまとめたプリントを作成しました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。学部生向けの社会保障法の演習教材として市販されているもののほとんどは、法学部で実定法を専門的に学んでいる者を念頭に書かれており、社会福祉系の学部生にふさわしい教材は今のところ見当たりません。そこで、上記のような福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材の執筆を今年度も引き続き行ないました。また、4 年生で社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（社会保障、低所得、福祉行財政、権利擁護、更生保護）の改訂を行ないました。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

実習事前指導の授業では、視覚教材を積極的に取り入れた授業を試みました。

⑤丹野 真紀子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- (1) 2014 年 7 月 4 日開催の FD 講演会「女子大学におけるインターンシップについて」
- (2) 2014 年 12 月 5 日開催の FD 研修会「多摩キャンパスで学ぶことの意味と可能性」
- (3) 日本介護福祉学会大会への参加

開催日：2014 年 10 月 4 日（土）5 日（日）

場 所：日本社会事業大学

テーマ： 未来を拓く介護福祉の可能性を求めて～

内 容：「在宅介護」と「在宅医療」に関する記念講演のほか、ハンセン病患者の生活実態に関する講演、資料館見学が企画されおり、ポスターセッションがあった。

基礎ゼミで、ハンセン病資料館の見学を奨励しており、その参考にもなった。

(4) 日本社会福祉学会に参加

開催日：2014年11月29日（土）30日（日）

場 所：早稲田大学

テーマ：社会福祉は日本の未来をどう描くのか

内 容：大会校企画シンポジウム、口頭発表等があった。

口頭発表をし、効果的で質の高いスーパービジョンの方法について考えることができた。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ－A」「社会福祉援助技術論Ⅱ－B」「社会福祉援助技術論Ⅲ－A」「保健医療サービス」の4科目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加え、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

(2) すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。また、授業が関連を以て進められていることに気付く効果もある。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 学生に課した個別課題に関しては、全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。

(2) 社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。

(3) 相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。

(4) 相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考

えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。

(5) ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全員参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方をまず学生が実践し、多くの学生に板書してもらうことを通して、全員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識して作成している。

⑥蔵野 ともみ

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 平成 26 年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加
日時：①平成 26 年 8 月 20 日(水)、②平成 26 年 9 月 3 日(水)

場所：日本社会福祉士養成校協会事務局(東京都品川)

内容：本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、日本社会福祉士養成校協会が厚生労働省から委託を受けている「社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会」である。今年度も「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。各回 30～40 名程度の受講者に対して、「演習方法の概要」について講義形式を取りながら、受講者と双方向で議論を行った。また、演習形式の「相談事例を活用した総合的かつ包括的な相談援助実践の実際」では、医療機関の事例を用い、6 回(90 分×6 回)の授業シラバスを提案し具体的な教材を提示し、演習の展開方法や学生指導の工夫点とポイントについて提示した。

(2) 平成 26 年度認定社会福祉士特別研修に協力講師として参加

日時：①平成 27 年 1 月 10 日(土)～11 日(日)、②平成 27 年 2 月 28 日(土)

場所：①全理連ビル(東京都渋谷区)、②中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)

内容：本事業は、2007 年の社会福祉士及び介護福祉士法改正の際に付帯決議で示された専門社会福祉士に関わる研修であり、日本社会福祉士会に併設された認定社会福祉士認証・認定機構が主催するものである。3 年前より認定社会福祉士研修が始まっており、国家資格取得後、厚生労働省通知に定められている相談援助実務経験が過去 10 年以内に 5 年以上ある社会福祉士に対し、実施されるものである。本制度はまだ始まったばかりで、今後社会福祉士の社会的認知や質の担保をしていくためにも必要な制度であるにも関わらず、全国で展開するための講師の人材不足が現状である。そのため研修受講の機会を確保することが難しく、本研修を全国に展開できずにいる。その研修講師となるべく、本年度は協力講師として、演習「ピアスーパービジョンの手法を用いた事例検討」のファシリテーターとして参加し、受講者への助言・指導を行った。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 授業のレジメを単元毎あるいは全部を初回の授業で配布している。

科目は、「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助演習Ⅰ」「精神保健福祉援助実習指導」「社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱ」である。それらに加え、新しい制度や学生からの質問の対応については必要に応じて別途プリントを配布した。

事前に授業レジメを配布することで、目的と授業内容の全体像を把握させ、予習・復習及びレポート作成等の学習の進め方の指示を行うことをねらっている。さらに、授業が進んでも以前の内容に戻る際、資料を分かりやすくすること等の効果をねらっている。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 相談援助技術に関わる演習科目の研究会の実施

相談援助の演習科目について他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施した。今年度は、学生がグループ作業を通じて学ぶ形態が多い本科目の特徴に着目し、教員に必要な教育技術について意見交換を行うことを目的とした。参加者は10名で、1日目の午前を使ってグループワーク展開の教育上の課題について検討し、午後及び2日目に実際に学生に対して模擬授業を実施してさらに意見交換を行う合宿形式であり、平成26年9月1日(月)から2日(火)に、日本福祉大学で行った。

(2) 精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携

今年度も当該科目の配属実習前に、全実習指導者(スーパーバイザー)に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。また、実習先主催の打合会に参加し(6月14日:社会福祉法人 豊芯会事務所)、他大学の教員及び学生、施設職員及び当事者の4者での打ち合わせ・見学を行った。

上記の取り組みにより、学生のキャリア指導をする機会も得ることが出来ている。本実習は就職活動と同時進行で行うことになるため、実習体験が学生のキャリア選択に大きな影響を与えている。そのことも踏まえ、実習指導者との意思疎通は重要であると認識している。

⑦上野 優子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 課程認定校研究連絡会議「平成26年度全国研究集会・総会」

日時:平成26年6月8日(日)

場所:東京都日本レクリエーション協会

内容:福祉レクリエーション・ワーカー課程認定校としての研修会

カリキュラムの一部変更に関する内容、ならびに学内審査に関する事項についての確認

(2) 第11回 東京都レクリエーション研究大会参加

日時:平成26年12月7日(日)

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

内容:女性、子どもを対象にしたレクリエーションの有効性について、NPO 法人代表者、小児科医らによるシンポジストの講演に参加した。また、4ブロックに分かれての具体的なレクリエーション活動の技法の講習を受講した。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 「スポーツD」、「レクリエーション実技」の授業は、昨今の女子大生に値する年齢層

を考慮し、新しい試みとして、アロママッサージなどを取り入れた。それらに関する講習会やアロマやハーブについてのわかりやすい初心者向けの資料を作成した。

(2) 昨年度より実施の福祉レクリエーション・ワーカーの学内審査について、筆記試験ならびに実技テストについて、予想問題集を作成し受験希望者に解説を実施した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 今年度は、地域貢献にも取り組む予定とし、特にゼミ学生を中心に、「より良い街づくり」について、多摩ネットワークの企画に参加した。いろいろな問題提起や考案内容があり、また、他大学の学生との交流も深まった。

(2) 多様な学生がいるので、昨年度に引き続き、集団での授業がなじめないなどの学生については、再度の個別授業を実施した。

⑧井上 修一

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 2014 年度 山形県特養家族会連絡協議会主催／研修会の講師として参加

日時：平成 26 年 11 月 17 日（月）13：30～16：30

場所：山形国際交流プラザ・ビッグウイング 4 階研修室

内容：『特別養護老人ホーム入居者家族への支援』

特養家族の実態と支援方法について講演した。また、山形県特養家族連絡協議会の活動について時系列的にまとめ、現状と今後の方向性について言及した。

(2) 2014 年度 権利擁護センター・ぱあとなあ東京第 5 回継続研修

日時：平成 26 年 11 月 23 日（日）9：50～11：50

場所：中央大学多摩キャンパス 3 号館 3114 教室

内容：『成年後見人として知っておきたい税の話』

被後見人の財産管理をする者として知っておかなければならない税の知識（相続税の改正点等）を中心に研修を受けた。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) テキスト：『介護福祉士国家試験解説集』中央法規、2014 年

執筆担当：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内 容：担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法の第 4 章に定める義務と日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。

(2) 社会福祉援助技術現場実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ

社会福祉援助技術現場実習事前・事後指導場面において、2 人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。

⑨小林 哲也

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 第 10 回 社会福祉士育成推進大会への参加

開催日：平成 26 年 12 月 8 日

場 所：アオーレ長岡 市民交流ホール

テーマ：福祉人材の育成と確保

内容：社会福祉士養成校協会関東甲信越ブロック主催でおこなわれた第 10 回社会福祉士実習教育推進大会に参加した。午前はシンポジウム、午後は参加者によるグループディスカッションがおこなわれた。午前のシンポジウムでは、人材育成という観点から現場の職員、大学職員、大学を卒業したばかりの社会福祉士、三者から意見交換がおこなわれた。午後は、自分が希望するテーマに分かれて少人数によるディスカッションがおこなわれた。希望したテーマは「現場で求められる社会福祉士の役割」である。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 中央法規出版「2015 介護福祉士国家試験過去問題集」(介護福祉士国家試験受験対策研究編集)のうち、「社会の理解」を担当した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) ファーストオーサーとして論文を執筆

小林哲也、佐々木幸、川廷宗之他「社会福祉士養成における相談援助実習指導の評価方法に関する研究」『人間生活文化研究』第 24 巻

（２）介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という３項目をまとめた。

①佐藤 富士子

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

【企画①】

開催日：11月18日（担当壬生）、11月17日（担当佐藤）わあーくわかば（担当佐々木）障害福祉サービス多機能型 しごと場大好き（担当 金）

場 所：指定児童デイサービスⅡ型（スマイル） 認知症施設グループホーム（ゆらり並木）、

テーマ：リスクマネジメント「介護事故を防ぐためのリスクマネジメント」「ケア記録書き方」

内 容：東京都は26年度福祉・介護人材キャリアパス支援事業として補助金交付で福祉施設職員への事業「リスクマネジメント」に介護福祉学専攻教員壬生尚美、佐々木幸、金美辰、佐藤富士子の4名で申請を行い、各施設の職員を対象に各教員が講義を行った。

【企画②】

介護福祉士養成大学連絡協議会会長校として総会及び研修会を企画

開催日：2014年6月14日

場 所：大妻女子大大学多摩キャンパス

テーマ：「介護福祉士養成大学卒業生が語る～大学で介護福祉学を学ぶこと～」

内 容：養成教育大学卒業生として、渡辺彩友美氏（特別養護老人ホーム等々力の家）、保戸田裕美氏（なぎさ和楽苑地域包括支援センター）、甲木恵氏（富士見台特別養護老人ホーム）、五十嵐梢氏（地域密着型特別養護老人ホーム梅が丘）、天野由以氏（目白大学人間学部人間福祉学科）の5名より、大学における介護福祉士養成教育が卒業後にどのように生かされているか等について様々な視点から発言していただいた。会場校の学生を含めた大学の学生110名から、4年間の教育から介護を学ぶことの意義や、今後の学習につながる良い機会となったという感想があった。発表者の甲木恵氏と保戸田裕美氏は当校の介護福祉学専攻の卒業生である。

【参加①】

開催日：2014年11月19日～21日

場 所：三重県四日市都ホテル

主 催：公益社団法人介護福祉士養成施設協会全国介護教員研修会主催

テーマ：介護福祉士養成施設の教育機能を地域社会へどう活かすか

内 容：利用者に応じた介護過程が展開できるようにという最終目標は同じであっても、教材や教育方法については各養成課程で様々な工夫がされていると考える。しかしながら、知識や技術を統合していく一連のプロセスの学びにはまだまだ課題が多いと考える。そこで「介護過程」の授業の悩みを共有し、教育方法についての議論を深めることを目的としたワークショップ

プ「介護過程の教育方法」で特別講師として参加した。

【参加②】

開催日：2014 年 8 月 22 日

場 所：長野県長野市ホテルメトロポリタン

主 催：公益財団法人日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック教員研修会

テーマ：介護人材確保の現状と養成教育への期待

介護福祉士養成教育について医療的ケア（50 時間）が教育課程に追加された。2 年課程の養成施設では授業が行われていないが、4 年制大学の当校では全国に先駆けて授業が行っていることもあり、「求められる医療的ケアの具体的内容と実践」というテーマで、講師として授業展開について発表した。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「生活支援技術」で使用するテキスト（中央法規出版）の改訂

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

科目が社会の人口構造や制度の影響に左右されることが多いので、新聞、雑誌等マスコミの情報に関心を持ち、授業展開に活かしている。

②川延 宗之

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

①日本社会福祉教育学会での研修企画など

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

①各科目ごとに、授業用資料教材の作成

②テキスト関連は、2014 年度は無し

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

①各授業でのレポート課題等の返却の徹底等

③尾久 裕紀

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 大学セミナーハウス第 4 回新任教員研修セミナー

日時：平成 26 年 9 月 1 日（月）、2 日（火）

場所：八王子セミナーハウス

内容：「困難を抱える学生理解」「学生参加型授業の実践」「大人数教室での効果的な授業運営方法」「学生授業アンケートを授業改善に活かす」などのテーマで、各講師がファシリテーターとなり、参加教員がグループで討論することで大きな気づきとともに実際の授業運営の参考にな

った。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 毎回オリジナルプリントを作成し、配布した。
- 2) 授業の初めに前回範囲の確認テストを実施した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) manaba を活用し、オリジナルのドリルを作成し、実施した。

④壬生 尚美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 介護福祉士養成大学連絡協議会研修会の企画・運営

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）12:30～16:00

場 所：大妻女子大学 多摩キャンパス

テーマ：『介護福祉士養成大学卒業生が語る～大学で介護福祉士を学ぶこと～』

内 容：荏原順子委員をコーディネーターに、養成教育大学卒業生として、渡辺彩友美 氏（特別養護老人ホーム等々力の家）、保戸田裕美 氏（なぎさ和楽苑地域包括支援センター）、甲木恵 氏（富士見台特別養護老人ホーム）、五十嵐梢 氏（地域密着型特別養護老人ホーム梅が丘）、天野由以 氏（目白大学人間学部人間福祉学科）の 5 名より、大学における介護福祉士養成教育が卒業後にどのように生かされているか等について様々な視点から発言していただいた。会場校の学生を含めた大学の学生 110 名から、4 年間の教育から介護を学ぶことの意義や、今後の学習につながる良い機会となったという感想があった。

- 2) 第 22 回日本介護福祉学会の参加

日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土）・5 日（日）

場 所：日本社会事業大学

テーマ：『未来を拓く介護福祉の可能性を求めて～』

内 容：1 日目は「在宅介護」と「在宅医療」に関する記念講演のほか、ハンセン病患者の生活実態に関する講演、資料館見学が企画されおり、ポスターセッションがあった。

2 日目は、ワークショップで「介護福祉の研究入門」に参加し、学生の卒論指導に役立てることができた。

- 3) 全国教職員研修会の参加

日 時：平成 26 年 11 月 19 日（水）～21 日（金）

場 所：四日市都ホール

テーマ：「介護福祉士養成施設の教育機能を地域にどのように活かしていくか」

内 容：1 日目は、「福祉・介護を取り巻く政策の整理と介護福祉士教育への期待」と称して、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課の武内和久氏の講演があり、その後、大会テーマに関するシンポジウムが開催された。養成施設協会の副会長大橋正行氏をコーディネーターに、シンポジストとして「地域包括ケアシステムと“地域型”介護サービスへの示唆」太田貞司氏、

「挑戦型（地域貢献型）社会福祉法人の構築」全国老人社会福祉施設協議会太田二郎氏、「日本介護福祉士会の展開と地域の介護福祉士会の役割」介護福祉士会会長石橋真二氏、「外国人介護人材の地域への受け入れ方策について」安里和晃氏が発言された。今後は‘地域’がキーワードとなり、如何に教育における地域との連携・活用をしていくかが課題であることが示された。

2 日目は、ワークショップを中心としており、第 2 分科会「介護福祉士養成教育カリキュラムの評価をどう考えるか」に参加した。カリキュラム評価をするにあたり、横山孝子氏より示唆をいただき、教育理念を如何に教育実践に具現化していくか考えさせられた。

3 日目は、教育フォーラム「介護福祉士教育の“拡がり”を展望する～過去との対話、未来への提言～」、特別記念講演「命の授業～今の幸せに気づくことから夢はひろがる」があり閉会した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

特になし。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

担当科目の目的や対象者に合せて、講義形態や教授内容を踏まえた教授育方法について昨年度の経験を踏まえて見直しを行った。教育内容では、実践的な研究課題を取り上げ紹介することによって、他分野の学生に関しても福祉・介護現場の現状課題に興味・関心を持った様子だった。授業内容の組み立て方や発表方法など変更することによって、より内容を深めることができた。

⑤金 美辰

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第 8 回「日本自立支援介護学会」

開催日：2014 年 5 月 24 日（土）・5 月 25 日（日）

場 所：銀座ブロッサム（東京都中央区銀座）

2) 第 56 回「日本老年社会科学会」

開催日：2014 年 6 月 7 日（土）・6 月 8 日（日）

場 所：下呂交流会館アクティブ（岐阜県下呂）

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業では、レジュメを作成・配布している。授業と関連のある新しい制度の社会の動向等については、別途プリントを配布している。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業を行っている。生活支援技術の授業では、学生が利用者・介護者・観察者の立場で、

講義で習った介護の理論に基づいて、根拠を考えながら取り組めるようにしている。また、教員間で教える内容にズレがないように、事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで、連携しながら授業の質向上に努めている。社会福祉学基礎セミナーⅡでは、授業が始まる前に、担当教員間で打ち合わせを行い、授業の調整を行っている。社会福祉学セミナーでは、在日外国人の集住地域で住民と交流するなどし、多文化共生のあり方について理解を深めている。また、学生と一緒に、一日デイサービスを企画、実施した。地域の高齢者と交流し、高齢者の現状を把握するほか、企画力・実践力を身につけられるように努めている。

⑥佐々木 宰

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 【企画】東京都介護福祉士会国際協力委員会 介護福祉士のための国際協力セミナー及びシンポジウム（平成 26 年 6 月 14 日（土）JICA 地球ひろばセミナールーム）

EPA（経済連携協定）による外国人介護福祉士候補生の受け入れや、今後見込まれる外国人技能実習制度の介護分野での受け入れ等を視野に入れ、標記セミナー及びシンポジウムを企画・運営した。シンポジウムでは、池田敦史氏（首都大学東京 健康福祉学部 特任准教授）、内田千恵子氏（日本介護福祉士会 副会長）、蔵本孝治（東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長）の 3 名で行い、多数の参加者を迎えて活発な議論ができた。セミナーでは、現在東京都及び近郊で介護職として働く外国人や、言語・生活習慣等の面で彼らをサポートする方々のお話を伺った。介護福祉学専攻の学生 2 名も参加した。

2) 【企画】東京都介護福祉士会八王子ブロック主催研修「介護職にとってのパーキンソン関連疾患のケア」（平成 26 年 7 月 26 日（土）八王子学園都市センター）

八王子ブロック会員主催の初の研修として、市内医療機関で地域リハビリを実施している金森宏氏をお迎えして研修を実施した。研修前の午前中には、参加者どうしでパーキンソン関連疾患をもつ利用者に対する介護に関する経験を話し合う場を設けるなどの工夫を行った。これまでの経験上、疾患に関する研修は医療的立場からの知識の伝授に留まり、介護専門職として日々の実践にどう生かすかという点まで到達できないことが多いが、午前中の情報交換により学びのポイントが明確化したようだった。参加者からの評価もおおむね高かった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

全科目、オリジナルのレジュメを作成して授業で使用した。講義内容を補足する情報や学びを深めるための情報（新聞記事など）を多用したことで、レジュメに対する評価は高かった。

また現在、他大教員を含む有志メンバーで、介護福祉関係のワークブックの執筆・編集に携わっている。次年度の発行を目標としており、完成後は授業で使用する予定である。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 介護福祉実践・教育研究会への参加

EPA や外国人技能実習制度などによる外国人介護士の受け入れ拡大、介護福祉士国家資格取得ルート一元化（養成施設卒業生の国家試験受験義務化）の先送り、高性能な介護ロボットの

研究開発の進展、平成 27 年度の介護報酬引き下げなどにより、介護福祉士や介護専門職のあり方が問われる中、「人が人を介護することの意義、独自性、専門性」あるいは「利用者が『人』による介護に対して求めること」を明確化することが急務であり、隔月～3 ヶ月に一度、多様なテーマを掲げて研究に取り組んでいる。介護福祉学専攻の学生（希望者）も参加し、実践現場や教育現場、制度政策や研究開発の生の様子について学ぶ機会としている。

2) 東京都介護福祉士会の活動を通じた制度政策や現場実践に関する情報収集と授業への活用

上記 1) の活動と同様、めまぐるしく変化する制度政策と、それに対応する介護実践現場の様子について、研修の企画運営、会広報誌の取材、地区ブロック活動のサポートや地区同士の連絡会の企画などを通して情報収集を行っている。介護福祉は実学、実践の学問であり、現場実践を言語化・理論化することが重要と考えているため、地区ブロック活動をとって将来は実践研究を提案し、サポートしていく予定である。長期的には、介護実践現場と教育現場が連携して、同じ基盤のもとで相互に高め合える環境作りを目標として、今後もさまざまな活動に取り組む予定である。

⑦菅野 衣美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) リフトリーダー養成研修会への参加

開催日：平成 26 年 8 月 8 日～8 月 9 日

場 所：小田急第一生命ビル

内 容：介護労働者の身体的負担軽減や腰痛を予防することを目的とした研修会であり、主な内容は、腰痛の原因と対策、介護作業とリフト、リフトリーダーと中小企業労働環境向上助成金制度、リフトの実技演習であった。

⑧村田 真弓

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 日本社会福祉学会第 62 回秋季大会への参加

(テーマ：社会福祉は日本の未来をどう描くのか)

開催日：2014 年 11 月 29 日・30 日

場 所：早稲田大学

内 容：社会福祉の未来を担う学生に対する福祉教育の在り方について、研究動向を把握した。

II 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 相談援助実習（高齢分野）における教員と実習助教の連携

事前学習及び実習中の巡回訪問指導において、各場面において担当教員と助教（実習担当）の指導内容に齟齬が生じないよう各担当教員と意思疎通を図りながら学生指導にあたった。結果として、今年度は高齢分野の実習予定学生全員が予定通り実習を修了するに至った。

⑨小野内 智子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成 26 年度全国教職員研修会（全国大会）に参加

日時：平成 26 年 11 月 19 日（水）～21 日（金）

場所：四日市都ホテル（三重県）

内容：日本介護福祉士養成施設協会東京部会の実習検討委員会で、実習評価についてアンケート調査を行った検討した結果を報告した。

II 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 実技演習授業の補助

実習環境に近い演習授業において、教員の講義方針、教員の指導、助言のもとで、実際に実技演習グループの中に入り、より実践的に実技演習が行えるようサポートした。

2) 効果的な介護実習を行うために

実習の限られた時間の中で、効果的な実習が行えるよう、介護総合演習の講義方針、教員の指導、助言のもとで、実習計画作成や介護過程の展開、実習報告書作成について、サポートした。巡回時や実習終了時に学生自身の思いや気づきを聞き、そこから何を考えたのかを大切にした。また、昨年度と同様に日本介護福祉士養成施設協会東京部会の実習検討委員会に定期的に参加し、東京都の他養成校教員と一緒に学生が効果的な実習を行うために、実習施設や実習指導方法、評価方法、課題等の情報共有を行い、今年度は実習評価について検討を行った。

⑩宮元 預羽

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 「第 22 回日本介護福祉学会」への参加。

日時：平成 26 年 10 月 4 日（土）・5 日（日）

会場：日本社会事業大学

テーマ：未来に拓く介護福祉の可能性を求めて

内容：2 日間に渡り、最新の教育動向、研究動向の確認を行い、2 日目には日本社会事業大学の中島教授によるワークショップ、「認知症高齢者との感ドラマ」に参加した。

2) 「第 20 回日本精神保健社会学会学術大会・総会」への参加。

日時：平成 26 年 11 月 30 日（日）

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

テーマ：あるがままの自分を見出す、見せる社会

内容：「介護殺人における加害者特性の一検討～102 件の新聞記事をもとに～」と題してポスター発表を行った。精神保健社会学分野の研究者からの質疑、ご指摘、コメントをもとに、「人間関係学研究」に投稿した。

II 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 「相談援助実習事前指導」相談援助実習（児童・地域分野）の連携の取り組み

嶋貫教授、井上准教授のご指導のもと、実習生個人票、実習計画書等、実習先に提出する書類の確認を行った。また、2 箇所の事業所で実習を行う実習生に対して、前後の実習先の実習指導者に、概ね、職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習、のフローに添うよう依頼、調整した。

2) 介護実技演習授業、実習指導の補助

介護福祉学専攻の先生方のご指導のもと、実技演習のグループに入りサポートした。また、介護実習における実習目標の添削指導、実習報告書の添削指導を行った。実習目標に関しては、実習終了後にふりかえりやすい、具体的な実習目標を定めるよう指導した。

IV 保護者懇談会

今年度も、前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会総会及び演奏会後に、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭（大学祭）の1日目に保護者懇談会を実施した。

千鳥会総会後には各学科に分かれて教員からの報告に引き続き学年別・専攻別の懇談を、大妻多摩祭時には、学部全体の懇談会、学科・専攻ごとの模擬授業に続き、各学科・専攻・学年に分かれて懇談を行った。各学科・専攻とも、おおむね学科及び専攻からの報告と質疑応答の後、クラス別、ゼミ別といった小グループでの懇談の場を設けている。

以下、懇談会の実施状況と、参加者アンケートに記載された保護者からの声をまとめ、報告する。

I. 千鳥会総会終了後の保護者懇談会

1. 学部別参加保護者数の状況

千鳥会総会は、平成26年6月1日（土）に千代田キャンパスで行われた。人間関係学部の保護者の参加者数は以下の通りである。本学部欄の（ ）内の数字は前年（平成25年度）のもので、今年度の参加保護者数は若干減少している。本学全体の懇談会参加者数は今年度449名（昨年度447名）で、同様に若干減少しているため、本学部の傾向はほぼ横ばいと考えて良いだろう。

	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	短期大学部
総会	141	80	71	52 (54)	33	60
演奏会	158	96	80	62 (64)	36	32
懇談会	145	91	61	61 (63)	32	57

2. 参加者アンケートから

総会、演奏会、懇談会参加された保護者に対してアンケートを行った。アンケート提出者数（各企画ごとに記述のあった数）は以下のとおりである。本学部欄の（ ）内は、上記参加者数に対する回収率である。本学全体の懇談会に対するアンケート回収率は68.8%（309名提出）であり、平均並みとすることができる。

	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	短期大学部
総会	91	51	49	36 (69.2%)	19	39
演奏会	111	60	54	44 (71.0%)	21	45
懇談会	103	59	44	43 (70.5%)	16	41

以下、本学部の保護者懇談会に関する回答結果を報告する。

(1) 懇談会の時間、内容について

時間	適当	長い	短い	その他	未記入	合計
人間関係学部	33	0	1	0	9	43

時間について「適当」「長い」「短い」「その他」の4段階で問うたところ、33名（76.7%）の保護者が「適当」と回答している。各学科・専攻ともに1時間～1時間半で行われており、教員からの説明のほか保護者からの質問にもほぼ適切に対応できる時間だったことが評価されたようだ。例年「短い」と書かれる方が数名いるが、土曜の午後で所用のある方もあり、すべての方に満足いただけるよう時間設定するのは難しく、その分現状の時間設定で内容の充実を図っていくことが現実的と考える。

内容	適当	不適当	未記入	合計
人間関係学部	30	0	13	43

内容については30名（69.8%）が「適当」と回答した。未記入が13名（30.2%）いた。

各学科・専攻とも、教育活動や委員からの報告や学年ごとの状況などについて、なるべく詳細に情報提供し、保護者からの声に耳を傾けるよう工夫している。内容についてはおおむね満足が得られていると考えられるが、今後も、全体への情報提供と学年別、クラス別、個別の交流や情報交換とのバランスをとりながら、どの保護者にも満足していただけるような内容・進行を心がけたい。

アンケート未記入者は、「時間」について9名、本項目では13名おり、昨年度より率が上がっている。確認すると各専攻とも終了時間が押したようであり、多忙な方はアンケート記入の時間がとれなかったとも考えられる（時間が「短かった」と答えた方が昨年度より減少していることから考えられる）。

懇談会は限られた時間で行われているが、大妻多摩祭時と併せ年2回しかない保護者と教員の交流機会であり、今後もより一層の充実を図っていきたい。

(2) 懇談会に関する意見（自由記述。人間関係学部保護者を中心とした主なご意見）

1) 全体に対する感想

- ・担任の教授の人柄を知ることができました。
- ・クラス担任との話ができて良かったです。
- ・先生方に色々と相談できたのでとても良かった。
- ・授業内容や実習等、詳しく説明していただいて、大変参考になりました。
- ・勉強になりました。
- ・親元を離れて生活しているので、自分で考えて行動させています。様々な場面でのご指導をお願いします。
- ・組織、運営共に適切であり、安心して子どもの教育をお願いできることに感謝しております。
- ・飲み物、お菓子のお心遣いをありがとうございます。学校の様子がわかり良かったです。
- ・また参加したいです。

- ・自分自身が社会人として成長する必要があると感じました。学生は確実に成長していますね。
- ・大学となると、学校へ来る機会が少ないと感じていましたが、良い機会になりました。

2) 今後の懇談会への要望（参考に、他学部保護者から出された意見も含む）

- ・先輩の体験を聞く機会が保護者にもあったら大変ありがたいです。
- ・担当の先生方との懇談時間をもっととっていただけたら良かったと思いました。
- ・これから就活に向けて多くの情報を発信してほしいと思います。資料が多いので、袋を大きめにしてほしい。

（3）各専攻での懇談会の様子

1) 人間関係学科

①社会学専攻

就職関連の情報（前年度の就職率、SPI、Webテストと面接の関連、大学の成績の影響、TOEICの点数、課外クラスの利用、模擬面接、OMAの活用等）、教務関係から、欠席の取り扱いや今年度から新たに導入された「manaba」というシステム等について説明を行った。

保護者からは、病欠の扱い、全学共通科目の抽選制度、留学制度等について質問があったほか、4年生保護者を中心に、就職の内定状況に関する情報交換も活発に行われた。

②社会・臨床心理学専攻

専攻全体、各教員の担当科目の紹介や最近の学生の印象等について話題提供を行った。その後1時間以上にわたって学年別、ゼミ別の懇談を行った。

保護者からは、特に新入生では疲れが出始めていることを心配する声もあったが、おおむね大学生活は充実しており、アルバイトなどとともに毎日の生活を楽しんでいるようだとの声が多かった。それぞれの質問に対して適宜情報提供や教員としての見解を述べた。

2) 人間福祉学科

学科全体で実習、国家試験、卒業後の進路等について情報提供を行い、質疑応答ののち、専攻別、学年別の懇談を行った。特に本専攻は社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士資格のほか、保育士受験対策講座（本学を会場に、外部主催の講座を有料で開催している）を行ったり、公務員を志望する学生は公務員試験の準備など自分の志望に合わせて多様な資格を取得できる。その分学生の負担が多くなったり、保護者にはシステムが難解なところもあるとのことで、一つひとつについて丁寧に説明を行った。

①人間福祉学専攻

1・2年生保護者の方からは出欠席や成績、実習配属など教務上の質問が出たほかは、どの学年も資格や進路に関する質問や相談が多く出された。

②介護福祉学専攻

本学を含む養成施設卒業時に国家試験が義務づけられたが、実施が先送りになっている現状について、特に丁寧な説明と質疑応答に心がけた。

Ⅱ. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

1. プログラム

今年度の人間関係学部保護者懇談会は、平成 26 年 10 月 18 日（土）に、大妻多摩祭に合わせて多摩キャンパス人間関係学部棟にて行われた。プログラムは以下のとおりである。

なお、今年度からは保護者向けの就職活動説明会が新たに企画され、全体懇談会の前に行われたため、例年実施している学科・専攻ごとの模擬授業は行われなかった。

14：30～ 全体懇談会 1 階 7127 教室		
人間関係学部長挨拶 町田 章一		
人間関係学科長挨拶 西河 正行		
人間福祉学科長挨拶 小川 浩		
15：00～ 専攻別懇談会		
社会学-----	2 階	7247 教室
社会・臨床心理学-----	2 階	7214 教室
人間福祉学 1 年-----	3 階	7338 教室
人間福祉学 2、3、4 年 -----	3 階	7318 教室
介護福祉学-----	3 階	7315 教室

2. 専攻別参加保護者数とその推移

今年度及び過去 5 年間の保護者懇談会参加者数の推移は以下のとおりである。

	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度
社会学専攻	39	35	29	20	42
社会・臨床心理学専攻	48	43	41	50	42
人間福祉学専攻	62	48	47	38	45
介護福祉学専攻	27	12	17	16	17
人間関係学部計	176	138	134	124	146

参加保護者数が飛躍的に増えている。前年度は当日に台風が接近したため、翌月（11 月 16 日）に延期して懇談会を行った。その反動で今年度増加したこともあろうが、過去 5 年間の中でみても最高である。ここ数年、FD 委員会をはじめとして学部全体で懇談会により多くの保護者の方に来ていただくという意識が高まっている。特に、何より基本的な学生一人ひとりの関係を密にすることで、学生を通じて保護者の大学への関心を高めることや、学生だけでなく保護者の方々との関係を重視した指導を行うなどの教員一人ひとりの取り組みも功を奏したのかもしれない。いずれにせよ、今後もより多くの保護者の方々に本学及び本学部へ足を運んでいただき、忌憚のないご意見をうかがえるよう取り組んでいきたい。

3. 参加者アンケートから

(1) 全体懇親会に対する感想、要望

- ・先生方の熱意が伝わってきました。コタカ先生の教えるのすばらしさを思い出されました。
- ・大妻のカラー、女子の教育の向上を理解しました。
- ・大妻女子大学の個性、大学の評価が社会的に高くなっているという事で、就活に生かせれば、大学教育と職業の接続についての話を聞いてなるほど…と思いました（前に踏み出す力）実際この学部、学科で何ができるんだろうと思っていたので、期待しています。
- ・マララさんのお話に、女性が教育を受けられることの幸せを再認識いたしました。ありがとうございました。
- ・学部別の様子がわかり良かったと思います。
- ・就職のことも含め、学部全体の様子がつかめて良かった。
- ・近年の社会の動向。就職へ向かっての学生の質の問題。人材育成の重要性を聞くことが出来て良かった。
- ・人間関係学科長からお話のあった「卒業生インタビュー」が具体的なイメージとして印象に残りました。日々の、温かいご指導に、大変感謝致しております。
- ・学部長からの大妻の個性のお話がとてもわかりやすく良かったです。また、人間福祉学科長からのお話の中で、大学教育と就職の接続…考え抜く力、チームで働く力、前に踏み出す力、本当にそうだなあと思いました。どんな業種でもこの力は大変重要なことだと深く考えました。
- ・学部長からの「大妻の個性を造る！」というお話が印象に残りました。ありがとうございました。
- ・人間関係学科長のお話をうかがい、ぜひジェネリックスキルの講義をご検討いただきたいと思いました。
- ・学問と仕事の連携する様な学びの場としてほしい。

(2) 参加した専攻別懇談会に関する意見・感想

1) 社会学専攻

- ・少人数で個人的な質問も出来た事が良かったと思います。
- ・就職（就活）についての不安が軽減されました。
- ・先生方がとても熱心に接して下さっていることをあらためて感じ頭が下がる思いです。就職活動についても大変わかりやすくお話をいただきありがとうございました。
- ・具体的にどうしたらよいかがわかってよかった。積極的にやるように声かけをしたいと思います。
- ・先生方の熱意が感じられました 親も勉強しなければ。
- ・1年生の場合は最初に講義の内容等を体系的に説明してほしい。懇談会は、ある程度テーマと時間を決めて行った方が良いと思います。

2) 社会・臨床心理学専攻

- ・大変ていねいにご説明いただき、理解が深まった。
- ・大学の生活の話など、直接先生方と話が来て、とても良かったです。
- ・ゼミの先生と膝詰めでお話することができ、娘の学校での様子がつぶさにわかりました大変有意義でした。
- ・先生方の自己紹介 楽しく、先生方を知ることが出来、たいへん良かったです。担任の先生と近く話せたのは、親も大学との関わりができたようで嬉しく、次回以降の会にも参加したいと思いました。ありがとうございました。
- ・色々なお話を聞けてとても良かったです。大学院などの事もわかり参考になりました。英語力の大切さがわかりました。
- ・ほど良い人数で、ゆっくりと、お話できる時間を頂きました。ありがとうございました。

3) 人間福祉学専攻、介護福祉学専攻

- ・学部の説明の中の不安などを解決できました。
- ・大変良かったです。大学でこのような懇談の場を設けて頂きありがたいと思います。
- ・各担当からの説明が良く解りました。宜しくお願いします。
- ・国家試験と就職についての実際を理解でき安心することができた。
- ・正直、国家試験の事や就職の事を未だ意識していなかったが、本日話をお聞きして考えていこうと思いました。
- ・本人の志望がまだはっきりしておらず、親子共々就職に関しては手探り状態です。本日のお話を参考にしながら目標を早く決めて進んでまいりたいと思いました。教職員の方々の愛情が感じられうれしく思います。
- ・大学の現状がすっきりと理解できました 娘にもしぶとく仕事を見つけてほしいなあと思いました。公務員試験を考えている学生に対してきちんと個別対応して下さっている事がわかり、本当に安心しました。さすが！という事で感謝、感謝です。これからも宜しくお願いします。
- ・学科別にわかれた後、他の保護者の方々から、いろいろなお話を聞けて勉強になりました。やはり今のテーマは国家試験と就職ですね。
- ・「福祉の教養をもった社会人」というお言葉をきき、安易かもしれませんが、少し道が開けたように思いました。みなさんのお話をきき、うらやましくも思いました。

Ⅲ. 総評

どの専攻でのアンケートを見ても、保護者の方々がもっとも気になっていることは就職のようである。今年度は全体懇談会の前に、保護者向けの就職活動セミナーが開かれたが、多くの参加があったとのことである。

「学業に専念する時間を確保する」という目的で、平成 26 年度から就職活動の解禁が 3 月となったが、その分学生にはスタートダッシュが求められる。スタートダッシュを切るための準備として、早い時期から就職活動自体に対する心構えを固め、志望する業界に関する情報収集力が求められることになる。こういった風潮に無頓着ではいけないが、かと言って就職とい

う出口だけを見てわき目も振らずにいることや、不安ばかりを煽ってしまうことは避けなければならない。大学生の本分である学業や学内外での交流、サークル活動、アルバイトを通じた社会経験と、「出口」である就職や資格試験などの準備が両立できるようにサポートするのが教員や保護者の役割だと思われる。現代の学生に求められるものは、さまざまな情報が混沌とする社会において、自らのすべきこと、したいことを探り、学生自身が前向きな気持ちで試行錯誤することであり、周囲の大人はそれを見守り、側面的にサポートすることではないかと思われる。

学生が自らを人生の主演として誇りを持ち、必要な情報を自ら収集して、大学生活の時間を計画的に過ごしながらかつさまざまな活動を両立できるように、教員も保護者も「人生の先輩」として必要なアドバイスができる存在でいたいと痛感する。

このほかアンケートからは、本学の学部学科構成、それぞれの特徴、カリキュラム、単位取得や実習、資格試験の準備などについて「知ることができて良かった」「安心した」という声も多く見受けられる。大学のシステムには個別性があり、小・中・高のように標準的ではないため、保護者の方々には理解しにくい部分もあるのかもしれない。「1年生の場合は最初に講義の内容等を体系的に説明してほしい」という声のように、各専攻でも、カリキュラム体系や単位取得の方法や注意点などについて説明する場を設ける必要があるかもしれない。これは必ずしも新入生ばかりでなく、学年ごとの先修条件や卒業要件などにも関わる上級学年についても必要かも知らないので、今後の検討材料とする。

大学の4年間の価値とは、経験したことの多さや少なさではなく、一つひとつの経験を深めたり広い視野から見直すことによって人生を豊かにできたかという点にかかっているのではない。授業でも実習でもサークル活動でも、広い視野から見直すことによって、次々と新しい見方ができてくることがある。このような考え方が、その先の人生において自らを守り、切り開き、自分と周囲の人々との関係性を俯瞰しながら「共生」（本学部のアドミッションポリシーである）していけるはずである。このことを私たち教員は念頭に置き、保護者の皆さまにも再度理解していただき、「共に学生を（わが子を）自立した大人に育て上げる」ためのタッグをさらに強化していきたいものである。

V オフィスアワー

オフィスアワーは、予め設定された時間帯に専任教員が研究室で待機し、それを周知することによって、学生からの授業内容や勉強方法に関する質問、学生生活や進路などの様々な相談を受けやすくする制度である。本学部の FD 活動の一環として、平成 16 年度より全専任教員が行っている。新年度のガイダンス時期にオフィスアワーの実施を周知し、更に個々の研究室にオフィスアワーの時間帯を明示するなどの工夫している。平成 26 年度は、以下の実施要綱に基づいて実施した。

表 1 平成 26 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がよりよいキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対 象 者	本学の学生個人またはグループとする（学部・学科・専攻は問わない）。
担 当 者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く。）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限から 5 時限、土曜日の 1 時限から 2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は、事前予約により相談できる。
相談場所	原則として、各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員は、オフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行い、特別な事がない限り、他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年、講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布及び、学部掲示板（1 階）や各共同研究室掲示板（4 階）に掲示する。 ③学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

1) 伊藤美登里

学生たちは、うまくオフィスアワーを活用しているように思う。

2) 小谷敏

卒論指導、ゼミぎめの相談等にこの時間で応じていますが、几帳面にアポをとってくる学生が多いのが特徴です。

3) 干川剛史

オフィスアワー（火・木昼休み）とそれ以外の時間帯でも、学生が研究室を訪ねてくれば、随時、対応している。

4) 香月菜々子

オフィスアワー制度が学内で定着し、十分に機能しているとの実感を得ている。本専攻の学生（学部生・院生）に限らず、全学共通科目を担当しているつながりで、他学部他専攻の学生が訪れて、授業時間内で確認できなかった内容について質問を受けたり、大学院進学についての相談を受けることもあった。運営上、現時点では週1回という頻度が程よいと感じている。

5) 加藤美智子

担当クラスやゼミの学生が、定期的に訪問してきた。また、1年生が大学生活の不安を抱えて来室し、継続的に相談に訪れている。

6) 田中 優

特定の学生が訪れることが多かった。具体的な相談というよりも、居場所を求めて来るという感じであった。

7) 西河正行

例年、オフィスアワーの利用は少ないが、今年度も目立った利用はなかった。ただ、学生から見れば、この時間があることは、相談が起きた時にはあてになる時間だと思う。

8) 古田雅明

今年もゼミ生および担任学生（4年Aクラス）、大学院生を中心に多くの人がオフィスアワーの時間に来室しました。相談内容は、進路や学業に関するものが殆どであり、進路の相談は主に大学院進学関連、学業の相談はレポートと卒論に関することがメインでした。2限と3限にゼミや授業があり、オフィスアワーはその間の昼休みに設定しているので、ゼミや授業の延長として来室する人が多いように感じています。

9) 堀 洋元

今年度は通年で木・金曜日の昼休みにオフィスアワーを実施した。学生の訪問目的は、授業の課題作成に関する質問や欠席回の配布資料の受け取り、卒論・に関する質問、学生生活に関する相談などであった。担当科目の受講学生や専攻の学生の多くが利用しやすい時間帯に設定したため、利用されやすかったように感じた。

10) 向井敦子

オフィスアワーでは、担任としての書類対応や、期限内に提出できなかったレポートの対応、学生からの相談に対応している。4年生の卒論の相談も多い。しかし、学生はオフィスアワー

に無関係に来室することも多い。

11) 井上修一

通年水曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。

12) 小川浩

オフィスアワーに限らず学生は随時さまざまな相談や質問などで研究室を訪れて来る。こちらの対応もオフィスアワーに限定していない。今後も現状のやり方で良いと思っている。

13) 尾久裕紀

授業に関する質問等はオフィスアワー以外でも受けていた。

14) 金 美辰

オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けて、学生が落ち着いてゆっくり相談できるようにした。

15) 藏野ともみ

今年度は、3名ほど他学科からの利用者があった。また、学科内の日頃関わりの少ない学生が、オフィスアワーを活用して訪ねてくれることもあった。時期的には、国家試験受験に迷っている夏から秋にかけての時期や、進路相談等が中心であったため後期開始後が多かった。また、心身の健康面での相談では、話を聴いた後、保護者に連絡することや、学生相談センター・保健センターに行くことを促すことも複数回あった。

16) 佐々木 幸

前後期ともに水曜2限をオフィスアワーとした。指導主任を務めるクラスや担当科目を受講する学生の訪問が多かった。アポなしで自由に訪問できる良い機会ではあるが、今年度は訪問する学生が固定する傾向にあり、初めて訪れた学生がドア越しに話し声を聞き、遠慮してノックすることを躊躇したという話も聞いた。特に成績が伸び悩む学生が、自らこの時間を自己学習の時間としたいと希望し、これを受け入れたことも他の学生を遠ざけた原因かもしれない。今後、曜日や時間を固定する必要がある場合は、オフィスアワーの時間を避けて設定する必要があると考える。

17) 佐藤富士子

介護福祉学専攻の学生は座学だけではなく、施設実習（10単位）での巡回教員とのカンファレンス、演習科目で複数教員との関わり等で話す機会が多いためか、改めてオフィスアワーの

時間に研究室を訪問に来る学生は少ない。

18) 嶋貫真人

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

19) 丹野真紀子

木曜日 4 限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。要件の内容によってその場で対応したり、別時間を設定し個別対応したこともあった。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

20) 壬生尚美

面談を希望する学生はオフィスアワーに限らず、必要な時は空き時間を利用して学生指導に当てている。今年度は、前後期は水曜日 4 時間目に設定した。学生の授業時間との関係からどの時間帯にオフィスアワーを設定するかも検討する必要がある。

2. 今後に向けて

今年度もオフィスアワーの状況は、教員によって様々であったが、全体に学生がうまく活用しているという意見、またはオフィスアワーに限らず学生が研究室に相談に来るという意見が多く、本来の教員と学生のコミュニケーションを活性化する趣旨は達成されているようである。また、授業に関することだけでなく、進路や資格取得、就職に関する相談など、教員が幅広い相談に応じている様子も伺われた。

ただ依然として、学生がオフィスアワーの存在を知らなかったり、その意味を理解していない例もあるようなので、引き続き、丁寧な周知が必要である。

VI 平成26年度クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、平成26年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成26年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 今年度は1年生の担任だったので、基礎セミナー等授業での接点を学生ともつことができますが、来年度以降はそれが少なくなることが懸念材料です。
- * 各学期の初めに学生一人一人に成績表を渡して、履修上指導をしている。しかし、成績表を受け取りに来る学生は、クラスの半数前後である。そこで、成績表を受け取りに来なくて履修状況に問題のある（GPA1.5未満等の）学生は、別途、呼び出して履修指導をしている。
- * 成績表を渡す際に、各学生に合わせた必要事項を伝達した。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 今年度入学生のクラスを担当した。入学直後のガイダンス期間ではできる限りコミュニケーションを取るよう心がけた。授業開始後の個別相談は、オフィスアワーだけでなくメールなども活用して、大学生活に適応できるよう支援した。スポーツフェスティバルや文化祭などの大学行事にも参加して、授業以外での学生たちの主体的な取り組みの様子を把握するように努めた。
- * 1年生であったが、退学する学生が多かった。そのような中、精神的な問題で、なかなか授業に出ることが出来ない学生が、アルバイト、家庭（特に母親）との関係などを時間を掛けて調整し、後期の後半ではあるが、授業に出るようになったという学生もいた。時間を掛けて、本人の声に耳を傾け、共に、問題を見つめることから、問題を解決することにつなげていけたと思う。
- * 主な相談は、進学・奨学金・個人的な内容である。また、欠席届や住所変更など個人情報の変更への対応などもかなりあり、個別に相談する必要がある学生も多い。

- * 今年、学業のことや進路あるいは学生同士のトラブルや親子関係のことなども含め、さまざまな課題で悩んでいる学生からの相談が複数あり、当該学生だけでなく、時に保護者も交えて、じっくりと長期間にわたって担任として関わる機会がありました。時に、学生のゼミ担当の先生や学生相談経験の深い先生方、そして保護者のサポートを得ることができ、結果として学生が大きく成長していったように思っております。
- * 3年生のクラス担任であり、住所変更届提出などで学生と接する際に様子をうかがう程度であった。成績表の配布等々はゼミで行われるので、他に特段の活動は行わなかった。
しかし、本専攻は、何か問題が発生すれば、他の学年の問題であっても一致協力して対応する。本年度もそのように対応してきた。
- * 3年生の担当ということもあり、特筆すべきことはなかった。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * 2年生のクラス担任として、前期4月から6月にかけて学生と個別面接を行った。内容は成績のこと、キャリアについて資格取得や就職のことを中心に話した。また、来年度からの卒論ゼミ選択に向けての予定等についても話す機会となった。
さらに、学科2専攻の担任3名で話し合い、2ヶ月に1回程度の学年ホームルームを開催した。2年生は1つの進路選択の時期でもあり、情報を正確に伝えたいという意図と、大学生活にも慣れ始め、さらに多くの学生が成人する年でもあることから、大学生としての責任を自覚して貰う機会とすることを目的とした。また、年4回実施される社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の模擬試験の際には課題を出し、3名の担任で添削、コメントをして返却した。
他には、前期に千鳥会の補助金を受け、学年会としてランチクルージングを実施した。さらに参加できなかった学生もいたので、昼食会を設けて2年生全員と教員も一緒に雑談をしながら楽しく過ごした。
その他、成績票の配布、模擬試験結果の配布等、各自で研究室に訪ねてきて貰う機会を設けて個別に話しをする等の機会を持つように心がけた。また、休学中の学生と月一回の定期連絡をする等、個別対応も重視した。
- * 今年度はクラス担任が3年生であったため、就職活動に向けた相談（インターンシップのこと、業界選びのこと etc.）および福祉現場実習に関する相談が多く寄せられました。
- * 成績配布時に、個別面接を取り入れながら、学生の学習状況のみならず、生活状況等を知る機会を持つようにした。学生が4年生になり、後期の成績配布では取りに来ない学生も見られたのが残念であった。就職に関して、ゼミ教員とは違う視点で話を聞きたいと来る学生、また、ゼミ内での人間関係の相談など、クラス担任だからと話に来る学生もいた。じっくり話を聞いた方がいい学生については、個別に時間をとるよう心掛けた。
- * 担任をしているクラスが4年となり、ゼミ生以外にも、クラス担任ということで就職や国試対応について相談に来る者がいた。7月28日の昼休みにクラスの懇親会を開催した。
- * クラスのメンバーの名前を把握しながら、資格取得の相談、インフルエンザ等の欠席後の相談を行ってきた。資格取得の相談において、部活動との両立に悩む学生がおり、出来るだけ

学業と両立できるように受験スケジュール等を検討中である。このように、個別指導が少しずつできている。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 個別面談やクラス全体に向けて、大学 1 年生としての学習方法や生活について指導した。
- * 昨年度に引き続き、介護福祉学専攻 15 期生（2 年次）を担当した。夏休みに初めての介護実習を経験したり、社会福祉士資格を目指す学生は専門科目が増えたりと変化の多い学年であったが、前期、後期 1 回ずつ個別面接を行ったほか、適宜学生に声をかけて話をするなど、細やかに接点をもつよう心掛けた。また 2 年次のクラス指導主任 3 名で懇親会を共同企画した。
- * 2 年次の後半は、真面目すぎてクラスが全体的に閉塞的な感じを受けていた。3 年生になり、福祉士専門科目に関する教科や専門ゼミが始まり、大変忙しい中で課題を成し終え、日々の課題や実習を通して、様々な場面で一人ひとりの能力が発揮される場面があり、成長した様子が窺えた。課題を抱える学生もいるが、周りのサポートにより少しずつではあるが乗り越えてきている。残り 1 年の為、それぞれが目指す進路に向けて 4 年生も頑張ってもらいたい。
- * 13 期生（現 4 年生）を受け持っている。4 年生になるまでに様々な理由で 3 名が退学した。しかし、それまでに培ってきた友人としての仲間意識が高く企画したことには退学者にも参加している。また、クラスには 4 年で留年となった学生 3 名も含まれており、9 月卒業の 2 名には多摩キャンパスで行われた卒業式終了後、花束をもってお祝いにみんなで参加するということがあった。
- * クラス担任の役割はなかったが、学生生活等の相談は随時実施した。

（2）クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * クラスの問題を抱えている学生については、専攻会議等を通じて専攻の教員間で情報の共有・交換を行い、クラス指導主任単独ではなく、専攻全体の助力を得ながら対応するように心がけている。
- * なるべく親身になってものを聴くようにしています。
- * 学生の個別の事情や性格を勘案して指導するように心がけている。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 学内でクラス学生を見かけたら挨拶程度でも声をかけるようにしている。前期は授業で関わる機会がほとんどなかったため、授業開始から 1 ヶ月程度は定期的にクラス学生宛てにメールで情報の周知や注意喚起を行った。一部学生からは反応もあり、細やかな対応ができたと感じている。
- * 3, 4 年生のクラス担任は 1, 2 年生と比較して、ガイダンス時に社会に出るにあたっての心構えとか、卒論作成へ向けての準備など一般的な講和が中心である。そのため、何を伝えるべきかを 4 年生の指導経験を踏まえて考えるようにしている。

ゼミの指導教員以外に相談できる対象があることが学生にとっての意味であると思う。

- *個人情報の保護として個別対応を心がけている。
- *種々の課題を抱えており、深く悩んでいる学生の場合は、学生相談を紹介するのは勿論ですが、それに留まらず、教員一人で抱えるのではなく、専攻内でチームとして学生をサポートする必要があると思い、なるべく早めに経験の深い先生方に相談するように心がけています。また、私は臨床心理士なのですが、クラス指導はあくまで担任教員のアイデンティティを失わないようにし、学生と私がカウンセリング関係にならないように気を付けています。
- *学生の主体性を大切に、個々の学生に合わせた対応、また、話やすい環境づくりにも気を配っている。
- *特になし。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *昨年度までと同様、同学年の担任間での情報共有や指導内容の相談等を大切にするようにしている。2年生になるとクラス毎の特性が出始めたため、教員にも個別な役割や悩みもあったように思うが、担任1人だけでなく学年内でフォローし、理解と手助けをして頂けたため、対応することができたことも多い。来年度の動きも想定して、今年度の学年への取り組みを行っており、見通しができて関わりやすかった。
- *3～4年になるとゼミ担当教員が相談窓口の中心となるが、特に1～2年についてはクラス担任の役割は重要だと考えている。できるだけ気楽に相談に来るように学生には呼びかけている。
- *4年生なので、卒業を見据えた指導を心がけた。不安を抱えた学生に対する対応については、傾聴を大事にし、学生が卒業できるよう支援を行った。
- *できるだけ早い時期に名前を覚え、教室での様子、学内での友人関係等を把握しながら、個別に対応できるように工夫している。
- *昨年同様、継続的な指導を要すると思われる件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度内容のメモをとるようにしました。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- *上記のように、個別面接のほか適宜声かけしたり、クラス全員宛てにメールで情報提供をするなど、集団としてでなく「個人」あるいは「集団の中の個人」として1人ひとりの学生と向き合うように心がけた。次年度からはゼミが始まるため、これまでの「主担当」というスタンスから、「サブ的役割」に移行するが、常に「気にかけている」という姿勢で学生と向き合っていきたいと思う。
- *傾聴すること。個人情報に留意すること。
- *履修指導や大学生活に指導が必要な学生に関しては、学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも大学生活が充実できるように工夫した。
- *クラスの学生については、廊下などですれ違う時に声を掛けたり、授業終了時に少し話をするなど常に気にしながら接している。気になる学生に関しては、こちらから定期的に連絡を

取りその学生に合わせて個別面談している。他の教員からの情報も大切にしたい。

- *介護福祉学専攻は1クラスであること、1学年の人数が少ない(定員30名)ことがメリットとし、入学の1年からクラス作りを意図的に行う必要がある。意図的に行うこととは教員が企画するのではなく、学生自ら企画するような環境を作り、クラスの人間関係作りをサポートすること。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- *現時点では、専攻全体の協力を得ながら、クラスの学生に対応できていると思う。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *クラスの中で友人関係が進展し、大学生活での新たな人間関係が充実している学生がいる一方で、思い描いたような人間関係が築けず苦勞している学生もいるようである。学生が相談したいときに適切な相談相手のひとりになれるよう、学生との垣根を極力なくす工夫と努力をしていきたい。
- *担任制度は本学の特徴ではあるが、ゼミ指導にかなりの時間を取るので3, 4年生はどうしても手が薄くなってしまっているのが現状である。特に、社会・臨床心理学専攻は大学院生の指導も抱えており、私個人の問題であるかもしれないがその傾向が強くなっているのが実情である。
- *オフィスアワーがあるのに、「知らなかった」という学生がまだかなりいる。学生本人が必要と思わない限り、大学側からの情報提供だけでは徹底できないようである。
- *3, 4年生にとって、ゼミとクラス指導が共に存在することが大切だと感じています。その点、1, 2年生はクラス指導だけですので、もう少し身近に専任教員と学生が接する機会を増やす必要があると感じています。
- *今年度、「大人が苦手」という学生の声を聞いた。大学生は大人ではないという、学生の意識の幼さに驚いたが、4年間で、少しでも大人になれるように、工夫を心がけたい。
- *年に一度の顔合わせだけなので、特定の学生以外のコンタクトはなかなか生じない。1年生のクラスの場合は、些細なことまでメールをしてくるなど、クラス担当者の存在は大きいようであるが、2年、3年になるとあまり存在の意味を感じない。特に3年になるとゼミ単位で行動するので、ゼミの担当者の存在の陰になり、クラス担当の意味が薄くなるように感じる。但し、保護者会の折にはクラス担当者がいるということが保護者の安心感であるように感じることはある。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *大学での担任制度は、機能や役割に各教員の判断で大きな差が出ているように思われる。共通して示されている役割も、その内容や程度はその教員のカラーが出ているので、異なっている。また、保護者の期待も様々であり、そのニーズを知る必要もある。

本学の特徴であり、伝統の1つでもある担任制度の意味を同学年の担任同士では良く確認

している。また、学科会議等でも学生の状況報告をする機会が意図的に設けられており、そのことに助けられているように思う。

- * クラス担任も3年目となり、クラスの学生との関係はある程度親密になったように思えますが、他方で学生たちにとっては所属するゼミ教員とのつながりの方が濃くなっていくために、昨年度よりは全体の相談件数が減少していると思います。
- * 学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきているが、4年生なので、卒業を見据え、就職が内定すると落ち着く学生もあり、学年ごとの対応の違いを感じた。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 1・2年次は大学生活へのスムーズな導入と定着を目指してクラス指導主任が中心となって能動的な働きかけを行い、3年次以降はゼミと卒業論文を柱とした学生の主体的な生き方をサブでサポートするというスタンスが適当と思う。

また、介護福祉学専攻は人数が少なく、逆に人間福祉学専攻は大人数クラスのため、仲間関係が固定して閉鎖的になりやすいことから、クラスの枠を超えた学年全体の懇親会や小旅行といった行事は少なからず学生に良い効果をもたらしていると思う。今後も続けていきたい。

- * 課題を抱える学生に関して、他の教科担当者からの情報がとても貴重であり、教員間連携の重要性を改めて考えさせられた。4年間の成長過程でクラス指導担当としてどのように介入していくことが望ましいか、学年を踏まえながら常に考えていきたい。
- * 他者への思いやり、仲間意識の強さ等がある素晴らしいクラスだと思っています。
- * 引き続き適切に行いたい。

2. まとめと課題

ここでは、上記の報告を元に概要をまとめ、現在の課題を整理する。

(1) クラス指導の状況

クラス担任は、成績表配布、奨学金・欠席届・住所変更等、進学・個人的相談等で、学生指導の機会がある。なお、成績表を受け取りに来ない学生や不登校気味の学生など、クラス担任として対応が迫られることも多い。

学科別に見ると、人間関係学科では、授業やオフィスアワー、メール等を活用している。人間福祉学科では、2年生は個別面接、学科2専攻の担任3名による2ヶ月に1回程度の学年ホームルーム、国試の模擬試験での担任3名による指導、前期の学年会（ランチクルージング）等で指導の機会を設け、特に、介護福祉学専攻では担任3名で懇親会を企画している。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

人間関係学科では、問題を抱えている学生に対しては、専攻教員間で情報の共有・交換を行い、クラス担任だけでなく、専攻内でチームとして学生をサポートする。人間福祉学科では、同学年の担任間での情報共有や指導内容の相談等を大切にするとか、入学時からクラス作りを意図的に行うなどで対応している。

（３）クラス指導に関する意見・感想

人間関係学科では、新たな人間関係が築けて充実する学生がいる一方で、人間関係が築けず苦勞している学生もいる。そのような学生に対するアプローチが必要であろう。また、オフィスアワーを知らない学生がまだかなりいるので、その対策を考える必要がある。

一方、社会・臨床心理学専攻では、ゼミ指導や大学院生指導に時間がかかり、クラス担任として 3, 4 年生に対応することが難しくなる事情もある。

人間福祉学科では、学科会議等で学生の状況報告をする機会を意図的に設けている。また、メンタルに不安を抱える学生も増えるが就職内定で落ち着く学生もあり、学年ごとの対応の違いを感じる。クラスの枠を超えた学年全体の懇親会や小旅行といった行事は少なからず学生に良い効果をもたらしている。

クラス指導における今後の課題として、平成 23 年度 FD 報告書では「オフィスアワーの時間だけでなく、定期的にも、不定期的にも時間を費やす必要があること」「時間がどれほどあっても足りないこと」、平成 24 年度では「クラス担任制からゼミ担任制への移行」「学生支援の各層間の交流・情報交換の強化」「人間関係学部には未だない、あるいは十分整備されていない制度」、平成 25 年度では、「低学力学生、学生間・教員と学生間・保護者と学生間の人間関係にまつわる問題」「メンタル面で問題を持つ学生」の指導の問題が提出された。

平成 26 年度は、学科の特徴を生かした学生指導が行われている一方、退学、留年などの問題、友人や家族を含む人間関係の問題等が生じ、専攻、学科内で情報共有することにより対応していることが伺われた。つまり、これまで指摘されてきたような指導体制・制度を変えるのがよいのか、あるいは、今年度見られたように教員相互の連携、協力による現在の対応を進めるのがよいのか、が問題になってきたように思われる。体制・制度を変更しても、専攻、学科内での教員の情報共有・連携・協力がなければ意味をなさないであろう。その意味では、平成 25 年度に指摘されたような、学生の多様化に伴うさまざまな問題が引き続き起きていて、クラス指導も新たな局面に入ってきているのかもしれない。今後はそれをも見据えてクラス指導に取り組む必要があると思う。

VII 平成26年度 F D研修会報告

平成26年12月7日（金）の教授会終了後、平成26年度人間関係学部FD研修会を実施した。

平成24・25年度は『学生たちは今』と言うテーマを設定し、教職員混合で3つのグループを作り、それぞれ大まかなテーマに分かれて自由討議を行うという新たな形式で実施した。それまでの数年間は、学部共通科目の学科・専攻ごとの教授法、専攻ごとの特色を生かした基礎セミナー（初年次教育、導入教育）効果的な展開方法の紹介などを行ってきたが、授業以外に学生が抱える課題について自由に意見を出し合い、共有する機会がほしいという声に応える形で、座談会形式で自由な意見交換を行った。

今年度はこの形式を継承し、自由な討議を行うこととした。内容は、本学全体の課題である学部・学科再編、特に他学科の千代田キャンパス移転という動きに伴って本学部でもさまざまな議論がなされている中、改めて学生の視点から多摩キャンパスの意義を問うてみようということから下記のテーマを設定した。以下、その概要を報告する。

1. テーマ 『多摩キャンパスで学ぶことの意義と課題』

2. 趣旨

キャンパス再編が進む中、本学部の将来像が問われている。キャンパス再編についてはこれまで大学経営という組織的視点から検討されてきたが、大学生活の主役である学生にとって多摩キャンパスで学ぶことの意味や課題、あるいは可能性について検討する機会はなかった。各教員が学生との交流する中で聞こえてきた声や思うこと等について、学部として自由に意見交換をすることで、本学部の近い将来に向けた検討材料にもなりうると考えられる。

分科会ごとのテーマは設定せず、「学生にとっての多摩キャンパスの魅力と課題（設備、大学生活等）」「学生が多摩地域に通い、過ごすことのメリット、デメリット」「学生が多摩地域で学ぶことの可能性（地域交流、地域貢献、産官学協働等）」ほか、多様な観点から意見を出し合う。

進め方は、教員の参加する分科会はくじ引きで決定し、座長役の委員が進行。分科会後の全体会で各委員より発表し、共有する。

また、学長、副学長、事務職員にも参加呼びかけ、多様な立場からの活発な議論を期待するものとする。

3. 日時・場所

（1）実施日時 平成26年12月5日（金）17:00～18:30

（2）会場 全体会 7247 教室
分科会A 7381 教室
分科会B 7382 教室
分科会C 7383 教室

(3) 参加者／参加者数

	社会	心理	福祉	介護	事務・相談	学長・副学長
分科会 A	2	0	2	4	3	
分科会 B	3	5	3	1	4	
分科会 C	2	4	3	1	1	
計	7 名	9 名	8 名	6 名	8 名	3 名
総参加者						41 名

4. 内容

(1) 全体会

- ・開会の挨拶（町田学部長）
- ・趣旨説明（丹野 FD 委員）

(2) 分科会(座談会)＝60 分程度

分科会 A 進行：小谷 FD 委員、記録：佐々木 FD 委員

分科会 B 進行：小川 FD 委員、記録：堀 FD 委員

分科会 C 進行：西河 FD 委員、記録：丹野 FD 委員

(3) 全体会＝30 分程度

- ・各分科会報告
- ・コメント（荻上学長、伊藤副学長、栗原副学長）
- ・閉会の挨拶（佐々木 FD 委員長）

5. 各分科会の内容

(1) 分科会 A

1) おもな内容

まず、人間関係学部は 1999（平成 11）年に、多摩三学部の中でもっとも新しい学部として唐木田の地に誕生したが、まだ多摩市の中でその存在が十分認識されていないという指摘がなされた。多摩市やその周辺地域にある他の大学に比べて、大妻女子大学は大人しい印象。大学から発信を通して上手にその存在と教育・研究成果をアピールして、将来的には「市民が大学にまなびに来る」場であってほしい。今後の学部再編に伴う跡地利用の際には、子育て中の親、小中学生あるいは高齢者が学びに来る場、それを学生や教員がお手伝いする場として活用できないだろうか。併せて学食の活性化などもすれば、総合的な市民・学生・教員の交流の場にもなり得る。

多摩市はニュータウンが急速に高齢化しているというマイナスイメージを嫌っているという話がある。これを、若い学生と高齢者やその家族、児童らが活発に交流しているという PR で払拭し、多摩市の発展に貢献することができる。以前本学でも公開講座を行っていたが、現在は止まっているのがもったいない。市民は、大きなキャンパスの大学に入ろうと思っても遠慮するが、一度好印象を持ってもらえたら強い。大学は彼らにとっての社会資源、市民は大学にとっての社会資源として相互に高め合う場に十分なり得る。

同じ女子大学でも、他大学では有名なカフェをテナントとして入れたり、放送大学と連携してサテライトキャンパスを開設したり、あるいは大妻多摩キャンパス以上に不便な場所にもかかわらず、キャンパスに向かうバスは学生だけでなく地域住民でいっぱいになるような大学もある。大妻は比較的便利な地の利をもっと生かせるのではないだろうか。

当の学生にとって多摩キャンパスはどのような場であろうか。多くの学生は授業が終わればアルバイトや遠方の自宅へ帰って行き、夜 6 時以降には閑散とする。学生がキャンパスに魅力を感じないのは、大学に残って勉強や活動に集中できるようなインフラがないといったハード面の問題と、キャンパス全体が学生と教員の活動だけで完結してしまい、学んだことを学外の人々との交流を通して生かしたり、その面白さを実感したりする機会のないソフト面の問題とがある。もちろん、FD 活動の中核である「学生がおもしろいと思える授業」へのさらなる努力や改革も必要である。

今後の学部再編においては、学生だけでなく市民にとっても魅力ある「場」づくりを総合的に検討し、誰にとっても有効活用できる社会資源となり得るような学部編成、社会貢献や地域交流機能をもったキャンパスづくりに努めてほしいし、われわれも個々に、学科・専攻ごとにその可能性を探っていくべきである。

（２）分科会Ｂ

１）おもな内容

地域の方々とどのように関わるか。教員が個々に多摩地区をフィールドに連携や貢献活動をしているが、人によってはまったくかわりを持っていないという例もあった。学科や大学（多摩キャンパス全体）としても、組織として地域に出ていくというところまで至っていない。

地域連携推進センターで「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」を学内から公募しているが、本学部でも唐木田地域の公民館を会場に高齢者を対象にした活動を行ったり、市内の高齢者に TA ボランティアとして授業に入ってもらい、学習支援と世代間交流に役立てるなどの活動を行ったりしているという報告があった。このような活動には財源が必要である。このような活動を活性化すると同時に、安定的な財源の確保やその中核となる機関を作る必要がある。

以前から地域との連携を図る活動をしようと学内部署に相談していたものの反応が芳しくなかった。しかし「地域連携プロジェクト」という公的な枠組みができたことで、部署間の連携がとりやすくなった。枠組み作りが大切である。しかし昼休みにパンを販売する活動は学食とも重複するため、調整が必要。あるいは学食と連携した活動を考えても良いかもしれない。

多摩市民への貢献としては図書館の市民開放に取り組んでも良いのではないだろうか。一般の図書館と大学の図書館は置いてある本の種類が違う。それをするにも人手がいる。たとえば学生が奨学金のかわりにその役割を担ってもらうシステムを取り入れている大学もある。図書館の利用だけでなくさまざまな形で市民が大学に入ってくることで、教員だけでなく学生にとっても刺激になる。市民にとって、大学が交流の拠点となるような活動ができれば良い。OMA（大妻マネジメントアカデミー）を、今以上に市民のニーズに応えられるものにしたり、積極的に広報することで隠れたニーズを持っている人に役立つこともできる。

学生にとって多摩キャンパスの魅力とは何かを考える時、それ以前に「授業以外の時間、ほとんどの学生がキャンパス内にいない」という問題がある。また授業が空いた時間にフラッと立ち寄れる場所がない。学生が大学にいられるような環境作りが必要である。

学生にとって、また多摩地域にとって多摩キャンパスがどうすれば魅力的なものになるかを考えると、教員や学生が個々に行っている活動を、事務も含めて組織的に行うことが重要なのではないかという結論になった。

（３）分科会 C

１）おもな内容

学生も教員も、ボランティアや共同プロジェクトなどを個々に行っているが、それらを地域に向かって上手に発信することができていない。また、さまざまな活動を行いたいと思っている学生も、教務関係や学生支援関係も含めてさまざまな情報が掲示やメールで届くため、自分を成長・発展させるためのより良い情報を取捨選択することができていない。この点で、多摩キャンパス内では学生に対する情報発信の整理が、さらに多摩キャンパス発の地域に向けた情報発信の方法の整理が必要ではないだろうか。

多摩キャンパスが学生にとってより魅力的なものであるためにはどうしたら良いだろうか。他分科会でも出されているように、授業が終了した夜 6 時以降は学生がキャンパス内に残っていない。治安面の問題やアルバイトの都合もあるが、たとえば市民向け講座を夕方以降に開催し、その手伝いアルバイトを学生にお願いすることで学生も大学に残って役に立つ知識や情報を得ることができるし、市民も市内で有益な時間を過ごすことができるなど、さまざまなメリットがある。このような地域密着型の活動を多摩キャンパス全体で行うことで、学生にとっても地域住民にとっても役に立つ方向性を探ることができるのではないだろうか。

多くの教員が本学地域連携推進センター主催の地域連携プロジェクトに採択され、活動しているが、その発表会場が千代田キャンパスというのは非常にもったいない。多摩地域と連携した活動ならば多摩キャンパスで発表し、市民にも聞いてもらい、大妻多摩キャンパスの存在と、住民に身近で有益な活動を行っていることをアピールしたい。このような「多摩からの発信」というイベントの作り方を考えていく必要がある。

今後、学部再編等により建物やその跡地の有効活用が求められるが、たとえば寮と国際センターを併設した施設を作り、学生が自由に出入りできるようにすることで学生にとっての「居場所づくり」、さまざまな国籍の人との交流などの機会を提供することができる。

多摩市のはずれとはいえ、中心地である多摩センターから 1 駅、唐木田駅から徒歩 5 分という立地を活用し、さらに現在行っているさまざまな活動を上手に発信することで、多摩キャンパスは今以上に、学生だけでなく市民にとっても有益な場所になり得るのではないだろうか。

6. 研修会終了後に行ったアンケートに対する回答の概要

研修会終了後、以下の 3 項目についてアンケートをとった。今回の研修会への評価はおおむね良好であり、学生が抱える問題、あるいはパワーについてと同時に各教員が自らを振り返り、他教員の視点を取り入れつつ今後の方向性を考えるきっかけになったようだ。今回のテーマを

継続あるいはさらに深めたいという意見も多かった。アンケート結果のうち、おもなものを紹介する。

（１）学部FD研修会のテーマ「学生たちは今」について、懇談会での意見交換を踏まえて、
ご意見、ご感想や思いをお聞かせ下さい。

○多摩キャンパスの活性化を真剣に考えている様子が、活発な意見交換の中に反映されていた。本来は３学部が連携してその具体化を図りたいところですが、千代田移転を控えた学部との関係がなかなか難しいように思います。

○多摩地区に対する沢山の地域貢献活動が、個々の先生方のご尽力で実施されていることを知ることができて、とても良かったと思います。学生の自発的活動を待つのはなかなか難しい印象がありますので、最初の地ならしは教員がかなりテコ入れする必要があると感じました。さらに、それらの活動を維持発展させていくには、個々の教員の努力では限界があり組織のバックアップが必要であることが明確になったと思います。

社会・臨床心理学専攻の臨床心理学系の場合、大学院生や修了生が地域支援をする専門家として活動していますが、学部生による活動はまだ始まったばかりか、あるいは点と点のままの活動になっていて、線や面にはなりきっていない現状と思います。

個人的には、女子学生のマンパワーをいかに地域に還元していくか、これからも教育と地域支援と研究の接点を探る必要があると考えました。

○以下の３点について研修会を踏まえ個人的な見解を述べたいと思います。

・地域貢献の活用について

基本的に、先生方の個人の力で、地域貢献に関しては、かなりアプローチされていることがわかりました。しかし、先生方個々人の活動のため、多摩キャンパスとしての統括をする必要があると感じます。個人の力には限界があり、個人の力をいかに集約し、多摩キャンパスの力として何倍もの力で発信していくかについて考えさせられました。

・学生への情報提示の仕方について

学生への周知の方法も考えるべきだと思いました。学生への発信がバラバラなため、学生自身が上手に取捨選択できず、折角の情報も利用されていない状況をうかがえました。もう既に始めている学生も大事ですが、どれを選択してよいのかわからない学生への「最初の一步に繋がるもの」を作り出す必要性も感じました。

・広報について

広報戦略も大事なツールです。多摩から発信できるような事務体制を含めた戦略を考えて頂きたいと思いました。

○先生方や事務の方々のお話で、多摩キャンパスの可能性と同時にどこが困難になりうるかということも分かり、情報収取と現状認識という点でも非常に有意義であったと思います。

○新しいテーマであったが、とても、活発な意見の交換が出来てよかった。また、各先生方が、地域連携や社会貢献をされていることがわかった、

○学生ボランティアと地域との関わりは、個々の先生方のご努力で成り立っているのだと思いました。これをいかに大学として把握し広報し、さらに組織化していくかが今後の課題だと

思いました。

また、親子で楽しむサクラ祭りや、ボーイ（ガール）スカウト立ち寄り場所のような、キャンパス部分開放の形でセキュリティも考慮に入れた取り組みはすぐにも実現すべきだと思いました。

○新しいテーマでの取り組みだったので、参加者も的を絞れていなかったのだと思います。そういう意味では話題が散漫になり、ハード面に終始する方、現状の身近なところに視点を置く方、大局的な視点で学部を超えた多摩キャンパスの取り組みについて関心のある方等、多面に渡ったと思います。

また、学生にダイレクトな話しよりも大学と地域という視点での意見に終始したので、もちろん間接的・時には直接的に地域との関わりが学生の学びに繋がるものと実感しておりますが、より「学生」もキーワードに入れて議論ができればと思いました。FD 委員会の示してくださった「趣旨」よりも少し広がったかもしれません。

昨年度までの「学生の現状」に絞った話しも大きくも提言にまでいっていない状況ではありますが、そこで出た学生の現状と今回からのテーマはコミットする部分も多いと思っています。

本来の大学としての使命であり、「学ぼうとしている学生」が学ぶ環境としては十分とは言えない点にも注目して欲しかったです。多摩に産業がなくバイトをするために早く帰るという理由もありますが、学ぼうとする学生は、集中的にバイトをして、学業に専念する学期中はバイトを止めて学ぼうとしている者もいます。決して裕福な事情はなくてもです。極端な話しですが、少数でもその学生達を支援する多摩キャンパスの可能性を模索したいです。学ぶこと、研究することに教員が保護的に付き添わなくても良い自由を考えませんか。

ある高校生の保護者が、娘である高校生に「女子大学は勉強だけはできる場所だよ」と自らの経験から話しておられた場面に遭遇したことがあります。その時の話しは「教職員の面倒見が良い」「少人数制」「同じ志の友だちにも会える」「男子学生の目を気にしないため自分を表現できる」というキーワードでした。

何かにチャレンジしたいという学生が多摩キャンパスであればそれを得られるという特色を模索したいと思います。日々自分なりに取り組んでいることを、他の先生方のお話を伺うことで、勇気づけられたり、工夫の発想が生まれたりという機会として年一回の学部 FD 研修会には本当に期待しています。

今回の研修会については、FD 報告書の発行を待たずに FD 委員会より問題提起をして頂けたらと思います。

○大学のハード面の問題に議論が集中し（それはそれで大変刺激的でしたが）、学生の立場に即した議論がやや乏しかったように思いました。座長としての責任を感じております。また事務の方にもう少しお話して下さるよう努力すべきであったという悔いも残りました。

○「多摩に大学があることの意味」という本日のテーマにアプローチする際の切り口としては、次の3つに分けて考えるべきであると思う。すなわち…

- ・ 教学上の特性（福祉の場合、実習先となりうる施設が大学の近くに比較的多く存在するので、実習先を確保しやすいこと等）
- ・ 学生生活上の特性（アルバイト先まで遠いこと、大学周辺での買い物や飲食が不便であるこ

と等)

- ・大学の経営環境上の問題点（都心部の大学よりは学生獲得が難しいこと）の3つである。

しかし、同時にこれらの3つの特性は相互に密接に関連し合っているので、これらを有機的に関連させたアイデアを考案していけば、「多摩市」という環境を、むしろ本学にとって有利な条件として転換させていくことも可能なのではないかと感じた。

たとえば、大学の近くに存在する福祉施設の利用者（児童養護施設に入所する児童等）を本学の学生ボランティアのマンパワーを活用して、アトラクション施設（調布市にあるサッカーJリーグのホームグラウンドで開催される試合等）に引率する企画を立ち上げることができれば、地域貢献活動、学生生活の活性化、大学進学を検討している高校生に対するPR効果という多角的なメリットを一挙にもたらしてくれるように思える。

- 多摩の特性と言う前に、「大学」で学ぶ体制を整えることが必要だと思います。大学にいて学修・研究ができるように、またサークル活動やただ大学にいたることができるようにすることも必要です。学部棟の開館時間や、パソコン室・図書室の使用可能時間を学生が使いやすいように改正していくべきでしょう。食堂の営業時間も再考が必要です。

地域との連携を一部の教員や学生だけに止めるのではなくて、希望すれば誰でも行えるように、大学側がバックアップする体制が必要だと思います。地域連携は、大学のためにだけ行う物ではないことを、しっかりとふまえて、推進する必要があると思います。

- 多摩地域とかかわりについては、多くの先生方や学生が地域とつながりを持って活動されていることを知ることができ、よかったです。

- 今回、初めて参加させていただきまして先生方のご意見を伺えてたいへん貴重な時間になりました。懇談会ではとてもユニーク且つ良い意見が多数出ていたように思います。是非、それを意見として終わってしまうのではなく、実行に移せる機会があればいいと思いました。

- 多摩キャンパスの活用をめぐり、これまで15年の間に教員および事務のほうでさまざまな動きと経緯があったことを殆ど存じ上げなかったのも、大変勉強になりました。

さまざまな提案や活動の実行がありながら、今に至るまで多摩キャンパスの独特のスタンス（大学としてのスタンス、および地域連携のあり方）はおおむね不動だったことにあらためて驚きました。せめて学生をはじめとする人々を大学にとどめておく策として（寂しいところには、本能的に人は来ませんので）消灯時間を20:00にすることと、19:00まで開いているカフェもしくはスタンドを学生会館か人間棟1階ラウンジになり、設置していただきたいなと思いました（⇒教員も夕方、おなか空いたり喉が渇きますので…）

アメニティはとくにこのご時世、居場所づくりには欠かせないと思うことと居心地のよさが、大学の印象を内側から変えていくと思うからです。できれば学生の口から「うちの大学って～だからいいんだよね」という自然発生的な広報活動が望めるようになって初めて、本当の意味でいい大学になるのだらうなと思います。

- 学生の視点でさまざまな学びの可能性を検討することができた。特に、学長と教職員が一丸となって議論できる場は有意義であると感じる。学長の考えに共感し、多摩エリアで大妻女子大学の存在感を示していく必要性を感じた。

学生と一緒に地域に出向き、さまざまな学びの機会を通して、地域貢献できればと思う。

少しずつ地域貢献プロジェクトが根付いているので、さらに発展させ、生活に根ざした学問として深められたい。

掘り下げれば皆同じ考えであることを実感することができ、多摩キャンパスのさらなる発展の可能性を感じるよい機会であった。

○有意義な意見交換ありがとうございました。マクロ的視点とミクロ的視点から述べさせていただきます。

・マクロ的視点

現在、大学が約 800 校、うち女子大学が約 1 割を占めている中、少子高齢化にともない、ますます受験生の確保が難しくなってくると思われます。このような状況下で、最も重要なのが「大学のマーケティング戦略とブランディング対策」になると思います。1960 年代アメリカでも大学間競争の激化にともない、上記を導入した経緯もあります。コトラーのマーケティング理論やケラーのブランディング理論といった手法は企業における製品の売り上げに大きく左右することもあり、大学でもそれらの理論を確立したところが、受験生獲得を決める鍵となると思います。したがって、それらの分野に対応できる部署があると、次のミクロ的視点をうまく活かすことが、十分に可能になるかと思われます。

・ミクロ的視点

学部・学科ごとに教員・助手・事務職員が日頃から思っている改善点等をブレインストーミング形式で意見交換をすることは非常に大切なことであると思われます。人間関係学部で、それが確立できていることは、非常に素晴らしいことだと感じました。

ミクロ的視点が確立されているのですから、①マクロ的視点ができる部署があれば、学部・大学の大きな発展に寄与できるはずです。

近県の S 女子大学は地域貢献に非常に力を入れている大学であり、例えば学園祭時には、初等部から大学までの生徒・学生で駅までパレードして大学名のアピールも行っています。A 学院大学（渋谷）ではカフェテリアにサンドイッチのサブウェイを入れて学生サービス向上を図っています。R 大学も同様に民間企業のタリーズコーヒーを入れています。いわゆるキャンパス内における学生サービス・満足度を向上させるとともに、学生がキャンパス内に居続ける工夫でもあるかと思われます。

多摩校は千代田校と異なり、学部棟があり、それは共学大学と女子大学を含めて、多くの大学が持っているものではない強みになると思います。それにプラスして学生がキャンパス内に居続けることができるような共用スペースやサービス向上をしていけば、少なくとも、そばにある恵泉女学園大学や駒沢女子大学の受験生を本学に惹きつけるだけの伝統と魅力が大妻女子大学多摩校には十分にあると思われます。

○「勉強したい学生がいるのに、教室の使用届け等事前に申請しなければ使用できないのはおかしいし、事務手続きが多く煩雑」という意見がありました。

どの教室も自由に使用可とするのは難しいと思いますが、例えば、各学部棟に自習室として 3～5 教室（固定）夜 21 時（仮）まで開放してほしいと総財 G へ相談していただければ、実現できない事項ではないと思いました。

○大妻女子大学を盛り上げる為には、大学生だけでは限界がある。もっと一般開放してはどう

かとの話題になりました。

一般開放するにあたっては、一般人が利用できる施設を集約（ランチを食べられるお店、手軽に学べる講座の開講、図書館開放、おしゃべりができる憩いの場）し、一日中構内にいて満足できるにしておきたいという意見がありました。一般開放することで、コンビニや ATM の設置も実現できそうだし、学生も構内にいてアルバイトやボランティア、地域の方とふれあえることができるので、とてもいい案だと思います。

大妻構内にコミュニティバスを通してもらうという意見は、衝撃的でした。宣伝にもなるし、一般開放した際にはお年寄りや子供連れを含め利用が増えるのではないかと思います。構内にバス停・・・とても良い案だと思います。この話題の時には、自由に活発に意見交換されていたので、とても楽しい時間であったという間でした。

○さまざまな立場からの意見交換でありましたが日々の所感は似ていました。多く挙がっていた構内の消灯時間が早いことによる学生への影響の懸念を日常会話の中ではなく、あのようなフォーマルなグループで共有できたことで、一職員の自分だけではなかったんだと思えました。

さまざまなアイデアをどのように形にするか、自分の立場から関われることは何かを引き続き考えていきたいと思います。

（２）今年度の学部 F D 研修会の実施方法（時期・形式等）についてご意見をお聞かせ下さい。

１）時期・形式について（現状の継続）

○12月のこの時期は、FD 研修会＋懇談会というのが構造化されていて、慣れてきましたので、同一の時期で続けていただきたいです。

○開催時期については、この時期の開催について、かなり定着しており、良いのではないかと思います。分科会の人数が13名でした。発言されなかった方もおり、10名以下を考えても良いのではないかと思います。

○来年度も、今年と同じ時期と形式でよいと思う。

○12月の開催が定着されているようなので、この時期の開催が相応しいのではないかと思います。分科会の数も時間も丁度よいと思いました。

○毎年恒例になったこと、また、学長、副学長先生にお出でいただけることも、よい企画になっていると思います。

○開催時期はこの時期であれば年末ということもあり、業務上も気持ちのゆとりも出るので、参加のモチベーションとして個人的には良い時期だと思っています。

○時期や実施方法についてもこれまで通りでよいと思います。くじでグループを作るのもちょっとした工夫も、グループ分けのプロセスとして気分を上げて分科会をスタートさせるのに貢献していると思いました。ありがとうございます。

○この程度の緩やかな縛りでよしいと思います。話し合われた内容を実質的に展開できるような体制が必要だと思います。

2) 今後の工夫

- 全体の参加者数にもよりますが、同じテーマで実施する場合は、小グループで分かれてやるよりは、全体でやる方が良いように思います。
- 形式は「全体会＋分科会＋全体会」で良いと感じましたが、どうしても教員がしゃべりすぎてしまうので、遠慮がちな事務の方の発言を促すには、4つか5つの部会に分ける方が良いと思います。
- 参加した分科会は、参加者の専攻が偏っており、ある専攻からはお一人もおられませんでしたので、とても残念でした。
専攻内で日頃話しているからかもしれませんが、新しい発想ができると思い、学生と本学部、多摩キャンパスの未来を話すための機会として期待をして参加しておりました。
- 分科会形式は率直な意見を出しやすいので、今回のような多角的な視点からのブレインストーミングを必要とするテーマの場合には、好都合である。ただし、本日の分科会での議論は、やや議論の焦点が散漫なまま終わってしまったという印象は否めない。
- 人間関係学部で行っているこのFD研修会を、一度、多摩3学部の共同で実施してみてもどうか。

(3) 今後、学部FD研修会で取り上げたいテーマ、今後の学部FD活動の課題についてご意見をお聞かせ下さい。

1) 今回のテーマや形式のさらなる工夫や発展

- 今回の「多摩キャンパスで学ぶことの意味と可能性」はとてもよかったと思います。今回、様々な提案が出ていました。分科会で同じような内容もありました。次回は、ここからテーマを集約し、テーマ別分科会も良いのではないかと感じました。
- また、同じテーマを継続してほしい。
- このテーマを深めていくべきだと思いました。「新学部との関わり」という論題もありうると思います。
- 若手・ベテランで分かれて（しかし、所属は混成で）、分科会をしてみるというのはいかがでしょうか。テーマはその時々で重要なキーワードをいつも織り込んでくださっているのですが、これまでのようにタイムリーなテーマを企画していただければ有難いです。
- 助手、助教（実習担当）、事務助手さんも学部の一員として研修会に参加されてはと思いました。

2) 新たに取り上げたいテーマ

- 高大接続、初年次教育、卒業生のフォローなどに関心があります。また卒業生の組織化、あるいは卒業生のマンパワーを大学教育に活かす教育に興味があります。
- 今回のように、その時々で必要なテーマ設定をしていただければと思います。
- 今回でてきたアイディアは埋もれさせてしまうのがもったいないので、それを具体化するための話し合いが来年にあってもよいと思いました。
- 今回始まった本テーマを継続してください。今回出てきた話題やキーワードから議論する焦点をもう少し絞って頂いても良いのかと思います。

- 「学生が女子大学で学ぶこと」「学生にとっての大学時代を教員はどのようにとらえ、共有していくか」
- 学生に対するわかりやすい教授法にも興味があります。
- 学生にいかにして授業参加をさせるかといったテーマを希望します。人間関係学部の授業を経験しておりませんので、実情は分かりませんが、アメリカの大学のように、間違ってもよいので、学生に授業中に発言をする機会を多く設ける必要があると思います。積極的参加を必要とする授業であれば、学生が必然的に授業参加のための予習・復習をしていき、学生・授業のレベルの向上や発言力アップなど社会に出てからも十分に役立つ能力が身につくことも十分に可能になるかと思っています。
- 教員相互の授業評価のシステム（教員が他人の授業を見学し、改善に向けた意見を述べ合う企画）を検討してみても良いのではないかな。

7. 研修会を終えて

今回は、昨年まで好評だった座談会形式の自由な意見交換というスタイルを引き継ぎ、テーマを新たな内容にして実施した。私たち教職員が日々向き合う学生が抱える問題あるいは秘めた力について語り、共有し合う昨年までのテーマに比べ、今回は「多摩キャンパスで学ぶ意義と課題」とやや広く抽象的なものになったが、進行した委員、参加された教職員ともにどこに焦点を絞って語れば良いかが不明確で、少々戸惑いを感じたようだ。

しかしその分、学部再編の動きによりこれまでの3学部体制からの変革期を迎え、学生を中心に私たち教職員にとっての多摩キャンパスの意義を再確認することで、さまざまな側面から自由な意見が出された。

まず、学生や教員、地域住民それぞれにとっての多摩キャンパス（地域住民にとっては「大妻女子大学」）の存在意義とは何か。を考えたい。

各分科会で出された意見で特に多かったものを中心に、以下に列記する。

（1）教員の教育・研究活動と地域社会

～個々の充実した活動及び成果。しかし「大妻女子大学という社会資源」というPRが不足～

- ①個々の教員が専門領域を生かして地域連携や地域貢献活動を行っている。
「地域連携プロジェクト」の立ち上げによって予算が確保でき、学内各部署とスムーズに調整できたことでさらに活動しやすくなった。
- ②教員が行う地域連携・地域貢献活動は、住民個々の生活や住民どうしの活動を活性化することに役立っている。
- ③学生がこれにかかわり「リアル」な社会と関わることで、学内での学びがさらに意味を持ち、学生自身の成長・発展、学生主体で行う地域連携・地域貢献活動につながってゆく。
- ④しかし、個々の活動が充実しても、大妻は大学としてのPRに消極的であり、活動の広がりや安定的な継続が難しい。「大妻女子大学という社会資源」と認識されるには程遠い。

(2) 学生と「多摩」という地域、多摩キャンパス

1) 学生にとっての多摩市、多摩地域

～学びを生かすフィールドを求めているが、踏み出したり広げたりする機会に乏しい～

- ①学生もサークルやボランティア活動、あるいはアルバイトで子どもや高齢者ら市民とかかわりを持っている。また、そういったニーズを持ちながら活動にコミットできずにいる学生も多い。
- ②最近の学生は「ジモト志向」が強い分、「学生生活のジモト」として多摩市に関心をもつ学生は多いが、キャンパスだけでなく多摩市全体にこれといった魅力を感じない学生も多い。
(多摩センター駅周辺のきれいな街並みは「ジモト」というよりも観光地という印象?)
- ③千代田か多摩かと問われれば、多くの学生は都心への通学を希望するようだが、遠方でもあえて緑の多い多摩キャンパスを選んで入学した学生もいることを忘れてはいけない。

2) 学生にとっての多摩キャンパス

～授業だけでなく「居場所」としてのキャンパスのあり方が問われている～

- ①学生は授業が終わると帰ってしまう。それはなぜか。
- ②授業の合間に過ごす場所やベンチもなく、授業以外は何となく居心地が悪いという学生が多い。(授業終了後や長い合間の時間は、ゆっくり長居できる場所を多摩センターや新百合ヶ丘などの学外に求める。)
- ③授業時間が終わるとすぐに館内の主要な電気が消灯されるなど、ハード面で「大学に長くいてはいけない」雰囲気を作ってしまっている。
- ④千代田と違って治安の心配もあるため、私たちもつい「早く帰るように」と言ってしまう。
- ⑤以前は図書館の開館時間が17時までだったが、ようやく19時まで延長された。
- ⑥トイレなど学生(特に女子として)にとって基本的な設備の使い勝手が悪いことも、何となく居心地の悪さを感じさせる重要な要因である。

3) 多摩キャンパス(大学組織全体)と多摩地域

～「住民にとって“使える”大学」としての機能強化とPR、学生の学びの場の広がりをも～

- ①多摩地域の中で、大妻女子大学は地域貢献や地域連携、それ以上にPRが消極的。存在すら知らない住民が多い。
知っていても「多摩キャンパス全体が千代田に移転すると思っていた」という住民もいる。
- ②他の女子大では大妻以上に地域と積極的に貢献している。隣県のある女子大学は地域貢献度日本一。文化祭でパレードを行ってアピールしたり、市と連携して子育て支援センターを開設したりして、学生だけでなく地域住民にとっての場所になっている。そこには地域住民と学生が一体となった雰囲気が生まれており、学生も住民も気軽に行きかう交流の場となっている。
- ③交通不便な場所にあるある女子大学では、キャンパスで降りる乗客の半分以上が住民であり、世代も老若男女さまざまである。

- ④個々にさまざまな活動をしているのに、広がり生まれず、活動の安定的継続が難しい。せつかくの活動が自己完結的になってしまっている。多摩キャンパスの地域連携の拠点機能を強化すべき。
- ⑤学生が多摩キャンパスを居場所にする 것과治安の問題を両立するためにも、市民向け講座や図書館の市民開放などにより人の行き来を活発にする必要がある。教職員もそれを当たり前と思う意識を持ってキャンパス再編、多摩キャンパス再開発に臨まなければ今後尻すばみになってしまうのではないか。

どの分科会も、当初は「学生にとっての多摩キャンパス」を意識して議論を進めようとしたが、教員の地域連携活動や多摩キャンパスのハード面の問題など、さまざまな方向に話題がとんだ。しかしこうしてまとめてみると、「学生」「地域社会・地域住民」「大学組織・教職員」のうちどれか1つを取り上げて議論しても、必ず他の要素と密接に関わりを持っていることがわかった。つまり、学生にとっても、大学の存続にとっても、地域社会にとっても大妻女子大学多摩キャンパスが「役に立つ社会資源」であるという前提に立って今後のキャンパス運営を考えていかなければならないのである。

学生生活について、どの分科会でも（また、昨年までのテーマ「学生たちは今」でも）必ず出された問題が「授業以外では学生がキャンパス内にいない」つまり、キャンパスが学生にとって安心できる「居場所」になっていないことがわかった。仲間と交流したり、一人でいたい時にホッと一人でいられる場所がないということである。傾斜地にあることで、人間関係学部棟から学食までは階段を2つ下りなければならない等、構造上の問題もあるが、たとえば学園通りの有効活用としてベンチの造設や、グラントの隅にある木々の木陰にホッと休めるウッドスペースを作るなど、既存の設備を少し工夫するだけで「あそこで休んでいこう」「おしゃべりしよう」「1人で読書でもしよう」と思えるのではないだろうか。

また、5限の授業が終わると、学生は大学に残らず一斉に帰宅する。授業終了10分後の18時には館内主要箇所が消灯され「出ていけ」と言わんばかりである。このようなハード面ばかりでなく、私たち教職員もなぜか「早く帰りなさい」と帰宅を促す。もちろん駅までの夜道の治安を心配する親心からではあるのだが、設備面だけでなくこのような小さな発言や態度も相乗効果となって、キャンパスが学生にとっての「居場所」でなくなっていることは、ここ数年の研修会での議論からも明らかである。

とはいえ、一気にこの状況を変えることはできない。学生にとって「安全」と同時に「快適」「安心」を両立させる必要があるからである。

各分科会ともに、そこから踏み込み、さらに個々の教員が行っている地域連携・貢献活動や住民のニーズとの接点を見出そうとしていた。

たとえば、夕方以降も学生が過ごせたり、学びの場を広げるために、現在休止している市民講座を開き、その手伝いとして学生を活用してみたり、図書館を市民に開放して自由に閲覧や貸し出しをできるようにすることで、多少暗くなっても人の行き来があって安心できる環境になるかもしれない。

また、今後建物の建て替えや跡地を利用するには、この点を考慮して、さまざまな立場の人が行き来し交流して、これを学生がサポートしたり、学びを広げるフィールドとしても活用でき、教員にとっては研究だけでなく地域連携や貢献の拠点としても活用できるような「場」を想定した施設の創設が提案された。

このような意見を、下図のようにまとめてみた。

左が学生にとっての多摩キャンパスに対するニーズ、右が地域住民にとっての多摩キャンパスへのニーズである。住民にとってはそもそも「大妻女子大学という大学が唐木田にあり、市民に役立つ資源を持っている大学である」と認識してもらえただけの PR と、そのための実績作り、さらにそれを効果的に進めるための大学組織作りが前提となる。

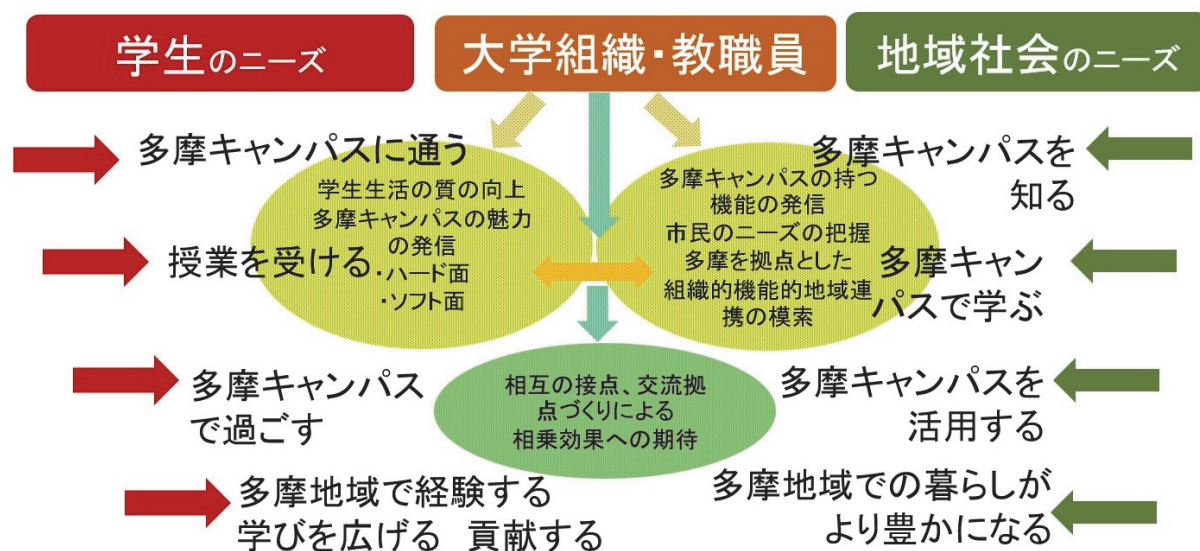


図 学生・地域社会の本学多摩キャンパスに対するニーズ

もしかすると多くの学生にとって多摩キャンパスは、上 2 段の「通ってくる場所」「授業を受けるだけの場所」になってしまっているのかもしれない。多くの大人が若かりし大学生活を思い出す時「通い、授業を受けていただけの大学」を懐かしく思うことはないだろう。ここを「居場所」として安心して「過ごす」という体験が必要なのだが、これまでも述べてきたとおり、ハード（設備）面でもソフト面でも、立地条件的にもそうはなっていない。

地域社会では、大妻女子大学の名前程度は知っていても、たとえばいくつの学部があるとか、正確な場所はどこかと答えられる人は多くないだろう。まず「知ってもらおう」ことから始める必要がある。しかし、どんな魅力を看板として掲げるか、つまり何をもって地域に貢献できるのかという内実を組織的に作り上げていくことが大前提になる。

学生及び地域社会、どちらをとってもやや「ここで過ごしたい」「あの大学に行ってみたい」という魅力に乏しいならば、両者をつなぎ、両者にとって一石二鳥になるような方向性を探るべきだろう。

中心にある円が、今後考えられる方向性である。

左側の円は、キャンパスが学生に対して行うことである。

①学生生活の質の向上

②多摩キャンパスの魅力の発信（ハード面、ソフト面）

これらは、通常行う個々の学生への教育や指導、学生生活への新と同時に、「安心できる居場所」としての設備面や基本的な考え方を改めて整理することである。たとえば先にも挙げたベンチの造設や既存の空間の安全で有効な活用、図書館などの設備の開館時間の見直しなどである。ソフト面は、教職員自身がキャンパス内で学生にどのように過ごしてほしいのかという基本的な視点がある共通認識をもつことだが、意外とこちらの方が時間がかかるかもしれない。しかし学部再編などの具体的な方針を検討する際には必ず検討すべき内容であると考えられる。

右側の円は、地域住民に対して行うべきと考えられることである。

①多摩キャンパスの持つ機能の発信

②市民のニーズの把握

③多摩を拠点とした組織的機能的な地域連携の模索

これらはすでに述べてきたことではあるが、闇雲にキャンパスの存在を PR しても意味はない。上記の「学生のための魅力」を高め、学生がキャンパスライフを楽しみ、主体的に地域に出ていこうとする機運を高めることと連動しなければただの「イメージ戦略」で終わってしまう。大規模な広報戦略でなくても、大妻多摩祭の企画を、さらに地域住民参加型、近隣小中学校や社会福祉協議会、あるいは商工会議所等と連動することで、市民が自然に足を踏み入れてくれる機会を多数提供できるのではないかな。現在市民が自由に出入りし、キャンパスで楽しみにしているのが、暗くなってからの花火大会というのは皮肉すぎる。

一方で、教員個々に行っている真に住民の生活を豊かにする研究・貢献活動を、たまたまその活動を知った人だけでなく、市民全体に知ってもらい、広がりを持たせるための組織的な取り組みも必要である。一つの考え方として、地域連携推進センターの多摩での拠点を作り、多摩のニーズに即した形で活動を支援できるようにするなどが考えられる。これにより地域の実情に応じた財源の活用も可能になり、内容もさらに多岐にわたって充実していくのではないだろうか。「授業を受けに来るだけ」の学生が、「授業で学んだことが地域で実際に暮らす方々にとって、このように役立っている」という場面にかかわることによって、大学での学びは真に生きた学びになるし、これがなければ人間関係学部が目指す「関係的自立」も「共生」も、大妻女子大学が目指す「社会で自立した女性」にもつながらないことがわかる。キャンパスでの「居場所」と同時に、キャンパスを拠点に「キャンパスで学んだことが地域に役立つ」という体験をすることで、学生にも地域住民にとっても相互に高めあう機会となり得るのである。

今回は新たなテーマで分科会を行ったが 実際に 3 分科会分の議論をまとめてみると、奇しくも過去 2 回の「学生たちは今」とかなりの部分で共通しており、さらに、その解決の活路がキャンパス内だけでなく地域社会にあり、大学という組織が両者をつなぐ役割を積極的に担うべきであるという結論に至った。

学部 FD 委員会としては、学生の学びを深めたり地域社会で真に役立つ教育・研究に取り組んでいくためにも、キャンパスの一員として幅広い視点から意見を出し合えた今回の研修会は大変有意義なものであったと考える。もっとも基本である教員個々の資質向上と授業改善への取り組みを重視しつつ、常に専門外、キャンパス外に向ける目を持ちながら、日々の教育・研究活動にまい進していきたい。

最後になりましたが、年末のお忙しい中ご出席くださいました学長・副学長先生はじめ事務職員の方々、人間関係学部教員及び運営に携わっていただいた助手、助教（実習担当）の皆さまに深く御礼申し上げます。

VIII 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を年1回開催し、教育に関する連携強化を図っている。本学部においては、教育懇談会を学部、学科、専攻の3段階で行っている。昨年度に続き、今年度も、学長の教育に対するメッセージをお伝えするとともに、平成24年8月28日に出された、中央教育審議会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』も踏まえた懇談会となることを意識して実施した。平成26年5月24日13時から、学部全大会、学科・専攻での懇談会を実施し、その後多摩校舎全体での懇談会を行った。

1. 学部全体会

町田学部長から、以下の3点についての話があった。

(1) 中央教育審議会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』の中から、1ページ目の「予測困難な時代が到来しつつある」、2頁目の「次代を生き抜く力を学生が確実に身に付けるための大学教育改革が必要」、9頁目の「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材」を取り上げた。また、これに加え、主体的に学ぶ習慣を身に付け、卒業後も考える力を持った人材育成を目指すという大妻女子大学独自の教育方針についての説明もなされた。

(2) 大妻女子大学の教育理念として、2014年4月に出された荻上紘一学長の「恥を知れ」「らしくあれ」「関係的自立」の言葉を解説し、人間関係学部開学当初からの教育理念としての「共生」について説明した。大妻コタカ先生の「恥を知れ」は人々に対してののしる意味ではなく、自分に対して使う言葉であり、反省する、恥ずかしいと心から思っ自分振り返り次に向かっていく言葉である。「らしく」とは、人間関係に関わる言葉である。他の人にどう見られているのかを意識する。この二つの言葉が合わさることにより、他人も活かし、自分の活かす、「関係的自立」を意識した教育を目指すことができるのである。

(3) お願いと確認として、平成26年度履修ガイド「試験について」の項目を抜粋し資料配布され、2点説明した。①卒業年次生が不合格の認定を受けた場合、一定の条件のもとで再試験を認めている事。②学期末試験における不正行為について、何かあれば教務委員に相談していただきたい事。また、ハラスメント制度について大妻学院として出している「ハラスメントのないキャンパスへ」の資料が配布され、ハラスメント相談員の存在、言葉の暴力、差別等の配慮に気を遣って頂きたい旨が話された。

2. 学科及び各専攻での懇談会

学部全体を踏まえ、各学科・専攻の現状を報告する機会を設け、意見や感想を伺った。また、実際に、同一科目の複数担当者が一堂に会する機会でもあり、科目の打ち合わせの時間を取る等の充実した時間を過ごすことができた。

懇談会での話題は、授業内容に関わること、出席管理システム・manabaについて、設備・設備について、成績、授業評価に関すること、学生の様子等、多岐に渡った。ここでは、非常

勤講師からの主な意見、要望を専攻がどのように対応したかについて取り上げる。

(1) 授業内容に関わること

・授業に使用する付箋、模造紙等購入したい。(社会学専攻)

⇒(回答) 共同研究室経由で希望をお伝えください。

・授業の途中で外に出たり、授業中にご飯を食べる学生がいる。(社会学専攻)

・授業中に飲食したり、化粧をしたり、携帯機器の使用等が見られる。これらに対する大学としての見解を示してほしい。(社会学専攻)

⇒(回答) の対応について何らかの指導を検討する。(社会学専攻)

授業中の飲食は原則禁止である。ただし、飲み物に関しては、夏季の熱中症など発生状況を見て黙認しているという意見もあり、臨機応変にお願いしたいことを話した。化粧に関しては、程度の問題である。また携帯機器については、電子辞書代わりに使用している場合もあるので、授業ごとに判断されたい。ただし充電は不可である。(教養教育)

教室における飲食は原則禁止としている。(教育支援グループ)

全学生に毎年配布している「学生生活の手引き」(47 ページ) 学生生活のルールとマナーに注意事項については掲載している。また、各種ガイダンスなどでも必ず注意を促すようにしている。なお、携帯電話など充電を見つけた場合には携帯電話を没収し、反省文を書かせてから返却するなど、厳しい措置をとっている。(学生支援グループ)

・講義内容をスマートフォンで写す学生がいる。

⇒(回答) 授業毎に対応いただくのはもちろんですが、大学全体としてこれから検討する必要があるかもしれません。

・試験監督や授業の補佐など、必要な時だけ TA に協力を得たい。(社会・臨床心理学専攻)

⇒(回答) 現在、そのような携帯での TA の採用はありませんが、検討してみます。

・試験でマークシートは使用できるか。(社会・臨床心理学専攻)

⇒(回答) マークシートは使用できますので、事前に共同研究室、教務委員等にお問い合わせください。

・試験の助手を頼むにはどうすればよいか。(社会・臨床心理学専攻)

⇒(回答) 試験アンケートに要望を書いてください。教務委員会でも授業期間中の試験に補佐をつけることについて検討したいと思います。それ以外でも、ご不明な点は教務委員等になんでも質問してください。

・「社会福祉学基礎セミナーⅠ」の授業関係について(人間福祉学科)

①今年度の授業のねらいは何か。

⇒(回答) テーマの柱は、「社会福祉の世界の扉を開こう」「利用者、援助者両方の立場で考察してみよう」「福祉の現場を自分の目で学ぼう」の3点です。学生が『体験』を中心に福祉の実像を様々な視点から捉えて、福祉のイメージを幅広く持てるように工夫しています。

「基礎セミナーⅠ」の担当者は、「基礎セミナーⅡ」への課題等に対応できるような指導を実施します。様々な社会福祉の問題への取り組み方は、学術的なアプローチ(仮説→検証=事実→結果→考察)によって、基本的な学術論文が書けるように文章の作成能力を高める工夫があります。今年度から、「体験学習(高齢者体験・視覚障害者体験・車椅子体験)」において共通

のテキストを独自に作成しました。また、クライアントの特徴や介助方法等を事前に指導した後に体験学習することになりました。

②指導するうえでの留意点は何か

⇒（回答）学生にはこれまで通り、「無断欠席しないこと。課題レポートは、必ず提出期日を守ること。理解できない場合は、必ず質問すること。」を事前に伝えてください。また、「体験学習」においては、動きやすい服装、実習にふさわしい靴での参加、学外への施設・機関見学は、原則スーツを着用するようご指導ください。

③欠席が目立つ学生へはどのように対応したらよいか。

⇒（回答）6回以上欠席した学生の評価は、「E 評価」になります。学生が無断で2回欠席した段階でお知らせください。学科の担当教員（クラス指導主任）が対応します。

④評価方法はどのようにするのか。

⇒（回答）学生にとって不利益にならないよう、前期講義終了前には書く担当教員へ公平な評価方法を提示する予定です。

・「社会福祉学セミナーⅡ」の授業関係について（人間福祉学科）

①今年度の授業のねらいは何か。

⇒（回答）基礎ゼミⅠでの学習内容を踏まえて、「読む」「聴く」「書く」「話す」「考える」の基礎訓練をします。

②具体的な指導内容について

⇒（回答）基礎ゼミⅠの図書館ツアーで、専門書の文献検索ができるように指導します。特に keyword 検索で文献を探すことにチャレンジすることが分かったので、基礎ゼミⅡでのグループでの取り組み等に活かします。基礎ゼミⅠの多様な機関・施設の見学で社会的・福祉の実態や課題に触れる機会があることを、基礎ゼミⅡでテーマを見出す際の指導に活かします。基礎ゼミⅠでの仮設・検証・結果・考察の訓練を、基礎ゼミⅡの倫理的思考の指導に活かします。

・「社会福祉援助演習」の授業関係について（人間福祉学科）

①講義との関係を教えてほしい。

⇒（回答）相談援助演習Ⅰ～Ⅴの内容は、まず、講義で理論を先に学びます。その学んだものについて、翌期に演習で学ぶよう、授業を組み立てています。また、演習での学びを講義でフィードバックするよう講義と演習の連動性を意識したプログラムとなっています。

②授業運営について教えてほしい

⇒（回答）相談援助演習Ⅰ～Ⅴは専任教員と非常勤教員の組み合わせで授業を進行していきます。授業は統一シラバスにより運営されます。授業開始前に、教員用の授業案内が配布されますので、ご一読ください。

③欠席の取り扱いについて教えてほしい。

⇒（回答）社会福祉士国家支援受験科目ですので、3回欠席した時点で履修不可となります。

④クラスの足並み調整と変更をどう考えればよいか。

⇒（回答）相談援助演習は統一シラバスで行いますが、クラス運営上、他のクラスとの違いが生じてしまったときは、その演習担当の専任教員にご相談ください。専任教員と打ち合わせをしていただき、変更や調整を行います。

（２）出席管理システム・manaba について

- ・ manaba について、使い方を知りたい。（社会・臨床心理学専攻）

⇒（回答）その場で manaba の使用例を挙げながら、使い方を説明した。

（３）施設・設備について

- ・ 新しい設備・制度はあるか。（社会学専攻）

⇒（回答）その場で、manaba を導入したことと、その使用方法を詳細に説明した。

- ・ スクリーンが黒板前に下りるので、パワーポイントと黒板板書の併用の場合、時間のロスが大きい。可動式のホワイトボードなどがあると良い。（社会学専攻）

⇒（回答）いくつかの教室では黒板が隠れずにスクリーンに映写できます。教室変更が可能な場合もありますので、まずは教室の希望をご提出ください。

（４）成績、授業評価に関すること

- ・ 授業評価アンケートは匿名ではなく記述式にすべきではないか。（社会学専攻）

⇒（回答）すぐに対応することは難しですが、FD 委員会で検討する予定です。

- ・ 授業評価アンケートの実施時期は授業の最後にならないか。（社会学専攻）

⇒（回答）現状では大学全体で統一した日程になっていますので、変更することはできませんが、今後の検討事項とします。

（５）その他

- ・ 学生との距離の取り方に試行錯誤している。（社会学専攻）

⇒（回答）学生毎に対応していただき、必要に応じて専任の教員に随時ご相談ください。

- ・ 社会福祉士実習関係について（人間福祉学科）

①実習先の指導者の方から、「実習日誌の記述内容が薄い（考察が浅い）」「誤字・脱字が多い」といった苦言を受ける例が、年々増えてきていると感じる。実習事前指導において、これまで以上に「日誌の書き方」の指導に時間を割く必要がある。

②他大（偏差値の高い有名校）の学生と実習先で一緒になり、事例発表内容や日誌の記述内容を自分のものと比較して、強い劣等感を抱き、ひどく落ち込んでしまうという事例が見られた。このような学生が必要以上に落胆することが内容、巡回の際に教員が心配りすることも時には必要かもしれない。

③実習期間中の学生の就職活動について、実習期間中は実習に専念するよう指導を徹底することを前提として、やむを得ない場合の対応を確認した。

④特に知的障害者施設で実習を行う場合の問題について、学生への事前の事例紹介、問題が生じた場合の対応方法の周知が必要である。

３．今後の課題

年 1 回の非常勤講師との教育懇談会の機会をより充実していく必要がある。本学の教育方針の実践において、本学の動向や情報の共有等は学生への教育や指導に大きな影響を与えていると思

われる。また、最近の少人数化授業の実施等を鑑み、同一科目の複数担当が増加している。

本学の教育は、非常勤講師のご尽力なくしては難しい。卒業後も考える力を持った人材育成を目指すためには、学生個々への目配りや、考える参加型の授業が重要になってくる。今後ますます多様化していく学生の状況を共有する機会として、また、大きく動こうとしている本学への理解を深めていただく機会として、今後もこの非常勤講師との教育懇談会に積極的に取り組むことは重要である。

大妻女子大学 人間関係学部 授業担当者懇談会 挨拶

平成26年5月24日(土)

人間関係学部長 町田章一

1

新たな未来を築くための
大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

(答 申)

平成24年8月28日
中央教育審議会

平成24年8月28日
中教審「答申」

2

答申の要点のひとつ

- 予測困難な時代が到来しつつある。(1頁)
- 次代を生き抜く力を学生が確実に身につけるための大学教育改革が必要。(2頁)
- 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材……(9頁)

3

大妻女子大学の教育方針 荻上紘一(2014.4)

「恥を知れ」+「らしくあれ」

↓

関係的自立

4

お願いと確認

- 1 卒業年次生が不合格の認定を受けた場合
⇒ 一定の条件のもとで再試験
- 2 学期末試験における不正行為
⇒ できないような状況を作る。
⇒ 万が一、不正受験が発覚した場合には、
ルールに基づいて、肅々と対応する。
- 3 ハラスメント制度

5

IX 人間関係学部FD活動の課題

1. 共有された課題の共有と具体的な提案

今年度に限らず、これまでの学部FD活動を振り返ると、個々のFD活動や教育上の視点、工夫、手法などを共有し、個々の教員がフィードバックして各自のスキルアップ、教育の質向上に役立ててきたと言える。

しかし一方で、私たちの教育の受け手であり主体的な学習者であるべき学生が抱える問題が多様化しており、個々の教員の資質向上だけでなく、学生の個別ニーズに応える形で教育体制を整えなければ学部としての教育の質向上は不十分と言わざるを得なくなっている。平成25・26年度の学部FD研修会で取り扱った「学生たちは今」という自由討議では、学生間の学力格差、経済的な環境の格差、学習へのモチベーションの格差、大学や教員に求めるニーズの格差などが浮かび上がった。さらに近年は学部再編の動きも慌ただしく、まさに私たち教員と学生が、現在多摩キャンパスでそれぞれの専門領域で学ぶ意義が問われていると言える。

ここ数年の各教員のFD活動、専攻・学科ごとのFD活動、さらには自由討議で得られたさまざまな課題を、事務職員も交えて組織的に改善・解決・向上させていくための提案レベルにまで具体化していくことが今後の課題である。また、本学部だけでなく多摩キャンパス3学部が共通テーマで自由討議をし、キャンパス全体で共有して具体的な提案に結び付けていく試みも有意義かもしれない。

2. 個々の教育の質向上

各教員レベルでは、学部創設当初から行っていた「公開授業」が近年実施されていない。これは、実施してもどの教員も多忙により他の教員の授業に参加できないことが原因であった。代案として学部FD研修会（平成24年度）で各専攻から初年次ゼミの方法を紹介する等の内容で実施していたが、学生の実像や多様な個別ニーズを探るために、ここ数年はテーマを定めた自由討議形式で研修会を行っている。いずれにしても、授業の質、個別指導、キャンパスのあり方をバランスよく網羅したFD活動のあり方を今後も検討しながら行っていく必要があるだろう。

3. 他の委員会や全学FD委員会とのさらなる連携

年数回、全学FD委員会主催のFD研修会を実施している。個々の教員にとって気づきや学びの多い研修会であるが、学部全体、あるいは各学科、専攻の専門性や個別事情にまで落とし込んだ形でフィードバックできていないのが残念である。個々の教員の努力にも限界があり、学生のニーズが多様化している現状を踏まえると、全学単位で行う研修を各学科・専攻の実情に応じた形で二次研修を行うことも有意義かもしれない。

しかしこれらも、学部FD委員会や学科・専攻のFD委員が単独で行えるものではないので、全学研修のテーマに応じて教務委員会、学生委員会など横のつながりを活用して検討し、実施していく必要がある。また、障害学生が他の学生と同様に大学生活や大学での学びを謳歌できるよう障害学生支援委員会があり、近年では全学的に始まった社会人入試、外国人入試によっ

て、さらに多様な背景をもった学生が本学部での学びを希望して入学してくることが見込まれる。FD 委員会ははじめ各委員会で行うべきことは、そのような個々の学生への支援と同時に、「誰が入学してきても学びやすい開かれた学習環境」を作り上げることであろう。

そういった意味で、FD 委員会は各学生や教員がもつ情報をまとめ、必要部署との連携を深めながら「誰もが学びやすい環境を整える」かけはし役と言えるのではないだろうか。

今後もより視野を広げ、学生や教員のニーズにすぐ手が届く FD 活動に努めていきたい。

X 学外FD活動関連セミナーへの参加報告

本章では、各教員が参加した学外での研修会に関する報告のうち、おもなものを掲載する。

新たに着任した教職員が受講する新任教職員研修への参加報告（今年度着任した尾久教授、および今年度ではないがこれまで未掲載だった壬生准教授（平成 24 年度）の報告）もあわせて掲載する。

1. 平成26年度 教育改革FD／ICT戦略会議（町田章一教授／人間関係学部長）

日時：2014（平成 26）年 8 月 6 日（水）13：00～17：50

場所：明治大学駿河台キャンパス（東京、神田）

主催：私立大学情報教育協会

以下、各発表の概要ではなく、大妻女子大学人間関係学部の観点から見て有意義であると考えられる情報を列挙する。

1 「日本再生のための大学改革－求められる改革行動とは－」安西祐一郎（日本学術振興会）

- （1）現在の大学生が社会の中核となる 2030 年代をイメージして教育する。
- （2）MOOCs が普及し、求人も国際的になる。比較的安い賃金で良質の労働力を提供する人材が求められ、中国人とインド人が世界の中堅の労働力に占める割合が増加する。
- （3）グローバル化・多極化が進む世界では、「主体性」（自分の目標を自分で見出し、実践する力）が重要になる。
- （4）「主体性」を育てるには、「受け身の教育」から「能動的学習」へ質的転換する必要がある。
- （5）経済界が大卒に求める能力は上位から「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」などである。（2008 年度調べ）
- （6）問題解決力（「与えられた問題を解く力」ではなく、「答えのない問題を『問題』として理解し、答えを見つけ出す力」とチーム力（「仲良しだけが集まって問題を解く」のではなく、「多様な他者とのチームを形成、運営、成果を出す力」が求められる。
- （7）そのためには、社会人や留学生も含んだ多様性のある学習環境が必要。現在の日本には 700 以上の大学があるが、留学生比率 6 %以上の大学は 20 校（内私立は 7 校）のみ。米国の州立大学は留学生の平均比率は 7 %以上。

2 「経済界が求める世界に通じる人材育成のための教育改革」川村 隆（前経済団体連合会副会長、日立製作所相談役）

- （1）企業は社会貢献をするためにも利益（業績）をあげなければならない。そのためには良い戦略を立てることができる人材が必要。彼らは、情勢を「読み取り」、戦略を「描き」、抵抗勢力を含めた仲間に「話し」、「実行」する。
- （2）人材は国内だけでなく、人材会社を通じて世界中から探してくる。日立は 14 人の取締役中、4 人は外国人。女性は 2 人。

- (3) 経団連は「グローバル人材育成」(年間 30 名に、各 100 万円のスカラシップを出している)と「ICT 人材育成」に力を入れている。
- (4) 企業側から見ると、学長に「人事権」や「金の分配権」がないことが不思議。
- (5) 企業は年に 4 回、業績を公開している。大学はもっと外部評価を受ける必要がある。

3 「教育の体系化と個別指導を組み合わせた効果的な学修環境づくりへの改革」田中愛治(早稲田大学理事、教務部門総括)

- (1) 全学共通副専攻として「アカデミックライティング教育(日本語+英語による論理的表現)」「英語教育(議論のできる英語)」「数学教育(論理的思考)」「統計教育」を実施している。
- (2) 2000 年にオープン教育センターを設置。「Tutorial English」「学術的文章の作成」「数学基礎プラス α 、 β 、 γ 」を実施。
- (3) 「Tutorial English」では、チューター(講師)1 名と受講生 4 名からなるクラスで英語コミュニケーション能力を高める。2000 年から実施。
- (4) 「学術的文章の作成」では、授業のレポート、プレゼンテーションの原稿、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文を指導対象とする。担当教員、シニア指導員(助教、助手、大学院生)、指導員(大学院生)が学部生(履修生)を指導。
- (5) 約 700 の海外の大学・研究機関と交流提携。2032 年までに、海外派遣留学生を現在 3,076 人から全学生へ、外国人留学生数を 4,697 人から 10,000 人(20%)、外国人教員数を 147 人から 400 人(20%)へ増やす。

4 「アクティブ・ラーニング実質化の課題ー長崎大学での試みを例としてー」山地弘起(長崎大学)

- (1) アクティブ・ラーニングは思考を活性化する授業形態の総称。
- (2) アクティブ・ラーニングは大学教員を「対人職」(communication 労働をする人)として再定義。
- (3) 学生の思考習慣(学習習慣)への働きかけ等が課題。
- (4) これまでは「秩序となぞり」⇒これからは「体験、覚える、探究、表現、教える・・・など様々」
- (5) 思考の活性化は単独科目では不十分。

5 創価大学ラーニング・コモンズ“SPACE”と主体的学び」寺西宏友(創価大学副学長)

- (1) “SPACE”とは、「学びの場」「学びを支援する機関」。2013 年 9 月に開設。平日は 9～20 時、土曜日は 10～18 時。
- (2) 2000 m²。協同学習・語学学習・自習・PC・学習相談エリア、日本語・英語ライティング支援・図書館サービスなど多機能を凝縮。
- (3) 教職員・大学院生・学部学生・留学生スタッフが一体となって支援。全 116 教室の半数以上が可動式椅子。

- (4) 平日は 2,000 人以上が利用し (学生数 8,143 人)、増加傾向にある。個別学習エリアよりも協同学習エリアから埋まって行く。学生が主体的・積極的に施設を活用。2014 年前期、実際に利用している学生は、1 年生、実利用者率 99.4%、定期利用者率 40.4%、2 年生、実利用者率 80.7%、定期利用者率 13.3%。2014 年前期、一年生の定期利用者率は 40.4% であるが、学部別にみると (8 学部)、最高は国際教養学部の 95.2%、最低は看護学部の 4.9%。
- (5) 学習支援としては、学習相談、学習セミナー、レポート診断、レポートチューター、数学チューター、オアシスプログラム (成績不振者向き個別サポート)、スタディリーダー養成講座、シェア・タイム (学生や教職員が「学び」をテーマに 30 分枠で報告し合う)、ピアサポートがある。そのうち最も利用者数が多いのは、学習セミナー、レポート診断など。

6 「日本における MOOC の可能性と今後の展開」 白井克彦 (日本オープンライン教育推進協議会理事長)

- (1) MOOC とは Massive Open Online Courses (大規模公開オンライン講座) の略。2012 年、米国から始まる。米国の有名教授等、大学教員が数週間で学べる学習コースを開設。世界 49 カ国、277 組織から約 25,000 科目が公開され (2013 年現在)、世界中で 1000 万人以上が受講。誰でもオンラインの登録だけで、スマホがあれば無料で好きな講座を受講可能。コース修了認定基準を満たすと修了証が交付される。
- (2) 海外 MOOC プラットフォームとしては「coursera, コーセラ」(スタンフォード大教授らが設立。109 教育機関の 657 講座が受講可能。東京大学が 2013 年に 2 講座提供。提供できるのは各国トップ 5 大学のみ)、「edX、イーディーエックス」(MIT とハーバード大学が約 60 億円を出資して共同設立。30 以上の大学が 150 以上の講座を提供。京都大学が 2014 年から開講。提供できる教育機関は edX が選択。5000 万円基準の寄付による 2 軍があり、大阪大学が参加) が有力。
- (3) その他のプラットフォームとしては、イギリス、フランス、スペイン、ドイツ、EU、中国などがある。ヨーロッパの MOOC 開講コースは 670 以上、同時期の日本の開講数は 6。
- (4) 日本における可能性について。インターネット世論調査によれば、MOOC 利用経験者は 1.4%、今後利用したいは 45.5%。利用しない理由は語学力がないから (34.9%)、難しそうだから (29.2%)、時間がないから (28.9%) と続く。ただし、日本語の吹き替えがあれば利用したい (36.1%)、日本語字幕があれば利用したい (35.5%) となっている。
- (5) 2013 年に JMOOC 設立。2014 年現在、特別会員 7、正会員 63 (大学 28 他)、協賛会員 9、個人会員 20。目標は 100 講座、受講者 100 万人。JMOOC 公認プラットフォームとして「gacco」「OUJMOOC」「OpenLearning, Japan」。大学にとってのメリットは、①ブランドのイメージを高める、②社会人、高校生、留学生へのアプローチ、③学外へ大学教育レベルの教育を提供することによる社会貢献、第三者評価でアピール、④教育の質向上、⑤他大学へライセンス提供など。

以上

2. 平成26年度新任教職員研修（尾久 裕紀教授／人間福祉学科介護福祉学専攻）

（1）受講場所 八王子セミナーハウス

（2）受講期間 2014年9月1日（月）から2014年9月2日（火）

（3）セミナーの到達目標

- 1）他大学・他分野の教員との交流を通して、ユニバーサル・アクセス時代の大学教員にふさわしい教育方法を構築するためのヒントを得ること
- 2）前期（春学期）に実施した授業に対する学生による授業評価アンケートの結果を、後期（秋学期）における授業改善に活かす方策を見出すこと
- 3）シラバスの活用方法についてのヒントを得ること

（4）研修プログラム

《第1日 9月1日（月）》

開会

グループ討論1：アイスブレイクと問題意識の共有

シンポジウム：現代大学教育論

- ・電気通信大学における専門教育としてのキャリア教育実践例：

『エンジニアリングデザイン』を通した社会人基礎力養成

- ・学習支援に果たす図書館の役割

- ・困難を抱える学生の理解のために—いま、私たちにできること—

夕食・情報交換会

《第2日 9月2日（火）》

講演1

学術の創造、継承そして公共性を担う大学—大学教育の質保証—

【私の授業1】学生参加型授業の実践

【私の授業2】大人数教室での効果的な授業運営方法

グループ討論2：学生授業アンケートを授業改善に活かす

夕食・情報交換会

（5）研修の成果・感想

最近は多様な学生に対して適切な教育をしていかなければならないこと、実際の授業では自分なりに工夫はしてもなかなか難しいことはこれまでの教員生活で理解はしているつもりであったが、この問題について、セミナーではユニバーサル・アクセスの時代という観点で包括的に学ぶことができ、より深い理解が得られた。

2日目は問題解決のための具体的なヒントを得ることができた。【私の授業】として、「学生参加型授業の実践」と「大人数教室での効果的な授業運営方法」が紹介され、グループ討論では「学生授業アンケートを授業改善に活かす」というテーマで討論した。共通していることは、いかに学生に適度なさまざまな刺激を与えることで興味を持たせるか、ということであったと思う。私の経験でも学生が授業を聞かず、居眠りをしたり、おしゃべりをするのは、教員の（工夫が足りない）授業内容に興味を持たないことが原因のひとつと考えている。

セミナーに参加した後は、授業の準備にこれまで以上に時間をかけ、授業のやり方を大幅に

変えた。科目によっては内容をすべて見直し、資料を作成し直した。また、クラウド型授業支援サービスの **manaba** をこれまで以上に幅広く導入した。ただ、やり方を変えることによって従来の自分のよさが減じることもあり、現在修正中である。

教育の在り方は絶えず変化するものであるし、それに伴う教員の課題、悩みも変化する。教員同士がこのような問題を共有し、話し合う機会が必要で大変有意義であると思う。学内でも今後 **FD** 活動を充実させていくことがこれまで以上に重要になると考えた。

3. 平成24年度新任教職員研修（壬生尚美准教授／人間福祉学科介護福祉学専攻）

着任した2012年（9月3日～5日）に新任教員研修セミナーへ参加した。八王子セミナーハウスに2泊3日、朝から夜まで、北海道から沖縄までの国公立大学の新任教員（42名）の参加者と意見交換する貴重な機会だった。

研修内容は、「現在学生論」「シラバスと授業設計」「大人数での効果的な授業運営方法」「学生参加型授業実践」「授業に取り組み姿勢を育む」など、講義やシンポジウム、グループワークを通して、次の具体的到達目標を挙げた研修が行われた。

①ユニバーサル・アクセスの時代における大学教員にふさわしい教育方法を習得すること。
②所属大学（学部）の教育目的と受講学生の能力とニーズに合った内容を持つ授業を構想し、実施するための必要最小限の能力を習得する。③前期授業評価に対する学生の授業評価に基づいて、学生が不満に思う事項を改善するための実行可能な方策を見出す。

2年前の研修内容で今でも印象に残っているのは、「学生参加型授業の実践～多様性が活きる学びをめざして～」をテーマに講義された内容である（明星大学人文学部 教授 菊池滋夫氏）。

具体的には、講義科目における授業を聞いているだけという「受け身」を強いる授業方法を決別して、**BRD**（=Brief Report of the Day）方式を採用するというものだった。それは、授業時間内に完成させる小レポートの積み重ねを軸とした授業であり、方法によっては **BRD** の質も向上するとされる。この大学講義の改革により、学生の授業評価で、「自主的な学習や準備」が最も大きく改善されていた。**BRD** 方式は、学生への一方的な講義から、学生による能動的な参加を促すことになり、「教員がどれだけ教えたか」ではなく、「学生がどれだけ学んだか／できるようになったか」へ転換され、学びの軌跡を記録し成長へとつなげる授業だと報告されていた。また、自分の意見を論理的な文章で表現する力を育成することも期待できるとされる。そして、教員の役割は学生の能動的な学びを引き出し支援するファシリテーターであるとした。

私の前・後期の学生授業評価は、講義・演習のどの教科を見ても、「予習」に関する項目が他の項目と比較して低い。レポート課題の提示や小テスト、次回の授業内容を説明するなど予習・準備を行なえるように意図的に実施しているが、それほど変わらない状況にある。平均的学生層の学力と学習意欲が低下し、学習に集中できない学生の増加など、様々な「個性」や「特徴」を持った学生に対し、如何に「主体的な学び」を実践できるように意図的に授業運営を行なっていくか大きな課題だと考える。**BRD** 方式は大講義だけでなく、基礎ゼミなど少人数活動でも実施しているようだ。**BRD** 方式のような授業運営を検討し、学生が能動的に学べるよう教授方法を工夫していかなければならないと強く感じた。

新任教員研修セミナーは、今どきの学生状況に合わせて、大学教員として授業運営をどのよ

うに行うか、授業設計・シラバスの作成の仕方なども含め基本的な内容を、講師陣や参加者と意見交換する中で、日頃の自らの授業運営を振り返ることができ、大変有意義な研修だった。参加させていただきありがとうございました。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2014（H26）年度前期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①秋山恵美子

②在宅介護論

③アンケート 19 項目のうち、18 項目はすべて学部平均を上回っていましたが、No14 の出席率が平均を下回っていました。履修者数が少ないうえに、教育実習や国試対策と重なるなど、全員が揃う授業が数回となり、当初授業進行に支障をきたすこともありました。欠席者に対して、復習を兼ねての小テスト、レジュメの記述を確認するなど進行のばらつきを最小限にするようにしました。履修者数が少ないゆえに一人ひとりに対して、フェイス to フェイスの細やかなチェックができたことは、よい結果となりました。選択科目で、単独で出席する学生さんに対して、欠席による授業の抜け落ちがないよう、学生さん任せだけにせず、声かけなど教員の配慮が必要なことを実感しました。

④前述しましたが、少人数の開講で教育実習に 4～5 日ほど重なっていました。教育実習の内容から、当該科目を学習してからの実習の方が、教壇に立つうえで不安が軽減されたことと思います。(学生さん本人の言葉です)

⑤特にございません

①秋山恵美子

②介護の基本 F

③全体的に学部平均よりすべてのカテゴリーにおいて、0.5 ポイント以上平均を上回ったの結果でした。H25 年度の「FD 活動報告書」の中でも取り上げられていました No15 の予習・復習では、学部平均と比較すると 1 ポイント以上高い平均でした。この結果は、授業の奇数回に実施する小テストの実施により短時間でも、復習するきっかけとなっていると思います。授業直前に前向きに小テストを取り組む姿勢がみられ、今後も小テストの意義を伝えながら、実施していきます。また、新聞記事やタイムリーな情報提供をこれまで通り授業前に実施し、興味を引く授業展開を実施して参ります。

④可能であれば、学生さんの座席を定着していただき、顔とお名前を憶え双方向の授業を展開したいです。⇒H26 年後期の科目で、学生さんの了解を得て座席の定着を可能としました！

⑤特にございません

①石井三智子

②相談援助演習Ⅲ、相談援助演習Ⅴ

③上記両科目とも、授業に臨む学生の予習・復習の程度が、演習という科目の性格も影響はあるでしょうが、他の項目に比べて低く出ていました。こちらの熱意だけでなく、いかに学生に学んでもらうかの視点を持って来年度は臨みたいと思います。

④特になし

⑤4 年生にはさほど感じませんが、3 年生（実習前の時点）の傾向として、こちらの働きかけへの即応性がやや緩慢（真面目に継続して取り組むのですが、取りかかりというか初動がおっとりしている傾向）な印象を持ちます。現場に出て変化していくと思いますが、周りの

様子を見すぎず、自らが果敢に出ていく姿勢を期待として望みます。

①板倉香子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

- ③今年度初めて貴学での授業を担当させていただきました。受講生の様子や学習の進度がわからない前年度中に立てたシラバスをベースにしつつ、開講後は受講生の理解度に合わせて授業を組み立て直しながらの進行となったため、十分な準備ができなかったことが、受講生の授業への満足度評価に反映されたかと思います。受講生の理解度合いを図る取り組みを行い、理解を促進できるような資料選び、提供方法を考える余地があったと思います。受講生の理解の向上、満足につなげることができず、反省点です。授業内容に興味を持った学生は授業をよく聴いてくれていましたが、それ以外の学生向けにも、興味関心を引き出すような授業の組み立てをしていきたいと思います。
- ④映像資料を提供するのには申し分ない設備の教室でした。本講義は、演習ではなく講義スタイルでしたので、受講人数は適正であったと思いますが、学生の積極的参加を得るには、縦長の教室であり、目が行き届きにくかったように思いました。
- ⑤学びたい意欲のある受講生は、積極的に学ばれていたと思います。一方、私語の多い受講生や、常に後方の座席に座って内職をしている受講生も見受けられましたが、全体としてはよく授業を聞いているという印象でしたので、よかったと思います。

①伊藤美登里

②身体とファンクションの社会学

- ③板書・配布物に関しては、「板書のままだがよい」から「要点はプリントにして配ってほしい」まで、いろいろな意見があるので（例年そのような傾向にあるので）、授業（講義）によって進め方をいろいろと変えて、どのやり方がより多くの学生さんにとって満足のいくものになるのか、昨年度から、試しているところです。引き続き、その試しを行ってみます。
- ④⑤特になし

①井上修一

②高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ

- ③概ね良い評価であった。今後は、授業中に学生に発言を求める機会をさらに増やしたい。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
- ④⑤特になし

①井上修一

②成年後見制度

- ③概ね良い評価であった。「さらに発展的に学びたい」「授業を受けて良かった」「新しいものの発見」「理解できる」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④⑤特になし

①浦尾和江

②介護技術

③事前・事後学習による授業のため、レポート課題が多い科目である。次年度はレポート課題を見直し、学生への負担軽減を図りたい。

④講義・実技を行う科目であるため、授業は介護実習室で行う。

⑤特になし

①小川 浩

②障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ／障害の理解 A

③全体に比較的良い評価を得ることができたが、学生も熱心に受講してくれていると思う。いつも、自習に関する項目は他に比べて評価が低い。予習・復習と言っても漠然としているので、具体的に何を自習すべきか、課題を提示してみたいと思う。積極的参加については、以前他の項目よりも低いですが、前年度よりも評価が上がった。リアクションペーパー、考える機会、前回の復習テストなどを行っていることの成果かもしれない。今後も工夫を続けていきたい。

④障害者自立支援制度Ⅰの 7318 は狭いとの学生からの意見がある。しかし、やりくりがつかないことも理解しています。

⑤特になし

①尾久裕紀

②女性と健康

③同じ授業内容、ほぼ同じ受講者数ですが、2 限は後席一部で私語が多かった。毎回授業の最後に「今回の授業で考えたこと、今後生かしていきたいこと」について、ショートレポートを提出することを考えています。人数は多いですが、双方向性の授業も取り入れ、学生も参加できる可能性も探っていきたいと考えています。

④200 名を超える授業ではありますが、1 限目はほとんど私語はなく、皆熱心に聴いているので、単に受講者数が多いことが私語の原因ではないと考えています。教室はこの授業には合っていると思います。

⑤特になし

①尾久裕紀

②人体の構造と機能及び疾病Ⅰ

③前期で学生の状況が把握できたため、今後状行の進め方を大幅に変更する予定です。この授業は国家試験科目で覚える内容が多く、自習が不可欠です。毎回、自習範囲を伝え、個人あるいはグループで学び、次回の授業では確認のための小テスト、範囲内の内容に関する事例を小グループで検討、発表する等の学生が積極的に参加する形式に変えていく予定です。

④7214 教室は受講者数の割には狭すぎるかもしれません。隙間なく着席していることが私語を発生する要因になっている可能性があります。

⑤特になし

①尾久裕紀

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③複数の教員が担当していますが、よく考えられた構成だと思います。

④⑤特になし

①尾久裕紀

②精神医学Ⅰ

③静かに、熱心に聞いていましたが、その割に試験の成績が芳しくなく、授業の進め方、内容を大幅に変更する予定です。この授業も国家試験科目ですが、もう少しポイントを絞り、毎回小テストを行い、スモールステップ方式に確実に覚えていく方策を考えています。

④⑤特になし

①尾久裕紀

②精神保健の課題と支援Ⅰ

③少人数であるため、双方向性の授業に変え、全員が積極的に参加できるような形式に変更する予定です。

④⑤特になし

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 A、コンピュータ応用

③毎回の授業のねらいを丁寧に説明したい。また、質問が多い学生とそうでない学生の間での不公平感がでないよう工夫したい。

④教育設備はたいへん整っていて十分です。

⑤特になし

①加藤美智子

②臨床心理学概論

③自宅学習を行う教育方法について改善を試みたいと思います。授業成果をどのように考えるかは、担当者として考えなければならないと思っています。「概論」の教育について、今後考えていきたいと思っています。

④隣の学生と距離の近い長椅子に、ぎっしりと座りながらの授業は、なかなか学生にとっても窮屈ではないかと思っています。隣席との距離がもう少しゆったりできるといいのですが・・・概論の授業とはいえ、理想受講者数は 50 人までとしたいところです。

⑤人間の生き方を考える学問の一つとして、「臨床心理学」に関心をもって欲しいと思います。

単なる必修科目だから聴講するという態度から抜け出してもらいたいと思いますが、それは教育方法とも関連することですので、教員として、今後も授業方法に工夫を重ねたいと思います。

①加藤佑昌

②カウンセリング A（傾聴訓練）

③毎回のレポートのフィードバックの時間を増やす方法を検討する。話し合いなどの多い授業であることを、シラバスにより明記する。

④特になし

⑤シラバスにしっかりと目を通して受講していただきたい。

①門林道子

②老いと死の社会学

③授業の進め方について、問 1－2 教材資料提示が授業の理解に役立ったと高く評価されている点、学生の理解度を上げるための工夫をふだんから考えているのでよかった。また、問 1－7 授業が十分な準備と熱意をもって行なわれたと学生が受け止めてくれたようで嬉しく思う。今後も努力していきたい。問 2－11 授業が自分の将来にとって意味あるもの、またこの授業によってあたらしいものの見方ができるようになったと捉えられている点、よかったが、一方でこれは他の授業にも共通していえることだが、家での予習や復習、授業中の質問など積極的な取り組みがとりわけ低いのが気になるところである。次年度には家で考えてくるような、あるいは家で調べてレポートを書いてくるような課題を考えていきたい。

④授業中は比較的私語等もなく、81 名という学生数ではあったが、静かさは保てたのではないと思う。視聴覚教材を使用する設備も整っていて、非常に使いやすい教室で気に入っている。人数も去年は 100 名を超えていたが、このくらいでちょうどよいと思った。

⑤気になったのは 1 限だからか、遅刻者が多いことである。授業中にバタバタと入ってくるのは、他の学生の集中力の妨げにもなり、これについては授業中にも注意したが、自己意識をしっかりとつようにしてほしい。また、履修後になんらかの理由で欠席が多くなり、途中で履修を取り消した学生も少なくなかった。1 限できついというのもあったのかもしれない。安易に授業を選ぶのではなく、履修を考えた時点で、しっかり取り組む意欲をもって臨んでほしい。成績が芳しくなかった人たちは、欠席の多さと、小レポートなどの未提出が目立った。

①亀山晶子

②社会的認知の心理学

③進め方、内容等、高い評価をいただきありがとうございました。ただ、授業の予習・復習や積極的参加が低いため、自宅でも自習しやすいような課題を出すなど対応していきたいと思っています。

④受講者が密集して座っているので周りの私語が気になる人も多いようです。教室がもう少し

広いと余裕を持って授業が受けられるかもしれません。

⑤他の受講者の迷惑にならないよう私語を慎むなど配慮をお願いします。

①亀山晶子

②人間の成長と心理

③全体的に満足度が高く、ありがとうございました。受講者の積極的な参加が低いため、受講者の意見や質問を引き出せるような授業構成を考えたいと思います。

④特にありません。

⑤大教室なので他の受講者の迷惑にならないよう私語を慎むなど配慮をお願いします。

①河上睦子

②女性史

③アンケートの設問事項のうち、教員の授業の進め方については、ほとんどの項目の評価点が、2013 年度より上がったのはよかったと思う。ただ学生の質問や意見などを引き出して授業に積極的に参加させることについては、今少し努力を要することが分かった。学生が積極的に授業参加できるように、配布資料に空欄を設け、理解力をうながしたり、コメントを提出させたりしたが、質問などをとり入れるために、より工夫をしていきたいと思う。学生の予習・復習などの自習の促しについても、参考資料の推薦とは別の工夫をしていきたいと思う。私語についてはその都度、可能な範囲で注意をしたこともあり、静かな授業環境が整えられて、良かったようであるので、今後もそのように配慮したい。授業内容が学生たちの実際の生活に直接結びつきにくい面があることや、多人数の受講ということもあるが、今後は学生たちの関心を喚起するような教材資料の工夫、たとえば視聴覚資料なども導入していきたい。

④教室の座席の余裕がなかったので、今少し余裕のある教室を希望したい。機器設備の充実した教室を今後もお願いしたい。

⑤授業について受け身の学生がいます。授業への主体的な参加態度を望みます。配布資料は授業内容の見出しや大きな流れだけしか記載していませんので、各自が積極的に内容を記入し、理解を深めてください。そして関心のあったところを自習することを望みます。

①川上るり子

②社会福祉援助技術演習Ⅲ、社会福祉援助技術演習Ⅴ、社会福祉実習事後指導

③学生の学力向上に努め、個別に向かい合い、長所を探して伸ばしたいと思います。さらに公平な評価にも努めたいと思います。

④特になし

⑤（特になし）教員が努力をするのみです。

①菊住 彰

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③大学生生活の日常、特に入学に伴い生活パターンが一新する際に陥りやすいトラブルと、その

予防・対処法などを、学生相談の現場での実例を挙げながら紹介しました。学生の皆さんには「まさか自分が」と思いかたが多いだろうと予想していましたが、授業後の感想レポートからは、「私にも陥りやすい性格傾向がある」など、自分自身に照らして考えてくださっていることが、よくわかりました。アンケートで「興味深い内容」「自分の将来にとって意味がある」の設問の回答が高得点だったのは、上記のように現実の生活と密着した内容であるにとらえてくださったことの表れと考えます。今後はこれをさらに追求し、内容を充分厳選したうえで、わかりやすい解説を加えていきます。

- ④ DVD やインターネットの動画など、映像資料がふんだんに使える教室を使わせていただけたことによって、効果が大変高くなったと考えています。今後もこうした設備が利用できる教室を使えることを切望します。
- ⑤ <要望 1>配布資料を紛失し、最終講義で再配布を求める学生が多くみられました。資源の無駄を省くためにも、今後は無用な刷り増しを避けたいと思っています。<要望 2>大教室とはいえ、例年以上に後部座席での私語を散見しました。他人事ではない「明日は我が身」のテーマを取り上げていきますので、自戒を込めて真摯な態度で受講してください。

①金 美辰

②介護の基本 C、生活支援技術 C、介護総合演習 I

- ③今回の授業アンケートの結果から、「話し方が明瞭で聞き取りやすい」、「学生の理解度を考慮しながら進めた」、「質問や意見を引出、学生の積極的な参加を促した」、「十分な準備と熱意をもって授業を行っていた」など、全体的に評価されています。ただし、「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」の項目は少し低かったです。今後は学生がより予習・復習できるように課題を工夫し、学生が自主的に学習に取り組めるようにしていきたいです。

④⑤特になし

①葛野 章

②ケア・マネジメント論

- ③まず、受講する学生の学力、水準を考慮し、こちらが「教授すべき」と考える知識量をもう少し精査・整理し、授業内容をスリムかつシンプルなものとしてゆきます。次に、自宅での予習復習の機会がほとんどない現状に対して、復習的な意味で授業中に実施してきた「小テスト」を持ち帰り課題「レポート」に変更するなどして自宅での講義の振り返りが自ずとできるように改善していこうと考えています。

④特になし

- ⑤活字を読んだり、書いたりすることへの好奇心の醸成地道に反復することなどを無駄と考える学習姿勢の確立。

①久米秀作

②スポーツ A、スポーツ C、スポーツと健康

③スポーツ A：スポーツ A は主に屋内スポーツの体験と習得を目標にして実施しており、今季はバドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボールなどを行った。アンケート中のフリーアンサーにも「熱意を持って指導してくれた」とのお褒めの言葉をいただいたが、例えばバレーボール初心者でも楽しめる工夫（チーム編成の工夫やルールの簡略化など）をしたのが良かったのではないだろうか。スポーツ C：スポーツ C は、屋外スポーツの体験と習得がメインの授業である。具体的にはテニスとゴルフを実施した。スポーツ A と同じくアンケートフリーアンサーから初心者にも満足していただける指導ができたことが窺えるが、例えばテニスなどは初心者組と経験者組を分けてグループ授業形式にし、ゴルフでは、ほぼ全員が初心者であることから、個人指導を重視したことが良かったのではないかとはいえる。いずれにしても、参加した学生たちに満足していただけたことはこの上なき幸甚と感謝したい。スポーツと健康：講義形式の授業で、身近な健康問題を取り上げながら、「日常生活で役に立つ内容」を目標に掲げて授業を実施した。例えば、授業は 15 回すべてテーマを変えて一回読み切り式にし、健康に関する社会面、心理面、身体面などいろにいろいろな角度から切り込んだ内容をそろえた。さらに、学生たちには毎回ノート提出を徹底させ、それを最終的に一冊のノートにしたものを返却し、まとめの授業を行う形式をとった。このことで、自分自身が具体的に学んだ内容を記憶ではなく記録として残すことで、将来的にも日常生活で生きると考えこのような授業形式とした。また、同時に毎回のノート提出によって教員側にとっては個々の学生の授業理解度も把握できるメリットがあると考えた。実際、何人かの学生にはこれに基づき更なる学習への意欲を喚起する指導も行っている。全般として、本学の学生は授業に対して熱心な姿勢を見せるが、こと自身の興味と授業内容がかぶるとさらにモチベーションを上げる傾向があるので、今後も学生たちの興味のベクトルを注意深く探りつつ授業の実施に励む所存です。

①倉田量介

②「現代社会論セミナーⅠ」

③出欠管理システムの併用を確認済み。

④⑤特になし

①藏野ともみ

②精神保健福祉援助実習事前指導

③3 年次からの継続で実施している実習指導の一環に位置づけられる授業です。したがって、継続的に 1 年半かけて取り組みを続けている個別課題もあります。学生には、3 年次に課程履修を開始した時、2 年間の流れを踏まえた取り組みや 2 年後の学習到達目標を示すようにしています。2 年間という短い期間ではありますが、大学生活の中では、目標を見失ったり、気持ちが揺らいだりするには十分な経験をする時間でもあります。学生一人ひとりの学習目標やキャリア指導を本科目だけで見ることにないように、常に学生や他の科目担当者、クラス・ゼミ担当教員とのコミュニケーションが重要だと思います。また、当該科目の特性上、学外施設・機関のスーパーバイザーと学生の学習やキャリアについて情報共有が必要になる

こともあり、共同での指導が求められます。今後も、学生への説明と協働を心がけながら、実践現場と資格に関する最新動向を踏まえた授業展開を実践していきたいです。

④特になし

⑤学外実習の事前指導科目ですが、配属と同時に進行している特性があります。したがって、個別指導も授業時間外に入れることもあります。また、学生自身の参加が必要な形式を可能な限り設けています。受講生の皆さん自身が自分のこととしてどのように参加されるかが大切なところです。自ら参加されると、理解する楽しさを共有できると思います。

①小谷 敏

②社会学基礎セミナーⅠ、人間関係総論Ⅰ、子どもの世界

③予習復習の部分の評価が講義科目の場合著しく低く、それが全体の評定を押し下げています。基礎セミナーは自分が当たっている時には相当の準備をしますので、よい評価になっている一因でしょう。

④⑤特になし

①後藤かおる

②家族心理学

③授アンケートをふまえ、より充実と改善に努めたいと思います。学生の質問や感想を毎回の講義後にリアクションペーパーの提出をしてもらう形式をとったため、授業中に質問や発言を促すことは少なくなってしまったので、今後、グループ討論を際に課題の工夫をする等して、学生の発言の機会を増やしたい。授業の構成については、よりテーマを明確にし、わかりやすく伝えるように工夫したい。配布資料はパワーポイントに空欄を付けたものを配布したが、分かりづらくなった点があったようである。次回は見やすく改善したいと考える。学生の理解度を確認しつつ、授業を進めたつもりだったが、早すぎると感じたものもいたようである。次回はテーマを絞り、時間をかけて一単元を扱いたいと思う。「将来にとって意味がある内容」等、評価された点に関しては、より充実を図りたいと思う。

④（特になし）ただ、受講者数が前年より増え（74名）、一人一人の意見や感想に細かく対応できなかったことが、残念で、申し訳なく思っています。

⑤特になし

①齊藤 豊

②コンピュータ基礎 A

③概ね現状通りの進め方で問題なし。大人数教室の後部での私語への対応を強化する。

⑤特になし

①齊藤 豊

②キャリアデザイン

③教室定員と受講生の数（150名程度）が同じで遅れてくると座席の確保が難しいため、意欲

のある学生でも後席となることがあり、不満がでたものと思われる。座席数に余裕のある教室の使用を希望したい。

⑤特になし

①佐々木宰

②相談援助演習Ⅴ、こころとからだのしくみⅡ、介護過程Ⅲ、介護の基本Ⅱ、社会福祉学基礎セミナーⅠ、社会福祉学概論Ⅰ

③演習系科目は平均もしくは平均を多少上回り、講義系科目は平均から平均を下回る結果だった。演習系科目では、オムニバスの「相談援助演習Ⅴ」では教員との事前打ち合わせや各回の連絡調整が、その他は回ごとに学生が達成感を持ちながら次回に臨めるような工夫を図ったことが功を奏したと考えられるので、今後もこれを継続し、さらに質を向上させたい。オムニバスに関しては「テーマごとに演習や課題の負担に差があったので、やりづらかった」等の声が聞かれたため、さらに調整が必要である。講義系科目では特に1年生を対象とした「介護の基本Ⅱ」の評価が低かった。初学者に対する導入系科目であり、この科目を担当したのが2年目でもあるため、前年度の要改善点や取り上げられなかったテーマを盛り込んだが、内容の整理や準備が不十分だったためか、かえって不自然な展開になったり、学生の理解を妨げたりする結果になってしまったと思われ、強く反省する。また、私語を止めない一部の学生への対応に時間を割くことや、これによって授業の流れを遮ってしまうことに対する指摘もあった。バランスが難しい点ではあるが、真摯に受け止め、次年度以降は改善したい。

④AV機器が一新され、とても使いやすくなりました。

⑤特になし

①佐藤富士子

②認知症の理解

③2025年に向け、団塊の世代がすべて75歳以上となり、要介護の高齢者や認知症の増大が見込まれている。アンケートの評価の高さからも学生の関心の高さがみられる。今後も認知症を身近な問題としてとらえ、関心が持てるように、テキストだけではなく、新聞、雑誌、テレビ等マスコミからの資料、あるいは海外の情報を入れながら講義する。

④教室の大きさ、教育設備等現在の環境に満足しているので特にありません

⑤認知症の理解は介護福祉士の資格取得のための科目ではないので、多くの学生が履修（今年度55名）し認知症の疾患をもつひとに自分ができることがないかという視点で授業を受けてもらいたい。

①佐藤富士子

②発達と理解

③テキストを使用せずパワーポイントを配布資料としていが、一枚に記述する文字数が多すぎるという意見があった。検討が必要である。

- ④教室の大きさ、教育設備等現在の環境に満足しているので特にありません
- ⑤口頭説明の内容をすべてレジュメにないと不服のようであるが、耳から聞いたものをメモすることを身につけて欲しい。

①嶋貫真人

②社会保障Ⅰ

- ③全体の平均値を下回ったのは、質問 3（私語への対応）、質問 4（理解度を考慮した進行）、質問 5（授業の中で質問や意見を促したか）、質問 16（授業への積極的参加）の 4 項目。質問 3・5 については、前年も平均値より低い評価だったので、改善に向けた工夫（話がひと区切りつくごとに学生からの質問を促す）を試みたが、まったく反応がなかった。次年度は、リアクションペーパー等の方法を検討したい。私語については、授業の質そのものの向上と共に、静粛化に向けた働きかけを増やすしかない。質問 16 については、質問 5 と一体的に取り組むべき課題と考える。

④特になし

- ⑤私語は慎んでももらいたい。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

- ③全体の平均値を下回ったのは、上記①「社会保障Ⅰ」と同じ質問 3～5、16 の他に、質問 15（毎回予習・復習をしたか）も加えた計 5 項目である。上記と同じ 4 項目項目に対する改善策は、上記①と同じ。15 については、毎回の授業の最後に「次の授業ではどのようなテーマを取り上げるのか」ということの概略を予告することで、自習への意欲を喚起できるのではないかと考えた。

④特になし

- ⑤私語は慎んでももらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

- ③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。授業評価もおおむね良好で、特に改善すべき点は見当たらない。

④特になし

- ⑤本授業の運営自体には、まったく問題はないのだが、そもそも「自分はなぜ、社会福祉士の資格を取得するのか？」という出発点の動機があいまいなまま、実習に臨む学生が依然として多く見られる。この点が長期的な課題であると思う。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

- ③全体の平均値を下回ったのは、「社会保障Ⅰ」と同じ 4 項目である。したがって、改善策も

上記①と同じ。

④特になし

⑤（特になし）熱心に聞いてくれたと思う。

①高橋克典

②精神保健福祉論Ⅲ

③精神保健福祉士の受験資格取得を目指す 3 年生が主な受講生だったため、国家試験科目である「精神障害者の生活支援システム」にて求められる内容に沿った講義による知識学習を基本とした。一方で、知識を応用する応用学習的な演習が少なくなってしまった。国家試験に対応できるような知識学習は不可欠であるが、実際の精神保健福祉現場で知識を応用できるよう主体的学習方法を授業に取り入れていく必要がある。また昨年度の課題であった、予習・復習、毎回の授業のポイントを整理させることについては、授業ではほぼ毎回、前回の振り返り小テスト、配布したレジュメにその回の学習の成果を記入する欄を設け、試験後に配布したレジュメを綴ったファイルを提出させることを試みた。予習・復習への取り組みへの意識を高めるための試みであったが、プラスα自習までには繋がらなかった。事前学習、授業、事後学習が連動するように授業全体の構成を改善していかなければならない。

④施設、教室の設備については、特に改善点するべき点はない。グループワークを実施するにも機が動かしやすく使い勝手が良かった。また 11 名という受講生は、講義としては展開しやすい人数であった。

⑤（特になし）しっかりと授業に取り組んでくれた印象である。教員の質問にもきちんと応えてくれた。

①田中 優

②対人関係

③学生の予習・復習に関する評価が低いので、予習・復習に関して、学生の理解度を考慮した工夫が必要であると思う。

④特になし

⑤授業中であっても、わからない事は、積極的に質問して下さい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないで下さい。

①田中康雄

②社会福祉学概論Ⅰ

③受講者 141 名の授業であったため、「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加」をあまり促すことができなかったため、授業内で具体的な質問を毎回設定するなどし、対応していきたいと考えております。

④⑤（特になし）私自身の授業における毎回の課題は、「福祉」に関心がない、あるいはネガティブな印象を持っている学生に対して、どのようにすれば少しでも福祉に関心を持ってもらえるかという点であり、今後は課題解決に向けて創意工夫していきたいです。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－A

③私語への注意、学生の積極的な参加、将来意味のある授業等、評価が高く、これらを意識して授業を続けて行きたいと思います。黒板に書いた文字が小さいとの指摘がありましたので、注意して大きく書くようにしたいと思います。基本的には、しっかり授業をしたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

③全体的に低い、「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」の質問で、評価が高い。学生が予習復習も含め、とても頑張って授業の望んでくれていたのだと、よくわかりました。他の評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。

④特になし

⑤相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

③前半は、個別対応をすることも多かったのですが、学生は公平に見てもらえたという評価でしたので、一人一人の学生に丁寧にかかわっていききたいと思います。「予習復習」の評価も高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。個別対応の重要性もわかりましたので、学生一人一人を大切に指導していきたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野真紀子

②保健医療サービス

③医療機関で働く医療ソーシャルワーカーの方に来ていただき、周産期 SW について話してもらいましたが、賛否両論でした。若い女子学生に対し、どこまで現実の話を伝えるかについてもう少し考えてみたいと思います。医療現場はなかなか見ることができないため、視覚教材を使いましたが、わかりやすかったという評価、声が多かったので、これは今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤医療ソーシャルワークと制度論が均等に入っている授業となります。特に制度の運用については、復習が必要です。

①寺島拓幸

②現代社会論セミナーⅢ

③学生による報告とディスカッションを主としたゼミ形式の授業であるため、学生の主体的な授業参加が毎年の課題となる。今年度は、比較的小となしい学生が多いため、議論を盛り上げるのに苦慮した。コメンテーター制を採用し、発言を義務づけた（したがって項目 16 が高い）。しかし、学生相互の議論を誘発することは難しかった。学生と相談の上、今回はグループ制を採用せず個人報告を主としたが、そのことで活発な議論を生む契機を失ったかもしれない。また、単位を落とさない程度の「適度な欠席」をする学生が多く（したがって項目 14 が低い）、全員が揃うことが稀であった。この点も、グループ制のほうがいいかもしれない。

④特になし

⑤例年通りではあるが、単位を落とさない程度に要領よく欠席する学生が多い。全部出席して積極的に議論に参加してほしい。

①飛田義幸

②精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

③質問や考えを述べる積極的参加の項目が低かった。積極的に発言の機会を設ける様にしていきたい。

④⑤特になし

①飛田義幸

②精神科リハビリテーション学

③授業の速さ（話す速さ）に不安と不満が生じている。もう少し授業ペースを落とし、ゆっくりと話す様に意識していきたい。

④⑤特になし

①西河正行

②社会・臨床心理学研究法

③ゼミ単位で行われる演習系の授業で、どのゼミも概ね 2 グループに分けて指導する。私のゼミではグルーピングは学生の関心によって行っているが、結果的に気の合う学生同士が集まる傾向がある。つまり、潜在的に存在しているグループで分かれている可能性がある。その結果、グループの雰囲気はかなり異なり、また、リーダーによってかなりグループの進捗も変わってきて、それが授業成果に反映してしまう。教員がテーマをあらかじめいくつか決め選ばせるゼミがあり、来年はそれを参考に、例えば、匿名でテーマを書かせてそれにより

グルーピングするなど新たな方法を模索したい。

④特になし

⑤基本的にゼミ募集の段階から学生に対してゼミの特徴を示しているのですが、本授業に限ってという要望は特にない。

①西河正行

②グループワーク A

③ほとんどの学生にとっては有意義な授業であったようだが、授業内容が負担になったと思われる学生が 1、2 名いる。そのようなズレが生じないように、授業で実際に何をするかをシラバスに具体的に書くようにしたい。

④特になし

⑤かなり自己開示を求めるのでそれを踏まえて受講してほしい。友達が受講するからという安易な理由ではなく自分の意思で決めてほしい。

①西谷内博美

②環境社会学

③たくさんのコメントを頂き、じっくりと読ませていただきました。第一に、全体的に授業の難易度が高かったようなので、今後は課題を減らし、講義のテンポを下げたゆっくり進めようと思います。第二に、学生を見下した態度とか、優秀か否かによる差別などの指摘が多かったこと、そして多くの攻撃的なコメントには改めて考えさせられました。「見下した」態度というのも「差別」というのも、もちろん成績優秀か否かではなく、非協力的な受講生に対するものだと思います。不真面目・反抗的な受講生に対してつい不寛容な態度をとってしまう自分の困った傾向に気づかされました。私にとっても、受講生の大半が非協力的というのは初めての経験であり、面喰い、憤慨し、悩み、授業のたびにかなり落ち込みました。その動揺が、クラスの雰囲気悪くし、全ての受講生に嫌な思いをさせ、また理解し合うことのできない過度な敵意を招いてしまったようです。このクラスは、受講生にとってはもちろん、私にとってもつらい経験でした。これを教訓として、様々な学生やその集団といかに向き合うのか、人間修行もかねて考えていく必要があると反省しています。

④大学側の施設やサポート体制はとても充実していました。ありがとうございました。

⑤授業への参加意欲の高い学生が受講してくれることを望みます。

①長谷川万希子

②医療社会学

③人間関係学部全体よりも授業科目平均が低かった項目は、「この授業にどの程度出席しましたか」でした。月曜日 1 時限目ということもあり、週明けの朝からの始動が負担になっているようです。(30 分以上であっても) 出席評価を行うので、遅刻しても出席するように促していますので、遅刻しても出席する学生が少なくありません。しかしながら、さらに足が向かいやすく、出席する動機付けを強化できるように工夫をくわえるようにします。「この

授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」が、若干ながら学部全体を下回っていたため、学生の生活や社会での出来事、就職後の生活や今後の人生と当該科目での学びがどのように関わるのかを認識できるように力を入れたいです。「教材資料提示」について、更に工夫を加えて、学生が手にとって「役立つ感触」を得られるものにしていきたいです。

④ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです。30名以下で視聴覚器機が装備されている教室の選択肢はありませんでしょうか。

⑤教科書を購入して、持参してください。

①服部比呂美

②日常生活論

③ (1) 板書の改善：個別回答でもっとも多かった意見が「板書の読みにくさ」でした。今後はゆっくり丁寧に板書することを心がけます。(2) 内容の改善：①授業内容の見直し：すでに、前期の授業の途中で内容を見直しました。シラバスでは、近世の「諸国風俗問状答」の記述から、上巳、端午、七夕などの節供に関する地域的偏差を中心とした解説をするように書いていました。しかし、文献に慣れていないためなのか、学生の皆さんの反応が今一つ良くないと感じました。そこで、正月や盆行事に関しては、市町村史などを使って、近年の行事のあり方を中心に講義しました。②映像資料の活用：さらに、映像資料を活用することにしました。映像はそれだけで20分ほど使ってしまうため、授業を手抜きしている印象を与えてしまうのではないかと危惧していたのですが、杞憂に終わりました。お盆の習俗も今の学生には体験がないため、説明だけではわかりにくいと思います。こうした映像に惹きつけられ、迎え盆や送り盆の実態や盆踊りの意味などの講義には、よく耳を傾けてくれました。その後も、産育習俗や結婚などの人生儀礼では「秩父の通過儀礼」のシリーズなどの映像を用いました。こうした通過儀礼では、社会のなかで人間がどう公認されてゆくのかを話すことになりますので、社会学を専攻する学生には関心を持ってもらえたように思います。③参加型授業への取り組み：アンケートから、受講者が授業に積極的に参加する場面が少なかったことを反省しました。今後は、もう少し、受講生が意見を述べる場なども設けてみたいと思います。試行錯誤はあると思いますが、受講生のみなさんと時間と空間を共有できるような工夫をしたいと思います。

④職員の方がたには、機材の扱いがわからなかったときにはすぐに来ていただいたり、配布資料の印刷をしていただいたりと、本当にお世話になりました。試験補助もしていただきました。本当にありがとうございました。

⑤ (1) 授業中に教室を出ていくことは普通のことだと思わないでほしいと思います。私は真剣に講義し、受講生はすべてに参加するというのが単位認定の基本ルールです。行先を聞かれて驚いた受講生もいたと思いますが、そのように考えていてほしいです。(2) 授業で使うテキストを指定しましたが、購入していない受講生が多く、驚きました。配布資料を毎回作りますから必要性を感じなかったのかもしれませんが、復習のためにも教科書は手元にあった方が良いでしょう。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー III

③設問 14「この授業にどの程度出席しましたか」が、学部平均を（わずかに）下回っていました。これは個々の学生の事情や気質にもよるとおもいますので、様子をみたいとおもいます。学部平均とはあまり変わらないのですが、絶対的に得点が低い（3.0 を下回っている）のは、以下の項目です。設問 15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」設問 16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」予習・復習のための宿題を課して、授業中に発表もさせているのですが、それだけでは「自習している」「積極的に参加している」という感覚には至らないようです。自分の学習を自分でコントロールしているという感覚を養うため、こちらから課題を指示するのではなく、自律的に課題を決定する機会を増やしていきたいとおもいます。

④今年度は後期のみ履修する学生がいるのですが、この授業は事実上の通年科目なので、対応が難しいと感じています。再履修になった場合でも、「通年で履修」または「前期のみ履修」のいずれかに収まるような仕組みになっていると助かります。また、講義室のディスプレイはスライドを映すには小さいようなので、スクリーンとプロジェクターを設置していただくと助かります。

⑤自分の力を信じて、前向きに取り組んでください。

①平野恵子

②現代社会論セミナー I

③設問 15 について：毎回、セミナー前に講読文献を学生さんに読んでいただき前日までに授業担当者に送付していただく方法をとっていますが、この平均点がそれほど高くないということは、実際にはあまり読んでいる感覚がないのか、授業が終わった段階で社会情勢や身の回りの出来事に引きつけて考える機会がないということかと思います。授業内において、新聞記事やニュース映像を用いるなどして、授業内容と実社会との関連性をより提示出来るようにしたいと考えます。

④⑤特になし

①古田雅明

②カウンセリング A（傾聴訓練）

③多くの項目が昨年度よりも高く評価されていましたが、予習・復習の平均点は去年よりも下がっていました。また、例年課題となっていた私語等への対応の評価は昨年よりも高くなっていますが、自由記述を読むと、真面目に遅刻せずに参加している一部の学生が私語のうるさい学生に対して強い不満を感じていることが理解できました。以上を受けて、宿題を出したり、授業時間外の課題を出す組み立てにしていきたいと思います。また、引き続き、私語への対応を厳しくしてだけでなく、集中できる私語の少ない授業の流れを作るなど更なる工夫を行います。

④カウンセリングの演習授業のため、椅子が移動できる教室に変更を希望します。

⑤目的意識を持って履修登録してください。

①古田雅明

②社会・臨床心理学研究法

③非常に高い評価でした。しかし、実際にはいわゆる 3 年ゼミ生が全員で履修する必修科目なので、ほぼゼミの評価という意味だと思います。この授業でアンケートをする意味はないかも知れません。

④⑤特になし

①干川剛史

②社会学概論Ⅰ、社会調査及び演習Ⅰ、社会学基礎セミナーⅠ

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火1）（93 人）／社会学概論Ⅰ（木1）（67 人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、同じ内容でも、社会学専攻必修の社会学概論Ⅰで低いのは、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるのであろう。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、さらに、配付する資料を読みやすくするなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅰ（18 人）／社会学基礎セミナーⅠ（15 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100 人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。また、社会調査及び演習は、発表の準備をしっかり行って授業に臨んでほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①細萱伸子

②産業と経営

③今年度は様々な理由から休講が増えました。来年度は、休講を減らすようにいたします。今年度の学生さんには、本当に申し訳なく思っています。またマナバを使い、事後の課題などを出題しましたが、学生の評価や取り組みは思うようなものではありませんでした。来年度は学生からのフィードバックが授業内で完結するような形を考えてみます。また、私語、内職（特に他科目の宿題の内職）が多いので、ハンドアウトの内容を工夫して手を動かすよう

にさせます。ただし、その場合は、授業で教える内容が減りますので、悩ましいところです。

- ④学生からはエアコンの温度に関する不満が出ています。エアコンをつけてくれないという不満がありますが、演台と教室の各場所では感じ方に差があるのかもしれませんが。去年はさむがる学生が多かったので、気を付けたつもりですが、今後は学生がエアコンの温度を調整できることを促す形にしようと思います。休講時に補講代わりの作業を課し、試験の結果に加点しました。その仕組みが学生には浸透してないようです。休講した上に、課題を課すのはおかしいという意見がありますので、課題を実行するメリットを事前に説明しておきます。出席の自動記録システムが使えませんでした。これは自動記録システムに対するアンケートにお答えしたのちに、授業時間を変更したためです。次回、そのようなことがある場合には、関連部署に改めてお願いするようにいたします。
- ⑤おおむねまじめで好感の持てる学生さんが多いのですが、中には、注意を喚起しても名指ししない限り私語をやめない方、授業中にお化粧をする方、お食事をする方、色々です。だいたいそういう方は、後方にまとまって座っていることが多いので、あまり目に余らない限り、そっとしておくようにしています。ただ、それが真面目にやっている方の不快感を引き起こしているのかもしれませんが。個人的には、授業の進行を止めて、教室内の雰囲気や陰鬱にしながらしかりつけるような問題ではないと思っているのですが。この問題については、教員による個別の注意もさることながら、せっかくいろいろ活発な活動をしている学生団体さんがあるように見受けますので、学生さんたちもぜひ積極的にこの問題を取り上げて自覚を相互に促す工夫をしてもよいのではないかと思います。

①堀 洋元

②心理統計学

- ③毎回 1 回完結で統計解析スキルを週替わりで修得する授業スタイルのため、詰め込み式な感否めず、授業時間内に学生から質問や意見を引き出し、積極的な参加を促す設問に関する評価は全体平均を下回っていました。この点に関しては授業時間外に **manaba** で質問や要望などを記入してもらい、翌週の冒頭にフィードバックしていただきましたので、授業時間外の取り組みも含めて評価してもらえよう周知していきます。授業内容が難解であるという学生もあり、ここ数年かけて段階的に質量とも学生の修得レベルに合わせていく必要を感じています。
- ④今年度は初の試みとして、90 分の授業を前半が講義室で全体向けの講義、後半が情報処理室に分かれての実習という流れで行いました。移動＝講義から実習への切り替え、というメリットもありましたが、後半の実習部分もひとつの教室でできることが望ましいです。
- ⑤（特になし）今年度の集計結果を受けて、学生の皆さんにとって授業の進行や内容がより良くなるよう改善していきます。

①堀 洋元

②社会・臨床心理学研究法

- ③授業時間内に目一杯実習を行っていたため、時間外に予習・復習するというよりは、時間内

の取り組みに重きを置いていました。予習・復習に関する評価は相対的に低い結果でしたので、この授業でも自習する内容を盛り込んでいきます。

④⑤特になし

①町田章一

②人間関係総論Ⅲ

③自由記述の中に「やる気がない学生や、話している学生はきつく注意するか追い出してほしい」と言う意見があった。そのような学生は確かに存在するので、このような意見が出ることは理解できる。現在は、大教室を使い、縦に一列置きに並んで貰っているので、私語は比較的少ないと思う。私語が目立つ時には授業を中断して、注意しているが、現在よりももっと注意するとなると授業が進まなくなるので現実的ではないだろう。また、退場してもらいたいと思うこともしばしばあるが、現代はそのような時代ではないと私は考えている。【一案】縦にも横にも一列置きに座って貰うことも物理的には可能なので、試みてみようと思う。【二案】本来なら、学力や意欲に関係なく、全員の興味を引き付けるような内容の講義をすることが理想だろう。しかし、150人も受講生がいて、意欲、学力、体調等が様々で、全員に対応するのは容易ではない。これまでも努力して来たが、さらに、その点を念頭において講義したい。【三案】学生が互いに注意し合うことはできないのだろうか？ 少しはそのようなこともしているのだろうか？学生がお互いに注意し合う方法などを考えてみようと思う。

④特になし

⑤（その他）今年初めて「遅刻厳禁。特別の場合を除き、『交通機関の遅延』を考慮しませんので、遅延証明書を提出する必要はありません」と授業内容に明記し、度々言明し、実行した。水曜日の1時間目という学生にとっては厳しい時間帯だと思うが、口頭でも授業アンケートでも不満は出て来なかった。

①松下武志

②社会問題の社会学

③授業の改善点：来年度は学生からの質問や意見を引き出すとともに、彼女達を積極的に授業参加するように努力したい。そのためにもう少し社会問題の具体相（ケース等）を取り上げながら、彼女達の意見を引き出す機会を多くしたい。

①壬生尚美

②介護福祉学概論

③授業内容については、視聴覚を取り入れ「介護福祉」に関する課題を考えてもらえるように工夫したため、学生の評価から概ね全体的に良かったのではないかと推察される。授業の進め方については、スライドの切り替えが早いなどの意見もあり、今後は配布資料内容の工夫等をしていきたい。

④受講者数が毎年150名程度あり、授業環境づくりをどのようにしていくか課題である。

- ⑤介護福祉学専攻の学生以外は学部共通科目の選択科目であるが、他専攻の学生に対しても「介護福祉」に更に関心を深めていただけたようだった。より良い授業を行えるように努めたいため学生と一緒に授業を創り上げたい。

①壬生尚美

②介護過程Ⅱ－A

- ③本科目は、演習を通して介護福祉士の専門性に関わる「介護過程」の基礎理解をすることを目的としているが、介護実習Ⅰの前に授業が開講されているため、アセスメント－計画－実施－評価に至る具体的なイメージを持つことが難しいと考える。そのため、今年度は、学生自身のマイプラン・実施・評価を新たに取り入れ考えてもらうことにした。学生の授業評価から、概ね「介護過程」を理解してもらえたと推察される。今後も学生の身近な課題から介護に結び付けて考えられるように取り組みたい。
- ④教室の設備、受講者数、教育条件などについて、「介護実習Ⅰ」の前に 2 コマ開講の授業のため、介護過程の展開のイメージがつきにくいかもしれない。
- ⑤授業内容・方法を今後も検討していきたいため、積極的に参加してほしい。

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅲ

- ③本科目は、「介護実習Ⅱ」の振り返りを行い、「介護実習Ⅲ」に向けた準備をする科目である。介護実習Ⅱの振り返りではグループワークを中心にを行い今後の自己課題の明確化に努めたが、実習後に向けた介護過程の展開の実際については、もう少しグループ検討を行い個々の課題を導き出すように促すべきだった。今後の検討課題としたい。
- ④教室の設備、受講者数、教育条件については特にはない。
- ⑤積極的に授業に参加し、自己を高めてほしい。

①向井敦子

②心理学概論Ⅰ

- ③学生の評価は学部平均よりやや低い、ほぼ平均と同程度である。学部平均よりも際だって高いのが、予習・復習の励行である。毎回宿題を出して予習点・復習点を明記したこと、および提出させてチェックしたことにより、講義時間外の学習時間と質が確保され、学習習慣が身についたと思われる。教員一人で対応するのは大変であるが、今後も継続していきたい。授業の進め方・内容に関しては、学生の理解をチェックしながら、映像や実験を利用して、身近に感じる授業を今後も進めていくつもりである。
- ④100 人を超える授業は、教育成果の点で適切ではない。受講数を制限するなどの工夫が必要である。また、固定式の机は、ディスカッションを行うときにやりにくい。
- ⑤入学直後の授業であるのに、私語を注意することが多かった。受講態度を改めてほしい。

①向井敦子

②社会・臨床心理学研究法

③ほぼ全ての項目で、学部平均を上回っていた。これまで通り、学生の希望を生かす研究計画をたて、実施することをサポートしていきたい。

④⑤特になし

①八城 薫

②社会・心理学研究法

③演習系授業かつグループ研究のため、学生は授業外でも時間を割いて研究活動をしていました。そのため、個々人の予習復習という点について指導をしていませんでした。しかしながら研究法自体の予習復習は個人で可能なため、具体的な指示をするようにしようと思います。

④ゼミ室でもネットワーク環境が整えば、さらに効率よく研究を進めることが可能になりますので、ネットワーク環境の整備を期待しております。

⑤今年度も大変熱心に研究活動をしており、達成感もかなり高かったようです。この授業で得たものを大いに発展させて素晴らしい卒業論文を書いてほしいと思います。

①山本真知子

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③授業の改善点ですが、授業の取り組みに関する2点、予習復習に関することと積極的参加についての点に開きがありました。特に予習復習に関して点数が低いため、来年度は教員側からもう少し具体的な指示や予習復習についての内容を授業の中で取り入れていきたいと思っています。

④特になし

⑤基礎セミナーⅠの前半に行われた全体の講義の欠席が目立ったので、基礎セミナーのシラバスなどをよく読んだ上で講義も積極的な参加を期待したいと思います。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2014（H26）年度後期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①秋山恵美子

②こころとからだのしくみ B

③担当科目は、介護福祉学専攻の専門必修科目、人間福祉専攻の専門選択科目であるが、出席率と復習を兼ねた小テスト 6 回の結果は後者が低い。しかし、定期試験では両者ともに力を発揮しており底力を感じた。授業奇数回の小テストは、復習の定着（Q15 に関連）とポイントの整理につながるため、今後も実施していきたい。授業前にトピックや直近の福祉に関係する記事や体験談、女性として得るべき知識の紹介等を毎回実施しているが、楽しんでいる学生も多く、授業の興味を引き出す手ごたえもあることから、情報を収集する手段を講じながら継続して実施していきたいと思う。全体的に平均を上回っている結果であったが、Q5 のみ質問や意見を引き出すこと、積極的な参加を促すことは学部平均よりやや下回っていた。科目の内容から一方向になりがちであったため、今後の授業展開の工夫の必要性を感じた。初回授業のときに学生さんの同意を得て、ほぼ座席を固定することができ、氏名とお顔が一致することで、授業への参加意欲の参考となった。

④科目の内容から、解剖学・生理学の映像が必須ですが、PC 機器が使いやすく大変助かっています。

⑤特になし

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

③「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」というアンケート項目の平均評定値が 4.41 であり、授業の進め方に関する項目の中で最も低かったため、来年度の授業では、毎回の授業の提出物に「質問・コメント欄」を設け、分かりにくかったところについて記述してもらい、次回以降の授業で必要な対応をとるようにしたいと思います。また「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という項目の平均評定値は 3.05 であり、19 項目中最も低い数値でした。この授業では、毎回の宿題として小論文を作成してくることが求められ、その提出率が高かったため、自習はかなり行われていると推測されますが、さらに提出率を高めるため、平常点が最終的な成績に占める割合を高め、受講生に周知したいと思います。

④就職希望の学生と進学希望の学生が混在しており、学習すべき内容に異なる部分があるため、授業を 2 つに分けて欲しいという要望が例年同様数多くありました。ご検討のほど、よろしく願い申し上げます。

⑤この授業は課題が多く、エネルギーのいる科目となっています。意欲の高い学生の受講をお待ちしています。

①足立英彦

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③改善したほうが良いと思う点として、「私語への注意が厳しすぎると感じた。指摘が適切である時もあったが、少し話すとすぐ注意。という場面もあったため、私語が長すぎ&授業に

関係ない話だと判断できてから注意すると不満をかわないかもしれない。」という意見がありました。受講生が 200 名を超える授業では、授業に関係ある私語であれば私語をしてもよいとか、短い私語であれば私語をしてもよいとは考えられません。昨年度の授業では、「私語が多く講師の声が聞きとり辛い」という意見が多く寄せられたためです。今年度は、このような意見がなく、逆に良かったと思う点として「騒いでいる人に注意してくれたこと」という意見が上がっており、私語への対処が概ね上手くいったと判断できます。今後は、私語への対処が必要である理由をもっと分かりやすく、繰り返し説明するようにしたいと思います。「ちゃんと話を聞いていても先生の描く図が分かりづらかったです。」という意見がありました。分からない点があれば、授業後に質問に来よう繰り返しお伝えしていますが、それでもこのような意見が出るのであれば、毎回は難しくても、分からなかった点について質問を記入して提出できるような提出物を集める機会を設けたいと思います。また、「つらい時期の人間からしたら、少し言葉がキツイことがありました」という意見がありました。話し方には配慮しているつもりですが、今後は言葉の選び方をさらに慎重にするよう努めたいと思います。

- ④今年度は、衣服に装着できるワイヤレスマイクが常備された教室を使用させていただき、机間巡視や私語への対処が非常に行いやすくなりました。ご対応いただき、ありがとうございました。来年度以降もよろしくお願い致します。受講生から、「教室が暑すぎる」といった意見が何度か寄せられました。エアコンの機能が講師の手元で細かく調整できるようにしていただければさらに学習環境が改善できると思われれます。
- ⑤少しの私語が他の受講生の迷惑になります。この授業では私語に対しては厳しく対処していくことを予めご了承ください。また、講師が全ての人にとって分かりやすい説明をすべきなのは当然ですが、もしも分からない点があった場合は質問をしにくるようにはしていただきたいと思います。

①池田祥子

②現代社会論セミナーⅡ

- ③全体の平均がとても高いので、いずれも平均よりは低めです。ただ、その中でも、「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」の項目が、3.62。2 年生のゼミとして、ディスカッションの練習をしたいと思っていましたので、少しは救われます。それにしても、「総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う」の項目で、5、4 評価は 46.2%。しかし、2、1 評価が合わせて 23.1%なのは、やはりいまだ少し、授業内容の掘り下げや、学生の興味関心とのすり合わせが必要だったと、反省しています。

- ④⑤特になし。

①池田祥子

②ライフケア論

- ③担当者変更で、かなり学生には混乱させたかと反省します。事務的にも、シラバスの変更が、授業が始まってしばらく時間が経ってからでしたので責任を感じます「ライフケア論」に性

の問題は不可欠であることを強調したかったけれど、性への拒否感の強い学生には逆効果だったようです。途中からでも、理解してくれた学生がいる（38.2%）反面、最後まで抵抗した学生もいました（26.4%）。いま少し、丁寧な準備が必要でした。

④⑤特になし。

①池田靖雄

②コンピュータ基礎 B

③授業の回数を重ねても同じことを質問する学生や、明らかに課題を記したプリントを読まずに質問をする学生が多々見られた。このような学生は課題をただこなすことが目的になっていて、毎回の学習内容を身に付けようという姿勢が見られない。例えば途中で試験を課すというようなことが必要かと思われる。

④⑤特になし

①池見正剛

②環境の社会心理学

③例年通りほぼ平均に等しい評価であった。その中でも特に低い項目は「12 授業の将来的意味」「13 シラバスの有用性」「15 自習の程度」「16 積極的参加」「17 発展的学び」などで平均より 0.5 ポイントほど下回った。今年度は教室が適度に狭かったせいか、雰囲気も例年より良く、コミュニケーションが多少とれたが、積極的参加のポイントは思ったほど改善しなかった。講義形式の授業なので、この程度のポイントでも特に問題はないかもしれない。専門性の高い内容で、かつ講義形式なので、授業の将来的意味や発展的学びに関してポイントが僅かに低かったのかもしれないが、内容をより身近なものにしたので、その効果が自由記述で内容への興味深さを指摘したコメントが何件か見られたことに表れたのかもしれない。この結果を踏まえ、来年度は専門性を下げることなく、より身近な例を取り上げ学生の興味をより引き出したい。

④特になし

⑤質問したら何かしら発言するような積極的な態度を身に付けてほしい。

①伊藤美登里

②恋愛と結婚の社会学

③ご意見を踏まえ、板書・パワーポイントなど、提示の仕方について、再度改善してゆきます。

④⑤特になし

①井上修一

②社会福祉学概論Ⅱ

③概ね良い評価であった。最も高い項目は「教材資料提示」であった。「学生の参加」「予習、復習」等の自習に関しては、来年度に向けて工夫してみたい。

④特になし

⑤特になし

①井上修一

②相談援助演習Ⅰ・Ⅱ

③概ね良い評価であった。最も高い項目は「話し方の明瞭さ」であった。ロールプレイのやり方、授業運営に関してさらに工夫し、中身の濃い授業にしていきたい。

④特になし

⑤特になし

①岩崎雅美

②相談援助実習指導Ⅱ

③人間関係学部全体平均に比して、すべての項目が上回っている結果を得たことは評価できると思われる。

④質問 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った という項目については 4.46 と低めなので、その点を今後の授業運営で意識していきたい。

⑤自由記述について特に何もなかったので、次回は自由記述についても自由に回答してもらえるような関係形成を目指していきたい。

①岩崎雅美

②相談援助演習Ⅳ

③人間関係学部全体平均に比して、2・4・11・13・19 の項目が下回る上回る結果を得た。内容を今一度吟味し、より噛み砕いたものに改める必要があると感じた。

④特にございません。

⑤課題が多い中、本当によく頑張られていたことが印象深いです。本当にお疲れ様でした。

①岩館 豊

②社会調査特論Ⅱ

③ (1) 自習時間が少なかったことについては、まず課題内容がしっかり伝わっていなかった点が考えられます。また、自習してきたことを講師側がきちんと確認し、授業内容に反映させるなど、やりがいを感じるための工夫をしていきたいと思います。(2) 参加意識が低かったことについては、授業の情報量が多く、受講生側がやや情報の受け手になりがちとなってしまうことが考えられます。受講生による発信の機会を増やしていくことが必要だと考えます。(3) 講師と受講生との関係はもちろんですが、ディスカッションなど受講生同士の相互作用を促していくような機会を増やしていくことで、能動的な授業参加をうながしていきたいと思います。

④ (1) 講師控え室がやや狭く、とくに授業直前はやや混雑していました。また、コピー機やコンピューターが一台しかなく、しばしば順番待ちとなっていました。(2) 18 名の受講生でしたが、理想的な人数でした。(3) manaba を何度か試してみたのですが、けっきょく

使いこなせませんでした。授業で実際に活用されている例やノウハウをもっと知りたいと思います。(4) 共同研究室の助手の方々には手厚くサポートしていただきました。ありがとうございました。

- ⑤全体として読書量が少ないように感じました。多くの本に触れ、良書に出会ってほしいと思います。インタビュー調査に積極的に取り組んだ学生の熱意には敬意を覚えずにいられませんでした。何らかのかたちで継続してもらえたらと思います。

①上野優子

②スポーツ D

- ③この授業は、主にレクリエーション関連の科目であるため、今年度の新しい取り組みとして、「癒し」をテーマに内容もアロマを使った心を落ち着かせる授業内容を取り入れてみた。事前に、講習を受けできるだけ熟知したつもりであるが、難しい点もあり、さらなる研鑽を積みたい。

④特になし

- ⑤学生の私語も少なく、特に要望はなし。

①江川直子

②社会理論と社会システム

- ③受講生 135 名のうちアンケート回答者は 82 人で、回答率は約 6 割 (60.7%) であった。今年度は、プリントの他に、学生に書いてほしいことをスクリーンにワードで写して授業を行った。以下、改善した方がよいと思う点を中心に記していきたい。1. パワーポイントの使用、について。私が学生の後ろの席まで行って見たときには字が読めたのだが、アンケートをみるとパワーポイントを使った方がみやすい、という回答が多数あった。授業の途中で教えてくれた方が、早くに改善できたと思う。次回からはパワーポイントで写す、あるいは直接に黒板に書いていくと直していきたい。2. 声が小さい、について。声を大きく、はっきりと発音するように心がけたい。3. 授業の進むスピードが速すぎる、について。授業の内容の理解について大切な点であるので、あせらないで学生の反応を確かめながら、進めていきたい。

④特になし。

- ⑤テキストを用意していない学生が何人かみられた。授業で使うので、テキストは必ず持ってきてほしい。

①小川 浩

②障害者支援と障害者自立支援制度

- ③全体に比較的良い評価を得られたが、前年度に比べるとほとんど全ての項目について若干ポイントが下がっているのが、授業がマンネリにならないように注意したい。来年度は、授業の構成、重点的に教えるポイントなどを変化させて、教える側も新鮮な気持ちで臨んでみようと思う。

④特になし

⑤真面目に授業に参加している学生がほとんどであると感じている。

①尾久裕紀

②女性と健康

③manaba を使用する授業のため、スマートホンのつながりが悪く、円滑に進めることが難しい。ぜひ改善をお願いしたいです。もう少しつながりやすくなると on-time で双方向性の授業が可能になります。

④前期、後期ともに受講してよかったという意見を多くいただき、今後とも最新の知識を盛り込み有用な授業にしていきたいと考えています。

①尾久裕紀

②人体の構造と機能及び疾病Ⅱ

③毎回ドリルと小テストを行うことで学生のモチベーションが上がったようです。引き続き、取り入れていく予定です。

①尾久裕紀

②精神医学Ⅱ

③動画や DVD を取り入れることで、興味がもてるようになったようです。また、ときどきレポートを提出してもらい、自分の考えを記載する練習もできたことは学生の学びにつながったかもしれません。

①小野智明

②コミュニケーション技術 A

③（1 年生）アンケートの結果を受けて、授業の改善点としては自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にし、学習した内容を授業の中フィードバックすることが必要であることを確認した。また、アクティブラーニングの視点を盛り込んだ授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、振り返りの時間を多くとることで学生自身の内省化が促進できるような取組方法の構築を来年度の課題としたい。

④特になし

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上を実感できるものではない。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってくるものである。そういった点からも普段離さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともない消極的になりがちであるが、そういった時にも勇気をもってグループ内で発言してほしい。

①小野智明

②コミュニケーション技術 B

③学生の授業への取組態度や参加態度についても主体的であった。学生の希望もあり、対人援助の基礎としてのコミュニケーションをワーク中心でおこなっていたのだが、社会福祉におけるコミュニケーションの基本的な知識を伝えることはできていなかった。来年度については、コミュニケーションの基礎を理解した後、コミュニケーションワークにつなげていけるよう体系を整えたい。

④特になし

⑤本授業は社会人として必要なコミュニケーション技術の習得も視点にいった授業を目指していた。人との関わりから生じる様々な感情をどのように受け止め消化していくか、今後の学生諸君の課題としてほしい。それは社会福祉援助者として生活に困窮している方々への関わり の基盤となるからである。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③100 名規模の講義であるため、授業中のディスカッションの代わりに、毎回リアクションペーパーの提出を求めています。リアクションペーパーを記述する時間として 5 分程度設けていますが、個人差も大きいようなので、できれば 10 分ほど確保できるよう授業内容を調整したいと思います。また、授業時間内に集中して学んでいただきたいというのがあり、自宅学習の課題などはこれまで提示してこなかったのですが、今後は検討課題とします。

④とくにありません（20 名規模クラスであれば、ディスカッションなども行えるのではないかと思います）

⑤今年もまた熱心に参加して下さった学生さんが多かったので、リアクションを通じて頂いた意見により私も勉強になりました。ありがとうございました。クラス全体の集中力をあげるためにも、来年も「私語厳禁」でどうぞよろしくお願いいたします。

①加藤浩治

②コンピュータ応用、コンピュータ基礎 B

③コンピュータ応用は回答者数 16 でまずまずの評価であったものの、コンピュータ基礎 B は 33 と人数的に重い授業となりその準備と配慮が不足していたようです。今後はより丁寧な説明や全体的なケアとしていきたいと思います。

④教室の設備など設定と管理が行き届いていますので要望はありません。2 つの授業とも出席率 100%の学生が半数程度いて授業態度・提出課題とも良好であるため、成績評価に関して減ずることの困難さを痛感しております。

⑤質問や疑問があるときは、こちらがわかるように挙手などをお願いします。

①金成陽一

②地域と文化

- ③「講義に興味を持った」という学生の反応は、教師にも良い刺激を与えます。学生が勉強しなければ、教師もいい加減で済んでしまうでしょう。熱心な学生たちには、教師も努力を惜しまないもので、互いに良い刺激を与えあう理想的な状況が生まれると思っています。
- ④少人数にこしたことはありませんが、これはどの大学でもやはり難しい問題でしょうね。
- ⑤専任の先生方のアドバイスをいただき、今年度はスムーズに講義を行うことができました。
(あるいは、初回から厳しい事を言ったので、五月蠅い親爺だと思われたのかもしれませんが。)

①河上睦子

②女性史

- ③アンケートの設問事項のうち、この授業の進め方については、配布資料とパワーポイントなどを使用したけど、学生の理解度が多様なので、今後は細かい説明をとり入れたい。この授業の内容については、ほとんどの項目の評価点が、2014 年度前期より上がったのはよかったと思う。また学生の授業の取り組みも各項目について高上があるが、やはり予習・復習などの自習が不足しているようである。今期はレスポンス用紙や小レポートなどを導入したが、その趣旨や書き方について学生にわかりにくい面があったようで、より一層の工夫をしていきたいと思う。さらに後期の取り組みとして、新たに **manaba** の利用をとり入れたが、その活用の仕方になれず、通信の時期や内容などについて不満が残る形となったようなので、今後努力したい。私語についてはその都度、可能な範囲で注意をしたこともあり、静かな授業環境が整えられて良かったようであるので、今後もそのように配慮したい。授業内容が学生たちの実際の生活に直接結びつきにくい面がある一方で、今日的な関心事にかかわることもあります。女性史という科目の性格から、とくに女性の「性」に直接関わる内容もあり、時代や国・地域を飛び越えて、直接自分に結びつけることがないように教授しましたが、このことについては、多人数の受講にもかかわらずほとんどの学生が、レポートなどで正確に理解してくれたことがわかりました。今後もそのように心がけたいと思います。

- ④教室の座席の余裕のある機器設備の充実した教室を、今後もお願いしたい。

- ⑤授業出席の登録方法（遅刻や学生カード忘れなども）に関しては、最初の授業時に指示をしていますが、なかにはそれを無視して不平をいったり、代理登録したりする学生がいます。なかには頻繁に遅延証明書をもって来たりします。約束遵守をお願いします。女性史という授業はいまの女性たちの「生活や性」に直接かかわる内容もあります。そうした内容について、自分の一面的な道德観や主観的な意見に固執し勝手な解釈をしたり自分と違う意見を非難したりしないようにしたいものです。あくまで精確な知識修得を心掛けるようにしてください。

①川廷宗之

②児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ

- ③全般的に学生の皆さんが頑張っていて、それぞれに様々な学びをしてくださったようで、良かったと思います。もう少し解説の仕方に磨きをかけるよう努力しましょう。

- ④学生数がもう少し少ないと、より丁寧な学習援助が可能なのですが・・・。
- ⑤皆さんが、実によく頑張ったから、理解できたことも多かったのだろうと思います。引き続き、他の科目でも頑張ってください。

①川廷宗之

②相談援助実習指導Ⅱ

- ③全般的に学生の皆さんが頑張って、それぞれに様々な学びをしてくださったようで、良かったと思います。もう少し解説の仕方に磨きをかけるよう努力しましょう。
- ④教材等、より磨きをかけていきたいと考えます。
- ⑤皆さんが、実によく頑張ったから、理解できたことも多かったのだろうと思います。引き続き、他の科目でも頑張ってください。

①川廷宗之

②相談援助演習Ⅳ

- ③全般的に学生の皆さんが頑張って、それぞれに様々な学びをしてくださったようですが、少しこちらの力足らずだった部分もあり、授業内容がうまく伝わらなかった点もあったようです。次回はそういう点を一層改善していきたいと考えます。
- ④教材等、より磨きをかけていきたいと考えます。
- ⑤殆どの皆さんが、実によく頑張ったから、理解できたことも多かったのだろうと思います。が、一部に資料をよく読んでいなかったり、教員の解説を聞いていなかった学生もいた様です。内容が、かなり専門的な内容なので、丁寧に学ばないと身に付かないので、予習や復習に一層の頑張りを期待します。

①菊住 彰

②人間の成長と心理

- ③「総合的な印象＝4.81」をはじめ、点数を見る限りでは、年度当初に目指した「学生が自身の生活や生活歴に照らして興味を持てるような話題を、具体例をもって示す」と、「何が重要かを明確にしながら講義を行う」という自己課題は、概ね評価されたものと受け止めています。一方、学生から求められていると考えられる改善点は、「私語への注意」と「感想カードを早めに配る」ということです。前者は私には授業に支障のある妨害があったようには思えませんでした。ガイダンスでは何故この授業では私語が迷惑なのかを考えるように指示しています。他人事ではなく自分自身の生き辛さを解消したいかたが、ヒントを得たいと思って集うことが、よくわかるからです。⑤に記すべき要望ではありますが、このことは授業中に折にふれてお話ししていこうと思います。後者の「感想カード」は、帰宅間際の5限であることもあっての要望でしょう。気持ちはわかります。検討いたします。
- ④教室の設備は、大変活用しやすいいただいています。感想レポートや課題には、可能な限りコメントを添えて返却しておりますが、受講者数が150名を超える現状では、なかなか思ったようにはいきません。今回のアンケートでも「しっかりと添削してくれたのも嬉し

かった」という自由記述があり、実際に添削のやり取りがあると学生の自己理解が深まり、モチベーションが向上していく様子がよくわかります。履修を希望してくださる学生が多いのは嬉しいことであり、極力多くの学生を受け入れたいと思いますが、指導に適正な規模を維持するための定員設定をしていただきたく存じます。

- ⑤<要望 1> シラバスを読んでください。科目名だけで発達心理学の専門科目であるかのように想像して受講すると、この講義で扱う分野の広さに、戸惑うことになります。<要望 2> 以前はスライドを印刷した資料を配布していませんでした。資料を入手することで講義に参加したと錯覚してほしくなかったからです。しかし昨年度はついに、ノート作りのスキルに個人差があることが見過ごせなくなり、講義の内容に専念していただくために、スライドの資料を配るようにしました。ただし、プロジェクターに投影する画面をすべて印刷したものではありません。本来ノートに書き留めてほしい重要な箇所を、必要に応じて抜粋した要約版です。資料の中のどこを解説中なのかがわからなくなならないように、しっかりついて来てください。<要望 3> 大教室とはいえ、受講生の皆さんの表情からも、理解度を把握しながら進めているので、教員の“つつこみ”を恐れずに、なるべく前列から着席してください。

①金 美辰

②介護過程Ⅱ－B、介護総合演習Ⅱ

- ③全体的に高い評価を頂きました。「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「この授業は自分の将来にとって意味があると思う」「授業の内容はよく理解できるものだった」「総合的にこの授業を受けて良かったと思う」の項目が高く評価されています。自由記述では、「学生の理解度を確認しながら授業を進めてくれるところが良かった」「説明が具体的で丁寧なのでわかりやすかった」との記述が多かったです。今回の結果を踏まえ、授業内容を工夫しながら、学生の理解度を踏まえた授業、わかりやすい授業を展開していきたいです。また、学生がより自発的な学習ができるように、予習や復習の課題内容を工夫していきたいです。

④⑤特になし

①木本ゆう、二場美由紀

②女性と自立支援

- ③アンケート結果を受け、予習・復習と授業中の意見交換を促せるよう、対策を講じる。

- ④受講者数が 100 人を超えるので、もう少し少ないことを望む。

- ⑤私語を謹んでほしい。

①久米秀作

②スポーツ C

- ③スポーツ C は屋外での授業であり、具体的にはテニスとゴルフ種目を実施いたしました。アンケート結果を見ますと、全体的に平均を上回る評価となっていましたので、安堵しています。特に設問 16 の結果から、学生が授業へ積極的に参加した事が窺えます。来年度も同

様の評価が受けられるように精進したいと思います。

①久米秀作

②レクリエーション実技

③この授業は、主にグループワークによるレクリエーション指導法の体験が中心です。従って、授業中は積極的な行動や発言が求められます。ここでも設問 16 の平均が全体平均を大きく上回りました。やはり、学生たちの主体性を大切にして授業を進めた結果と受け止めます。しかし、設問 15 の予習、復習のところは低く出ました。来年度は、特に発表時の予習・準備の大切さとグループメンバーとの反省・復習の必要性について強調して指導しようと思います。

①久米秀作

②レクリエーション論

③この授業は講義です。したがって設問 16 のところは実技授業と違って低い評価となりました。しかし、学生の質問や試験を授業中にさらに求めることで、こここのところは改善されるのではと考えますので、来年度の課題としたしたいと思います。また、フリーアンサーを見ますと、本講義の目標とした実生活で生きる知識の修得は、学生にも理解していただいたように思えます。改善点としては、使用した教室が履修者数に比べて狭いことが挙げられます。学生にも窮屈感が強くあったのではないのでしょうか。学生の中にはパニック症候群を抱えていて、つらいと感想を述べたものもありました。来年度が、ゆとりのある教室を望みます。

①倉田量介

②「現代社会論セミナーⅡ」

③文献数を増やしすぎたためか、かえって輪読担当以外の予習がおこなわれにくく、授業内の討議時間も削られたという反省から、来年度は精読対象を厳選して絞り込みたい。（発言の積極性が欲しいところですが、私語は少なく、作成資料や感想紙は相応に充実していました。学生側のアンケートコメント欄は未記入でした。）

④ありません。

⑤ありません。

①小谷 敏

②人間関係総論Ⅰ、現代メディア論、社会調査および演習

③人間関係総論は、福祉心理の学生が対象でしたが、福祉学科の学生から「この授業を受けて何の役に立つのですか」と言われて驚きました。そのせいでしょうか。前期に担当した社会学専攻の学生のクラスに比べてひどく評価が低くなっていました。社会学のクラスとは少し内容を変えた方がよいかとも思いました。現代メディア論はほぼ平均程度の評価。社会調査および演習は少人数クラスということもあって、平均を大きく上回る評価でした。学生が楽

しんで取り組んでいることがわかり嬉しく思っています。

④特になし

⑤「役に立つ」という実利的関心にのみとられるのではなく、広い視野を持ってほしいと思います。

①小林麻衣

②集団心理学・組織心理学

③授業時に穴埋めの授業資料等を配布して対応し改善していきたい。

④⑤特になし

①佐々木宰

②生活支援技術 E

③介護福祉士養成カリキュラムの指定科目のうち、介護技術を中心に学ぶ「生活支援技術」の最終段階であり、終末期の介護を中心としてさまざまな機器を活用した技術、応急救護、重度要介護者に対する介護、死後の処置（エンゼルケア）など多岐にわたるテーマを取り扱っている。これまでの技術の応用や総仕上げとして、あるいは学生自身の死生観や介護観を固めることなどを目的としている。比較的評価の高かった点として「5. 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」、「7. 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」、「12. 授業は自分の将来にとって意味があると思う」などが挙げられる。先述の目的にある程度達したと考えて良いと思われる。反面「8. 学習の目標がはっきり示された」、「9. 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」などの点で評価が低かった。これはやはり先述のとおりテーマが多岐にわたっていたことにより、毎回の授業内容の密度にばらつきがあったり、進度が早すぎて表層的な部分をなぞるような形になってしまったりしたことが原因かもしれない。これらにもとづき、全体としての目標、各回授業の目標をはっきり示し、これらに即した内容に絞り込んだ構成にする必要があると考える。これまでのアンケートでも同様の項目に低めの評価がつき、なかなか評価が改善しないこともあり、他科目も含め内容を絞り込んで学生の達成感に結びつきやすい内容構成、進め方に気を配っていかなければならないと思う。

④特になし。

⑤特になし。

①佐藤富士子

②人間関係総論Ⅳ

③履修者が多い（208名）中でもできるだけ参加型の授業の実施をめざした。課題に沿って書いてもらったものの発表やフロアでの意見交換を行っている。このような場合の学生は起きているが、資料の説明になると居眠りや私語、特に後者は注意しても5分と持たない。学生の関心を高める工夫を考案する。

④受講者数の減少を希望します。

- ⑤私語について注意を受けた場合、注意を受けた時から授業が終わるまで持続できる力を身に付けてほしい。

①嶋貫真人

②社会保障論Ⅱ

- ③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目 No.3）」、「学生の理解度を考慮した授業進行（同 No.4）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同 No.5）」、「シラバスの活用度（同 No.13）」および「授業への積極的参加（同 No.16）」の 5 つであった。No.3 に関して。教壇の上にいる限りでは授業中の私語が気になるような場面がほとんどなく、注意をする必要性をあまり感じなかった。したがって、改善策としては次年度に TA ボランティア（以下「TA」と略す）を導入して、学生の席に近い位置から騒音をキャッチしてもらうという方法が考えられる。No.4 に関して。今年度の本授業では、各種社会保障制度の改正点の解説を多く盛り込まなければならなかったという事情があって、例年よりも内容的にボリュームが増してしまったことが、受講生の消化不良につながったものと思われる。したがって、次年度においては、授業内容の精査によって総量のスリム化を図り、これによって授業の進行速度を調節していく必要がある。No.5 に関して。毎回授業アンケートにおいて指摘される項目で、例年かなり意識して「何か質問はありませんか？」という、こちらからの問いかけの機会を設けているが、まだそれが不足していたということであろう。次年度においては、マナバを利用した web による質疑応答を検討してみる必要がある。No.13、No.16 に関して。毎回の授業の最後の方で、次回の授業の内容についておおまかな予告をすることで、学生の予習に向けた意欲を喚起する方法を試みていきたい。

④特になし

- ⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

- ③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目 No.3）」と「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同 No.5）」の 2 項目であった。これらについての改善策は、上記「社会保障Ⅱ」の中の、No.3・No.5 に関する取り組みがそのままあてはまる。

④⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

- ③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④⑤特になし

①関田 誠

②社会福祉学基礎セミナーⅡ、英語ⅢB

③学生の授業外学習を促すような計画を立てていきたい。

④⑤特になし

①高橋克典

②精神保健福祉論Ⅲ

③精神保健福祉士の受験資格取得を目指す3年生が主な受講生だったため、国家試験科目である「精神障害者の生活支援システム」にて求められる内容に沿った講義による知識学習を基本とした。一方で、知識を応用する応用学習的な演習が少なくなってしまった。国家試験に対応できるような知識学習は不可欠であるが、実際の精神保健福祉現場で知識を応用できるよう主体的学習方法を授業に取り入れていく必要がある。また昨年度の課題であった、予習、復習、毎回の授業のポイントを整理させることについては、授業ではほぼ毎回、前回の振り返り小テスト、配布したレジュメにその回の学習の成果を記入する欄を設け、試験後に配布したレジュメを綴ったファイルを提出させることを試みた。予習・復習への取り組みへの意識を高めるための試みであったが、プラスα自習までには繋がらなかった。事前学習、授業、事後学習が連動するように授業全体の構成を改善していかなければならない。

④施設、教室の設備については、特に改善点するべき点はない。グループワークを実施するにも机が動かしやすく使い勝手が良かった。また11名という受講生は、講義としては展開しやすい人数であった。

⑤特に要望はない。しっかりと授業に取り組んでくれた印象である。教員の質問にもきちんと応えてくれた。

①竹田幸司

②介護の基本D

③講義にグループワークを取り入れて進めてきたが、講義においては、一方的な話となってしまう感がある。学生の意見を引き出す工夫を取り入れるなど学生主体の授業への転換を図っていきたい。また、学生自身に調べさせ発表するなど主体的に取り組むことができるよう工夫をしていきたい。

④特になし

⑤積極的な授業参加を期待したい。

①竹田幸司

②介護の基本E

③従来通り、事例を取り入れることでイメージを通して理解を深められるようにしていきたい。
事前学習の内容を検討していきたい。講義では学生の質問や意見を引き出し積極的な参加を促していきたい。

④特になし

⑤積極的な授業参加を期待したい。

①田中 優

②ファッションの社会心理学

③「先生が疲労していて大変そうです」というコメントがあった。学生には、常に、ポジティブな態度で接するように心がけたい。

④特になし

⑤1限の授業であったが、欠席することのないように、積極的に授業に出てほしい。

①田中未央

②犯罪と非行の心理

③授業の内容と進め方に対して、履修者から肯定的な評価を得られたと考えられる。(授業の進め方・授業の内容・総合的な印象の平均点が4点台であった)しかし、授業への取り組みについては、履修者は授業への積極的な参加ができなかった、あるいは教員から学生に参加を促すような働きかけがなかったと評価されている。自由記述において「学生と教員でディスカッションする時間が欲しかった」という意見が得られた。本年度は履修者が77名であり、講義中心の授業展開であった。履修者が30名を超える授業において、ディスカッションを取り入れること、また、授業中に学生に発言を求めることは難しい。(大勢の前で発言することをためらう学生も多い)しかし、今後はリアクションペーパーなどを活用して学生と教員との間で意見の交換ができるような工夫をしたいと思う。また、授業中の私語に対する指摘も得られたので、履修者に適切な授業環境を提供できるよう努めたい。特に、私語をする学生への対応に留意したい。

④特になし

⑤出席管理システムを利用していますが、学生証を忘れて出席登録ができない学生が一定数おられます。学生証を忘れないように気をつけて欲しいです。

①玉置佑介

②現代社会理論

③設問 No.5 において、「3」と回答した学生の割合が比較的多かった印象を受けました。当方は、毎講義、リアクションペーパーの提出を求めており、その内容を次の講義時に履修者全員に配布しております。このリアクションペーパーに記述された内容の一部を用いながら、講義内容との関連性を提示してきたつもりでしたが、いまひとつ、そのあたりの徹底が不足

していたものと考えます。今後は、学生からの意見を口頭で引き出すなど、より直接的な「やりとり」を講義に導入していけるよう、いっそうの工夫を講じて参りたいと思います。

④特になし

⑤毎講義後に課していますリアクションペーパーですが、たんなる「感想」にとどまるものや、講義内容を「要約」しただけのものがいくつか見受けられます。講義時にもお伝えしているのですが、当方は「リアクション」をもとめています。たんなる「感想」に終始してしまう場合は、少なくともなぜそのような「感想」に至ったのかを説得的に記述して欲しいと思いました。また、講義内容の「要約」についてですが、当方は講義を実施している立場にあります。それゆえ、「要約」をして頂かなくとも、内容については熟知しております。このあたり、誤解なされないようお願いしたいと思います。また、こうしたリアクションペーパーの運用について、今後はどのようなことを書いてもらいたいのかのアナウンスをより一層徹底して参りたいと思います。

①玉置佑介

②基礎統計学Ⅱ

③No.16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」という設問について、「3」と回答した方が非常に多く（44.4%）、「5」「4」を総計して2割前後にとどまってしまったことに問題点が集約されているものと思われます。講義の性質上、前期講義との関連も含めて履修学生が習得している知識や統計スキルの把握に少々時間がかかりました。もちろん、それを補うべく、毎回、リアクションペーパーなどで質問を受け付け、次の講義時に質問への回答とともに全員へ配布させて頂きました。おそらく、このリアクションペーパーの運用方法や「役割」が固定化していったことが、今回の結果につながったものと考えます。講義がすすむにつれ、このリアクションペーパーの性質は、自身の「意見」を述べる場ではなく、「わからなかった部分を訊ねる場」に終始していたと思われます。このあたり、学期の途中であってもしっかりとリアクションペーパーの位置づけを再設定すべきであったと反省しております。今後は、他の講義においてもこうした学生から直接意見を聞く場の位置づけについて考えていきたいと思っておりますし、「manaba」などの支援システムも活用していければと考えております。

④特になし

⑤とくにありませんが、いまひとつ、講義に積極的に参加してもらえれば良かったと思いました。とくに、講義序盤では、グループで質問票の質問項目と選択肢を作成して頂く機会を設けました。その際、グループでの議論がいまひとつ充実していなかったと思いました（もちろん、それは履修学生だけの問題ではなく、当方もアプローチの仕方を工夫すべきであったと感じております）。

①丹野眞紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

③昨年度はTAをお願いしましたが、賛否両論の意見がありましたので今年度は導入しなかつ

た。授業中の私語に関しては注意を意識的に行うことで、TA ボランティア不在でも対応できた。学生からも、対応をしっかりとってくれたので授業が受けやすいとのコメントもあり、次年度からも意識していきたいと思う。設問 5「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」17「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」が学部平均をかなり上回った良い評価であった。これは、授業中に、理解度を示す課題を与え、巡視したことで、100 人を超える授業であったが、個別対応を可能にしたためと推察できる。今後もこの講義形態を続けたい。

④特になし

⑤対人援助の実践を目指す基本的な科目である。課題に対する取り組みに、多少差が出てきたのが残念でもある。実習に行くかどうかを迷う時期でもあるが、福祉的思考を身に着ける意味でもしっかり取り組んでほしい。わからない、不安があるときには、是非聞きに来てください。しっかりサポートしたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生の取り組む姿勢が素晴らしいと思います。すべての項目で学部全体平均より良い評価であった。特に、全体平均で低い 15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」16「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」17「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」の項目もかなり高い評価であった。現場実習を終え、それを踏まえて学んだことが定着するように授業を行い、学生には自宅でもとめる作業もたくさんしてもらった結果だと考える。これからも、しっかり学生一人一人を大切に指導していきたいと思う。

④特になし。

⑤社会福祉の現場で学んだことを今後に生かすために知識や理解を定着させるための授業である。学びを身に着けるためには学生自身の努力も必要になる。躓いたり、わからないことがあったときには相談に来てほしい。実際今年度、多くの学生が尋ねてくることで、立ち止まることなく前に進むことが出来た。積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③今年度、この科目をソーシャルワークの集大成と位置づけ、実践力を身に着ける、また、社会福祉の援助の考え方を身に着けることを目標に授業を行った。結果、多くの事例を使用し、学生に考えてもらうよう工夫したところ、100 人を超す講義科目ではあったが、設問 5「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」が学部平均よりもかなり高い良い評価であった。この経験を活かし専門科目として難しい科目ですが、学生がより理解しやすい授業を続けたいと思います。

④特になし

⑤課題の取り組みに差が出てきたと感じています。事例を読み、考えることは、国家試験にもつながることです。考える力をつけてほしいと思っていますので、しっかり取り組んでほしいと思います。また、サポートが必要なときは支援しますので、リアクションペーパーなどを積極的活用するとともに尋ねてきてほしいと思います。

①塚田修一

②映像・演劇の世界

③「レジュメを配布しないため、スクリーンをスマホのカメラで撮影する学生が大勢いて、シャッター音がうるさい」との意見について→まず、紙でのレジュメを配布しなかったのは、履修者数が多く（385 名）、配布が困難であったという理由によるものです。また、データでレジュメを配布すると、授業に出ていない学生や、かざし逃げをした学生も課題に答えることが出来てしまい、真面目に受けている学生との差異化ができない、という状況でした。いずれにせよ、履修人数の多さとそれに応じた教室の大きさという、環境に起因している問題であると思われます。次年度に関しては、抽選を行なって 200 人以内の受講者数にとどめ、レジュメを配布すると同時に、学生の受講マナーの向上を呼びかけることにします。「レポート課題で自分の書いたことがあっているのか不安」との意見について→基本的には、「唯一の正解」が存在するような課題は出さず、受講生にある程度自由に考えてもらうような課題を出していました。だから、「自分の書いたことがあっているかどうか」は心配しなくても良いです。また、たとえ「的外れ」な解答をしてしまっても、それを理由として評価を下げる、ということはありませんし、むしろそこから「思考の過程」が伝わってくる場合は高く評価しています。

④受講人数は、多くとも 200 人以内に収めるべきだと感じました。受講希望者が多く、抽選であまりにも沢山の学生が漏れてしまう場合（2014 年度は 400 人近くが漏れてしまった）、同一講座を新たに設置する、という対応も必要なのかもしれないと思いました。

⑤誠実な講義に対しては、誠実な受講態度をお願いします。また、知的好奇心を忘れずに持ってきて頂けると幸いです。

①辻 泉

②風景論

③④特になし

⑤学生証の携帯を徹底していただきたい。出席管理システムを使っているが、毎回、学生証を忘れた学生の対応に追われることになり、かえって不便である。非常勤の教員が授業中に指摘してもよいことがらだが、学生生活全体にかかわることであれば、貴学で日頃からご指導いただきたい。

①寺島拓幸

②現代社会論セミナーⅣ

③学生による報告とディスカッションを主としたゼミ形式の授業であるため、学生の主体的な参加態度に依存している。今年度の履修生は比較的小となし活発な議論は最後まで達成できなかったところが反省点である。その割に項目 16 が高スコアなのは、発言を義務づけたためである。出席についても、自分の報告回に欠席する学生がおり、授業運営に苦勞した。厳格なペナルティを設けてもいいが、プラスになるかどうかは不明である。他方、いいテーマを見つけられた学生は自分の調査にかなりの熱意を持って取り組んでおり、感心させられた。

④特になし。

⑤例年通りではあるが、単位を落とさない程度に要領よく欠席する学生が多い。全部出席して積極的に議論に参加してほしい。

①飛田義幸

②精神保健福祉援助演習Ⅱ

③特になし

④演習ですので、隣の教室が空いていると良いと思います（声で迷惑をかける）。

⑤特になし

①飛田義幸

②精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

③④⑤特になし

①飛田義幸

②精神科リハビリテーション（学）Ⅱ

③視聴覚に訴える授業形態は評判が良い様子。授業スピードが速くなり過ぎない様注意したい。

④⑤特になし

①西河正行

②グループワーク B

③前期のグループワークは受講生が 30 名程度で、学部棟のスタジオを使用して行った。部屋は狭くギリギリの人数であったが、自由にグループを構成して使用できた。後期は、45 名近い受講者で、受講者制限もできない中で、固定式の教室しかなくそこで行った。そのため、グループの授業を行うのは難しかった。ただ、制約が大きい授業であったが、ほぼ 6 割以上の人が満足してくれたのはよかったと思う。授業内容を改善するにしても、このままでは制約が多すぎる。以下に触れるが、受講者調整しか改善方法は残されていないと思う。

④トレーニングルームも体育で使用されていたため、現在、多摩キャンパスには多人数でグループの授業を実施できる適当な教室はない。固定式の教室しかない条件で、45 人近い人数でグループワークを授業として行うのはかなりむづかしい。そのため、受講者制限をしないといけないと考える。この点については前期のグループワーク A でも同じである。現在、受

講者調整はコンピュータ、英語に限られているので、柔軟な対応をお願いしたい。

- ⑤グループワークは共同作業なので、欠席するとメンバー全員に迷惑がかかる。そのため、できるだけ欠席、遅刻はしないようにしてほしい。

①西澤利朗

②精神保健福祉援助技術総論

- ③比較的高い評価をいただきましたが、おそらく少人数だからであろうと考えます。今後、これまでの方式（要点資料の配付・リアクションペーパーの提出）に加えて、授業の重点項目を毎回授業時間の最後に整理し、まとめる作業を学生と共に行いたいと考えます。
- ④特に施設等の要望はありません。ただし、受講者に比して教室が広すぎるのが気になります。
- ⑤学生の多くは受講動機がはっきりしており、授業等はやりやすいので感謝です。しかし、少数ながら受講意志が明確でない学生が常にいます。学生の皆さんには、できるだけ問題意識をもって講義に臨んで欲しいと思いますし、刺激を受けた事柄への探求も（復習）独自に時間を確保する等の努力をし、勉学に励んで欲しいと思います。

①西澤利朗

②精神保健福祉援助技術総論

- ③高い評価をいただきましたが、これは少人数の授業の影響と考えられます。今後、これまでのレジメ配布・リアクションペーパーの配布に加えて、そのつど授業の要点のふりかえりを時間内に実施したいと思います。
- ④特に要望等はありませんが、受講人数に比して教室が広いのが気になります。
- ⑤学生の多くは受講動機・問題意識を持って参加していますが、中には受講動機を特に持たない学生がいます。各自受講目的を持ち、授業で学んだ事柄を自分自身で深めて（復習して）ほしいと思います。それには、復習のための時間の確保が必要です。

①西澤利朗

②精神保健福祉援助技術総論

- ③比較的高い授業評価をいただきました。おそらくこれは少人数であったためと考えられます。今後、これまでのレジメ配布・リアクションペーパーの配布に加え、授業時間ごとに毎回の要点整理を学生と共に時間をとって実施したいと考えます。
- ④施設・設備に改善点はありません。ただし、受講者数に比較し、教室が大きすぎるのが気になります。
- ⑤受講学生の多くが、受講動機・問題意識が高く幸いなのですが、わずかながら受講動機に乏しい学生がいます。受講に際しては動機や問題意識を鮮明にして臨まれることを希望します。さらに授業で掴んだ刺激を、復習という行為を通して自分自身で深めてほしいと思います。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー IV

③前期に引き続き、設問 14「この授業にどの程度出席しましたか」が、学部平均を（わずかに）下回っていました。すべての欠席理由を把握しているわけではないので、推測の域が出るものではありませんが、原因は 2 つ考えられます。「レポートの達成度は高いにもかかわらず、出席率が低い学生（後述の C タイプ）→授業のレベルが易しすぎる（自分にとって新規の学習項目が少ない）ため、授業を欠席してしまう。」「レポートの達成度が低く、出席率が低い学生（後述の D タイプ）→指示した宿題を怠っているため、授業を欠席してしまう。」前者への対応は難しいので、できるだけ後者を減らすよう、課題の設計を工夫したいとおもいます。また、学部平均を上回っているものの、前期に引き続いて絶対的な得点が低いのは、以下の二項目です。「設問 15：この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」「設問 16：授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」ただし、前者は「2.07」から「2.80」へ、後者は「2.77」から「3.27」へと改善がみられました。これは授業に協同学習を取り入れた効果であると考えています。来年度も同様の取り組みを継続したいとおもいます。

④今年度は、例年に比べて受講者の学力差が大きいように感じました。出席率とレポートの達成度にもとづいて、以下の四類型に学生をタイプ分けすると、例年よりも B タイプや C タイプの存在が目立った印象です。「(A) 出席率が高く、レポートの達成度が高い (B) 出席率が高いにもかかわらず、レポートの達成度が低い (C) 出席率が低いにもかかわらず、レポートの達成度が高い (D) 出席率が低く、レポートの達成度が低い」。とくに B タイプに該当する学生は、基礎学力（とりわけ国語力）がクラスの平均よりも著しく劣っており、このタイプに合わせようとする、C タイプを増やすことになりそうで、授業運営に苦慮したところです。難しいことだとはおもいますが、学力別に授業を編成するなど、教育条件を根本的に見直す必要があるのかもしれない。

⑤自分の力を信じて、前向きに取り組んでください。

①樋口くみ子

②子どもの世界

③結果によると、この授業はほとんどの項目において 4 点台かつ学部平均を上回る高い評価で、「授業の進め方」、「授業内容」、「総合的な印象」についてはこのままの進め方で問題ないことが分かった。他方で、以下の 2 項目については改善の余地があることが分かった。設問 16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」生徒は学部平均も 3 点未満だがこの授業は 2.64 とさらに低く、「1」に回答した者が最も多いという結果になった。もちろん受講生が 200 人程度の比較的大規模授業であるため双方向授業が難しい環境にある。しかし、改善の余地は残されており、今後は授業中に数名を指名し、質問を行うといったやりとりを含めてより対話の機会を設けたいと思う。また、設問 15「この授業のために毎回予習・復習あわせてどの程度自習しましたか」という問いに対し、学部平均も 2 点未満だが、この授業は 1.56 と一段と低かった。この点については今後は定期的にミニテストを行うなどして、テストに向けて学習内容を復習せざるを得ない機会を設けるかたちで対応したい。

④200 人の受講生を相手に、ひとりひとりに丁寧な教育を提供するには限界があると感じた。毎回授業後にレスポンスカードを書いてもらい、それを翌回の授業で紹介したり質問に回答するかたちでフィードバックを試みたが、「一生懸命書いてもなかなか紹介されないのでつらい」といった声も何度か聞いた。また、100 人程度の授業に比べ、どうしても私語を注意する頻度も多くなり、教育環境を整えるのが比較的大変だった。難しいことだとは思いますが、希望受講者数が多い場合はクラスを二つに分けるなどして、1 クラスの学生を 100 名程度に抑えてもらった方が、より良い教育を提供できるようにも思います。

⑤特になし

①平川八尋

②英語ⅢB

③去年のクラスでは人数が限られていたため、個人の志向に合わせた授業がかなりできたと思う。しかし、今年は人数が倍に増えたため、最大公約数的な授業の組み立てとなってしまった。また、4 年目ということもあり、教材選択に甘さがでてしまったと思い反省している（怠慢さを反省）。来年度は海外版の「おもしろいテーマの心理学」本（日本語ではこの手の本が何冊かでているが）を調べ、購入し授業に反映させたい。また、英語そのものに興味をもってもらうため英語のアウトプット活動を定期的に導入しようと思っている。（本年は後半の 3 回ほど導入したが）（英語の総合力と内的動機づけがあつてこそ、この授業の本来の目的である「読解力」ものびるはずであるから）

④授業ではなるべく、お互いに教え合うスタイル（ピア学習）をとっている。まるテーブルや創造性をかきたてる絵画、内装をそろえたラフな部屋があるとより学生の活動がさかんになるかもしれない。

⑤素直でいい学生だが、英語の基礎力や勉強の仕方に甘さを感じる。入学年はフレッシュマンイングリッシュとし、かなり集中的な英語教育を施すと、3 年目ぐらいでやっと専門を英語でよめるようになると思われる。また、使える英語を主にすることで、学生の英語を楽しんで学習できるようになるだろう。

①干川剛史

②社会学概論Ⅰ（火 1）・（木 1）／社会調査及び演習Ⅰ／社会学基礎セミナーⅠ

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅱ（火 1）（90 人）／情報社会論（木 2）（67 人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、専門選択科目の情報社会論よりも、社会学専攻必修の社会学概論Ⅱで低いのは、1 時限目の授業で選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるのであろう。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、さらに、配付する資料を読みやすくするなど、多くの学生に満足のいくような講義に

する工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅱ（17 人）／社会学基礎セミナーⅡ（15 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100 人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。また、社会調査及び演習は、発表の準備をしっかりと行って授業に臨んでほしい。どの授業でも、特定の学生の遅刻が多く目立つので、時間の余裕をもって通学してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀 洋元

②行動計量学

③この授業は 3 年次後期開講科目であり、卒業論文作成を前にして、調査研究の流れから報告書・論文にまとめるまでについての課題を中心に、3 年次前期までに習得した知識やスキルを活用する授業を展開しました。しかし、統計処理では個別対応する必要性が高く、授業時間内に十分対応できていたとはいえなかったようです。また、後半に取り上げた課題に負担を感じる学生も多々みられ、授業内容を見直す必要があることが分かりました。今後は知識の活用に重きを置いた授業であることを十分に説明し、学生からの理解を得た上で、授業時間とそれ以外の時間を有効に使い、学生が課題に取り組めるよう改善していきます。

④⑤特になし

①堀 洋元

②人間の成長と心理

③多摩 3 学部の全学共通科目で、心理学以外を専攻する学生の多い授業ですが、大多数は心理学を学べることに興味を持っていたので、専門用語の使用を最低限に抑え、日常場面や個人の興味や関心と心理学の研究トピックとを結びつけた授業展開を行いました。その点について受講学生も肯定的に受け取っていたようです。受講学生の授業時間内での取り組みは積極的ではありますが、今後は授業時間外の自修までつながるような話題提供を積極的に行う必要があります。

④スクリーンが前方 1 ヶ所しかないため、字幕付きの映像資料の使用をためらいました。字幕を配布資料にするなどの対応も可能でしたが、機器を設置すると、より授業効果が上がると思います。受講者調整を行っていますが、毎年傾向として、後期開講科目のため履修取消も多くみられます。使用教室の規模や受講環境を考慮しつつ、柔軟に受講者調整できるとよいと思います。

⑤特になし

①壬生尚美

②生活支援技術 D、介護総合演習Ⅳ

③「生活支援技術 D」では、授業内容によっては、今年度も実際に効果を検証することを試み、各自の関心を高められるような工夫をした。グループによって演習時間に差が生じ、早く終了したグループは記録を記入する時間としたが、足並みが揃わないために次の演習にも影響を及ぼすことがあった。また、技術の手順を覚えがちなため、1つ1つの方法を考えながら演習できるような授業展開を工夫する必要がある。今後も単に技術習得だけの授業にならないよう、理論学習や実験的な内容を取り入れていきたい。「介護総合演習Ⅳ」は、前年度の成果物もあり、具体的に理解しやすくスムーズに展開できた。ケーススタディをパワーポイントで発表することによって、各自の課題を明らかにし、発表の仕方やまとめ方についてもお互いに学び合うことができた。また、今年度は、介護実習Ⅳに向けた準備をする時間を設けることができ、在宅介護の特徴について整理することができた。

④特になし

⑤課題にしっかり取り組み、1つ1つをしっかりと学び習得してほしい。

①向井敦子

②心理学概論Ⅱ

③この授業は、本専攻の1年生が中心の必修科目であるので、受講生は90名程度である。多人数にも関わらず、ほとんどの項目で学部平均とほぼ同じ評価を受けたことは、穴埋め式の教材を使用し、イメージしにくい事柄について映像を利用し、主体的な学びを促進するための予習と復習を課題としたことにより、学生が学習する姿勢を持って授業に参加した現れであると考えられる。特に、学生の評価でも学部平均を大きく上回っている項目として、予習・復習がある。予習と復習のポイントを明示して提出させて評価の対象としたことは、教員からすれば手間がかかるが、教育効果を高めたと言えよう。今後も継続する予定である。

④専攻の必修科目なので仕方ないが、受講人数が多く、私語や遅刻が時折見られる。TAやSA等の配置は有効であろう。

⑤「課題だから仕方ない」のではなくて、主体的に予習・復習に取り組んで欲しい。この両者の差は課題の内容に如実に表れてるので、「大学で学ぶ」姿勢をしっかりと自覚してほしい。

①向井敦子

②教育心理学

③教職と専門の受講生がいるので、基礎知識を前提としないで、自分が受けた教育について、改めて問うという授業を行った。ほとんどの項目で、学部平均を上回った評価が得られた。穴埋め式の教材の工夫と、テーマを身近な教育に結びつけて考えるディスカッションの時間を設けたこと、予習と復習を課題として提示したことが有効であったと思われる。特に復習として質問事項を設けて考えさせたことは有意義であったと思われる。今後も継続していく予定である。

④93名の受講生に対して、100人規模の教室は手狭である。また、学生同士がディスカッ

ションするためには、固定式の机といすは不便である。

⑤問題を自ら発見する姿勢を持って授業に臨んで欲しい。

①渡邊瑞穂

②相談援助演習Ⅰ／Ⅱ

③学生からのコメントで「時間配分・授業内に終わらないこと」とあり、タイムスケジュール（特にロールプレイとフィードバック）を細やかに設定し、円滑に授業を進めていけるよう準備したい。

④特になし

⑤授業内のディスカッションで、各学生が活発に発言していけるとよい。

平成26年度人間関係学部FD委員会

委員長 佐々木 宰 (人間福祉学科、介護福祉学専攻、准教授)

委員 町田 章一 (人間関係学部長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

西河 正行 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)

小川 浩 (人間福祉学科長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

小谷 敏 (人間関係学科、社会学専攻、教授)

堀 洋元 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、専任講師)

丹野 眞紀子 (人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

平成26年度 人間関係学部FD活動報告書

平成27年5月発行

非売品

発行 大妻女子大学人間関係学部

ningengakubucho@otsuma.ac.jp

〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部FD委員会

印刷・製本 株式会社相模プリント

〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17

TEL 042-772-1275

FAX 042-774-1913